

JFA news

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

9 NO.473
2023.
情報号

特集

指導者として学ぶ

反町康治 JFA技術委員長

JFAが進める指導者養成～西川誠太 JFA指導者養成ダイレクター

指導者に聞く～松井大輔、辻俊行、佐藤一恵





アディダスの学割



学生なら、いつでも
何度でも10%OFF

© 2023 adidas AG

中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員であれば
いつでも何度でも10% OFFに。
ライフスタイルでも部活でも、アディダスを手に入れよう。



学生・教職員割引概要

対象

日本国内の中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員

期間

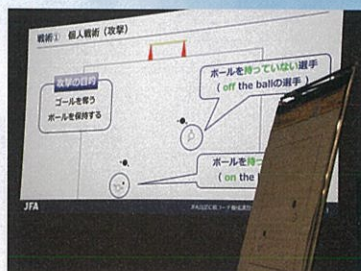
申請時から、毎年3月31日23:59まで。新年度(4月1日 0:00)に情報をリセット致します。新年度より引き続き学生・教職員割を申請したい人は、再度申請をしてください。

オファー内容

アディダス オンラインショップにて、商品が表示価格より10%OFF(一部適用されない商品がございます。また、その他期間限定割引セールとの併用はできません。)上限はおひとり様、年間税込み55万円までとなります。

特集

指導者として学ぶ



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球 (earth) の未来 (明日) のために私たち (us) がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

- エンジョイ●スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
- プレーヤーズファースト●選手にとっての最善を考えること
- フェア●オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
- チャレンジ●成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
- リスペクト●関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

- 004 反町康治 JFA技術委員長
- 007 JFAが進める指導者養成～西川誠太 JFA指導者養成ディレクター
- 011 指導者に聞く
松井大輔 (Y.S.C.C.横浜)
辻敏行 (藤枝明誠高校)
佐藤一恵 (東調布第一フットボールクラブ)

特別企画

- 020 サッカーファミリーの取り組み～リスペクトアウォーズ2022より
対馬市サッカー協会、FC.Artista U-15
- 023 JFA Partnership Project for DREAM
JFA、企業、サッカーファミリー全てに価値を生み出す新たなパートナーシップ

日本代表

- 066 FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023
大会レポート～なでしこジャパンの戦い
池田太監督インタビュー

大会・試合

- 017 2023-24 WEリーグカップ開幕
- 072 令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(男子)
- 073 令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)
- 074 第47回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
- 075 第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
- 076 令和5年度全国中学校体育大会/第54回全国中学校サッカー大会
- 077 第5回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- 078 JFA 第10回全日本U-18フットサル選手権大会
- 079 JFA バーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会

連載

- 025 隔月連載 JFAホットスポット
「JFAこころのプロジェクト
～一人でも多くの子どもたちに夢を持つことの
素晴らしさを伝えたい」
- 026 隔月連載 フットボールにできること
「Jリーグの気候アクション戦略と地域創生(後編)」
- 028 隔月連載 私とフットボール
加藤寛
「サッカーは人生そのもの」
- 031 隔月連載 ビーチサッカーナビ
茂伶羅オズ ビーチサッカー日本代表監督兼選手
「ビーチサッカーをプレーする人を増やすために」
- 032 いつも心にリスペクト
大住良之
「なでしこジャパンの笑顔と仲間」
- 019 JFA情報発信局
- 033 月刊レポート
- 037 蹴球通信
- 041 データボックス
- 064 サッカーファミリー広場
- 080 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真は
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walrix



dunhill





【特集】指導者として学ぶ

成長し続けるための 学びと刺激

日本サッカー協会（JFA）は指導者ライセンス制度を設け、指導者が対象者の年齢や目的、レベルなどに合った適切な指導ができるよう、それぞれ講習会や研修会、カンファレンスなどスキルアップの場を提供している。

なぜ指導者は学び続けなければならないのか。今号では、JFAの指導者ライセンスの体系や講習会での取り組み、指導者として学び続けることの重要性などについて考えたい。



プレーヤーズファーストの先に 大きな目標がある

反町康治 JFA 技術委員長 インタビュー

指導者が学ぶ目的とは何か。

指導者ライセンスを取得し、ライセンスを更新する意義は何か。

日本サッカー協会 (JFA) の反町康治技術委員長に聞いた。

○取材日：2023年8月25日



サッカーの魅力を伝え ルールを守る指導者を

——指導者ライセンスを取得する意義について、どのようにお考えですか。

反町 前提として、ライセンスを取る事が目的であつてはなりません。取得する過程で何を学ぶかが大事なんです。日本サッカー協会 (JFA) は、「ナショナル・フットボール・フィロソフィ」としての「Japan's Way」を策定し、それに沿った指導者養成講習会を実施しています。日本サッカーの将来を考えたとき、何が大切なのか——。端的に言えば「プレーヤーズファースト」です。全てのカテゴリーにおいて、選手たちにはピッチで生き生きとプレーしてほしい。その先に、FIFAワールドカップで2030年までにベスト4に入る、2050年までに優勝するといった大きな目標があります。

——いかに選手第一の指導ができるか、楽しんでもらうかを追求するために学ぶのですか。

反町 日本代表の選手たちも、サッカーを始めたときから上手だったわけではありません。日本の場

合、さまざまなバスウェイ (道筋) があります。学校の部活動で育ってきた選手もいれば、クラブのアカデミーで育成された選手もいます。当然、その成長過程には指導者が介在しています。もちろん、グラスルーツ (草の根) の指導はプロ選手を育成するだけのもではありません。プロの道に進まなかった人にも、サッカーを生涯スポーツとして楽しんでもらえるように指導してもらいたい。サッカーを好きでいてほしいですし、「好き」の延長線上に日本のサッカーファミリーの拡大が考えています。

——だからこそ、グラスルーツでも指導者ライセンスは大事になると。

反町 サッカーの魅力を伝え、ルールをしっかり守れる指導者を増やすことです。指導者の人数を闇雲に増やせばいいというわけではなく、クオリティーを求めすることも重要。残念ながら日本サッカー界では、指導者による選手への体罰や暴言、ハラスメント行為はいまだにあり、根絶できていません。まずはサッカーの楽しさを教え、子どもたちに自由に伸び伸びとプレーさせてほしい。その次に、段階を踏んで競技力を高めていけばいい。指導内容は選手の成長に応じて変えていく必

時代に応じた 有意義な情報を

要があります。

——日本サッカーの指導者ライセンスは最上位のS級からD級をカバーしています。

反町 サッカー全体のレベルを向上させていくために、指導者の養成は欠かせません。日本に限らず、ヨーロッパ、南米、アジア、アフリカの国々も力を入れています。日本ではたとえ選手経験がなくても、D級からステップアップしていくシステムが整っています。日本サッカーは全国津々浦々に良い指導者が配置されているので、どの地域でもサッカーを一から教えてもらえる環境があります。

——D級またはC級ライセンスの保持者は、プロの指導者ではないケースが多いですね。あえてステップアップしない指導者もいます。

反町 現状は理解しています。仕事をしながらボランティアで指導にあたり、C級またはD級ライセンスを保持している人たちもいます。今も昔も日本サッカー界は、そういうボランティア精神のある人たちに支えられてきました。それがFIFAランキング20位（7月20

日発表）に表れていると思っっています。公認指導者（D級コーチおよびキッズリーダーは除く）には資格更新のためにリフレッシュ研修会なども実施しています。そこで新たな知識を身に付け、指導者自身のアップデートしてもらいたい。ライセンスの種類を問わず、指導者には常に学ぼうとする姿勢が求められます。

——指導者が新たな学びを得られるように、JFAが取り組んでいることはありますか。

反町 指導者養成講習会、リフレッシュ研修会の充実化を心がけています。例えば、年代別の日本代表が世界大会に出場した後、しっかりフィードバックしていくこともそう。具体的に言えばフィジカルコンタクトのスキルアップもその一つで、できるだけ最新情報、生きた情報を提供できるように努めています。

昔の常識が今の非常識ということも多々あります。分かりやすい例が給水でしょう。今と違っては笑い話ですが、私が少年だった1970年代は水分補給の重要性が浸透しておらず、「練習や試合の合間に水を飲むな」と指導されていました。情報化が進んだ今、運動生理学も進歩しました。指導法も変われば、選手の健康管理も

変わっています。JFAとしては時代に応じた有意義な情報を提供していきたい。指導者も学び続けることが不可欠です。義務感からリフレッシュ研修会を受講するのではなく、より良い指導をするための新しい知識や技能を身に付ける機会として、ライセンスを更新してもらえればと思います。

ライセンスを取得し サッカーの見方が変化

——時代が変わり、指導者ライセンス制度も細分化してきました。

反町 ゴールキーパー（GK）の指導者養成は、その最たる例でしょう。いまやGKはゴールマウスを守るだけの存在ではありません。攻撃のスタートという考え方が強くなってきました。より専門性が求められるようになり、ライセンス体系を整える必要があります。現在はGKコーチの指導者養成のためにレベル1からレベル3、A級コーチというライセンスを設けています。私が技術委員長に就任してから立ち上げたフィジカルフィットネスプロジェクトも同様です。フィジカルコーチもまた、専門的な知識が求められています。

——指導者になる上で学ぶべきこ

とは多くなっているのですか。

反町 選手と指導者は180度違うと言ってもいいかもしれません。今年度、S級ライセンスの指導者養成講習会に参加している元サッカー日本代表の内田篤人さんや中村憲剛さんも、「多くのことを学べて、新たな気づきがあった」と話していました。私自身もベルマーレ平塚（当時）の選手時代（94〜97年）にC級ライセンスを取得したことによって、それまでとは異なる角度でサッカーを見ることができるようになりました。目の前にいる監督の練習は効率的なのか、トレーニングの説明はシンプルで分かりやすいかなどを細かく確認していました。感心することもあれば、もっと良い教え方があるのではないかと自分なりに考えることもあった。当時はJリーグの現役選手が指導者ライセンスを取得するのは珍しく、私が初めてのケースだったんです。

——なぜ、選手時代に指導者ライセンスを取得しようと思われたのですか。

反町 引退したら指導者になろうと決めていたわけではなく、むしろ一つの選択肢という考えでした。ちょうどその頃（ANAの）社員選手からプ

ロ契約に移行し、自分の将来は自分で選択できるようになったんです。日本代表に選出された経験もありましたし、指導者の世界も少しのぞいてみよう。

——C級ライセンスはスムーズに取得できたのですか。

反町 当時は日本体育協会（現、日本スポーツ協会）で受講しなければならぬ科目もあり、シーズン途中でクラブから1週間の休暇をもらってライセンスを取得しました。周りは学校の先生、クラブでサッカーを教えているコーチばかりで刺激を受けることも多く、楽しかったです。現在は、日本プロサッカー選手会（JFFA）



選手キャリアの晩年に指導者ライセンスを取得した反町委員長（写真左）。単身バルセロナに渡るなど貪欲に指導法を学んだ

が主導してJリーグのシーズンオフに時間を設けて、指導者養成講習会が受けられるようになっていきます。今でもオフになると多くの選手たちが講習会を受けています。

学ぶことの重要性を認識してほしい

——指導者がS級ライセンスを取得するにはC級、B級、A級とステップを経る必要があります。現状、選手がキャリアを終えた後、Jクラブの監督になるまでには早くても2年から3年の時間を要します。一部では「時間がかかり過ぎる」という声もあります。

反町 海外に行けばすぐに取得できると思っている人たちがいるのであれば、それは大きな間違いです。現在フランクフルトで活躍する長谷部誠選手は、日本のユースB級に相当するライセンスをじっくり1年かけて取得しているところですが、日本でも選手をしながらB級を取得できる環境が整っています。選手としてのキャリアを終えてすぐに指導者をやるだけの素地を持てるようになってきます。

——最近では現役引退後、アマチュアカテゴリで監督としての経験を

積みながら、S級ライセンスの取得を目指す人も出てきました。柏レイソルなどでプレーした林陵平さんは東京大学の監督として2年目を迎え、横浜F・マリノスで活躍した兵藤慎剛さんは今シーズンから監督として早稲田大学を率いています。

反町 コーチ経験がなくても監督になることはできますし、それはそれで良いと思います。コーチ、監督と段階を踏まなければならぬというルールはありません。実際、私はコーチをすることなく、アルビレックス新潟でプロの監督になりました。いろいろなノウハウを身に付けることを考えれば、コーチ経験を積む方が良い場合もありますけどね。ただ、最初から監督を目指す林さんや兵藤さんのような人材が出てきたのはうれしいことです。大学サッカーの現場で指揮していれば、何かしらの問題は出てくるでしょう。そのときに指導者養成講習会で学んでいることを生かしてほしいですね。

——監督経験を積みながら指導者ライセンスの取得を目指している人たちにも指導者養成講習会は生きてくるのですかね。

反町 それぞれ抱えている課題がある中、それを解決するための

ヒントが講習会にはあります。分からないことがあれば、チューターに聞いてもらいたい。アマチュアとプロではマネジメントが変わってくることも知っておいた方がいいでしょうね。プロの世界では、監督よりもサラリーの高い選手たちをまとめていかなければなりません。戦術や指導の知識を備えておくことはもちろんマストですが、人心の掌握も大事になってきます。ですので、S級ライセンスの指導者養成講習会ではサッカーとは異なる分野の識者を招いて、講義をしてもらうこともありま

す。

——例えばどのような方がいらっしゃるのでしょうか。

反町 最近ではオーケストラの指揮者に話をしてもらいました。いつかは映画監督も招きたいと思っています。シナリオ、撮影の進行、キャスティング、活動を支えてくれるスポンサーとの関係など、プロサッカーの監督と似ているところもあるのかな、と。「スポーツは筋書きのないドラマ」とよく言われますが、筋書きをつくるのが監督の仕事。ピッチに選手を並べて「自由にやってください」と送り出すだけではうまくいきません。S級講習会では、チームを右肩上がりで成長させていくためには何が

必要なかも学んでほしいと思います。

——指導者ライセンス制度をどう変えていきたい、という部分はありますか。

反町 今後、UEFA（ヨーロッパサッカー連盟）の指導者PROライセンスと互換性を持たせたいと考えています。現状、AFC（アジアサッカー連盟）管轄であれば、代表チームでもクラブでも指揮を執ることができるのですが、ヨーロッパではまだ日本のS級ライセンスでは監督に就けません。

——日本の指導者が優秀であるという点をヨーロッパに認めてもらうために必要な要素は何でしょうか。

反町 まずアジアからワールドカップに出場している日本、韓国、オーストラリアの指導者たちがコツコツと実績を積み上げること。ワールドカップでコンスタントにノックアウトステージに進み、指導力を証明するしかありません。2026年のワールドカップにおけるアジア諸国の出場枠は「8・5」です。例えば、日本人

の監督がその全ての代表チームを率いていれば、アジア以外の国々に与えるインパクトは大きいですね。

——最後に、指導者ライセンスの取得を目指す人、すでにライセンスを持っている指導者にメッセージをお願いします。

反町 現状に満足せず、学ぶことの重要性をみんなに認識していきましょう。JFAとしては皆さんのニーズになるべく応えられようようにチューターを配置しています。学びの場として、ぜひ指導者養成講習会に参加してください。



現在ドイツで指導者ライセンス取得を目指している長谷部誠選手（写真左）。プロの選手同様、さまざまな道筋をたどる指導者が生まれることが日本サッカーの発展につながる

JFAが進める指導者養成

指導者の学びの場を アクティブで クリテエィティブに

西川誠太 JFA 指導者養成ダイレクター
インタビュー

日本サッカー協会（JFA）は現在、指導者のレベルアップを目指して、技術委員会を中心に指導者養成でのさまざまな改革を進めている。指導者養成講習会の在り方や改革の目的、今後のビジョンなどについて、西川誠太JFA指導者養成ダイレクターに話を聞いた。

○取材日：2023年8月21日

指導者養成講習会は 指導者の学びの場

——指導者養成の重要性をどのよう
に捉えていますか。

西川 JFA技術委員会が進める、代表強化、ユース育成、指導者養成、普及の“四位一体”の中で、全てに関わり、鍵となる存在の一つが指導者です。その指導者の能力を開発し、思考に深みを与えることを目的とした指導者養成は、日本サッカーの発展に必要不可欠です。指導者がいなければ発展がないとも言えるのではないのでしょうか。

——求められる指導者像とはどんなものなのでしょうか。

西川 サッカーの楽しみを伝えることができ、選手やチームの成長を手助けできる指導者が理想です。「クリエイティブでたくましい選手を育てよう」とわれわれは発信していますが、そのような選手を育成するためには、選手のミスを許容し、次へのチャレンジを与えることが大切になります。まずは指導者自身がクリエイティブでなければなりません。

——指導者ライセンス制度に関して、ライセンス取得の意義についてはどうお考えでしょうか。

西川 ライセンス取得の意義とし

て、まず指導者本人にとっては自らの能力を向上させ、知識を増やせる場であってほしいと思いますし、社会にとってはある一定のレベルをクリアしていることを証明する信頼性を提供するものであってほしいと思います。前提として指導者の学ぶ機会は何も講習会だけではありません。今の時代はさまざまな情報を取得することが容易になっていきます。どこでも学べるとも言えますが、ライセンスは指導者の学びの水準を可視化できる一つの指標として、すでに活用されていると認識しています。

——選手の安心・安全を守る上でも最低限の知識を身に付けなければなりません。

西川 指導者の学びが最終的に選手に還元されていくことを考えれば、ライセンスは選手を守るものであってほしいですね。ライセンスを取ることで目的ではないですし、その指導者の成功を保証するものでもありません。指導者養成が昔からずっと大事にしてきた言葉、「学ぶことをやめたら、教えることをやめなければならぬ」は、本当に核心を突いた言葉だと思います。

——指導者養成講習会に参加するメリットをどのように捉えていますか。

西川 人との出会いが最大のメリットですね。講習会では他の指導者と出会いますから、自分にはない多様な考え方や意見、アイデアなどに触れることができます。指導者としての考えが整理されますし、自分を知ることにもつながります。指導者自身が成長し、選手たちに還元できるものを増やすために、手助けできる場になりたいと常々思っています。

講習会スタイルを能動的に学ぶ形へ

——現在進めているJFAの指導者養成事業で特に大事にしていることは。

西川 2020年にC級コーチ養成講習会のカリキュラムを改訂する際に、講習会をどういった場にするか、指導者に求められるものは何なのかを一番に考えました。これまで大事に受け継がれてきた「正しい情報をしっかりと伝える」という部分を残しながらも、自ら積極的に学び、自身の指導現場での課題を解決できるような場にする、そこがスタート地点でした。

——具体的な変更点を教えてください。

西川 例えば、講義であれば講師

からの話を「聞く」だけで終わらないよう、参加者同士がアクティブに関わるグループワークを増やしました。すでに持っている知識や経験を基に、参加者が自ら考え、意見をシェアし、講師や他の参加者と共に双方で問題を解決していく「学習者中心」の能動的なスタイルに変えていくことを大切にしています。

ピッチでの実践も、実際の現場で行うこと、現場で生きること、フォーカスしています。ですので、試合の分析から始まり、課題を抽出し、その課題を克服するトレーニングを自分たちで考え、コーチングを試してみようというサイクルを大事にしています。誰だって最初からうまくはいきません。完璧なトレーニングができたなんて思う指導者もいません。参加者の積極的なトライを推奨し、参加者の実践を題材に「さらに良くなるにはどうすれば良いのか」を全員でディスカッションしていきます。そして、「次回はここを意識してチャレンジしてみよう」と次のトライに向けて準備してもらいます。

——かなり印象が変わりますね。

西川 教える人と教わる人、という構図ではなく、学びに来る人たちが主役。「受講者」ではなく「参加者」と呼ぶようにし、講師を「インストラクター」から「チューター」

という名称に変更したのも、そういう理由からです。そして、チューターや参加者が持ち合わせている知識をシェアするために、ディスカッションの時間も多く設けるようにしています。冒頭で、選手のトライを促し、改善やネクストチャレンジを授けられる指導者が求められると話しました。クリエイティブな選手を育成するためには、指導者自身がクリエイティブでなければいけない。ということとは、講習会に参加してくれた指導者のトライを促し、そのトライに対してどうすればそれがもっと良くなるかを伝えていきたい。指導者がミスを恐れず、能動的に学べる環境にすることが非常に重要だと考えます。そのためには、実はチューターが最もクリエイティブでなければなりません。われわれにはチューターとして取り組んでくださっている心強い仲間が全国にたくさんいるので、それは実現可能だと思っています。

こうしたスタイルに変えてから、間違いなく良い方向に向かっていて感じます。講習会には元プロ選手もいれば、サッカー経験がない人もいますように、さまざまな経験を有した人が集まります。チューターも参加者と同じ目線でお互いに意見を交わしながら共に学んでいける場があることは、とても素晴らしいことです。

——新たな出会いがあれば、そこに

は新たな学びが必ずあるはずだと。

西川 そうですね。自分が経験したことのない話は聞きたくありませんよ。集まったメンバーの知識や経験をシェアするといういろいろな化学反応が起こって、講習会のカリキュラム以上のものを習得できるのではないかと思います。

コアライセンスは木の幹そこから専門性ある枝葉へ

——指導者ライセンス体系についてお聞きします。指導者の入り口としてC級やD級ライセンスが設けられていますが、全体としてどういった流れをつくらうとされているのでしょうか。

西川 講習会の入り口としてはD級とC級の二つがあります。D級は選手の安全を守ること、子どもたちを楽しませるためにも指導者自らがサッカーを楽しむことをメインにしています。C級はそれに加えて、試合の分析からコーチングまでのサイクルを実際に行っていることに主眼を置いています。2日間の講習会で取得できる手軽さも考慮したのがD級ですので、サッカー初心者のお父さんやお母さん、コーチなどはD級から始めてみるのも良いですし、分析力やコーチング力を高めたいなどのニーズを持っている方でしたら初心者であってもC級から始めるのも良い

と思います。

C級・D級のどちらの講習会に参加しても、まずはボールと自分、あるいはボールと自分と相手という関係の「個人」から整理できるようにしています。そしてB級では「グループ」(ボールと自分と相手ともう一人の味方や相手など、4〜8人の関係)、A級からは「チーム」(自チームの11人と相手)というステップを踏んでいます。A級はアマチュア選手、S級はプロ選手を指導対象としています。

——GKやフットサル、フットサルGK、フィジカルなど専門的な分野まで多岐にわたるライセンスを用意しています。その意図をあらためて教えてください。

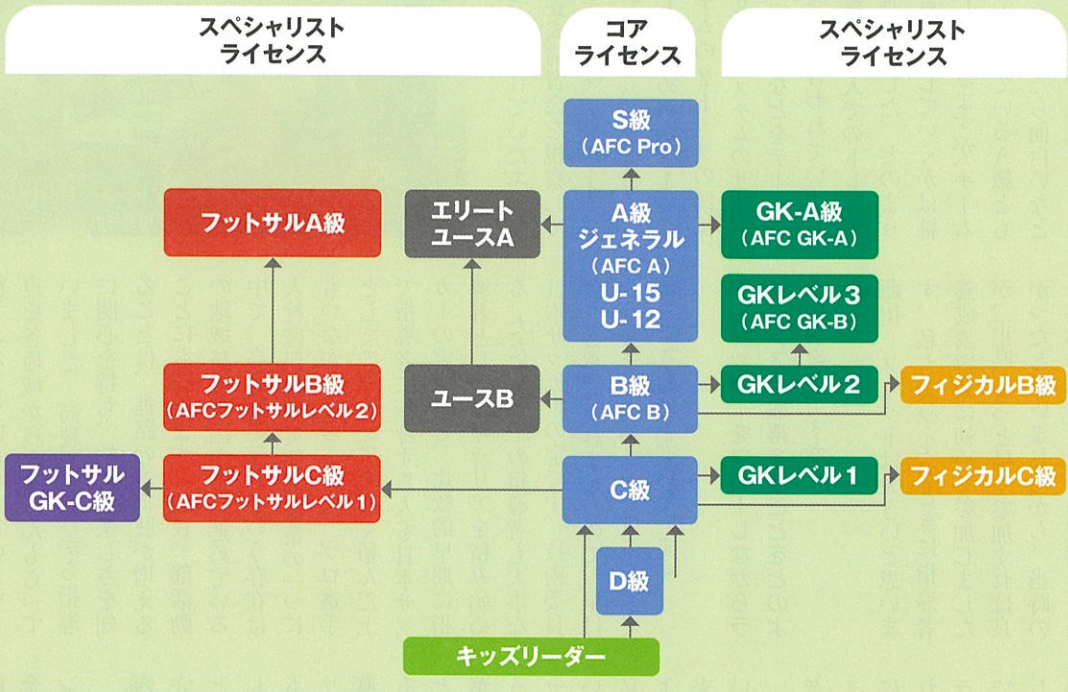
西川 先ほど述べたD級からS級までがコアライセンスですが、GKやフィジカルフットネス、フットサルなど専門的な領域についても

講習会は、参加者それぞれの知識を持ち合わせて学ぶ形へと変化してきている



■JFA指導者ライセンス体系

日本スポーツ協会公認
 コーチ4：S級/A級/フットサルA級
 コーチ3：B級/フットサルB級
 コーチ1：C級/フットサルC級



学びたいという方々もいらっしゃると思います。専門領域ですから、まさにスペシャリストライセンスですよ。もっと学びたいという指導者のニーズに応える形でライセンスも細分化されてきています。サツ

カーの先進国を見ても、多岐にわたるライセンスが整備されています。常に世界からも学びながら、日本としてどういったことが必要なのかを考えてきた結果、今の形があります。

——指導者の基礎を身に付けられるC級を起点に進んでいく形ですね。西川 D級からS級のコアライセンスが、木でいうところの幹となり

ます。そしてその幹を中心に専門性のあるスペシャリストライセンスが枝葉のように広がりを見せてくれて、全体として見たときに大木になるイメージです。起点はC級ですが、われわれとしてはC級とB級で基礎を固められるようにと考え、「B級スタンダード計画(※)」も進めています。

※2030年までに選手30人に対してB級ライセンス以上を持つ指導者一人が指導する環境をつくることを目指すもの。2016年から47都道府県サッカー協会(FA)でもB級コーチ養成講習会のFAコースの開催をスタートしている。

指導者養成におけるさまざまなトピック

——指導者養成のトピックとして、23年度にユースBを新設し、24年度からはエリートユースAという新たなライセンスが創設される予定です。

西川 「Japan's Way」で発信したダブルピラミッドと既存ライセンスの指導対象を重ねると、エリートユース

の部分に十分にカバーできていませんでした。また、欧州サッカー連盟(UFA)ではすでにエリートユース向けのライセンスがあり、アジアサッカー連盟(AFC)からもライセンス創設を推奨されたのもきっかけとなりました。

育成年代の指導者の大切さに関して、JFAは以前からその認識を持っていたため、A級U12を07年に、A級U15を15年に創設しています。これらはユースBのライセンスで求められる内容とも重複していますので、これまで取得しだされた方も大事にしながら、どのように発展させていくのが日本サッカーとしてベストなのかを総合的に考え、立ち上げに至りました。日本の指導者ライセンスが将来的にUFAにも認められるものにしていくためにも重要なことだと考えています。

——A級U15・U12ライセンスとはどのような違いが出てくるのでしょうか。

西川 ユースBの学習目標は、グラスルーツレベルからエリートレベルに選手を引き上げることができる指導者の養成です。対象年代はA級U12・U15が担っていた年代にまたがります。従って、ユースBはこれら二つのライセンスのカリキュラムを発展的に統合し、かつ相対年齢効果(歴年齢や学年区分が起因して生じるさまざまな影

■エリートユースA

エリートレベルからプロレベルに選手を引き上げることができる指導者

主な指導現場：Jクラブアカデミー(ユース、ヘッドオブコーチ、アカデミーダイレクター)、タウンクラブ(ユース)、高校、大学、FAトレセン(U-16担当)など

■ユースB

グラスルーツレベルからエリートレベルに選手を引き上げることができる指導者

主な指導現場：Jクラブアカデミー(スクール、ジュニア、ジュニアユース)、タウンクラブ(ジュニア、ジュニアユース)、少年団、中学校、FAトレセン(U-10～15担当)など

響)や選手の発掘などこの年代に特化した内容をさらに深掘りしてブラッシュアップしています。

一方のエリートユースAの学習目標は、エリートレベルからプロレベルに選手を引き上げることができ、指導者の養成です。現在、カリキュラムを作成中ですが、選手個人の特长やポジションの特性を重視して高めていく部分にフォーカスしていきたいと考えています。

——ユースBは今年スタートしました。

西川 今年はユースBを3コース開催し、エリートユースAは来年からスタートする予定です。先日、



コアライセンスからスペシャリストライセンスへ、指導者のニーズに応える形でさまざまなコースが用意されている

デンマークで行われていたエリートユースA養成講習会を視察してきました。そこでは、1-4-1-4-2システムのセンターバックのゴール前の守備をどう高めるか、1-3-5-2システムの2トップの関係性、1-4-3-3システムのサイド

での1対1の攻防などをテーマにした指導実践が行われていました。しかも最大6人でのトレーニングという設定でした。どのようなカリキュラムにしていけるかは継続して議論していきますが、チーム戦術が主体となっているA級とも明確に違いを出せたら面白いなど個人的には考えています。

——C級・D級コーチ養成講習会の受講資格を15歳以上に引き下げようとしています。その目的を教えてください。

西川 実際に高校生からでも取

得できるようにしてほしいという声を各地域からたくさんもらっていました。高校生年代から指導に関心を持ち、教える楽しさを知

ることは、進路の選択肢が増えることにもなります。現在、部活動の地域移行を国が推し進めている中で、高校生指導者という存在は人材確保の現実的解決策の一つにもつながると考えます。プロ選手としてのキャリアを長く積んだ上で指導者に転身する人も日本サッカーの宝ですし、比較的早期に指導者としてのキャリアを積み始める「たたき上げ」の指導者も大事な日本サッカーの宝です。技術委員会でも承認されましたので、早ければ今年度内からでもスタートできるよう準備を進めています。

——サッカーをプレーしながらライセンスを取得することをどのようにお考えですか。

西川 メリットは大きいと思います。私も大学生のときに指導者養成講習会に初めて参加しましたが、正直、もっと早く参加すれば良かったと思います。当時の自分がサッカーを十分理解していなかったかもしれません。参加したこと自分のプレーが整理され、選手としても成長できたなど実感した記憶があります。

——24年からは、JFA全日本U-12サッカー選手権大会の47都道

府県予選において、ベンチ入りする全ての指導者にD級以上のライセンス保有が義務化されます。

西川 子どもたちの安心・安全を守るための環境をつくっていくと、4種が先んじて始めてくれました。われわれとしても、少なくとも種別を問わずJFAが主催するリーグ戦や大会でベンチに入る指導者は、D級以上のライセンスを保有している環境を整えていきたいと考えています。義務化という言葉が非常に強い印象ですので、どうしても大会に出るためにはライセンスを取らなければならない、という方向で議論されがちですが、私は「より良いゲーム環境をどのように整えますか」というのが本来議論されるべきことだと思っています。

ライセンスを保有している指導者であれば暴力・暴言などのハラスメントがないかといえば、本当に残念なのですがそうとは言いきれないのが現状です。ですから、ライセンスを取得することが目的ではなく、取得後も自らの指導をしっかりと振り返ることができかが重要です。自分の指導が本当に選手のためになっているのか、もっと良い方法はないのかと振り返り、アップデートし続けることが指導者には求められると思います。指導者自身がレベルアップしたいと思って自らライセンスを取得してくることがありたい姿で

すから。

キーワードは「学習者中心」 チューターの育成も進める

——女性指導者を養成していくことも課題の一つですね。

西川 現状、JFAの全登録指導者のうち、女性指導者は約4%と非常に少ないのが現状です。指導者養成だけで全て解決できるような問題ではないですが、女性指導者を増やすために何ができるかは考え続けなければならないでしょう。

女性指導者が参加しやすいと思える講習会と考えると、例えばチューターは常に男女両方いること。将来的にそうなるためには、意識的に女性のチューターを発掘して育成する機会を今から設けていく必要があります。昨年からJFA主催の講習会に女性チューターを少しずつですが、積極的に登用し始めています。

——今後の指導者養成のビジョンをお聞かせください。

西川 今後は「学習者中心」と「チューターの育成」に注力したいと考えています。「学習者中心」の講習会にしていくためにコンテンツの充実はもちろん、ITの効果的な活用など参加者が能動的に学べる環境整備は大きなポイントで

す。また、講習会やリフレッシュ研修会の質の向上には「チューターの育成」が必要不可欠だと思っています。

——最後に、日頃から活動する指導者の皆さんにメッセージをお願いします。

西川 目の前にいる選手の「サッカーを楽しみたい」というニーズに応えようとご尽力いただいている指導者の皆さんに心から感謝しています。われわれはその思いをどのように後押しできるかを常に考えています。もし何かに悩んでいたたり、現場で問題が起きていたりするならば、それを指導者養成講習会で解決したい。リフレッシュ研修会なども含めて、今後も指導者の皆さんをサポートし続け、共に取り組んでいければと思っています。よろしくお願ひします。



指導者養成講習会の女性コースを開催したり、女性のチューターを増やす試みを行ったりするなど、女性指導者へのアプローチを続ける

指導者に聞く

自分しか経験していないことを
次世代の選手に還元したい

松井大輔選手 (Y.S.C.C. 横浜)

創造性溢れるプレーで周囲を魅了し続ける松井大輔。フランスをはじめ海外5カ国でプレーし、2021年9月にはY.S.C.C.横浜フットサルに加入。翌年から同サッカーチームにも在籍し、サッカーとフットサルの二刀流に挑戦した。同時に指導者養成講習会を受講し、現在はA級ライセンスを取得中。フットボールへの飽くなき探求心を持つ松井に、指導者について聞いた。

○オンライン取材日：2023年8月18日

選手に教えるため 指導の勉強をした

——指導者ライセンスを取得しようと思った理由を教えてください。

松井 考えるようになったのはここ最近です。40歳を目前にして、引退後のサッカー人生を考えたと、指導者ライセンスの取得はとも重要なことだと思ようになりました。子どもや次世代の選手たちにサッカーを教えるためには、さまざまな知識を身に付けておくことが重要ということも分かっていました。勉強ですよ。今までサッカーの指導について教わる機会はほとんどなかったのですが、その知識を得ようと指導者養成講習会に参加しました。4年前に所属していた横浜FCでB級を取得し、現在はA級取得中です。

——現役選手ながらA級取得に踏み切った理由とは。

松井 今までは戦術について感覚でものを言っていたところがありますが、現監督である星川敬さん（取材時。9月1日に解任）が戦術を教えているときや、一緒にA級を受講している俊さん（中村俊輔）／現、横



A級ライセンスの「同期」でもある中村俊輔氏。長らく日本代表で共闘し、その後、磐田や横浜FCでもチームメイトになった。

濱FCコーチ）が話すのを聞いてみると、やはりライセンスを取ることとで理論的に話せるようになりますし、言葉のチョイスや言語化ができることはすごく大事だと気付かされました。自分も以前のように一人でドリブル突破できなくなってきた、チームメイトに動き方などを伝える際にどう説明したらいいのか知りたくなりました。上位ライセンスを取りたいと思ったのは、そういった探究心があったからですね。

——普段はどういったところで指導しているのでしょうか。

松井 専修大学や横浜桐蔭大学など、近隣の大学に自分から依頼して指導させてもらうことが多い

です。また、A級講習会の中
期の課題もあるので、星川監
督の許可を得て所属チームで
もトレーニングの一部で指導
させてもらっています。プロ
の選手や大学生に加え、自分
の子どものチームでも教えて
いるので、いろいろな年代で指
導できているのはすごくあり
がたいですね。

——現役のうちに受講してい
てよかったと思うところがあ
れば教えてください。

松井 現役中にA級まで取れるク
ラブはなかなかないので、受講を
許可してくれたクラブ、講習会を
開いてくれるJFA（日本サ
ッカー協会）など、皆さんに感謝し
ています。試合の中で学ぶこと
ができ、それを周囲の選手にも伝
えられるというのは、自分にしか
できないこと。選手目線でも、コ
ーチ目線でも、いろいろな視点から
サッカーを見られることはとても
有意義です。

——逆に大変な部分はありませ
んか。

松井 スケジュールリングは大変で
すね。でも昨年まではフットサル



2021年からフットサルとの二刀流にも挑戦。
現在はフリーグのアンバサダーを務める

とサッカーの両方のチームで活動
していたので、そのときと比べたら
全く問題ありません。年代や対象
人数に合わせて臨機に対応するこ
ろで難しさを感じたり、継続的
に見ているわけではないので、選手
の特徴をつかむのに苦労するとき
があります。

——フットサルでの経験はサッカ
ーの指導に生かされていますか。

松井 フットサルから得たものは
すごく多かったです。フットサル
は本当に細かいことを積み重ねて
いくので、戦術やちょっとした動き
方、ボールの持ち方などを細部に
わたって知ることができました。

戦術なども勉強になりましたの
で、これからもそれは使っていくこ
う思っています。

学びの場は 多ければ多いほどいい

——JFAの指導者養成講習会で
は、2022年度ごろから指導者
を教える役割の呼称を「インスト
ラクター」から「チューター」に変
更しています。松井選手がB級を
受講された当時はまだ指導役をイ
ンストラクターと呼んでいました
が、この呼称の変更に伴って実際
に変化は感じますか。

松井 変わる前にA級を受けてい
た方の話では、これまでは形には
まったもの、つまり「こういうふう
にやりなさい」というものが多かつ
たと。今はより自由で、参加者と
チューターみんなで戦術をつくり
上げていくという内容ですね。時
代の流れに沿ってチューターとい
う言葉が出てきたように、現代の
サッカーも毎試合、アップデイト
していかなければなりません。そ
ういう時代に入ってきているの
で、いい試みだと思えます。戦術
のトレーニングをオーガナイズす
るセッションでは、今までは絶対
に4-4-2でやらなくてはいいけ
な

かったところを、自分が指導する
選手やチームに合わせた戦術を考
えます。参加者同士が意見を出し
合って形づくっていく内容になっ
ているので、とても良い学びの場に
なっています。

——チューターは実際にどのよう
な指導をするのでしょうか。

松井 まだ前期しか終わっていま
せんが、受講者の考え方に寄り添
いながらも、間違えているところは
ちゃんと注意し、正しい道に導
いてくれるような感じですね。これ
からはいろいろな監督やコーチが
いいと思います。ただし、基本と
なる土台がちゃんとあって、その中
で枝分かれしていくイメージです
ね。その基本を押さえながら、み
んなが納得するような戦術や考え
方を落とし込んでいかないといい
ません。

——指導者養成講習会で新しい発
見はありましたか。

松井 皆さんオープンマインドで
すし、大学の監督や高校の教員の
方と触れ合う中であらためて自
分の言葉の少なさに気付かされま
す。言語化ができていない人とき
ていない人の差をすごく感じます

し、一方でこれまでの経験があるか
らこそ細かい部分を教えられるこ
ともあると思います。

——同期の指導者との関係はいか
がですか。

松井 なるべく多くの方の考え方
を知りたいと思っていますが、し
まだ前期しかやっていませんし、し
かも僕は俊さんと同じ部屋なので、
俊さんと一緒にいる時間が長い
ですね。他の指導者の方も俊さん
のところに来られるので、さながら学
習室のようです（笑）。僕はそれを
横でうなずきながら聞いています。

——JFAでは「B級スタンダー
ド」と称して、B級取得を促してい
ます。B級を受けることの重要
性をどのように考えられています
か。

松井 どのカテゴリーで指導する
かによりますが、個人的には、でき
ればA級ぐらいまでは取得したほ
うがいいんじゃないかと思っています。
簡単なことではありませんが、A
級ライセンスを受けたときの指導
者の成長度は全然違います。学び
の場は多ければ多いほどいいと思
います。

——あらためて、指導していて楽しさを感じる瞬間を教えてください。

松井 指導しているときに、監督や周りの人から「今日はよかったよ」と言われるのはうれいすね。あとは、選手や子どもたち、プロの選手たちが「これはどうなんですか」とか「このプレーはどうすればいいですか」と積極的に質問してくれるのも。子どもが「もう一回このトレーニングをやりたい」と言ってくれるのもすごくうれいすね。

——影響を受けられた指導者はどなたですか。

時代に合った指導者へ学ぶ姿勢が大事

——創造性溢れるプレーが魅力の松井選手ですが、幼少期はどのような指導を受けられていたのでしょうか。

松井 小さい頃は、練習が水曜と土曜しかなくて、監督からはボールの蹴り方や走ることの重要性などサッカーの基礎を教えてもらっていました。それに加えて、試合で勝つことを目指すという部分を重視していた監督でした。少年団だったので礼儀作法なども厳しく指導されましたし、サッカーのルー

ルを教えてもらえたこともとてもありがたかったですね。父も家の前にネットを張ってくれるなど積極的で、よくボールに触れていました。幼少期は一人でボールを触ることでボールフィーリングが身に付く時期だと思っています。創造性の部分で言えば、よくマンガの必殺シュートなどを真似していましたね。

——影響を受けられた指導者はどなたですか。

松井 全ての監督から影響を受けていると思いますが、イビチャ・オシムさんには強烈なインパクトがありました。岡田武史さんもそうですし、ザックさん（アルベルト・ザッケローニ）もそう。多彩な監督から指導を受けたことがかけがえのない経験になっています。ですから指導者としてもいろいろな人の下で学ぶほうが勉強になるのではないかと思っています。

——オシムさんの名前を最初に出されたのは、どういった理由からでしょうか。

松井 監督は大きく分類すると、戦術家とモチベーターの二つに分かれると思うんですよ。オシム

さんはその両方の顔を持っていた監督だと思っています。言葉選びやハーフタイムでの声掛け、選手のための働き掛けなど、すごく勉強になりましたし、面白いなと。岡田さんもモチベーターであり、戦術家でもありました。岡田さんの人を引きつける話し方は見習いたいところなんです。試合前にしっかりとモチベーションを上げてくれるんですよ。ワールドカップのカメラ（大会）の前などは「歴史を変えよう」などすごくいい言葉を投げ掛けてくれました。

——海外での生活も長かったですが、日本と海外で指導者の見方や周囲の受け入れ方で違いを感じたことはありますか。

松井 海外の監督はモチベーターの方が多かった印象です。試合前に選手を鼓舞するような話をしていて、自分としてはモチベーションを上げてもらって試合に臨めることが多かったので、そこは参考にしたと思います。一方で、

日本の最近の監督は戦術的なことをしっかりと選手に伝えていく方が多いという印象です。

——指導者ライセンスの重要性をどう感じられていますか。

松井 これからは海外でプレーした経験を持つ監督がどんどん出てくるでしょうし、さまざまな経験を持った監督が増えてくると思います。指導者ライセンスはどんな人でも取得できるものです。ライセンスを取得すること



2010年のFIFAワールドカップに出場し、チームのベスト16進出に貢献。数々の海外クラブでのプレーも「自分にしかできない経験」と胸を張る

はもちろん、学ぶ姿勢が大事ですので、多くの人に受講していただけるとういなと思っています。

——今後の夢や目標をお聞かせください。

松井 まだまだ挑戦していきたいですね。子どもたちにサッカーを教えたいですし、プロも含めていろいろなチームの選手たちに臨時コーチのような形でドリブルだけを教えるに行ったりもしてみたい。ボールの置き方やもらい方など細かな個人戦術を、Jクラブを回って教えることも考えていますので、そういうことを実現できるように取り組んでいきたいと思っています。



影響を受けた指導者として名を挙げたイビチャ・オシム氏。日本代表監督としての活動期間は約1年4カ月だったが、今でもその指導は松井選手の中に生きている

指導者に聞く



辻 俊行
(藤枝明誠高校コーチ)

○取材日：2023年8月24日

指導者としての駆け出し
講習会で整理されるように

私は藤枝明誠高校サッカー部出身なのですが、高校3年生の頃から指導に関心を持っていました。当時の監督やコーチが自分にとってインパクトの強い方々で、こうなれたらいいなと思ったのがきっかけです。学校の部活動だったので、サッカーだけでなく私生活や人間性の部分でも教えを取り入れることで、選手としても成長できるんだと感じていました。それが大きかったと思います。

卒業後は関西大学に進学し

て島岡健太さん(現、セレッソ大阪U-18監督/技術リーダー)から指導を受け、その後はFC・ISEISHIMAという社会人チームで中田三さん(現、清水エスパルスプレイヤー/デベロップメントコーチ)の下でプレーしました。素晴らしい指導者に恵まれてプレーを続けられ、指導者になりたいという気持ちがより強くなってきました。

FC・ISEISHIMAでは2014年から2年間プレーしていたのですが、その間に藤枝明誠高校では松本安司さんが監督になり、コーチ就任のお誘いをいただ

くようになりました。当初はお断りしていたのですが、現役生活に見切りをつけた16年に引き受け、まずは提携する藤枝明誠SCで指導することになりました。

17年から藤枝明誠高校サッカー部で指導するようになり、20年に指導者養成講習会に参加してC級コーチライセンスを取得しました。他のコーチはライセンスを持っていましたし、A級を保持している外部コーチにも「講習会で勉強した方がいいよ」と助言をもらっていたので、教員として時間的な余裕もできたタイミングでチャレンジしました。

C級コーチ養成講習会では、コースが進むにつれてサッカーの4局面や攻守で取り組むべきこと、トレーニング方法などが整理されていくのを感じました。目に見えるものがどんどん色濃くなっていくというか、しっかりと知識が蓄積されていくのが実感できて楽しかったですね。正直もともと早く、現役時代から取りに行けば良かったなと思います。

選手たちがトレーニングに
夢中になっているか

講習会を受ける前は感覚的に

教えることしかできなかったもので、うまくいかないことも多々ありました。ライセンスを取得してからはしっかりとテーマを設け、それをトレーニングで積み上げていくことができるようになりました。もちろん全てうまくいくなんてことはほとんどなく、準備してもその通りにはいかなかったり、失敗したりすることも多々あります。選手をよく観察し、長期のスパンで見ている必要があるというのは、講習会を受けたからこそ感じられた部分だと思います。

講習会に参加したことで、他の年代やカテゴリーのことも知れましたし、いろいろな指導者とのつながりもできました。チームに所属する選手を紹介し合うなんてこともあるんです。

現在はB級コーチライセンスを取得中です。講習会は東海コースがあるので本来はそちらに行くべきなのですが、いろいろな指導者との出会い、サッカー観に触れたいという思いから、あえて関東コースを受講しています。B級講習会は前期・後期で集中開催での講義・実技を行い、間の学習として現場に戻って指導実践をするので、試行錯誤を繰



選手の個を育てることを意識しながら、「特徴のある選手が、その特徴を生かせるような指導をしていきたい」と辻さんは話す

り返しながら少しずつ磨き上げられていくという感覚です。チュートからも自分たち中心にやらせてもらっているのを感じます。ミスしたことも認めてアドバイスしてくださるので、ミスを恐れずにトライできる環境があるのも非常にありがたいです。参加者同士でディスカッションをする機会も多く、そこから日本サッカーを向上させていこうという思いを感じますね。

指導する上で最も大事にしてるのは、選手たちがトレーニングに夢中になっているかどうかです。夢中にさせるために、講習会もつまく活用して日々学んでいきたいと思っています。

指導者に聞く



C級講習会を受講して「サッカー指導の基礎を身に付けることの大切さを実感した」と佐藤さん。メニューや伝え方など指導の幅が広がった

指導者の学びは
仕事にも通じるもの

私が最初に取得した指導者資格はD級ライセンスでした。きっかけは息子がサッカークラブに入ったこと、そして、そのクラブのコーチのほとんどは保護者で指導者資格を持っている人が少なかったからです。私もサッカーが大好きだったので受講しようと思った。講習会の内容で今でも覚えているのは、指導者の資質のうち「情熱」

「忍耐」「誠実さ」の三つです。というのも当時、私は保育士をしており、これらは仕事にも通じるものでした。仕事への情熱はもちろん、子どもと向き合う上では忍耐が求められます。できないからと怒っても何も解決しません。できるだけ導き、できるまで待つことがとても大切です。一人一人性格も違いますが、伝え方も変えなければなりません。子どもたちはまさに奇想天外で（笑）、大人にはない発想を持っています。それが子どもの魅力であり面白さで、純粋な子どもたちから学ぶことも多いのです。

その後、東京都サッカー協会の巡回指導が私の勤務する園でも開催され、サッカーコーチの指導にとっても集中している子どもたちの姿を見るうちに、私自身もサッカー指導に関心を持つようになりました。その後、キッズリーダーという資格ができたことを知り、すぐに取得しました。ボールを使って遊ぶということも、投げ、受ける、突く、転がす、持つて遊ぶ、蹴るなど多様な動きが含まれ、巡回指導のプログラムは子どもの運動能力の発達においてもとても良いものだと思います。また、楽しく遊びながらもサッカーの基礎を教えることの大切さを感じ、指導者“というものにますます関

心が沸いてきました。少しずつ東京都協会のイベントなども手伝うようになり、保育士を退職してからは巡回指導の運営に携わっています。

子どもに楽しさを伝え、
遊びの中で基礎の習得を

そして今年、JFA主催のC級コーチ養成講習会女性コースを受講しました。巡回指導を終えた後、「楽しかった！」「もっとやりたい」という子どもたちの姿を見て、サッカーが好きな子どもをもっと増やしたい、キッズの指導を極めたいと思い、キッズリーダーインストラクター資格を取得しようと思つたところ、講習会の受講にはC級ライセンスが必須だったからです。サッカーのプレー経験のない私がC級についていけるのか、実技も含めた課題をこなせるのかなどの不安もありましたが、女性コースということだと思い切つて受講することを決めました。

D級とC級では学ぶサッカーの基礎知識レベルが異なります。指導実践では実際にウォーミングアップからゲームまでのプランを考えて指導します。指導する際に何を、いつ、どこで伝えるか、という点が大きな学びでした。現役選手や指導経験のある方も参加されていましたが、初めは不安でしたが、講習会ではそれぞれの経験や知識を持ち寄つて学び合うことができ、充実した時間を過ごすことができました。立場や経験が異なっても、自分が学びたいことを学べる講習会だつたと思います。今後は自分の指導環境に即して指導プランを立て、日常の現場に生かしていきたいと思つています。今回の講習会を共にしたみんなとは今も連絡を取り合っています。このように世代を超えた仲間ができる機会はなかなかありませんから、つながりを大切にしていきたいと思つています。

今後はキッズリーダーインストラクターの資格も取り、保育士さんたちをもっと巻き込んでいきたいと考えています。また、私が所属しているクラブでは、お父さんコーチが指導していますのでサッカーの基礎を伝え、私自身も講習会で学んだことを生かし、遊びの中で子どもたちがサッカーの基礎を身に付けられるように導いていきたいと思つています。クラブで大切にしていることは「まずは褒めよう、認めよう」です。褒めると、子どもたちは自分も褒めてほしくてそれを真似します。子どもたちの「楽しい」はそれぞれ違いますし、大人が思う「楽しい」とも違うかもしれません。それでも「サッカーって楽しい！面白い！」と思つてもらえるように子どもたち一人一人の楽しいを見つけ、伝えられる指導をしていきたいと思つています。



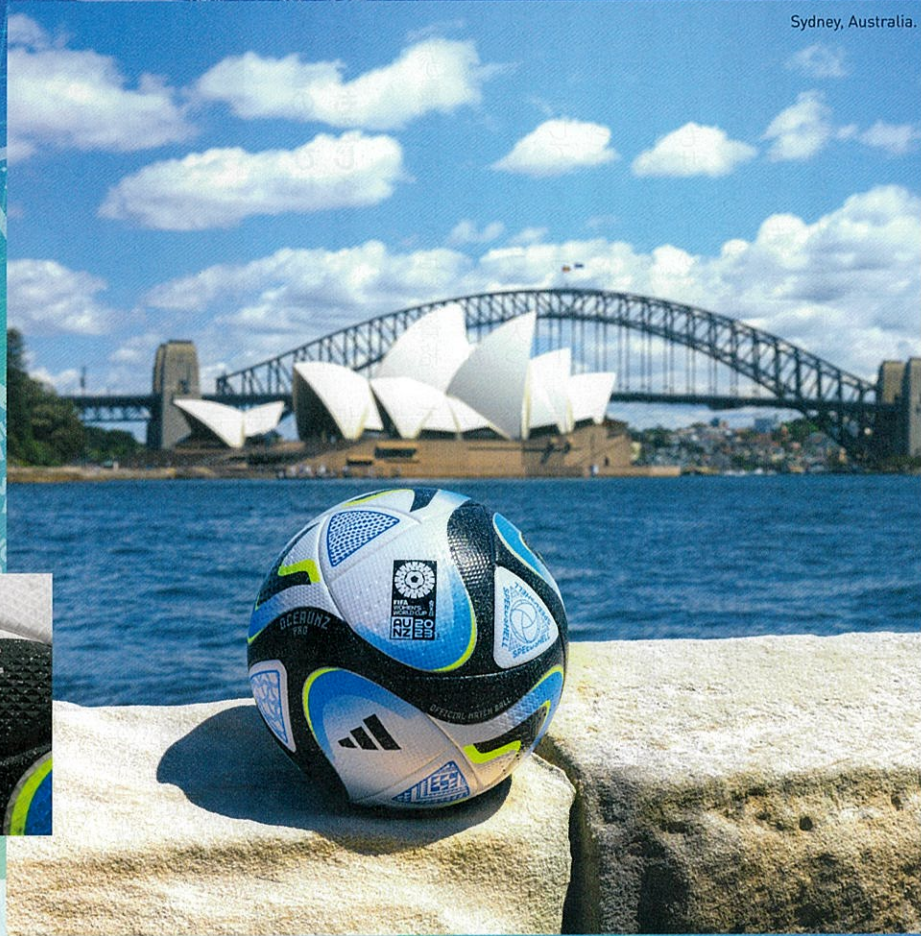
佐藤一恵

(東調布第一フットボールクラブ) コーチ

○取材日：2023年8月24日

your world cup ball

Sydney, Australia.



Queenstown, New Zealand.

INSPIRED BY NATURE



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adidas.

2023 FIFA主要大会 公式試合球

2023-24 WEリーグカップ開幕

WEリーグの新シーズンを告げる2023-24 WEリーグカップが8月26日に開幕した。今大会も昨シーズン同様、2023-24 WEリーグの開幕前に行われる。グループステージは12チームが6チームずつ2組に分かれて、1回戦総当たりで対戦。各グループ1位が10月14日の決勝に進む。

■グループA

大会連覇を目指す浦和
初参入のC大阪にも注目

昨シーズンのリーグカップとリーグ戦の2冠を達成した三菱重工

浦和レッズレディースはグループAを

戦う。初戦こそジェフユナイテッド

市原・千葉レディースに2-2で引

き分けたが、FIFA女子ワールド

カップオーストラリア&ニュージーラン

ド2023を戦った猶本光、清家

貴子、高橋はな、石川璃音らが出

場した第2節のノジマステラ神奈

川相模原戦は4-0で快勝した。

INAC神戸レオネッサから完全

移籍で加入した伊藤美紀が早く

も中盤で存在感を見せたほか、N

相模原戦ではエースの菅澤優衣香

と20歳の西尾葉音が2点ずつを

マーク。昨シーズンのリーグMVP

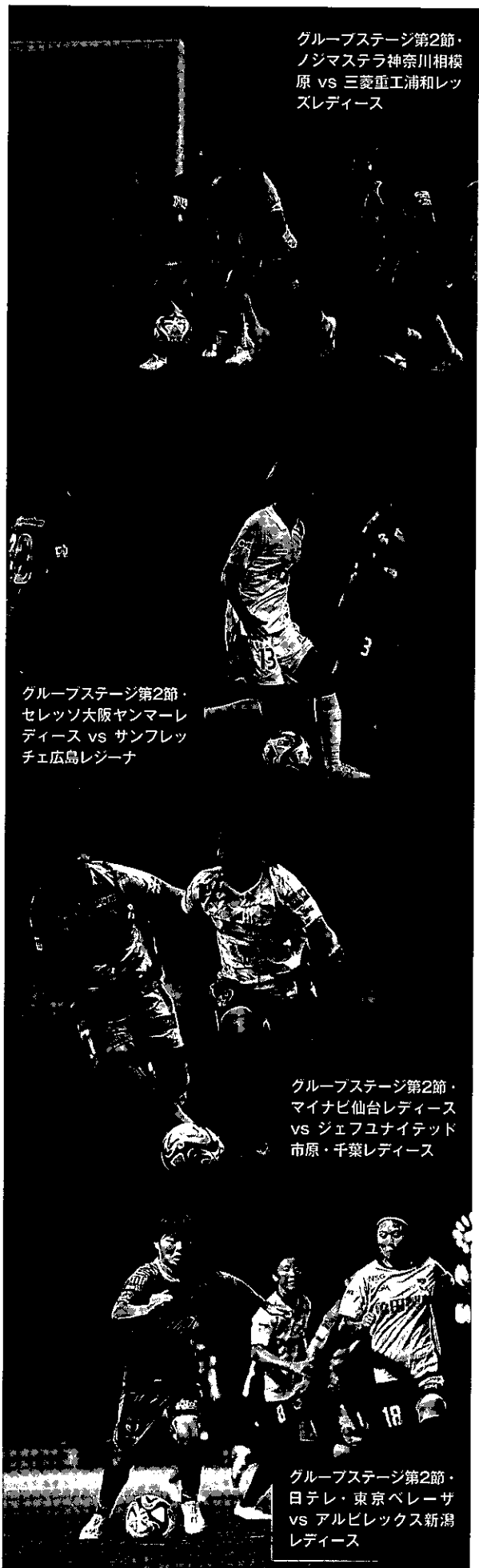
を受賞した安藤梢は、センターバツ

クヤストライカーのポジションで起

用され、今シーズンも重要なピース

を担いそつだ。
楠瀬直木監督は「追いかける立場でもしっかりと勝っていこうと、選手間で活発なコミュニケーションが図られている」と、大会2連覇に手応えを感じている様子。チーム内でポジション争いが激化していることも全体の底上げにつながっているとした。

今シーズンからWEリーグに参入したセレッソ大阪ヤンマーレディースは、初戦のN相模原戦を2-0で制するも、ホーム開幕戦の第2節ではサンフレッチェ広島レジーナに1-2で逆転負けを喫した。2989人が集まったヨドコウ桜ス



グループステージ第2節・ノジマステラ神奈川相模原 vs 三菱重工浦和レッズレディース

グループステージ第2節・セレッソ大阪ヤンマーレディース vs サンフレッチェ広島レジーナ

グループステージ第2節・マイナビ仙台レディース vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

グループステージ第2節・日テレ・東京ベレーサ vs アルビレックス新潟レディース



グループステージ第2節・AC長野パルセイロ・レディース vs INAC神戸レオネッサ



グループステージ第2節・ちふれASエルフェン埼玉 vs 大宮アルディージャ VENTUS

大宮アルディージャ VENTUS は、1 神戸などでプレーした柳井里奈監督が今シーズンから指揮を執る。古巣の1 神戸との初戦では初勝利を挙げたが、続くちふれASエルフェン埼玉との埼玉ダービーでは0-2の完封

負け。阪口萌乃、船木里奈といったアタッカー陣をチームのアクセントとし、昨シーズンのリーグ戦6位を上回る成績を目指す。AC長野は初戦で東京NBに1-2で敗れるも、チーム在籍3年目の伊藤めぐみが「逆転できそうな展開まで持ち込めた点は良かった」と手応えを示した通り、第2節のホーム開幕戦で1 神戸に3-1で勝利。さまざまな形でゴールを生み出す会心のゲーム展開に選手たちは自信を深めた様子だった。

[2023-24 WEリーグカップ 大会概要]
 主催：公益財団法人日本サッカー協会、公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
 大会方式：
 <グループステージ(全5節/全30試合)>
 全12チームを6チームずつ2グループに分け、各グループで1回戦制によるリーグ戦を行う。各グループ1位チームが決勝に進出する。
 <決勝(1試合)>
 グループA1位とグループB1位による決勝を行う。
 開催期間：
 グループステージ/8月26日(土)~10月1日(日)
 決勝/10月14日(土)

2023-24 WEリーグカップ

グループA
マイナビ仙台レディース
三菱重工浦和レッズレディース
ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
ノジマステラ神奈川相模原
セレッソ大阪ヤンマーレディース
サンフレッチェ広島レジーナ

グループB
大宮アルディージャ VENTUS
ちふれASエルフェン埼玉
日テレ・東京ヴェルディベレーザ
AC長野パルセイロ・レディース
アルビレックス新潟レディース
INAC神戸レオネッサ

タジアムのスタンドを見てキャプテンの脇阪麗奈は、「とてもいい雰囲気であわわくした」と目を輝かせたが、ホームで勝利を飾れなかったことに関しては「ゲーム運びでは相手の方が上だった」と、S広島Rとの経験の差を口にした。

リーグ戦5位以上を目標に掲げるN相模原は2連敗スタートとなった。DFラインを統率する大賀理紗子は「得点しないことには勝てないので、チームとしてどう積み上げるか。失点を減らすためにもアプローチや球際で辛抱強く戦いたい」と、攻守両面で課題を挙げ

ざらしい形で、自分は最後にシュートを打つだけ。チームとして良い2ゴールになった」と総合力に胸を張った。続く第2節は3-2でアルビレックス新潟レディースを下した。昨シーズンは無冠となったINAC神戸レオネッサは、S広島Rから増矢理花がチームに復帰し、新潟から北川ひかるが新加入。スペイン人のジョルディ・フェロン監督を招聘してタイトル獲得を目指す。しかし、山下杏也加や田中美南ら代表選手が欠場したアウェイ2連戦で連敗を喫し、開幕ダッシュとはならなかった。

アメリカでプレーしていた元なでしこジャパンの川澄奈穂美を獲得した新潟は、道上彩花のハットトリックでE1埼玉を下したが、続く東京NB戦では2-3で逆転負けし、1勝1敗のスタートとなった。川澄は右サイドで精力的に走って早くも新潟の得点力アップに貢献。ピッチ外でもSNSなどを活用した情報発信に力を入れていることから、注目を集める存在となりそう。

グループステージは10月1日まで行われ、決勝は同14日に等々力陸上競技場(神奈川県)で開催される。優勝チームは昨シーズンの5倍に当たる賞金1000万円とWEリーグカップを、準優勝チームは賞金500万円を手にする。今シーズン最初のビッグタイトルを獲得し、3年目のWEリーグに弾みをつけるのはどのチームか。

暑熱対策～熱中症の正しい知識と対策を

気温や湿度が高い日の練習や試合では、選手の健康を損ねる原因となる熱中症に対して十分に注意してほしい。6月や7月は暑さに対する身体の慣れが不十分なため、熱中症の発生頻度が高くなるとされている。熱中症は命の危険も伴うことから、初期症状がみられた際は適切な対応が必要になる。本格的な夏を迎える前に、熱中症に関する情報や予防について確認しておきたい。



●「熱中症対策ガイドライン」および「熱中症の応急処置」
https://www.jfa.jp/medical/heat_measures_hydration.html



●サッカーファミリーの心と体の健康のために～熱中症予防編 (JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)
【動画(約7分)】
<https://www.youtube.com/watch?v=zJheS1uJQPU>



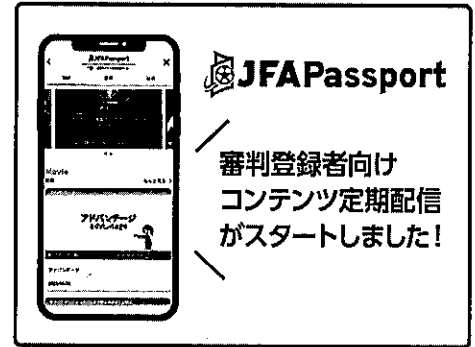
●熱中症の症状・応急手当について (JFAフィジカルフィットネスプロジェクト)
【動画(約10分)】 <https://youtu.be/h4wCKQQEJYU>



JFA公式アプリ「JFA Passport」で 審判登録者向けコンテンツの定期配信を開始

審判登録者向けのコンテンツ定期配信を公式アプリ「JFA Passport」で正式にスタート。

審判登録者専用ページ(審判員または審判インストラクター資格保有者のみアクセス可能)ではすでにコンテンツを展開しているが、今後は動画のほか、JFAからのお知らせやアンケート/クイズなどを審判登録者に届け、審判に関わる資料なども同ページ上で展開する予定となっている(フットサル審判コンテンツは9月に本公開予定)。



●「サッカー競技規則2023/24 Web版」をJFA.jpで公開
「サッカー競技規則2023/24 Web版」は誰でも閲覧可。競技規則の条文内に約140の映像クリップを付加し、映像とともに条文を理解できるようにしている。

https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/



JFA小学校体育サポート研修会「サッカー(ボール運動・ゴール型)の授業づくり」

2023年度実施校を募集中! JFAが講師を無料派遣、ボール・テキスト贈呈も

JFAでは小学校や小学校教員を対象とした研修会・研究会に「小学校体育サポート研修会」の講師を派遣している。2023年度からはスポーツ庁の後援も決定。実施校にはJFAから講師が派遣されるほか、ソフトスポンジボール4号10球とテキスト「新・サッカー指導の教科書」2冊も贈呈される。詳細および申し込み方法は下記より。

・主催 : 公益財団法人日本サッカー協会

・後援 : スポーツ庁

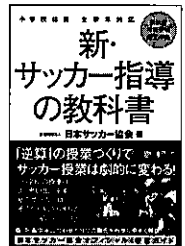
・対象期間 : 2024年3月31日(日)まで

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/dispatch_instructor.html



●小学校体育 全学年対応「新・サッカー指導の教科書」
小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。サッカー経験がない先生にもおすすめの1冊。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/textbook.html

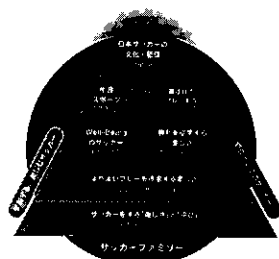


ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したもの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



サッカーファミリーの取り組み ～リスペクトアウォーズ2022より

対馬市サッカー協会



離島でも存続可能な サッカー環境を

対馬市で実施したフェスティバル、「しまサカ」。対馬市FAと長崎県FAが協働して行い、対馬市の中高生が参加した

子どもたちのために サッカー協会を設立

長崎県対馬は九州本土と朝鮮半島の間に位置し、約2万8,000人(2023年7月時点)が暮らす離島だ。その島の中心にあたる対馬市はおよそ10年、少年少女のためのサッカー環境整備に取り組んでいる。

島にあった唯一のU-12年代のチームは、かつて長崎県大村市サッカー協会(FA)の理解と手厚いサポートの下、同市FAに所属して活動を続けていた。しかし、対外試合は年にわずか2~3回。試合のときは飛行機で大村市に向かうが、1日に2試合を組むのがやっとだった。1度の遠征にかかる交通費を考えても、子どもたちがサッカーを続けることに難色を示す保護者も少なくなかった。

こうした課題を克服すべく、「未経験だけど、サッカーが好きで仕方なかった」という吉田和也さん(現、対馬市FA理事長)と小松和博さん(現、同市FA事務局長)が中心となってサッカー協会設立を進めていく。吉田さんらの「島の子どもたちにもっと自由にサッカーをさせてあげたい」という思いに長崎県FAや財部能成対馬市長(当時)も応え、2013年に対馬市FAが創設された。

地元でFAを設立して以来、吉田さんは「始めるより、続ける方が大変」と感じるが多かったという。そんな中でも、困ったときは長崎県FAの積極的なサポートに支えられた。キッズフェスティバルを実施する際は、長崎県FAが運営費用を負担し、指導者も派遣する(※)。「サッカー界最大の長所は横のつながりだと感じた」と小松さん。FAを設立する前は一つだけだったU-12年代のチームが4チームに増え、現在は島内で試合を組んだり、県大会の予選を開催したりするなど、機会創出につながっている。

※離島支援事業：JFA、47FA一括補助金の一部として助成される地域特性特別補助を活用し、離島の特性や特徴を生かす事業を実施。23年も「対馬しまサカ」というフェスティバルを開催した。

島内で指導者を養成し 普及につなげていく

今年、対馬協会は設立11年目を迎える。そんな中で吉田さんと小松さんが懸念しているのが、対馬サッカーの将来を担う指導者が少ないということ。これまで、フェスティバルなどを行うたびに優秀な指導者が対馬を訪れた。離島支援事業では「ぜひ行きたい」と言って対馬での指導を買って出してくれる指導者もいれば、九州本土に戻ってからまたたびたび対馬を訪れてくれる指導者もいた。「島外の指導者に助けられている」と吉田さんは話す。自分たちでアクションを起こす重要性も感じていた。

対馬市FAはこの秋、C級コーチ養成講習会の開催を予定している。講習会を行うためには最低でも12人の参加者が必要になる。定員に満たず、実施できなかったこともあるだけに、「今回は4種のチームの指導者が声を掛け合って、何とか自分たちで開催にこぎつけるんだという姿勢を感じる」と小松さんは語る。

今、携わっている指導者に指導を続けてもらうことも重要なテーマの一つだ。小松さんはかつて4種委員会の委員長を務めていたが、仕事の都合で継続することが難しくなり、現在は各チームで分担して4種年代の試合を運営。それぞれがレベルアップを図る中、指導者たちも声を掛け合ってリーグ戦を行うなど、リスペクトの精神を大切にしながらサッカー環境の整備に奔走している。

今後に向けた施策は尽きない。対馬市FA設立11年目の積み上げが認められ、今年から対馬市が、「市民がスポーツに親しみ、健康で活気あふれる持続可能な島づくり」を目的に、V・ファーレン長崎との連携事業に取り組むことになった。「対馬にサッカーを根づかせるチャンス」(吉田さん)を存分に生かし、サッカーが続くサイクルを生み出すためのアイデアを練っている。



正直は一生の宝

昨年10月2日、上越春日FCとの試合に臨んだFC.Artistaの選手たち(写真前列右端が田村壮選手)

2点ビハインドの状況でPK獲得と思われたが

FC.Artista U-15は、新潟県南部の豪雪地帯、十日町市と南魚沼市を中心に活動している3種年代のチームだ。県内では多くのサッカー関係者に知られているこのチームで、昨年、ある出来事があった。

高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ 2022 新潟 1 部で、FC.Artista は残留争いを繰り広げていた。10月2日、上越高校(上越市)のグラウンドで迎えた上越春日FCとの一戦。残留に近づくために是が非でも勝ち点を積み重ねたい状況だったが、早々に2点のリードを許す厳しい展開になった。それでも何とか相手に食らいつくFC.Artistaは前半の途中にCKを獲得する。このCKに走り込んだ田村壮選手がゴール前の混戦で倒れると、主審がペナルティースポットを指し、FC.ArtistaにPKが与えられた。2点のビハインドとはいえ、PKを沈めて1点差にすれば、チームに勢いがつき、巻き返しのきっかけになるかもしれない。ベンチから戦況を見つめていた渡邊芳広監督も「状況は分からないけれど、PKを取った。これでいけるぞ」と思った。

その矢先、PKを獲得した田村選手が主審に歩み寄り、短い言葉を交わした。すると主審がペナルティースポットに置いたボールを拾い、試合はドロップボールで再開された。

「『PKじゃないの?』と言ったけど、そのまま試合が進んだのでどうしたんだろうと思った」と渡邊監督。その後、互いに1点を取り、FC.Artistaは1-3で敗れた。

試合後、渡邊監督はPKが取り消された理由を確認するため、主審に声をかけた。すると、主審は「あの選手が『自分が勝手に転んだだけなのでPKではない』と申告してくれたので、ドロップボールで試合を再開させました」と説明。念のため、田村選手にも確認した。

「転んだら主審がPKを取ったので、『いや、違いますよ』と言っただけです」とあっけらかんとしている。監督はそんな田村選手の屈託のない様子を見て、「日頃の練習で伝えてきたことが選手一人一人に浸透している」と感じたという。

素直に受け止めることが将来につながる

選手たちには正々堂々とプレーすることの重要性を言っている。「手を使うな、転んでもすぐに立とう、わざと転んでファウルをもらうようなことはするな、と常々言ってきた」と渡邊監督。指導の背景には、U-15年代は心身の成長過程にあり、勝敗にこだわり過ぎると大事なものを失うという考えがある。

「正直は一生の宝。特に、若いうちは物事を素直に受け止めることが将来につながる。大人になって『この人は信用できる』と思われる。サッカーでは、わざと転倒するなどその場しのぎのことはせず、技術や走力、相手とのぶつかり合いで勝負すればいい」(渡邊監督)

勝利を目指して真剣に戦っていると、誤って相手の足を蹴ってしまったり、ゴールやボールに関与しないところで接触したりすることもあるだろう。しかし、意図的に倒れてPKを獲得しても、その選手のためにはならない。

昨年、FC.Artistaは結果として勝ち点1差で残留を逃し、今年は2部リーグでプレーしている。とはいえ、「残念な気持ちは全くない」と渡邊監督。「うそをついてまで残留しても誰も喜ばない。あのときの田村選手は正しい行動をした」と誇らしげだ。

サッカー、審判員、チーム、そして自分自身へのリスペクトを示した田村選手の行動は称賛に値する。FC.Artistaはクラブとして今回の事例を大切に、後輩たちにも正直にプレーすることの重要性を受け継いでいく構えだ。



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/キリンチャレンジカップ2022 対アメリカ代表戦 先発メンバー (2022.9.23)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER





JFA、企業、サッカーファミリー 全てに価値を生み出す 新たなパートナーシップ

「サッカーを通じてみんなの夢がかなう社会を目指す」

日本サッカー協会（JFA）は現在、新たなパートナーシッププロジェクト「JFA Partnership Project for DREAM」に取り組んでいる。JFAが目指すパートナーシップの形、パートナー企業と共に目指す「価値共創」という新たな展開について、JFAマーケティング本部の高埜尚人本部長に話を聞いた。

取材日：2023年8月18日

6つの階層を設けて 企業のニーズに応える

「JFAが取り組んでいるパートナーシッププロジェクトについて教えてください。」

高埜 JFAは従来、日本代表や国内の育成事業、大会事業など、個々の事業に協賛いただく形を取っていました。しかし、例えばパートナー企業が日本代表だけではなくグラスルーツの事業も応援したい、となったときに別々の契約を結ばなくてはなりません。事業にひも付いた縦割りのパートナーシップになってしまいうとサッカーと各企業の相乗効果を生み出しにくくなってしまいま

す。JFAとしては、マーケティングによる相乗効果をもっと発揮させたい、各企業との取り組みによるサッカーファミリーへの提供価値を最大化したい、そして、企業の立場を考慮してみてもJFAのパートナーになることもっと満足度を得られるようにしたいと考えました。

そこで今年、パートナーシップの構造を大きく変えました。JFAの全ての事業を一つの大きな建物に捉え、提携する事業の幅を階層に応じて変えるというものです。2019年の終わりにくから新たなパートナーシップの構想を検討し始め、今年に入ってから緩やかに移行し、4月に正式ローンチ

となりました。

「事業ごとというこれまでの枠を取り払い、JFAと企業は事業をまたいでパートナーシップ契約を結べるようになった。実際にパートナーシップの階層はいくつに分かれているのでしょうか。」

高埜 6つの階層があります（図1参照）。企業の活動や関わりたい分野、JFAと一緒に実現したいことなどを含め、それぞれに話し合っパートナーシップの適した階層と提携内容を決めていきます。

例えばオフィシャルトップパートナー、オフィシャルサプライヤーは、日本代表から主催大会まで全

てにわたってサポートしていただきます。JFAには日本代表以外にもさまざまな事業がありますから、より幅広い領域で関わっていただけるようになっていきます。

そして、ソーシャルバリューパートナーは非大会事業、いわゆる普及・育成事業や社会貢献事業等が対象となります。ここは新しく事業をつくっていきける領域だと捉えています。先ほど新しいパートナーシップの特徴の一つとして、構造を大きく変えたことをお伝えしましたが、二つ目の特徴がこの非大会事業の領域において「価値共創」の活動を企業と共に創っていくというものです。

「価値共創」として具体的に進んでいる例はありますか。」

高埜 新たな動きとしては、昨年、キリンさんと協働してウォーキングフットボールのイベント「キリン

【図1】JFAのパートナーシッププログラム

パートナーシップの階層は活動する場に応じて全6層に分かれている

Tier	日本代表事業	非大会事業	大会事業	その他 (業務提供等)
1	連携範囲			
2	←→			
3	←→			
4		←→		
5			←→	
6				←→

ファミリーチャレンジカップ」を創設しました。第1回は12月に、今年も5月に開催し、11月25日には福岡県で予定しています（64ページ参照）。

40年以上も日本サッカーを応援してくださるキリンさんとは、サッカーを通じて人と人、人と社会をつなぎ、よるこびや笑顔を生み出すことを共に目指しています。ウォーキングフットボールを通じ

て、家族や仲間との絆が深まり、サッカーファミリーの日常がより豊かになることがあるなら、これほどうれしいことはありません。

そのほかの取り組みとして、ニチバンさんとは、次世代のアスリートイックトレーナーを育成する講座を開設することで、安心・安全で楽しくサッカーができる環境づくりをメデイカル領域から取り組んでいますし、日本総研さんとはサッカー場づくりのノウハウをガイドラインにすることで、運動機会の創出や地域コミュニティの活性化など、JFAの理念にもあふる豊かなスポーツ文化の創造をハード面から目指しています。他にもいろいろな取り組みがありますが、こうした企業とのパートナーシップをもっと増やしていきたいと考えています。

サッカー、企業、社会の課題全てにアプローチする

— JFAと企業が互いに目指す社会や可能性を見いだそうと考えるとコミュニケーションの機会はこれまで以上に増えそうですね。

高埜 一昔前はいかに企業や商品を出させるか、という点がマーケティングでは重視されていました。しかし、企業側の課題やニーズは非常に多様化していますし、

パートナーになっていただくにあたって、JFAとしては企業それぞれに合わせたものを提案しなければなりません。互いのニーズを満たすために、互いが持つ事業や資産、大切にしている価値観を知る必要があります。ですから何度も何度も話し合い、その中で共に活動することの価値とパートナーシップの形を見いだしていきます。

さらに重視しているのは、JFAとパートナー企業のみならず、「サッカーファミリー」、その先の日本社会全体にとっても良いものを生み出す「三方よし」を実現させることです。この活動は社会課題の解決に役立っているのか、企業やサッカーファミリーのためになっているのか、ということなどを常に考えます。そこには企業の数だけ可能性が広がっており、正解も一つではありませんので、われわれとしてはやりがいもありますし、フットボールの可能性に気づかされることも多々あります。

— プロジェクト名に「DREAM」が入っている点もJFAならではのですね。

高埜 そうですね。JFAには「夢があるから強くなる」というスローガンがあり、今年3月には日本代表スローガン「夢への勇気。」を策定しました。

人が夢を追い続けるために、そして夢をかなえるためにも、仲間が必要です。ですから、「夢には仲間がいる」という旗印の下にパートナーシッププロジェクトを立ち上げました。サッカーという競技にさまざまな形で関わるサッカーファミリー、選手、指導者、審判員、そしてパートナー企業も含めて、垣根なくみんなが夢をかなえられる、そのためにみんなでみんなの夢を応援するプロジェクトにしていきたい。それが「DREAM」に込めたわれわれの思いです。みんなの資産を持ち寄り、社会に価値を創出したり、そういう仕組みを確立させていけたらと思います。

— さらなる展開として描かれている構想はありますか。

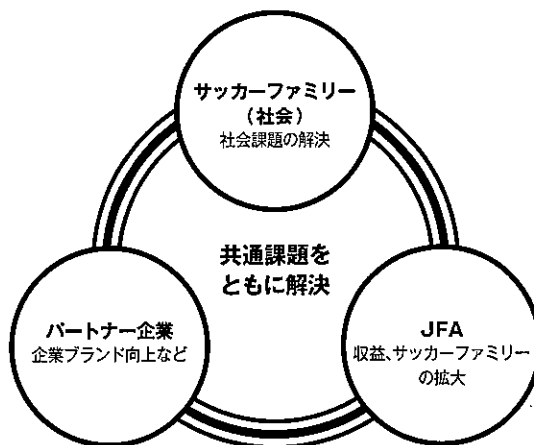
高埜 プロジェクトをしっかりと軌道に乗せることと併せて、協賛していただいたことの効果を可視化することにもチャレンジしていきます。今までサッカーの価値を定量的に表す際には試合の来場者数やテレビの視聴率等で計られてきましたが、サッカーの価値はそれ以外のところにも必ずありますので、それを可視化することでパートナー企業にさらに多くのものを還元していきたいと考えています。

ます。あとは、おこがましいですが、われわれのパートナーシップの形を他のスポーツにも波及させることができれば、きっとスポーツ界全体が発展し、ひいては日本社会全体が元気になっていくと思っています。

— パートナーシップの輪が広がっていくといいですね。

高埜 このプロジェクトの意義やJFA・パートナー企業の思いを一人でも多くの人や企業に知ってもらいたいですね。個人や企業、社会、それぞれの夢への道のりをサポートできるプロジェクトだと思っておりますので、サッカーファミリーの皆さんにもいろいろないイベントや事業に参加してもらいたいです。それぞれの事業の背景にいろいろなパートナー企業の関わりやサポート

【図2】 JFA×パートナー企業×社会の三方よし



があること、それぞれの思いを知ってもらえたらとてもうれしいなと思います。

■ JFA Partnership Project for DREAM

特設サイト
<https://www.jfa.jp/partnership/>

●資料請求および問い合わせはこちら



JFA ホットスポット

一人でも多くの子どもたちに 夢を持つことの素晴らしさを伝えたい

日本サッカー協会 (JFA)
JFAこころのプロジェクト推進部 小林利章

日本サッカー協会 (JFA) の活動や各委員会、各部の取り組みに焦点を当てた JFA ホットスポット。第14回は JFA こころのプロジェクトについて紹介する。

新たな授業の形で 困難を乗り越える

いじめやいじめを苦にした自殺、その連鎖が社会問題として取り上げられていた2006年、「子どもたちのために、サッカーは何ができるだろうか」という思いから「JFAこころのプロジェクト」は誕生しました。そして07年4月、サッカー選手やそのOB、OGらを「夢先生」として小学校に派遣し、夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切

さを伝える「夢の教室」がスタートしました。

その後、海外や中学校での実施など徐々に規模を拡大していきましたが、20年、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学校で授業を行うことができなくなっていました。

一方、東日本大震災が発生した11年に日本体育協会(現、日本スポーツ協会)、日本オリンピック委員会(JOC)、日本トップリーグ連携機構(JTL)、JFAの4団体で立ち上げた「スポーツこころのプロジェクト」(※)は、この年がスタートから10年となる節目の年で、しかも同プロジェクトの活動の最終年度となっていたことから、スタッフはこのまま終わるわけにはいかないとアイデアを出し合い、オンライン会議システムを活用したりリモート授業の実施を決断しました。

JFAこころのプロジェクトでも同じ形式を採用し、同年10月から順次オンラインで「夢の教室」を実施しました。画面を通してです。子どもたちとのコミュニケーションの部分で難しさもありましたが、授業の前半に「出会うの時間」を設けて夢先生と子どもたちが打ち解けやすく

するなど、工夫を凝らしました。21年度は全てオンラインで、昨年度は、少ない回数ながらようやく対面での授業もできるようなになり、今年度はほぼ全ての授業を対面で行っています。やはり子どもたちの反応がダイレクトに伝わってくるのがいいですね。

コロナ禍という困難に直面しましたが、創意工夫で乗り切り、オンライン授業という新たな形も確立させることができました。今後は、例えば、移動手段の問題などでなかなか行くことができない離島などにもオンラインでの授業を提案していければと考えています。

※東日本大震災で被災した全ての子どもたちのこころの回復を支援するため、日本スポーツ振興センターのスポーツ



くじ(toto・BIG)の収益による助成を受け、日体協、JOC、JTL、JFAが協力して実施した事業

大きな目標に向かって これからもトライしよう

今年の6月にうれしい出来事がありました。フィギュアスケートの樋口新葉選手が夢先生を務めてくれたのです。彼女は小学5年生だった12年2月に「夢の教室」を受けており、その11年後に、自身の夢をかなえた夢先生として「夢の教室」に帰ってきてくれました。

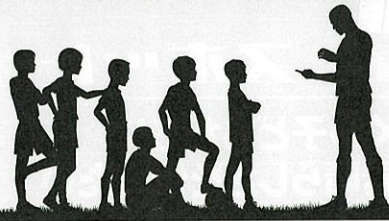
夢先生はスタート当初、サッカー関係者が多かったのですが、現在は、各競技のアスリートや芸術、芸能関係者、技能五輪選手など多彩な人たちが務めています。その人数は、昨年度終了時点で

1477人。これからも多くの人々に教壇に立つてほしいと考えています。

JFAこころのプロジェクトは今年で18年目を迎えました。昨年度終了時点で授業回数は2万291回、参加した児童・生徒は60万7667人に上ります。授業を行う夢先生の熱意はもちろん、その熱意を形にしてくれるスタッフたちには頭が下がる思いです。それを受け入れてくださる自治体や学校関係者には心から感謝しています。

われわれには年間3000回の授業実施という目標があります。これまでの最多は18年度の2081回ですから、3000回というのは非常に大きな目標です。しかし、一人でも多くの子どもたちに夢を持つことの素晴らしさを伝えていくために、これからも継続していきます。そのために、サッカーファミリーの皆さんにわれわれの活動を知っていただきたいと考えています。

■JFAこころのプロジェクトの
詳細はこちら
https://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/



フットボールにできること

Jリーグ執行役員(サステナビリティ領域担当)の辻井隆行さんが語る Jリーグの気候アクション戦略と地域創生(後編)

JリーグとJクラブは1993年の開幕以降、ホームタウン活動を通じて地域社会の活性化を進めてきた。開幕30周年を迎えた今年にはサステナビリティ部を新設し、気候アクション戦略を打ち出している。気候変動問題の解決と地域創生に向けたビジョンと取り組みについてJリーグ執行役員(サステナビリティ領域担当)の辻井隆行さんに話を聞いた。

取材日：2023年6月20日

今年は全ての公式戦でCO2排出量を計測する

——気候変動問題の解決に向けて、Jリーグの今シーズンの取り組みについていかがですか。

辻井 現時点で、Jリーグは全ての公式試合で二酸化炭素(CO2)の排出量を計測し、「カーボンオフセット」(※1)を実施する構えです。前提には、2050年までに世界の二酸化炭素の排出量をゼロにしなければ、今のうちにサッカーがでなくなる可能性すらあるという危機感があります。だからこそ、JリーグがCO2排出量の削減を主導することには合理性があると考えています。カーボンオフセットは目的ではなく、「カーボンニュートラル」(※2)を達成するための手段の一つに過ぎません。まずは自分たちで可能な限



「環境省×Jリーグ連携協定2周年記念イベント」に参加した辻井隆行さん

りCO2の排出を減らして、どうしても減らせない部分について、例えば、森林や海の藻場といったCO2を吸収する自然の再生や、再生可能エネルギー事業などを推進している企業や団体が生み出す削減努力を購入することで、その埋め合わせをするという考え方です。

※1 カーボンオフセット

日常生活や経済活動において避けることができないCO2などの温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資することなどにより排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方。

※2 カーボンニュートラル

二酸化炭素など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、その排出量を「実質ゼロ」に抑えるという概念。2020年10月、菅義偉元総理が2050年までにCO2の排出量をゼロにする所信表明演説を行った。

——それを、Jリーグの全クラブが行うわけですね。

辻井 今年1年で、J1からJ3の約1100試合で排出されるCO2を自助努力で全て削減するのは現実的ではありません。ですから、まずはJリーグがクレジットや非化

石証書、グリーン電力証書などをさまざまな企業や団体から集め、全60クラブが試合で出しているCO2を相殺することを想定しています。来以降はオフセットする分を徐々に減らし、中長期的には、自助努力でCO2を出さないようにする仕組みもつくっていかねばなりません。

例えばスタジアムの周りに市民からも出資を募ってカーポート型のソーラーパネルを設置するといったアクションは、実際に清水エスパルスが実施しています。地方自治体とクラブと地域の方々が中心になって、地域にとつても、気候変動対策としても意義のあることを実現することは可能だと思います。そうやって作られた再生可能エネルギーを実際の試合で使えば、CO2の排出量を減らすことができます。これはあくまでも一例に過ぎませんが、各地域の自然環境や社会の状況、各クラブの歴史や現状などを一つ一つ丁寧に理解しながら、気候変動を抑える取り組みにつなげていければと思います。

地域やクラブと協力し
良い事例をつくりたい

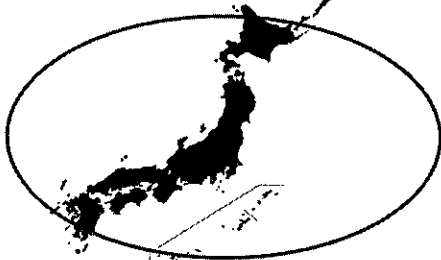
——CO2はどのように排出されるのですか。

辻井 基本的には地下資源である石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料を直接的にでも、間接的にでも使うことで排出されます。家庭では化石燃料由来の電気を使うときに多くのCO2が排出されていますが、ごみを多く出したり、環境配慮の少ない商品や食糧を購入したりすることも排出につながります。反対に言えば、再生可能エネルギー由来の電気に切り替えたり、ごみを減らしたり、ものを購入する時に環境配慮されたものを選んだりすれば、排出を抑えることも可能です。また、選手たちはユニフォームを着てプレーしますが、もともとは石油から作られるユニフォームをリサイクル素材にすることでCO2の排出を抑えることも可能です。そうした中で、まずJリーグが取り組むところとしては、公式戦における、主に電気などの使用に伴うCO2をオフセットすることです。同時に、アカデミーや事業所の運営、選手やファン・サポーターの移動、ボールやユニフォームの製造工程、スタジアムグルメの原材料など、法人としてクラブが排出しているCO2を包括的に可視化して、カーボンニュートラルにすることも視野に入

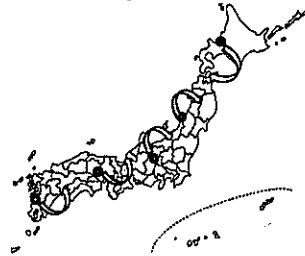
大方針(気候アクション×地域創生)を支える二つのアプローチ

	目的と役割	対象	具体例/案
①全国ムーブメント推進	リーグが主導し、気候アクション×地域創生のムーブメントを牽引	・全クラブ ・Jリーグ (自ら実践)	・全試合カーボンニュートラル (約束事) ・サポーター参加型プログラム ・リーグ自ら再エネ促進
②クラブ/地域取り組み支援	各地域の特徴や課題を踏まえたクラブ主体の取り組みを後押ししつつ、好事例を他地域に展開	・実施クラブ ・地域ステークホルダー	クラブがハブとなり、サポーター、地域の自治体、地元企業、金融機関、NPOなどと共に、地域資源(自然資源、第一次産品、観光資源など)を特定、活用しながら域内循環を促進

①全国ムーブメント推進



②クラブ/地域取り組み支援



——既に着手しているクラブもありませんか。

辻井 清水エスパルス、ヴァンフォーレ甲府、セレッソ大阪、FC大阪は、企業や大学など、さまざまなステークホルダーと協力してCO2の排出量を可視化して、その一部をオフセットするといった取り組みを行っています。Jリーグも彼らをはじめとしたクラブの事例をきちんと学びつつ、そうしたアクションをさらに発展させたり、他のクラブにも展開するといった役割をしっかりと全うしたいと考えています。

——1年目から何かが劇的に変わるのではなく、何かを変える下地をつくるんですね。

辻井 はい。まずは下地を作りつつ、今後に向けて二つのアプローチを推進したいと考えています。

一つ目は、クラブはもちろん、ファンやサポーターの皆さま、パートナー企業や各官庁といったステークホルダーと共に、気候アクションの輪を広げていく「全国ムーブメント推進」です。

二つ目はJリーグがクラブと地域の取り組みを支援することです。カーボンニュートラルを実現しながら各地域が発展していくには、各地域の特徴や課題を踏まえたクラブ主体の気候アクションが増えていくことが不可欠です。その時には、先にあげたステークホルダーに加えて、各地域の自治体や学校、企業や市民の皆さまといった多岐に渡るステークホルダーとの協働が大切になります。そうした協働を通じて、地域におけるクラブの価値が上がり、それに賛同するパートナー企業が見られる可能性もあるはず。中長期的な視点を持って、クラブや地域と協力しながら良い事例を広げていくことができればと考えています。

——Jクラブと環境問題解決は相性が良いのではという期待はありますか。

辻井 もちろんです。これからの持続可能な社会の在り方の一つとして、「中央集権型から自律分散型への移行が鍵になる」と考えています。政治、経済、文化など社会機能の多くが大都市に集中する在り方から、それぞれの地域がイニシアチブをもって地域の持続可能性を高めながら、他地域とも連携するような在り方に移行していく。例えば、エネルギーや食糧の域内循環が高まり、自治や顔の見える関係が生まれれば、それは気候変動対策という意味でも、地域創生という観点でも、ポジティブな影響をもたらします。

その点、Jリーグは、そもそも日本全国に分散する60ものクラブによって成り立っています。そういう意味で、Jリーグは、みんなが自律しながら、緩くつながっていく「自律分散型ネットワーク社会」の実現に貢献しながら、発展することができているのではないかと思います。これからはクラブの声を傾けながら、同時に、科学的知見や社会の要請、経済界の動きなども見据えて、ステークホルダーの皆さまと一緒に、一歩ずつ着実に歩みを進めていきます。

【プロフィール】

辻井 隆行 (つじい・たかゆき)
早稲田大学大学院修士課程修了。
1991年、日本電装(株)(現、(株)DENSO)に入社後、1999年にパタゴニア東京・渋谷ストア入店。
2009年にパタゴニア日本支社長に就任。2019年、フリーランスのソーシャルビジネス・コンサルタントとして活動開始。2022年に日本プロサッカーリーグ理事、2023年に日本プロサッカーリーグ執行役員に就任。



水戸ホーリーホックが地域の小学生、飲食店、プロサッカークラブの3者間による温室効果ガスの排出がより少ない大豆ミートバーガーを販売するなど複数のJクラブが環境問題解決のための取り組みを行っている



加藤 寛
一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟 顧問

サッカーは人生そのもの

父親の影響で幼少期からサッカーに触れ、大学時代にアシスタントとして参加したFIFAコーチングスクールでサッカーと共に生きていくことを決意。半世紀以上にわたってサッカーの発展に尽力している加藤寛さんに、これまでの取り組みやサッカーに対する思いなどを聞いた。

○オンライン取材日：2023年8月22日

人生を決定づけた
FIFAコーチングスクール

——サッカーを始めたきっかけを教えてください。

加藤 大のサッカー好きだった父（※）の影響です。私は岡山県で生まれましたが、3歳のときに父の出身地、兵庫県神戸市に引っ越ししてきました。兵庫は戦前、兵庫県御影師範学校（神戸大学の前身）と第一神戸中学校（現、神戸高校）が全国高校サッカー選手権大会の覇権を争うようなサッカー王国でしたが、戦後になるとその勢いは陰りを見せました。神戸のサッカーを再び強くしたいという思いから、神戸一（第一神戸）中出身だった父やその友人たち、例えば、賀川

浩さんや大谷四郎さん、岩谷俊夫さんからサッカージャーナリストたちが夜な夜なわが家に集まり、議論していました。その後、中学校

に上がり、部活動を選択する際、美術部がサッカー部で迷いました

が、「サッカーをやれば海外に行ける」という父の言葉によってサッカーを始めました。後に国際審判員となり、兵庫県サッカー協会の理事長を務められた長岡康規さんが同じ中学の二つ先輩で、憧れの存在でもありました。

※日本初の法人格市民スポーツクラブ「神戸フットボールクラブ」の創設者の一人、加藤正信氏

——中学校に進学された1963年に「兵庫サッカー友の会」が結成されます。

加藤 神戸一中や御影師範、関西学院大学、関西大学のOBが中心となつて兵庫のサッカーの発展のために結成し、1000人以上の人たちが集まりました。65年に事業の一環として「神戸少年サッカースクール」ができ、毎日新聞社にお勤めだった、元サッカー日本代表の岩谷さんが指導部長に就任しました。当時、私は中学3年生で、岩谷さんの指導に興味を持つようになり、高校時代は部活動でプレーする傍ら、サッカースクールのお手伝いをしていました。サッカースクールには大阪体育大学の井田國敬先生も指導者として参加されており、その縁もあって私は大阪体育大学に進学しました。

——大学在学中に第1回FIFA

コーチングスクールでデットマール・クラマー氏のアシスタントを務められたそうですね。

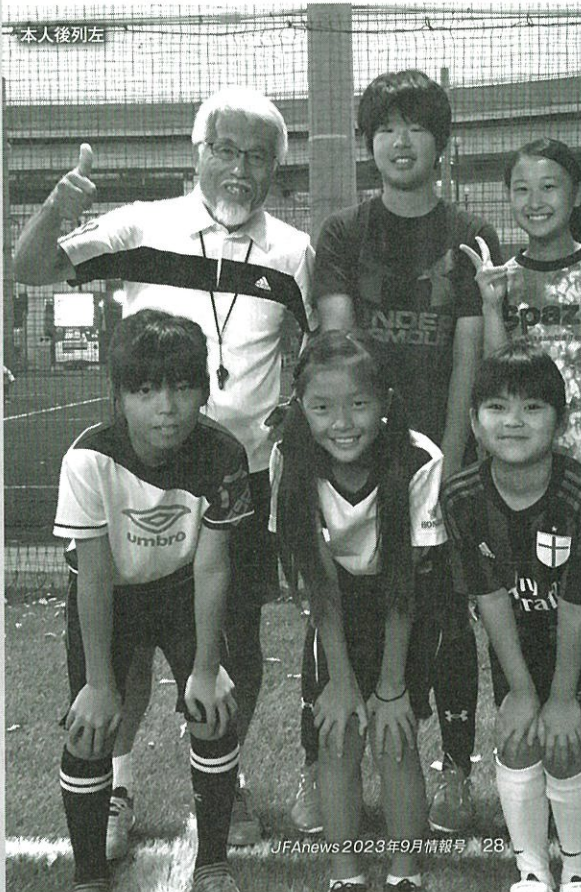
加藤 FIFAのコーチングスクールは、私が1年生だった69年の7月15日から3カ月間、千葉県の東京大学検見川総合運動場で行われました。父の勧めで参加し、クラマーさんの身の回りのサポートをしたり、実技の記録を付けたりしました。このコーチングスクールには日本を含めアジア各国から46人が集まり、3カ月間サッカー漬けの毎日を送りました。主にクラマーさんと平木隆三さんが担当された

実技のほか、教育学、医学、運動生理学など各分野の国内の権威を招き、講義が行われました。大学4年分にも匹敵するような濃密な時

間で、このときに将来、サッカーで生活していくことと決めました。

——クラマーさんの指導で印象に残っていることはありますか。

加藤 まず、クラマーさんの指導で一番印象に残っているのは、「指導者自身が何事も模範を示さないといけない」ということです。コーチングスクールの最終日には、スクールのエンブレムと色紙をいただきました。色紙にはドイツ語で「あなたのなすこと以外に良いことはない（自信をもってやりなさい）」と書かれていて、サッカー界の偉人がこんなにも丁寧な対応をしてくれるのかと、驚きと喜びを感じました。一方で、大失敗をして大目玉を食らったこともあります。毎週



本人後列左

土曜日にフィルムショーとあって16ミリフィルムの映像を見る時間があったのですが、私は映し出す順番を間違えてしまいました。クラマーさんは烈火のごとく怒り、いつもは英語で話されていましたが、このときはドイツ語でまくし立てられました。怖かったですし、落ち込みましたが、後々振り返ると、学生とはいえ「仕事に真剣に向き合え」と叱ってくれたのだと分かり、今では感謝しています。

震災で身に染みた 自治、助け合いの重要性

——大学卒業後の73年、技術職員として神戸フットボールクラブに加入され、その後さまざまな立場で23年間、同クラブでサッカーに取り組んでこられました。

加藤 私は大学で西ドイツのス



第1回FIFAコーチングスクール最終日にクラマー氏から贈られた色紙とスクールのエンブレム

——95年から
ウィッセル神
戸に向き合
ますが、同時期

模を拡大し、
U-15、U-18
のクラブが各
地に設立され
るようになり
ました。

8月まで約半年間、体育館で生活し、最後はきれいに掃除をして神戸高校へお返しすることができました。神戸高校の校訓が「自重自治」なのですが、この避難所に神戸

状態でした。そこで、S級の座学で学んだマネジメント法を生かし、避難者で自治組織をつくって運営していくことにしました。座学がすぐに役立ちましたね。1月から

取り組みはサッカー協会(FIFA)が行うものですし、クラブの利益につながるわけではありませんが、安達貞至社長(当時)は私の行動を見守ってくれ、相談にも乗ってくれました。また、スクール開催地のサッカー関係者のほか、小学校の校長先生らの協力もあり、次々と県下にウィッセル神戸のスクールを立ち上げることもできました。さらに、都市協会のトレセン活動と県のトレセン制度を連携させ、県下のU-12からU-17のトレセンを整備することができました。



1997年と2004年にウィッセル神戸の監督を務めた(左)。写真は04年

ポーツ政策を学びました。当時はまだ、日本ではクラブというのが珍しい存在でしたが、ゆくゆくは神戸FCをドイツにあるような市民のためのクラブにしたいと考えていました。当時の日本サッカー協会(JFA)の登録制度は、学校や社会人などいわゆる社会的身分に基づくもので、クラブチームでは登録することができませんでした。74年、JFAは財団法人化する際に登録制度をこれまでの身分別から年齢別に変更しましたが、それでもまだクラブチームは、登録はできても競技会に参加するのが難しい状況でした。そこで、大谷さんを中心に枚方FC、読売サッカークラブ、三菱養和会と協力して、現在の日本クラブユースサッカー連盟の前身となる「全国クラブユースサッカー連合」を立ち上げました。その後は全国の皆さんと手を携えながら徐々に規模を拡大し、

に阪神淡路大震災が起こりました。加藤 93年12月に「神戸にプロサッカーチームをつくる市民の会」が神戸の医師会を中心に発足し、プロ化に向けた活動が本格的に始まりました。翌年には、川崎製鉄サッカー部をベースに、育成年代は、神戸FCのジュニアユースとユースを移管させ、ウィッセル神戸がスタートすることが決まりました。神戸FCからは、私ともう一人のスタッフがウィッセル神戸に向することになりました。同時に私はJFA公認S級コーチ資格を取得することになり、95年1月16日の夜、神戸FCの事務所でS級前期のレポートをまとめ、翌朝に帰宅したところで被災しました。摩耶山麓の自宅から南側を見ると、神戸の街は火の海で、家族と神戸高校の体育館に避難したのですが、避難所は救援物資や食料の奪い合いが起こるなど、少し心配な状態でした。そこで、S級の座学で学んだマネジメント法を生かし、避難者で自治組織をつくって運営していくことにしました。座学がすぐに役立ちましたね。1月から

高校自治会のOB、OGがボランティアで協力してくれて、自治、そして助け合いの大切さが身に染みて分かりました。

最も苦労したのはFAの技術予算の管理ですね。作業が深夜にまで及び、自宅で仮眠してから再び事務所に戻るということも多々ありましたが、おかげさまで県下の都市協会の多くの人たちができたばかりのウィッセル神戸に関心を持ち、優秀な選手をウィッセル神戸U-15のセレクションへ派遣してくれるようになりました。実に充実した楽しい時間でした。

——2009年から神戸親和女子大学(現、神戸親和大学)の教授と同サッカー部の監督に就任されました。その経緯を教えてください。

加藤 当時、神戸親和女子大がウィッセル神戸のスポンサーだっ



2009年から約8年間、神戸親和女子大(当時)で教授、サッカー一部監督として学生の指導にあたった

た関係で学長と話す機会があり、新設される発達教育学部ジュニアスポーツ教育学科の教授と、同じく新設されるサッカー部の監督就任のオファーをいただきました。

私はそのとき58歳、ヴィッセル神戸での仕事もそろそろ後進に任せようと思っていた時期でしたし、神戸FCやヴィッセル神戸、クラブユース連盟で学んだことを若い人たちに伝えるのも良いことだと考えました。また、女子サッカーの普及という観点から、選手への指導と同時に女子指導者の養成に取り組みようと考え、この二つのオファーをありがたくお受けすることにしました。

——大学での新たな挑戦を振り返っていただけますか。

加藤 私の人生にとって有意義な

経験になりました。新設の女子サッカー部ですので、選手を集める、練習環境を整えるということから始め、練習ではボールを蹴る、止める、運ぶという基礎の基礎から指導していきました。チームづくりは楽しかったですし、選手たちの取り組み姿勢も素晴らしかった。選手はみんな、卒業までにC級コーチと4級審判員の資格を取得しました。現在、県内外の女子トレセンや学校で教員として指導している卒業生たちが多くいて、うれしく思います。苦勞したのは授業の準備で、周囲の先生方によく助けてもらいました。

兵庫を再びサッカー王国にそれが活動の原点

——日本クラブユースサッカー連盟にも長く携われ、同連盟や関西クラブユースサッカー連盟の会長を務めてこられました。現在の育成年代への取り組みについてどのようにご覧になっていますか。

加藤 私は、プレーヤーとは選ばれた人ではなく、「遊ぶ人」だと考えます。すなわち子どもたちには技術や戦術の習得はもちろんですが、それ以上に、「自主自律」や「自治の精神」を教えることが重要だ

と思っっています。遊ぶ人が主体性

を持ってサッカーができるように導いていく。私はドイツに2回研修に行きましたが、ドイツでは指導者が子どもたちの課題に気付いていてもあまり指摘しません。どうしても必要なときに伝える程度です。ですから、子どもたちは萎縮することなく伸び伸びと楽しんでスポーツに打ち込むことができま

——兵庫県サッカー協会常務理事

や神戸市サッカー協会副会長も務められてきました。一貫して兵庫県で活動してこられたその思いをお聞かせください。

加藤 原点は、やはり父とその友人たちが懸命に取り組んできた

ように、兵庫を戦前のようなサッカー王国にしたいという思いです。江戸時代から明治時代に変わった1868年、神戸港が開港し、外国人が入ってくると、70年に「神戸レガッタ&アスレチッククラ

ブ(KR&AC)」が設立され、サッ

カーチームができました。そのKR&ACは御影師範なども対戦しています。御影師範で育った先生が、父が通った小学校の校庭でサッカーを教えていて、そこで父や賀川太郎・浩兄弟らがボールを蹴っていた。私にはそういった背景があり、ルーツがある。それは決して変えられないものです。もちろん、シンプルに神戸の街が好きだということもあります。

——現在は阪神ユニテッドレ

ディースの総監督として指導にあたっていらつしやいます。今後の夢や目標を教えてください。

加藤 市民が運営権を持つクラブ

がたくさん生まれ、行政も地元の企業も皆がその活動を応援し、市民の健康づくりや仲間づくりが進んでいく。そういう活気や輪が神戸の街や日本全国に広がってほしいですね。ヴィッセル神戸ができて30年近くたち、スタジアムは観客でいっぱいになりました。今後はそれがスタジアムの外に向かってほしい。阪神ユニテッドでは今、プレーしている選

手たちが年を重ねてもいつまでも

サッカーをやめずに続けられる環境をつくってほしいと思います。

——あらためてご自身にとって

サッカーとは。

加藤 サッカーしかやってきませんでしたから、やはり人生そのもの。世界中の人たちに言いたいのは、人々がサッカーを嫌いな

<プロフィール>
加藤 寛(かとうひろし)
 1951年1月29日生まれ、岡山県出身。
 大学在学中に第1回FIFAコーチングスクールでデットマール・クラマー氏のアシスタントを務め、卒業後の1973年に技術職員として神戸フットボールクラブに加入。77~98年にはJFAナショナルトレセンコーチとしても活動。95~2009年はヴィッセル神戸で育成や普及に尽力、同時に兵庫県サッカー協会指導者養成部長を務める。1997年、2004年にはヴィッセル神戸の監督も務めた。09~16年、神戸親和女子大学教授、同サッカー部監督として学生の指導にあたる。その間、兵庫県サッカー協会常務理事や日本クラブユースサッカー連盟会長などを歴任。18年、NPO法人阪神ユニテッドレディースの理事長・監督に就任し、現在は総監督。このほか、日本クラブユースサッカー連盟顧問、神戸市サッカー協会社員、株式会社スポーツシューレこうべ代表取締役を務めている(22年春に全ての公職から退任)。

ビーチサッカー
NAVI

ビーチサッカー日本代表の茂憐羅オズ監督兼選手による連載コラム。隔月でお届けしています。

ビーチサッカーを
プレーする人を増やすために

もっと新しい選手が出てきてほしい

今年11月にアラブ首長国連邦(UAE)で開催されることになっていたFIFAビーチサッカーワールドカップが来年2月に延期されました。早く試合がしたいと楽しみにしていたのでとても残念です。12月から1月の寒い時期はオフシーズンですので大会に向けた準備を行う難しさはありますが、できることをしっかり積み上げてワールドカップに臨みたいと思います。

さて今回は、ビーチサッカーの普及をテーマにお話したいと思います。私自身、日本に来て16年になりますが、その間、チームや大会が増えて、ビーチサッカーが浸透してきていることを実感しています。

しかし、ビーチサッカー日本代表は以前からの中心メンバーの多くが今も活躍しており、もっと新しい選手が出てほしいというのが正直なところ。競技を見てもらうことはもちろん、プレーする人を増やすために、監督として、選手として、どういったことができるのかをもっと考えなければならぬと思っています。

大学との連携は重要なカギ

日本サッカー協会(JFA)や47都道府県サッカー協会(FA)、日本ビーチサッカー連盟を中心に9地域のビーチサッカー連盟でも、普及のために子ども向けのビーチサッカークリニックや教室などを全国各地で開催しています。子どもたちはさまざまな夢を持っているので、すぐに「ビーチサッカーをやろう」とはならないかもしれませんが、こういう地道な活動が大切です。

その一方で、今すぐにはできる施策の一つとして大学との連携に力を入れたいと考えています。プロサッカー選手を目指して大学でプレーする選手は国内に数百人いると思いますが、その中で実際にプロになれるのは数十人、そのうち何人かはフットサルに転向するケースもあるでしょう。でも、そこにビーチサッカーという選択肢があることを十分に伝えられていないと感じています。

大学側に「まずは一度、練習に来てみてください」と働きかけ、各チームの練習に参加してもらうだけでも、その中の数人が興味を持ってくれる可能性があります。すぐに競技人口

が増えていかないとしても、それをきっかけに大学にビーチサッカー部や同好会ができるかもしれません。もちろん、ビーチで行うトレーニングはサッカーにも生かせることが多いので、そういった面でも有効です。

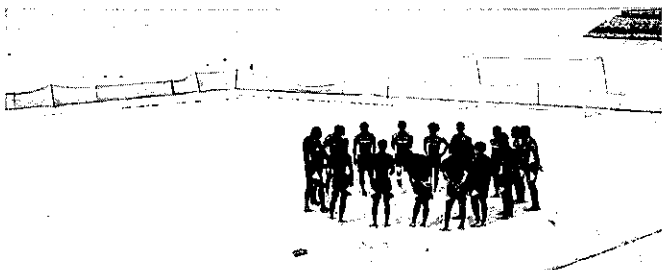
大学生からビーチサッカーを始めたとしても、上達するチャンスは十分にあります。サッカーやフットサルに比べて日本代表に入れる可能性が高いことも、ビーチサッカーをプレーするモチベーションの一つになると思います。

代表チームの強化にもつながる

私が所属している東京ヴェルディBSにも、大学生でビーチサッカーを始めた選手が大勢います。それぞれ母校とのつながりもありますので、そこから輪を広げているところです。8月に立川市(東京都)のタチヒビーチで「恵比寿化成 Presents 第2回関東大学ビーチサッカー大会」が行われたのですが、昨年は4校だった参加大学が今年は6校に増えました。また、7月の「JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会 関東大会」には大学チームが2チーム参加していて、実際に私も対戦しましたが、彼らからは非常にハングリーさを感じました。

彼らはサッカー部に所属し、毎日トレーニングで鍛えていますので、砂の上での走り方を覚えればすぐに慣れると思います。そういったポテンシャルのある選手へのアプローチは、普及はもちろん、代表チームの強化にもつながっていきます。

ビーチサッカーを始めるのに若いに越したことはないですから、大学生以外もウェルカムです。ビーチサッカーをやりたいというチームや学生の方、いつでも連絡をお待ちしています！一緒にビーチサッカーを楽しみ、日本代表を目指してみませんか。



新たな選手を発掘・育成すべく大学との連携も図りながら、ビーチサッカーの普及、そして代表チームの強化へとつなげていく

オーストラリアとニュージーランドを舞台に約1カ月間にわたって行われたFIFA女子ワールドカップはスペインの優勝で幕を閉じました。

ラウンド16までの素晴らしい試合内容を受けて、なでしこジャパン（日本女子代表）は世界から一躍「優勝候補」とまで評価されましたが、残念ながら準々決勝で敗れ、2011年に続く快挙はなりませんでした。しかし試合や状況によって戦術を見事に使い分けたこと、それがスペインやノルウェーといった強豪を相手に見事に功を奏したこと、登録された全ワールドプレーヤーが出場機会を得てチーム二丸の戦いを貫いたことなど、本当に素晴らしい戦いだったと思います。

しかし何より私がうれしかったのは、世界の女子サッカーが急激に進化し、変化する中で、それに十分対抗するハイレベルなサッカーをプレーしつつ、なでしこジャパンがその最大の美質を失わなかったことでした。それは、ひたむきさ、チームが心をひとつにして戦う姿です。

いま、世界の女子サッカーは欧州を軸に大きく変化しようとしています。男子サッカーの世界で欧州だけでなく世界をリードする主要国のビッグク

連載 Vol.125

いつも心に

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に思うこと

なでしこジャパンの笑顔と仲間

ラブがファン層を広げるために真剣に女子の強化に取り組み、プレー環境を改善するだけでなく、男子と同じ最先端のサッカー戦術を女子チームにも持ち込んでいくからです。

しかし、残念なことですが、それは同時に男子サッカーの愚かさまで女子サッカーに持ち込むことになりました。インゲランドの若手スターFWが、倒れた相手選手を意図的に踏みつけた。退場になった事件は衝撃的でした。男子のサッカーではときおり見かけますが、これまで女子ではどんなレベルでも見たことのない愚行でした。

ゴール後のパフォーマンスも男子顔負けの「膝スライディング」や「飛行機ポーズ」「観客へのアピール」などが普通に行われていました。しかし、なでしこジャパンはまったく対照的でした。

今大会の5試合でなでしこジャパンは15ゴールを記録しました。宮澤ひなた選手が5点で大会得点主になったのは大きな話題となりましたが、オウンゴールによる1点を除く全得点に共通点がありました。「笑顔と仲間」です。

ゴールを決めると、なでしこジャパンの選手は必ず満面の笑顔となって仲間を振り返りました。得点の喜びを仲間と分かち

合いたいという気持ちは、サッカーという競技の中で最も大切なことのひとつです。

中でも特に印象的だったのは、スペインとの試合で3点目を取った宮澤選手の笑顔です。自陣から60メートル以上を疾走してゴールを決め、その勢いで倒れ込んだ彼女は、すぐには起き上がれませんでした。が、うつぶせの状態のまま顔を上げると、仲間が満面の笑顔を見せたのです。

最後がどんな個人技で締めくくられようと、サッカーのゴールは「チーム」のものです。ところが現代のサッカーでは得点者が「自分のゴール」とアピールするような安っぽいヒロイズムが正当化され、さまざまなパフォーマンスが横行しています。それが女子にまで広がり始めていることは、今大会の残念な点のひとつでした。

なでしこジャパンの「笑顔と仲間」は、サッカーのゴールがチーム全員の努力の結晶であることをとても素直に表現していました。それは世界を感動させました。2011年の優勝時とまったく変わらない光景でした。サッカーの面で大きく進化しても、心はまったく変わらない。

なでしこジャパンを本当に誇らしく思います。

あまり話題にはなりませんでしたが、大会の「フェアプレー賞」はもちろんなでしこジャパンでした。5試合を通じてイエローカードは1枚だけ。レッドカードはもちろんゼロです。な



© 2023 FIFA
宮澤ひなた選手をはじめとして、なでしこジャパンの選手たちは得点した後はベンチのチームメイトに駆け寄り、互いに目いっぱい笑顔を見せて喜びを共有していた

でしこジャパンがこの大会のフェアプレー賞を獲得したのは、優勝した2011年大会に続いて2回目のことです。

なでしこらしい心失わず、見事なサッカーも両立させたのが、今回のなでしこジャパンでした。

いつも心にリスペクトのバックナンバーはこちら ▶▶▶ <https://www.jfa.jp/respect/heart/>



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>



天皇杯 JFA 第103 回全日本サッカー選手権大会

株式会社アウトソーシングテクノロジーと「地域応援パートナー」契約を締結

天皇杯 第103回全日本サッカー選手権大会において、JFAは株式会社アウトソーシングテクノロジーと「地域応援パートナー契約」を締結した(8月28日発表)。

地域応援パートナーは、同大会の準々決勝からスタートしたもので、従来のような大会の協賛ではなく、「応援したいチームの試合」に特化して協賛ができる新しいパートナーシップの形態だ。アウトソーシングテクノロジーは、ロアッソ熊本の「地域応援パートナー」となる。

天皇杯の協賛はこれまで「大会協賛」として、対戦相手・会場を問わず、関係する全ての試合を協賛するパートナー契約を締結してきた。一方でJFAとしては、天皇杯を地域の盛り上げに活用してもらいたいという考

えもあり、地域に密着した協賛の在り方を検討。「大会」ではなく「出場チーム」にひも付く「地域応援パートナー」制度を導入することにした。この制度では、応援するクラブが勝ち進んだ場合に準々決勝から決勝までの出場試合のゴール裏に看板を設置したり、会場でプロモーション活動をしたりすることなどができる。

地域応援パートナーの新設により、普段はJリーグでクラブをサポートしている企業が、天皇杯での頂上決戦でもクラブを後押しすることが可能となるため、ファン・サポーターと共に勝利の喜びを共有することができる。地域応援パートナーの協賛金は、一部がクラブに還元され、地域の活性化に役立てられる仕組みとなっている。

AFC Women's Club Championship 2023

- Invitational Tournament、三菱重工浦和レッズレディースの参加が決定

2023年11月に開催される「AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournament」に、WEリーグ 2022-23シーズンの優勝チームである三菱重工浦和レッズレディースが参加することが決定した(8月16日発表)。

この大会は、アジアナンバーワンの女子クラブチームを決定するAFC女子チャンピオンズリーグ2024に向けたプレ大会として開催される。組み合わせなどの詳細は9月7日にマレーシアのクアラルンプールで実施される抽選会で決定する。

AFC女子チャンピオンズリーグは、8月14日に開催されたアジアサッカー連盟の理事会で創設することが決まったもの。

【大会概要】

主催 : アジアサッカー連盟 (AFC)

日程 : 2023年11月6日(月) ~ 12日(日)

ホスト国 : タイ、ウズベキスタン

参加クラブ: シドニー FC (オーストラリア)、花蓮女子FC (チャイニーズ・タイペイ)、バム・カトゥーン (イラン)、スリー・ゴクラム・ケララFC (インド)、三菱重工浦和レッズレディース (日本)、仁川現代製鉄レッドエンジェルズ (韓国)、未定 (タイ)、FC ナサフ (ウズベキスタン)

アンプティサッカー日本代表がサッカー日本代表ユニフォーム着用

JFAと一般社団法人日本障がい者サッカー連盟、特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会は、「障がい者サッカーの発展」と「スポーツを通じた共生社会づくり」の推進を目的に、日本アンプティサッカー協会が編成するアンプティサッカー日本代表のユニフォームとト

レーニングウェアを、サッカー日本代表と同じデザインにすることを決めた。

ユニフォームは 9月15日からポーランドで開催される国際親善大会「Amp Futbol Cup 2023」から着用を開始する(8月30日発表)。

なでしこジャパン(日本女子代表)

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>



9月23日に福岡県でアルゼンチン女子代表と対戦

9月23日(土)に開催すると発表していたなでしこジャパン(日本女子代表)の国際親善試合の相手が、アルゼンチン女子代表に決まった(8月31日発表)。またテレビ放送も決定し、テレビ朝日系列で全国生中継される。

【大会概要】

日時: 2023年9月23日(土) 12:00キックオフ

対戦: なでしこジャパン(日本女子代表)対 アルゼンチン女子代表

会場: 福岡県/北九州スタジアム

主催: 公益財団法人日本サッカー協会

主管: 公益社団法人福岡県サッカー協会

JFAオフィシャルトップパートナー: キリンビール株式会社、
キリンビバレッジ株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー: アディダス ジャパン株式会社

テレビ放送: テレビ朝日系列にて全国生中継(一部地域を除く)

※対戦国関連データ: アルゼンチン女子代表

・FIFA ランキング: 28位(2023年6月9日更新)

・過去の対戦成績: 4勝1分け(12得点0失点)

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>NTTグループとの協働プロジェクト
「TH!NK THE BALL PROJECT™」開始

Jリーグは、Jリーグオフィシャルテクノロジーパートナーであり、7月31日にJリーグ気候アクションパートナーとなったNTTグループと協働で「TH!NK THE BALL PROJECT™」を開始する(7月31日発表)。

同プロジェクトは、NTTグループの持つテクノロジーを用いて、ファン・サポーターや市民が気候アクションに参加しやすく継続しやすいシステムをつくり、Jクラブと各地域に展開することで、人々の環境に関する日常の行動変容を促し、地域活性化を実現するもの。まずはファン・サポーターが気候アクションに参加しやすくなるシステムの開発・提供を目指し、9月からファン・サポーター参加型トライアルをスタートさせる。

【概要(抜粋)】

1. プロジェクト名：TH!NK THE BALL PROJECT™

2. 背景：

Jリーグは、1993年の開幕後、Jクラブの本拠地であるホームタウンを中心に地域と一体となってホームタウン活動を行っており、2018年からは地域の企業や行政といったステークホルダーと連携したチャレンジ!(社会連携)活動を行うことで、地域課題の解決に取り組んできた。また、近年地球規模で影響を及ぼしている気候変動問題に対して真剣に取り組むべく、2023年1月より「社会連携グループ」と「気候アクショングループ」の二つのグループからなる「サステナビリティ部」を新設。一方、NTTグループは、所有するアセットを活用した不動産事業やエネルギー事業、各地の企業や自治体等と協業した街づくり事業、地域社会・地域経済への貢献を目的とした農業事業やeスポーツ事業などにより、全国各地で地方創生や地域活性化に取り組んでき

た。また「まちは住民・市民がつくるもの」という考えから、誰もがまちづくりに参加しやすくなるアプリ「みんなのスマートシティ(以下、みんなスマ®)」の開発を進めている。こうした背景を踏まえ、JリーグとNTTは双方の強みを持ち寄り、気候変動への対応をきっかけとした地域活性化を目指し、「TH!NK THE BALL PROJECT™」を開始する。

3. 検討内容：

①システムの開発・提供

ファン・サポーターが、環境配慮につながる行動をとってアプリで記録すると、自分の応援するクラブの活動量として集計され、クラブからお礼の品がもらえるシステムを開発し、スマホアプリとして提供。開発はJリーグとNTTグループが互いのアセットも組み合わせながら共同で進めており、特にユーザーインターフェース(スマホアプリ)はNTTデータが所有する市民参加型まちづくりアプリ「みんなスマ」を活用する。

〔環境配慮につながる行動例〕

- ・スタジアム：環境に良いスタジアムグルメを選んで食べた
- ・スタジアム：試合観戦後にごみ拾いをした
- ・日常：今日は省エネクッキングができた
- ・日常：今週は燃えるごみの量を減らせた

②ファン・サポーター参加型トライアルの企画・実施(2023年9月以降)

- ・実施時期：2023年9月～12月末
- ・対象クラブ：ベガルタ仙台、横浜F・マリノス、ギラヴァンツ北九州

③Jクラブと各地域への展開(2024年以降)

防災意識を高めるJリーグとYahoo! JAPANの共同企画
「ソナエルJapan杯2023」を開催

Jリーグは、Jリーグサポーターカンパニーのヤフー株式会社(以下、Yahoo! JAPAN)と共に、防災意識を高めることを目的として、Jクラブ対抗企画「ソナエルJapan杯2023」を8月8日にスタートさせた。

これは災害時に必要な知識や能力を問う「ヤフー防災模試」(速習編/地震編/台風・豪雨編)をJリーグ、Jクラブのファン・サポーターがスマートフォンで受験し、「勝ち点」をクラブ間で競うというもの。SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくり」とターゲット13.1「気候関連災害や自然災害に対する強靱性(レジリエンス)及び適応の能力を強化する」の達成を目的としている。

東日本大震災から10年、熊本地震から5年の節目を迎えた2021年から実施し、今年で3回目の開催。同企画にはJリーグの全60クラブが参加する。昨年の「ソナエルJapan杯」には7万人以上の選手やサポーターが参加し、V・ファーレン長崎が2年連続で優勝した。

首都直下地震、南海トラフなど、巨大地震が30年以内に発生する確率は70%以上とされ、さらに今年だけでも震度5以上の地震が8回発生し、豪雨が東北地方や九州地方に甚大な被害をもたらした。そのような中、JリーグとJクラブの発信力、地域を巻き込む力を生かして、多くのファン・

サポーター、地域の人々に災害が起こる前の備えを促し、Yahoo! JAPANが提供する「ヤフー防災模試」で災害への知識を高めてもらうことによって、安心安全な地域、そしてサッカーができる環境をつくと同時に、日本全体の防災力を高めていく。

【ソナエルJapan杯2023 概要】

防災意識を高め災害に強い地域をつくるため、Yahoo! JAPANが提供する「ヤフー防災模試(速習編/地震編/台風・豪雨編)」をJリーグ、Jクラブのファン・サポーターが受験。その結果の点数や、各Jクラブが発信するツイートへのリアクション数に応じて応援するクラブに勝ち点が付与され、合計が最も高いクラブが優勝となる。

2023年は、全60クラブを毎週6クラブずつ10グループに分けたグループ戦を4週実施し、最終勝ち点合計で順位を決定。1週ごとに前週の勝ち点をもとにグループ構成をシャッフルし、1週目は地震や水害、火山に関する防災知識や発災後の対応を10問のクイズ形式で学ぶことができる「速習編」を、2週目は「地震編」、3週目は「台風・豪雨編」、4週目は「速習編」「地震編」「台風・豪雨編」を使って順位を競う。

●特設ページ:

<https://bousai.yahoo.co.jp/exam/sonaeruJapan/>



※その他詳細に関しては特設ページを参照

●開催期間 : 2023年8月8日(火)10時00分~9月4日(月)23時59分

●参加方法 :

1. 特設サイトの画面から「受験で応援」をタップする。
2. 応援するクラブを選択する。
3. 防災模試回答が完了したら、ニックネームを入力し、「結果を見る」をタップする。

●主催 : 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)、ヤフー株式会社

※ヤフー防災模試(速習編/地震編/台風・豪雨編):地震や台風、豪雨などの災害時に役立つ知識を身につけてもらいたいという思いから、Yahoo! JAPANがスマートフォン向けに提供しているコンテンツ。災害時の知識を問う問題を、選択肢による解答のほか、タップ機能などスマートフォンの特性を生かしたインタラクティブな形式で提供し、体験を通じて防災知識の習得ができる。

<https://bousai.yahoo.co.jp/exam/>



2023Jリーグアウォーズの開催日が決定

Jリーグは、2023Jリーグアウォーズを12月5日(火)に、2023J2リーグアウォーズを同7日(木)、2023J3リーグアウォーズを同8日(金)に開催することを決定した(8月10日発表)。

Jリーグアウォーズでは、2023シーズンに活躍した選手や監督、クラブ、審判員などの功績をたたえるとともに、最優秀選手賞などの各賞を発表し、受賞者を表彰する。会場や配信の詳細については決定次第発表。

AFCチャンピオンズリーグ2023/24

グループステージのマッチスケジュールが決定

AFCチャンピオンズリーグ2023/24の組み合わせ抽選会が8月24日に行われ、グループステージのマッチスケジュールが下記の通り決定した。

なお、プレーオフに進んだ浦和レッズは、8月22日、埼玉スタジアム2002に理文(ホンコン・チャイナ)を迎え撃ち、3-0で勝利。本大会出場を決めた。

【グループステージ マッチスケジュール(日本のみ)】※時間は現地時間

●グループG

G1: 横浜F・マリノス(日本)、G2: 山東泰山(中国)、G3: カヤFC・イロイロ(フィリピン)、G4: 仁川ユナイテッド(韓国)

試合日	キックオフ	ホーム	対	アウェイ	試合会場
9月19日(火)	19:00	横浜F・マリノス	対	仁川ユナイテッド	横浜国際総合競技場
10月3日(火)	20:00	山東泰山	対	横浜F・マリノス	Jinan Olympic Sports Center Stadium
10月25日(水)	19:00	横浜F・マリノス	対	カヤFC・イロイロ	横浜国際総合競技場
11月7日(火)	20:00	カヤFC・イロイロ	対	横浜F・マリノス	Rizal Memorial Sports Complex
11月28日(火)	19:00	仁川ユナイテッド	対	横浜F・マリノス	Incheon Football Stadium
12月13日(水)	17:00	横浜F・マリノス	対	山東泰山	横浜国際総合競技場

●グループH

H1: ブリーラム・ユナイテッド(タイ)、H2: ヴァンフォーレ甲府(日本)、H3: メルボルン・シティ(オーストラリア)、H4: 浙江FC(中国)

試合日	キックオフ	ホーム	対	アウェイ	試合会場
9月20日(水)	20:00	メルボルン・シティ	対	ヴァンフォーレ甲府	Melbourne Rectangular
10月4日(水)	19:00	ヴァンフォーレ甲府	対	ブリーラム・ユナイテッド	国立競技場
10月25日(水)	18:00	浙江FC	対	ヴァンフォーレ甲府	Huzhou Olympic Sports Center
11月8日(水)	19:00	ヴァンフォーレ甲府	対	浙江FC	国立競技場
11月29日(水)	19:00	ヴァンフォーレ甲府	対	メルボルン・シティ	国立競技場
12月12日(火)	17:00	ブリーラム・ユナイテッド	対	ヴァンフォーレ甲府	Buriram Stadium

●グループI

I1: 蔚山現代(韓国)、I2: 川崎フロンターレ(日本)、I3: ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア)、I4: BGパトゥム・ユナイテッド(タイ)

試合日	キックオフ	ホーム	対	アウェイ	試合会場
9月19日(火)	20:00	ジョホール・ダルル・タクジム	対	川崎フロンターレ	Sultan Ibrahim Stadium
10月3日(火)	19:00	川崎フロンターレ	対	蔚山現代	等々力陸上競技場
10月24日(火)	19:00	BGパトゥム・ユナイテッド	対	川崎フロンターレ	Pathum Thani Stadium
11月7日(火)	19:00	川崎フロンターレ	対	BGパトゥム・ユナイテッド	等々力陸上競技場
11月28日(火)	19:00	川崎フロンターレ	対	ジョホール・ダルル・タクジム	等々力陸上競技場
12月12日(火)	19:00	蔚山現代	対	川崎フロンターレ	Ulsan Munsu Stadium

●グループJ

J1：武漢三鎮（中国）、J2：浦項スティーラーズ（韓国）、J3：ハノイFC（ベトナム）、J4：浦和レッズ（日本）

試合日	キックオフ	ホーム	対	アウェイ	試合会場
9月20日（水）	20:00	武漢三鎮	対	浦和レッズ	Wuhan Sports Center
10月4日（水）	19:00	浦和レッズ	対	ハノイFC	埼玉スタジアム2002
10月24日（火）	19:00	浦和レッズ	対	浦項スティーラーズ	埼玉スタジアム2002
11月8日（水）	19:00	浦項スティーラーズ	対	浦和レッズ	Pohang Steelyard
11月29日（水）	19:00	浦和レッズ	対	武漢三鎮	埼玉スタジアム2002
12月6日（水）	19:00	ハノイFC	対	浦和レッズ	My Dinh Stadium

●AFCチャンピオンズリーグ公式サイト：

https://www.the-afc.com/en/club/afc_champions_league/home.html



※スケジュールは変更となる可能性あり。他グループのスケジュールなどの詳細は大会公式サイトを参照

【訃報】スポーツアナウンサー金子勝彦氏が逝去

ダイヤモンドサッカーの実況としても広く知られている金子勝彦氏（日本サッカー殿堂）が逝去した。88歳だった。

訃報に接し、日本サッカー協会の田嶋幸三会長と川淵三郎相談役、Jリーグの野々村芳和チェアマンが故人を悲しみとともに追悼した。

●田嶋幸三JFA会長 お悔やみの言葉

金子さんご逝去の報に接し、深い悲しみを感じております。

サッカーを始めて間もなかった小学生時代、毎週土曜日の夕方は「ダイヤモンドサッカー」を見るために慌てて家に帰っていたことが思い出されます。前後半を2週に分けて放送しており、次の放送をワクワクしながら待っていたことを覚えています。「ダイヤモンドサッカー」の冒頭の名せりふは金子さんのサッカーへの愛情を感じられるものでした。今思うと、岡野俊一郎さんとの解説はとても分かりやすく、サッカー少年にとって大切なことがたくさん散りばめられていました。“世界”が遠い存在だったとき、そして今と違って、あらゆるものを簡単に視聴できたり、ビデオで繰り返し見たりすることができなかった時代、世界レベルのサッカーをむさぼるように見て、全てを吸収しようとしていた大切な時間でした。「ダイヤモンドサッカー」によって“世界を目指す”という意識やサッカーへの情熱が育まれたことは間違いありません。その気持ちを忘れず、これからも日本サッカーの発展に尽くしていきます。

金子さん、ありがとうございました。謹んでご冥福をお祈りします。

●川淵三郎JFA相談役 お悔やみの言葉

【ダイヤモンドサッカー】での名解説ぶりを聞いたのが金子さんを知る最初のきっかけだったと思います。日本サッカーリーグ（JSL）は東京12チャンネル（現、テレビ東京）でも多く中継され、僕のプレーも丁寧に解説していただいたことがうれしかった。岡野俊一郎さんとのコンビも印象的でした。引退した後、大宮で行われた国際親善試合を金子さんが実況され、僕はコメンテーターと呼ばれました。初めての

解説の仕事でしたが、金子さんのおかげでとてもやりやすかったのを覚えています。サッカーへの愛情も造詣も深く、日本サッカーへの貢献度は群を抜いており、サッカー中継では名実ともにナンバー1のアナウンサーです。そういったご功績から、放送界から初めて日本サッカー殿堂にも掲載させていただきました。日本サッカー102年の歴史の中でその発展の礎となった出来事がいくつかありますが、「ダイヤモンドサッカー」がその一つであることは誰もが認めるところでしょう。

金子さんのお声が懐かしく思い出されます。ご厚情に深い感謝を述べるとともに謹んで哀悼の意を表します。

●野々村芳和Jリーグチェアマン／JFA副会長 お悔やみの言葉

「ダイヤモンドサッカー」は幼い頃から楽しみにしていた番組で、金子さんの実況の声は今でも耳に残っています。

今では、海外のサッカーにさまざまな方法で触れることができますが、当時としては、サッカー番組自体それほど多くなく、ましてやヨーロッパのリーグやワールドカップを観られる番組として、テレビやビデオを通じて画面にくぎ付けになって観ていたのを覚えています。私のようなサッカー少年に多くの夢と希望を与えてくださったことは、感謝の念に堪えません。

1993年にJリーグが開幕してからは、ダイヤモンドサッカーのコメンテーターとして、Jリーグの魅力を発信していただきました。2002年にはJリーグから特別功労賞を授与していただきましたが、金子さんのサッカーに対する情熱と日本サッカー界に残してくださったご功績に感謝いたします。

金子さん、ありがとうございました。謹んでお悔やみ申し上げます。



日本フットボールリーグ (JFL) 便り

夢・感動があふれる未来へ

ヴェルスバ大分 運営担当 植野隼



<https://verspah.jp/>

ヴェルスバ大分は2003年に豊洋精工株式会社とソイテックスジャパンの社員で活動を開始したサッカーチームで、大分県の大分市、別府市、由布市をホームタウンに活動しています。2014年にJFLへの昇格を果たし、2020年には悲願のJFL初優勝を飾りました。

昨年はJ3リーグ参入を目標にクラブライセンスを取得。JFL優勝やJ3昇格という目標は達成できませんでしたが、クラブミッションの「地域の価値となれ」を掲げ、発展途上のクラブだからこそできる豊かな発想と大胆な行動力を武器に、さまざまな活動に挑戦しました。大分県代表として出場した第77回国民体育大会のサッカー競技・成年男子の部では優勝、JFLのホームゲームでは年間23,849人と多くの方に来場いただくなど、今まで以上にヴェルスバ大分を知っていただくことができた一年になったと思います。

チーム創設から20年目と一つの節目となる今年は、昨年達成できなかったJ3リーグ昇格と優勝を再び目標に据え、クラブのさまざまな活動を支えてくださるパートナー企業、自治体関係者の皆さま、関係団体の皆さま、そしてどんな時もチームの後押しをしてくださるファン・サポーターの皆さまに20年分の恩返しができるよう、日々のリーグ戦やトレーニングに取り組んでいます。

JFLは18節を終えて7位。シーズンの序盤には4連勝と良いスタートを切りましたが、その後の7試合では勝利なしと、チームとして

良い時期も悪い時期も経験し、後半戦に向けて一体感はさらに増えています。3回戦敗退となった天皇杯でもJ2やJ1を舞台に戦うチーム相手に引けを取らない戦いを見せ、県内外の多くの方に注目していただきました。

別府市実相寺サッカー場に拠点を移し、より良い環境でトレーニングに励めるような環境づくり、地域の祭りやイベントにも積極的に参加するなど、これまで以上に地域に根付いた活動にも力を入れ、さらなる価値の創造にも取り組んでいます。

2023年の残りの期間も常に変化、発展に挑み、今まで以上にたくさんの夢・感動を与え続けていきます。日々支えてくださる皆さまへの感謝を胸に全力で挑み、これから先の未来に向けて価値のある一年にできるよう駆け抜けていきます。



さらにたくさんの方に夢と感動を与えられるよう、後半戦も一体感を持って挑んでいく

日本フットボールリーグ (JFL) 便り

前期の振り返りとクラブ紹介

FCティアモ枚方 広報部 酒井咲良



<https://www.fciamo.net/>

FCティアモ枚方は大阪府枚方市、寝屋川市、交野市を中心とした北河内地域をホームタウンに活動しています。また、昨シーズンで現役を引退した二川孝広がチームの指揮を執っています。

現在の成績は5勝7分け4敗で10位(7月30日時点)です。途中出場の選手がアシストや得点に絡む場面が増え、選手一人一人が最後まで諦めない気持ちでプレーしています。守備では、今シーズンのテーマである「強度」の高い積極的なプレーが見られました。

JFLに昇格してからの3年間、多くの選手がJクラブへと活躍の場を移しました。今夏もチームキャプテンを務めていた生駒稀生選手がJ3リーグの奈良クラブに期限付き移籍することが決まりました。

FCティアモ枚方では、ジュニアおよびジュニアユース年代の育成にも力を注いでいます。アカデミーにおける育成の理念として、ジュニア年代の6年間、ジュニアユース年代の3年間と捉えるのではなく、全体としての「9年間」で基本の徹底から選手個人の長を最大限に伸ばせるような指導体制を取っています。

また、育成事業の一環として、2022年4月に大阪信愛学院大学男子サッカー部の運営の一部を受託しました。「サッカーを通じた人材育成」をテーマに、サッカーの指導だけでなく、将来の進路・就職支援に関しても全面的にバックアップしています。「大阪信愛学院大学」「FCティアモ枚方」「パートナー・スポンサー企業」が手を取り合

い、子どもたちが社会に出る準備の支援ができればという思いで運営しています。現在、大阪信愛学院大学男子サッカー部では3期目となる部員を募集しています。

JFLは9月に夏の中断期間が終了し、9月2日に高知ユナイテッドSC戦がJ-GREEN堺メインフィールドで開催されます。前期は多くのファン・サポーターの皆さまに来場いただき、ありがとうございました。後期も皆さまのご声援とご来場を、心よりお待ちしております。



第25回JFL第14節、FCティアモ枚方対プリオベッカ浦安での集合写真



なでしこリーグ便り

2023年スローガン“挑戦 心ひとつに”

伊賀FCくノ一三重 副社長 奥出章寛



https://www.igafc.jp/

忍者にゆかりのある三重県伊賀市を本拠地とすることから女忍者を意味する「くノ一」をチーム名に入れ、1976年に「伊賀上野くノ一サッカークラブ」としてチームを発足しました。そこから改名を重ね、2020年にはチーム名を現在の「伊賀FCくノ一三重」に変更しました。

2023シーズンは“挑戦 心ひとつに”をスローガンに活動をスタートしています。

今年度は、新加入選手12人、監督、コーチも新しく招聘^{しょうへい}。まさに新たなチームのスタートであり、クラブ、選手、そしてパートナー、サポーター、行政、住民の皆さまと「心ひとつ」になり、目標達成に向けて「挑戦」し、夢や希望、感動を分かち合えるクラブを目指します。

具体的には、以下4つの目標に挑戦します。

1. 「地域に愛されるクラブに挑戦」企業、団体、行政との連携で住み良い街づくりに挑戦
2. 「一人ひとりが自立した選手、クラブに挑戦」夢、希望、感動を分かち合える選手に挑戦
3. 「なでしこ1部優勝、皇后杯ベスト8以上に向けて挑戦」
4. 「来る50周年(2026年)に向けて持続可能で成長するクラブ基盤づくりに挑戦」

現在、8月の中断期を迎えています。「地域に愛されるクラブに挑戦」では、今年は特に高齢者向けの新たな取り組みとして、①社会福

祉協議会に車いす贈呈：7月(昨年ユニフォームオークションの一部)、②いきいきお買い物プロジェクト参加：5月、7月(施設入居高齢者お買い物サポート店舗貸し切り)、③地元農園とのコラボみんなのふれあい農園：5月、6月(サツマイモ植付け)に参加。秋の収穫予定などスポーツ以外の取り組みにも挑戦しています。

なでしこリーグ1部のリーグ戦については、15節を終了した時点で4位です。残り7試合、クラブ全員心ひとつに頂点を目指して挑戦してまいります。

地域の皆さまに、日常生活の中で女子クラブならではの地域社会貢献の在り方を追求して、試合会場では夢や希望、感動を分かち合い、この街に伊賀FCくノ一三重の女子サッカーチームがあって良かったと思っても

らえる、なくてはならないクラブになっていけるよう、心ひとつに挑戦してまいります。



選手・スタッフ共に“心ひとつに”「挑戦」していく

なでしこリーグ便り

地域の皆さまに愛されるチームへ、北海道女子サッカーの目標となる

一般社団法人ノルディーア北海道 GM 三浦武志



https://www.nordea.jp/

ノルディーア北海道は2004年に北海道厚真町で結成され、2010年のチャレンジリーグEAST参入に合わせて札幌に拠点を移しました。

2015年から2020年の6シーズンはチャレンジリーグEASTで全国リーグを戦い、2021年に日本女子サッカー初のプロリーグ「WEリーグ」発足に伴う再編により、なでしこリーグ2部に昇格しました。

2部昇格後は、2021シーズン第5位、2022シーズン第7位という結果を経て、2023シーズンからは米山隆一監督が就任。新体制の下、「全員戦力〜今こそひとつに〜」の思いで選手、スタッフ一丸で取り組んでいます。

現在、厳しい順位にいますが、北海道の女子サッカー選手の目標になれるよう、最後まで「全員戦力」で戦う姿勢を見せていきたいと思っています。

ノルディーア北海道は、「地域振興」「社会貢献」「女性が活躍しやすい社会の推進」を掲げ、地場の企業さまのご支援と北海道の地域の皆さまの応援に感謝し、さまざまな活動に取り組んでいます。今年度は練習拠点でもある札幌市東区と連携し、札幌市のSDGs事業に参加しています。「区民応援day」「アスリートスポーツ感動体験」などの行事を実施し、市民の皆さまと交流してスポーツに関心を持ってもらい、心身の健康意識向上を推進するイベントを行いました。

また、今年はトップチームの強化だけでなく、アカデミー部門を立ち

上げ、選手育成、サッカーの普及にも、より一層力を入れています。アカデミー部門では、ノルディーア北海道U-15を発足しました。札幌市内の小学校と連携してサッカースクール事業もスタートさせ、育成・普及の両面でアカデミーのサッカー環境をつくり、将来北海道から全国で活躍できる選手、社会で活躍できる人材の育成に取り組めます。

今年は札幌市外の女子チームがない地域でも活躍している女子選手

(男子チームの中でプレーする女子選手)にノルディーア北海道トップチームの練習に参加してもらい、北海道の実力ある女子選手の強化の一環として、活躍の場を提供しました。

今後もサッカーができる環境に感謝し、社会的課題に挑戦し、地域への恩返しができるよう活動していきます。そして、選手だけではなくクラブ全体で成長し、地域に愛され、応援され、目標とされるクラブになるようチャレンジしていきます。



北海道の女子サッカー選手の目標となれるよう、全力で戦う姿勢を見せたい



コロナ禍での活動を振り返って

長野県フットサル連盟 理事長 下條貴史

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

2020年1月に日本で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されてから約3年が経過した2023年5月、2類感染症から5類感染症に移行され、日常生活においても厳しい制限なしで活動することができるようになってきました。

コロナ禍の約3年は、交代する際のビブスの受け渡しを禁止にしたり、ベンチで座る席を個々に特定するなどしてベンチの数を増やしたり、ベンチを消毒したりするなどの感染予防を行っての大会運営を余儀なくされました。

地域リーグにおいても基本的に無観客開催となりましたが、開催県の連盟、参加チームの承諾があれば観客での開催ができることになりました。長野県では、地域トップリーグである北信越フットサルリーグにおいて、観客の応援によるモチベーション向上をはじめとして、活動を支えていただいているスポンサー、ファン・サポーター、そして家族などに楽しんでいただくことが大切と考え、有観客開催を継続してきました。有観客の開催にあたり、選手・役員の会場入り時間の指定や、観客席までの導線の区分け、観客席も選手と観客の場所を指定し、接触を避けるなどの感染対策を行いました。

4種の大会では、感染対策の観点から保護者の参加を1チーム20人までにするなどの制限を設けさせていただきましたが、感染症が拡大したといった報告はなく、これらの経験はインフルエンザが流

行する時期に大会を多く開催する4種にとっては大きな成果だったと考えています。

行動制限があったこの約3年、なるべく大会を開催できるよう運営側もいろいろと対策を講じ、大会運営を行ってきました。しかし、残念ながらフットサルから離れてしまった人も多くいたと思います。

制限がなくなり、元の環境に戻りつつある今、多くの方々に地域リーグをはじめ、県リーグ、各カテゴリー大会の会場に足を運んでいただき、大歓声の中、選手たちがフットサルを楽しくプレーできる環境づくりやコロナ禍でフットサルから離れてしまった人々へのフットサルに触れる機会の提供が、フットサルの競技人口やファン・サポーターの増加につながると考えています。



フットサルを楽しんでプレーできる環境、フットサルに触れる機会をつくるのがフットサルの未来につながる



幼少期のビーチサッカーの経験の必要性和魅力あるサッカー選手の育成を目指して

アベリヤス千葉フットボールクラブ 代表 古川亮介

<https://jbsf.or.jp/>

2023年3月に兵庫県明石市で開催された「第1回U12ビーチサッカーフェスティバル」に関東代表として参加しました。対戦相手から力を引き出していたが、優勝という結果を出すことができました。記念すべき第1回大会での全国優勝は、選手たちにとって生涯忘れられない財産になりました。

しかし、私たちは目の勝利だけにこだわっていません。小学生から中学生年代では、個の育成、個の成長が重要だと考えています。そのため、魅力ある選手が出てくるブラジルに倣い、幼少期に大切と思われるフットサルやビーチサッカー、ストリートサッカーの要素を含んだミニゲームなどを活動に多く取り入れています。

ビーチという環境で、判断力や即興性が必要とされる機会をどれだけ経験できるかが、選手の成長につながると考えています。特に、フットサルやビーチサッカーでは、サッカーよりピッチが小さいため、ボールコンタクトの回数やゴール前での攻防も増え、得点感覚と危険察知能力を磨くことができます。

小学生年代では勝つことよりも、サッカーが楽しいと思えることが優先されるべきです。「楽しいから好きになる、好きになるからうまくなる」という順番を誤ってはいけません。ビーチサッカーでは、子どもたちは弾ける笑顔で歓声を上げながらプレーします。転んでも痛くないので体を投げ出してプレーしたり、球際も強くいくようになります。オーバーヘッドキックやダイビングヘッド、ジャンピングボレーなどアクロバティックなプレーも自然にトライするようになります。昨年のFIFAワールドカップカタール2022でブラジル代表のリシャルリソン選手が見せたオーバーヘッドのゴールは幼少期にそのようなプレーを経験しているから出たプレーでしょう。

ビーチサッカーをする機会は決して多くはありません。そこで、クラブを設立した2010年から千葉市内に土地を借り、耕したふわふわの土の上で裸足でサッカーをする「畑サッカー」を継続してきました。2022年12月には地域の人々の協力を仰ぎ、もともと使用していた「カンボド マルシマ」という別の練習場に人工芝のフットサルコートとビーチサッカーコートを造りました。

どのような環境を子どもたちに提供したら、ブラジルのように魅力ある選手が出てくるのか、常に自問自答しながら整備し、楽しむことを優先しながら積み重ねてきた延長線上に今回の優勝があります。長い時間をかけてやってきたことが形になったことはとても喜ばしいことです。近年ではジュニアの選手が「クラブのジュニアユースから声を掛けられたり、OBが千葉県内の強豪校で活躍するなど育成面での成果も見え始めています。

これまで大切にしてきたことを継続しながら、アベリヤスからサッカーが大好きな子どもたちをたくさん輩出し、その中から世界で活躍するような選手が出てきてくれたらうれしいです。素晴らしい機会を与えてくださった日本ビーチサッカー連盟の皆さまに心より感謝申し上げます。



トラクターで耕された畑のふわふわの「ピッチ」でビーチ気分？



日本障がい者サッカー連盟便り

「IBSA World Games 2023」に出場

NPO法人日本ブラインドサッカー協会 ハイパフォーマンス・ディレクター 魚住稿

<https://www.jiff.football/>


ブラインドサッカー日本代表(男女)、ロービジョンフットサル日本代表は8月14日から25日、イギリスのバーミンガムで開催された「IBSA World Games 2023」(世界選手権)に出場しました。

ブラインドサッカー男子は16チームが参加。パリ2024パラリンピック競技大会の切符も懸かっている重要な大会です。日本はイタリアに引き分け、タイとトルコに勝利して予選リーグを2位で突破しました。準々決勝では中国と一進一退の攻防を繰り返すも、不運な失点から敗れて順位決定トーナメントへ。パラリンピック出場権獲得のためには一つも落とせない状況でフランスを下し、5位決定戦に進みました。イランとの5位決定戦ではFKのチャンスから川村怜選手が巧みなコースを突いてゴールし、その後の相手の猛攻を防ぎ1-0で勝利。パラリンピック出場の権利をたぐり寄せる大きな5位入賞となりました。

ブラインドサッカー女子は初の世界選手権開催で8チームが参加。日本は世界に先駆けて強化してきた経緯があり、「目標は世界一」です。予選リーグはエース菊島宙選手、キャプテン竹内真子選手、今大会デビューの島谷花菜選手の活躍もあり、イングランド、スウェーデン、モロッコに危なげなく3連勝して首位突破。準決勝は、インドの守備的な戦術を崩せずスコアレスドローに。迎えたPK戦、GK寺林真智子選手の好セーブで勝利しました。決勝の相手はアルゼンチン。レベルの高いゲームが繰り広げられる中、日本は先制するも追いつか

れ、最後はPK(第2PK)を与え失点。結果は準優勝となりました。

ロービジョンフットサルは7チームが参加。「未来に向けて、1勝を挙げて予選突破を目指す戦い」を目標に戦いました。初戦は世界ランク1位のウクライナに善戦するも黒星スタート。2戦目は赤崎崋選手の2得点の活躍でトルコに勝利し、目標だった決勝トーナメント進出を決めました。イングランドとの準決勝は白熱した試合の末にドロー。決勝進出を懸けたPK戦で惜しくも敗れました。3位決定戦の相手はスペイン。選手たちは果敢に戦うも最後は悔しい力負けとなり、4位で大会を終えました。

3カテゴリー全てが決勝トーナメントに進出し、女子は準優勝、男子はパリパラリンピックの切符獲得の可能性を残し、ロービジョンは準決勝進出と、日本のブラインドサッカーの底力を見せることができました。今後もブラインドサッカー、ロービジョンフットサルのさらなる躍進にご注目ください。



「IBSA World Games 2023」に出場した日本代表チーム

全日本大学サッカー連盟便り

大学サッカーの本当の価値とは

一般財団法人全日本大学サッカー連盟 常務理事 櫻井友

<https://www.jufa.jp/>


「11分の6」と「11分の5」。この数字は直近の日本代表の2試合(キリンチャレンジカップ2023のエルサルバドル戦とペルー戦)の先発メンバーにおける大学サッカー出身者の割合です。昨年開催されたFIFAワールドカップカタール大会においても、2000年以降最多となる9人の大学サッカー出身者が選出されており、選手育成という観点からも大学サッカーは非常に重要な役割を果たしていると言えます。もちろん、この選手育成は大学サッカーにとって重要なものではあるものの、大学サッカーの価値はこれだけではありません。

大学サッカーは学生が主体となって運営を行い、多くの試合の審判員も学生が担当しています。また、トレーナー、分析スタッフなども学生が担当している大学が多く、ピッチ内外の業務のほとんどを学生が担っており、卒業後にサッカーに携わる人材が多く出ています。選手だけではなく、多様な人材を育成していることが大学サッカーの本当の価値だと思っています。

3月に開催されるデンソーカップチャレンジサッカーでは、学生が運営を担当しただけでなく、全ての試合で学生が審判員を担当しました。今後も選手育成だけでなく、運営や審判員などの人材養成を積極的に行っていく考えです。

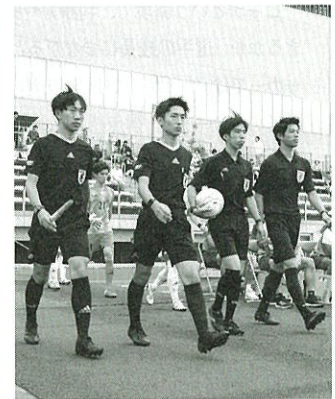
どうしても「日本代表に何人選出された」ということが注目され

がちですが、紙幣の価値が信頼であるように、目に見えない(目につかない)ところに実は価値があったりするのではないかと思います。選手ではない立場で活躍している学生にも一度注目していただければ幸いです。

最後になりましたが、サッカーを支えてくださっている全ての人々に感謝を申し上げるとともに、引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。



運営を担当する学生



学生審判員

- ① U-18日本代表 2023 SBSカップ国際ユースサッカー
- ② U-17日本代表 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島国際ユースサッカー
- ③ なでしこジャパン FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023
- ④ U-15日本女子代表 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島女子サッカーフェスタ
- ⑤ 第47回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会
- ⑥ 令和5年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(男子)

- ⑦ 第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会
- ⑧ 令和5年度 全国中学校体育大会/第54回全国中学校サッカー大会
- ⑨ 令和5年度 全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)
- ⑩ 第5回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)
- ⑪ JFA 第10回全日本U-18フットサル選手権大会
- ⑫ JFA パーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会
- ⑬ FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

U-18日本代表 2023 SBSカップ国際ユースサッカー

【スタッフ】

○監督: 船越優蔵(NCS) ○コーチ: 菅原大介(NCS) ○アシスタントコーチ: 藤島崇之(昌平高校) ○GKコーチ: 高原寿康(NCS) ○フィジカルコーチ: 津越智雄(フィジカルフィットネスプロジェクト) ○テクニカルスタッフ: 渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	中村圭佑	静岡学園高校	MF	神田拓人	尚志高校
	小林将天	FC東京U-18		尾川丈	川崎フロンターレU-18
DF	兼原陸人	明治大学	FW	塩貝健人	慶応義塾大学
	池田春汰	横浜F・マリノスユース		郡司璃来※1	市立船橋高校
	尾崎凱琉	大阪桐蔭高校		神田奏真	静岡学園高校
	梅木怜	帝京高校			
	喜多幸也	京都サンガF.C.U-18			
	中光叶多	サンフレッチェ広島F.C.ユース	<トレーニングパートナー>		
MF	大関友翔	川崎フロンターレ	Pos	名前	所属
	安斎悠人	尚志高校		芹生海翔	鹿兒島城西高校
	松田悠世	桐光学園高校		内川遼	市立船橋高校
	鈴木陽人	名古屋グランパスU-18		片野拓久	日本体育大学柏高校
	中川育	サンフレッチェ広島F.C.ユース		木吹翔太	サンフレッチェ広島F.C.ユース

※1: ケガのため離脱

<スケジュール>

8月12~13日 トレーニング(清水蛇塚)
 14日 強化試合 vs 関東大学選抜(草薙球技場)
 15日 トレーニング(草薙総合運動場陸上競技場)
 16日 トレーニング(三保グラウンド/清水エスパルス練習場)
 17日 2023 SBSカップ国際ユースサッカー
 第1戦 vs U-18韓国代表(草薙総合運動場陸上競技場)
 18日 第2戦 vs 静岡ユース(愛鷹広域公園多目的競技場)
 19日 トレーニング(草薙球技場)
 20日 第3戦 vs U-18パラグアイ代表(エコパスタジアム)

順位	関東選抜	日本	静岡	韓国	試合	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	U-20関東大学選抜	2△2 5PK3	0△0 5PK3	4○1	7	1	2	0	0	6	3	3
2	U-18日本代表	2▲2 3PK5	2○0	0●1	4	1	0	1	1	4	3	1
3	静岡ユース	0▲0 3PK5	0●2	3○1	4	1	0	1	1	3	3	0
4	U-18韓国代表	1●4	1○0	1●3	3	1	0	0	2	3	7	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1戦

U-18日本代表 0 (前半0-0 後半0-1) 1 U-18韓国代表

●2023年8月17日 17:45 ●草薙総合運動場陸上競技場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]高崎航地 [副審]梅田智起/只井龍哉 [第4の審判員]杉山貴洋 ●マッチコミッションナー:興津純男 ●観衆:4,018人

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](2)兼原陸人<-71'(16)梅木怜>(4)喜多幸也(5)池田春汰(15)中光叶多 [MF](8)尾川丈<-57'(6)神田拓人>(10)大関友翔(11)鈴木陽人(13)中川育<-47'(7)安斎悠人>(17)松田悠世<-57'(18)郡司璃来> [FW](14)塩貝健人<-71'(9)神田奏真>

控え:(12)小林将天(3)尾崎凱琉

得点 | 45'失点(0-1)

警告 | 18'尾川丈、22'大関友翔

第2戦

U-18日本代表 2 (前半1-0 後半1-0) 0 静岡ユース

●2023年8月18日 18:30 ●愛鷹広域公園多目的競技場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]推野大地 [副審]内田康介/杉山貴洋 [第4の審判員]野末悠豪 ●マッチコミッションナー:興津純男 ●観衆:2,325人

日本(監督:船越優蔵):[GK](12)小林将天 [DF](2)兼原陸人<-HT(5)池田春汰>(3)尾崎凱琉(15)中光叶多<-68'(4)喜多幸也>(16)梅木怜 [MF](6)神田拓人<-52'(8)尾川丈>(10)大関友翔(11)鈴木陽人<-73'(14)塩貝健人>(13)中川育(17)松田悠世<-52'(7)安斎悠人> [FW](9)神田奏真

控え:(1)中村圭佑

得点 | 26'鈴木陽人(1-0)、44'中川育(2-0)

警告 | 28'神田拓人

第3戦

U-18日本代表 2 (前半0-2 後半2-0) 2 U-20関東大学選抜

●2023年8月20日 15:00 ●小笠山運動公園エコパスタジアム ●試合時間:80分 PK ●審判員:[主審]高崎航地 [副審]道山悟至/野末悠豪 [第4の審判員]北沢倫章 ●マッチコミッションナー:興津純男 ●観衆:2,752人

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](2)兼原陸人<-68'(16)梅木怜>(4)喜多幸也<-40+1'(3)尾崎凱琉>(5)池田春汰(15)中光叶多 [MF](8)尾川丈<-HT(6)神田拓人>(10)大関友翔(11)鈴木陽人(13)中川育<-HT(9)神田奏真>(17)松田悠世<-62'(7)安斎悠人> [FW](14)塩貝健人

控え:(12)小林将天

得点 | 17'、19'失点(0-1)(0-2)、42'兼原陸人(1-2)、71'塩貝健人(2-2)

警告 | 49'大関友翔

PK | [U-18日本代表](9)○(16)×(6)○(11)○
 [U-20関東大学選抜]先(11)○(8)○(6)○(19)○(4)○

U-17日本代表 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島国際ユースサッカー

【スタッフ】

○監督: 森山佳郎(NCS) ○コーチ: 廣山望(NCS) ○GKコーチ: 高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ: 村岡誠(NCS) ○テクニカル: 片桐央視(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小森春輝	浦和レッズユース	MF	西原源樹	清水エスパルスユース
	荒木琉偉	ガンバ大阪ユース		川合徳孟	ジュビロ磐田U-18
DF	山本虎	青森山田高校	FW	布施克真	日本大学藤沢高校
	鈴木樟	駒学園高校		山口豪太	昌平高校
	斉藤秀輝	大宮アルディージャ U-18	山口太陽	FC東京U-18	
	山田海斗	ヴィッセル神戸U-18	鈴木大馳	サガン鳥栖U-18	
	江口拓真	ヴィッセル神戸U-18	高岡侗真	日章学園高校	
	島佑成	ヴィッセル神戸U-18			
	菅原悠太	FC東京U-18	<トレーニングパートナー>8月5日から7日の参加		
MF	揚石琉生	栃木SC U-18	Pos.	名前	所属
	宮川大輝	ガンバ大阪ユース		藤田成亮	ファジアーノ岡山U-18
	小竹知恩	清水エスパルスユース		南稜大	ファジアーノ岡山U-18
	柚木創	流通経済大柏高校			

<スケジュール>

8月5日 広島駅集合
トレーニング(広島広域公園第一球技場)
6日 トレーニング(広島広域公園第一球技場)
練習試合 vs 瀬戸内高校(広島広域公園第一球技場)
7日 トレーニング(広島広域公園補助競技場)
8日 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島国際ユースサッカー
第1戦 vs サンフレッチェ広島ユース(広島広域公園第一球技場)
9日 トレーニング(広島広域公園補助競技場)
10日 第2戦 vs 広島高校選抜U-18(広島広域公園第一球技場)
11日 第3戦 vs U-17ウズベキスタン代表(広島広域公園第一球技場)
解散

順位	U-17日本代表	サンフレッチェ広島	広島高校選抜	ウズベキスタン	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	U-17日本代表	4 0 2	4 0 2	4 0 0	9	3	0	0	12	4	8
2	サンフレッチェ広島 FCユース	2 0 4	3 0 2	3 0 1	6	2	0	1	8	7	1
3	広島県高校選抜 U18	2 0 4	2 0 3	2 0 0	3	1	0	2	6	7	-1
4	ウズベキスタン代表 U-17	0 0 4	1 0 3	0 0 2	0	0	0	3	1	9	-8

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1戦

U-17日本代表 4 (前半0-2 後半4-0) 2 サンフレッチェ広島 FCユース

●2023年8月8日 16:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:80分

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)荒木琉偉 [DF](2)斉藤秀輝<→76'(6)江口拓真>(4)山本虎<→56'(7)西原源樹>(5)鈴木樟(19)島佑成(20)菅原悠太<→59'(3)山田海斗> [MF](8)川合徳孟<→56'(14)布施克真>(13)小竹知恩<→59'(15)柚木創>(16)宮川大輝 [FW](9)山口太陽<→56'(17)鈴木大馳>(11)高岡侗真<→76'(18)揚石琉生>

控え:(1)小森春輝(10)山口豪太

得点 17'、18'失点(0-1)(0-2)、66'布施克真(1-2)、70'西原源樹(2-2)、73'オウンゴール(3-2)、77'柚木創(4-2)

第2戦

U-17日本代表 4 (前半3-1 後半1-1) 2 広島県高校選抜 U18

●2023年8月10日 16:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:80分

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)小森春輝 [DF](3)山田海斗(5)鈴木樟<→57'(13)小竹知恩>(6)江口拓真<→70'(2)斉藤秀輝>(20)菅原悠太<→57'(19)島佑成> [MF](7)西原源樹<→64'(10)山口豪太>(8)川合徳孟<→64'(16)宮川大輝>(14)布施克真(15)柚木創(18)揚石琉生<→64'(9)山口太陽> [FW](17)鈴木大馳<→64'(11)高岡侗真>

控え:(12)荒木琉偉(4)山本虎

得点 3'川合徳孟(1-0)、8'、30'鈴木大馳(2-0)(3-0)、32'、58'失点(3-1)(3-2)、72'山口豪太(4-2)

第3戦

U-17日本代表 4 (前半2-0 後半2-0) 0 ウズベキスタン代表 U-17

●2023年8月11日 15:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:80分

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)荒木琉偉<→72'(1)小森春輝> [DF](2)斉藤秀輝(4)山本虎(5)鈴木樟<→32'(3)山田海斗> [MF](8)川合徳孟<→67'(6)江口拓真>(10)山口豪太(13)小竹知恩<→52'(7)西原源樹>(14)布施克真(16)宮川大輝<→72'(18)揚石琉生> [FW](9)山口太陽<→52'(15)柚木創>(11)高岡侗真<→HT(17)鈴木大馳>

得点 25'山口太陽(1-0)、28'高岡侗真(2-0)、64'西原源樹(3-0)、76'揚石琉生(4-0)

なでしこジャパン FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023

※66~71ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長: 佐々木則夫(JFA女子委員長) ○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS)、寺口謙介(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS) ○テクニカルスタッフ: 見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ	FP	大場朱羽※1	ミシシッピ州立大学(USA)
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース		松窪真心※1	マイナビ仙台レディース
FP	田中桃子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	小山史乃観※1	セレッソ大阪ヤンマーレディース	
	熊谷紗希	ASローマ(ITA)	谷川萌々子※2	JFAアカデミー福島	
	猶本光	三菱重工浦和レッズレディース	古賀塔子※2	JFAアカデミー福島	
	田中美南	INAC神戸レオネッサ	USA: アメリカ		
	三宅史織	INAC神戸レオネッサ	※1: 6月27日~7月6日まで帯同		
	清水梨紗	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)	※2: 7月2日~8月22日まで帯同		
	清家貴子	三菱重工浦和レッズレディース	<スケジュール>		
	守屋都弥	INAC神戸レオネッサ	7月15日	トレーニング(泉サッカー場)	
	長谷川唯	マンチェスター・シティ(ENG)		成田発	
	杉田妃和	ポートランド・ソーンズFC(USA)	16日	クライストチャーチ着	
	林穂之香	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)	17日~20日	トレーニング(Orangetheory Stadium)	
	南萌華	ASローマ(ITA)	21日	クライストチャーチ発、ハミルトン着	
	長野風花	リバプールFC(ENG)		公式トレーニング(Porritt Stadium)	
	千葉玲海菜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	22日	FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023	
植木理子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		グループステージ第1戦 vs ザンビア女子代表		
宮澤ひなた	マイナビ仙台レディース		(ハミルトン/Waikato Stadium)		
高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース	23日	ハミルトン発、クライストチャーチ着		
逸藤純	エンジェル・シティFC(USA)		トレーニング(Orangetheory Stadium)		
石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース	24日	トレーニング(Orangetheory Stadium)		
藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ				
浜野まいか	ハンマルビー IF(SWE)				

ITA: イタリア、ENG: イングランド、USA: アメリカ、SWE: スウェーデン

25日 クライストチャーチ発、ダニーデン着
公式トレーニング(Caledonian Sports Ground)
26日 グループステージ第2戦 vs コスタリカ女子代表
(ダニーデン/Danedin Stadium)
27日 ダニーデン発、クライストチャーチ着
トレーニング(Orangetheory Stadium)
28日~29日 トレーニング(Orangetheory Stadium)
30日 クライストチャーチ発、ウェリントン着
公式トレーニング(Newtown Park)
31日 グループステージ第3戦 vs スペイン女子代表
(ウェリントン/Wellington Regional Stadium)
8月1日 ウェリントン発、クライストチャーチ着
2日 トレーニング
3日 トレーニング
4日 クライストチャーチ発、ウェリントン着
公式トレーニング
5日 Round16 vs ノルウェー女子代表
(ウェリントン/Wellington Regional Stadium)
6日 ウェリントン発、オークランド着
リカバリ、トレーニング
7日 休養日
8日~9日 トレーニング
10日 公式トレーニング
11日 準々決勝 vs スウェーデン女子代表
(オークランド/Eden Park)

■グループステージ

順位	グループA	スイス	ノルウェー	ニュージーランド	フィリピン	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	スイス	0△0	0△0	2○0	5	1	2	0	2	0	2	
2	ノルウェー	0△0	0●1	6○0	4	1	1	1	6	1	5	
3	ニュージーランド	0△0	1○0	0●1	4	1	1	1	1	1	0	
4	フィリピン	0●2	0●6	1○0	3	1	0	2	1	8	-7	

順位	グループB	オーストラリア	ナイジェリア	カナダ	アイルランド	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	オーストラリア	2●3	4○0	1○0	6	2	0	1	7	3	4	
2	ナイジェリア	3○2	0△0	0△0	5	1	2	0	3	2	1	
3	カナダ	0●4	0△0	2○1	4	1	1	1	2	5	-3	
4	アイルランド	0●1	0△0	1●2	1	0	1	2	1	3	-2	

順位	グループC	日本	スペイン	ザンビア	コスタリカ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	4○0	5○0	2○0	9	3	0	0	11	0	11	
2	スペイン	0●4	5○0	3○0	6	2	0	1	8	4	4	
3	ザンビア	0●5	0●5	3○1	3	1	0	2	3	11	-8	
4	コスタリカ	0●2	0●3	1●3	0	0	0	3	1	8	-7	

順位	グループD	イングランド	デンマーク	中国	ハイチ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	イングランド	1○0	6○1	1○0	9	3	0	0	8	1	7	
2	デンマーク	0●1	1○0	2○0	6	2	0	1	3	1	2	
3	中国	1●6	0●1	1○0	3	1	0	2	2	7	-5	
4	ハイチ	0●1	0●2	0●1	0	0	0	3	0	4	-4	

順位	グループE	オランダ	アメリカ	ポルトガル	ベトナム	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	オランダ	1△1	1○0	7○0	7	2	1	0	9	1	8	
2	アメリカ	1△1	0△0	3○0	5	1	2	0	4	1	3	
3	ポルトガル	0●1	0△0	2○0	4	1	1	1	2	1	1	
4	ベトナム	0●7	0●3	0●2	0	0	0	3	0	12	-12	

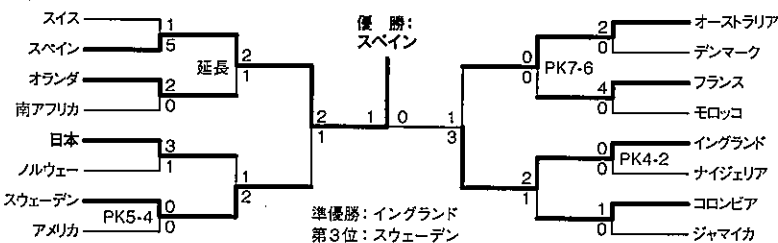
順位	グループF	フランス	ジャマイカ	ブラジル	パナマ	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	フランス	0△0	2○1	6○3	7	2	1	0	8	4	4	
2	ジャマイカ	0△0	0△0	1○0	5	1	2	0	1	0	1	
3	ブラジル	1●2	0△0	4○0	4	1	1	1	5	2	3	
4	パナマ	3●6	0●1	0●4	0	0	0	3	3	11	-8	

順位	グループG	スウェーデン	南アフリカ	イタリア	アルゼンチン	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	スウェーデン	2○1	5○0	2○0	9	3	0	0	9	1	8	
2	南アフリカ	1●2	3○2	2△2	4	1	1	1	6	6	0	
3	イタリア	0●5	2●3	1○0	3	1	0	2	3	8	-5	
4	アルゼンチン	0●2	2△2	0●1	1	0	1	2	2	5	-3	

順位	グループH	コロンビア	モロッコ	ドイツ	韓国	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	コロンビア	0●1	2○1	2○0	6	2	0	1	4	2	2	
2	モロッコ	1○0	0●6	1○0	6	2	0	1	2	6	-4	
3	ドイツ	1●2	6○0	1△1	4	1	1	1	8	3	5	
4	韓国	0●2	0●1	1△1	1	0	1	2	1	4	-3	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



<3位決定戦> スウェーデン 2-0 オーストラリア

■大会各賞

FIFA Fair Play Trophy : 日本

adidas Golden Ball : BONMATI Aitana(スペイン)
 adidas Silver Ball : HERMOSO Jennifer(スペイン)
 adidas Bronze Ball : ILESTEDT Amanda(スウェーデン)

adidas Golden Boot : 宮澤ひなた(日本/5得点)
 adidas Silver Boot : DIANI Kadidiatou(フランス/4得点)
 adidas Bronze Boot : POPP Alexandra(ドイツ/4得点)

adidas Golden Glove : EARPS Mary(イングランド)

FIFA Best Young Player : PARALLUELO Salma(スペイン)

グループステージ第1戦

なでしこジャパン 5 [前半1-0 後半4-0] 0 ザンビア女子代表

●2023年7月22日 19:00 ●Waikato Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]OLOFSSON Tess(SWE) [副審]RATAJOVA Lucie(CZE)/IRODOTOU Polyxeni(CYP) [第4の審判員]FERNANDEZ Anahi(URU) [VAR]IRRATI Massimiliano(ITA) [AVAR]DI IORIO Salome(ARG)/OVERTOOM Franca(NED) ●マッチコミッショナー:FERNANDEZ Carlos(GUA) ●観衆:16,111人

日本(監督:池田太):[GK](1)山下杏也加 [DF](2)清水梨紗(3)南萌華(4)熊谷紗希(23)石川璃音 [MF](7)宮澤ひなた<-90+3'(22)千葉玲海菜>(10)長野風花(13)遠藤純<-77'(17)清家貴子>(14)長谷川唯(15)藤野あおば<-77'(8)猫本光> [FW](11)田中美南<-66'(9)植木理子>

控え:(18)田中桃子(21)平尾知佳(5)三宅史織(6)杉田妃和(12)高橋はな(16)林穂之香(19)守屋都弥(20)浜野まいか

ザンビア(監督:MWAPPE Bruce):[GK](1)MUSONDA Catherine [DF](3)MWEEMBA Lushomo<-82'(23)PHIRI Vast>(8)BELEMU Margaret(13)TEMBO Martha(15)MUSESA Agness [MF](4)BANDA Susan(12)KATONGO Evarine(14)LUNGU Ireen<-72'(7)LUBANDJI Ochumba> [FW](11)BANDA Barbra(17)KUNDANANJI Racheal(19)MAPEPA Siomala<-72'(21)CHITUNDU Avell->90+9'(18)SAKALA Eunice>

控え:(16)LUNGU Leticia(2)SOKO Judith(5)MULENGA Mary(6)WILOMBE Mary(9)MUBANGA Hellen(10)SELEMANI Comfort(20)CHANDA Hellen(22)BANDA Esther

得点 [日本]43'、62'宮澤ひなた(1-0)(3-0)、55'田中美南(2-0)、71'遠藤純(4-0)、90+11'植木理子(5-0)

警告 [ザンビア]51、90+7'MUSONDA Catherine

退場 [ザンビア]90+7'MUSONDA Catherine

グループステージ第2戦

なでしこジャパン 2 (前半2-0 後半0-0) 0 コスタリカ女子代表

●2023年7月26日 17:00 ●Dunedin Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] FERRIERI CAPUTI Maria Sole (ITA) [副審] DI MONTE Francesca (ITA) / TEPUSA Mihaela (ROU) [第4の審判員] MARCOTTE Myriam (CAN) [VAR] IRRATI Massimiliano (ITA) [AVAR] DI IORIO Salome (ARG) / MASSEY-ELLIS Sian (ENG) ●マッチコミッショナー: ADAMU Samson (NGA) ●観衆: 6,992人

日本 (監督: 池田太): [GK] (1) 山下杏也加 [DF] (2) 清水梨紗 <→90+1' (19) 守屋都弥 > (3) 南萌華 (4) 熊谷紗希 (5) 三宅史織 [MF] (6) 杉田妃和 (8) 猶本光 <→74' (17) 清家貴子 > (14) 長谷川唯 (15) 藤野あおば <→59' (7) 宮澤ひなた > (16) 林穂之香 <→74' (10) 長野風花 > [FW] (11) 田中美南 <→59' (9) 植木理子 >

控え: (18) 田中桃子 (21) 平尾知佳 (12) 高橋はな (13) 遠藤純 (20) 浜野まいか (22) 千葉玲海菜 (23) 石川璃音

コスタリカ (監督: VALVERDE Amelia): [GK] (23) SOLERA Daniela [DF] (2) GUILLEN Gabriela <→ HT (10) VILLALOBOS Gloriana > (3) COTO Maria Paula (4) BENAVIDES Mariana (12) ELIZONDO Maria Paula (20) VILLALOBOS Fabiola [MF] (7) HERRERA Melissa (14) CHINCHILLA Priscilla (15) GRANADOS Cristin <→64' (11) RODRIGUEZ Raquel > (16) ALVARADO Katherine [FW] (9) SALAS Maria Paula <→76' (21) SCOTT Sheika >

控え: (1) PEREZ Genesis (18) TAPIA Priscilla (5) DEL CAMPO GUTIERREZ Valeria (6) SANCHEZ Carol (8) CAMPOS Mariela (13) VALENCIANO Emilie (17) VARELA Sofia (19) PINELL Alexandra (22) ESTRADA Catalina

得点 [日本] 25' 猶本光 (1-0)、27' 藤野あおば (2-0)

警告 [コスタリカ] 86' CHINCHILLA Priscilla

グループステージ第3戦

グループステージ第3戦

なでしこジャパン 4 (前半3-0 後半1-0) 0 スペイン女子代表

●2023年7月31日 19:00 ●Wellington Regional Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] KOROLEVA Ekaterina (USA) [副審] NESBITT Kathryn (USA) / MARISCAL Felisha (USA) [第4の審判員] MARCOTTE Myriam (CAN) [VAR] FISCHER Drew (CAN) [AVAR] VILLARREAL Armando (USA) / DE ALMEIDA Mariana (ARG) ●マッチコミッショナー: ARAUJO Valesca (BRA) ●観衆: 20,957人

日本 (監督: 池田太): [GK] (1) 山下杏也加 [DF] (2) 清水梨紗 <→59' (19) 守屋都弥 > (3) 南萌華 (4) 熊谷紗希 (12) 高橋はな [MF] (7) 宮澤ひなた <→ HT (15) 藤野あおば > (8) 猶本光 (10) 長野風花 <→59' (14) 長谷川唯 > (13) 遠藤純 <→85' (6) 杉田妃和 > (16) 林穂之香 [FW] (9) 植木理子 <→67' (11) 田中美南 >

控え: (18) 田中桃子 (21) 平尾知佳 (5) 三宅史織 (17) 清家貴子 (20) 浜野まいか (22) 千葉玲海菜 (23) 石川璃音

スペイン (監督: VILDA Jorge): [GK] (1) RODRIGUEZ Misa [DF] (2) BATLLE Ona (4) PAREDES Irene (19) CARMONA Olga <→ HT (12) HERNANDEZ Oihane > (20) GALVEZ Rocío [MF] (3) ABELLEIRA Teresa <→72' (21) ZORNOZA Claudia > (6) BONMATI Aitana (11) PUTELLAS Alexia <→62' (17) REDONDO Alba > [FW] (8) CALDENTEY Mariona <→62' (15) NAVARRO Eva > (10) HERMOSO Jennifer (18) PARALLUELO Salma <→82' (9) GONZALEZ Esther >

控え: (13) SALON Enith (23) COLL Cata (5) ANDRES Ivana (7) GUERRERO Irene (14) CODINA Laia (16) PEREZ Maria (22) DEL CASTILLO Athenea

得点 [日本] 12'、40' 宮澤ひなた (1-0) (3-0)、29' 植木理子 (2-0)、82' 田中美南 (4-0)

警告 [スペイン] 45+1' CARMONA Olga、89' HERNANDEZ Oihane

グループステージ第4戦

なでしこジャパン 3 (前半1-1 後半2-0) 1 ノルウェー女子代表

●2023年8月5日 20:00 ●Wellington Regional Stadium ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] ALVES Edina (BRA) [副審] BACK Neuza (BRA) / CRUZ Leila (BRA) [第4の審判員] GARCIA Katia (MEX) [VAR] MUNIZ Daiane (BRA) [AVAR] GALLO Nicolas (COL) / DE ALMEIDA Mariana (ARG) ●マッチコミッショナー: ARAUJO Valesca (BRA) ●観衆: 33,042人

日本 (監督: 池田太): [GK] (1) 山下杏也加 [DF] (2) 清水梨紗 (3) 南萌華 (4) 熊谷紗希 (12) 高橋はな [MF] (7) 宮澤ひなた (10) 長野風花 (13) 遠藤純 (14) 長谷川唯 (15) 藤野あおば [FW] (11) 田中美南 <→72' (9) 植木理子 >

控え: (18) 田中桃子 (21) 平尾知佳 (5) 三宅史織 (6) 杉田妃和 (8) 猶本光 (16) 林穂之香 (17) 清家貴子 (19) 守屋都弥 (20) 浜野まいか (22) 千葉玲海菜 (23) 石川璃音

ノルウェー (監督: RIISE Hege): [GK] (23) MIKALSEN Aurora [DF] (4) HANSEN Tuva <→74' (14) HEGERBERG Ada > (6) MJELDE Maren (13) BJELDE Thea <→88' (3) HORTE Sara > (16) HARVIKEN Mathilde [MF] (7) SYRSTAD ENGEN Ingrid (8) BOE RISA Vilde <→63' (9) SAEVIK Karina > (11) REITEN Guro [FW] (10) GRAHAM HANSEN Caroline (20) HAAVI Emilie <→63' (18) MAANUM Frida > (22) ROMAN HAUG Sophie

控え: (1) FISKERSTRAND Cecilie (12) PETERSEN Guro (2) SONSTEVOLD Anja (5) BERGSVAND Guro (15) EIKELAND Amalie (17) BLAKSTAD Julie (19) BRATBERG LUND Marit (21) JOSENDAL Anna

得点 [日本] 15' オウンゴール (1-0)、50' 清水梨紗 (2-1)、81' 宮澤ひなた (3-1) [ノルウェー] 20' REITEN Guro (1-1)

準々決勝

なでしこジャパン 1 (前半0-1 後半1-1) 2 スウェーデン女子代表

●2023年8月11日 19:30 ●Eden Park ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] STAUBLI Esther (SUI) [副審] RAFALSKI Katrin (GER) / KUENG Susanne (SUI) [第4の審判員] GARCIA Katia (MEX) [VAR] IRRATI Massimiliano (ITA) [AVAR] FISCHER Drew (CAN) / BACK Neuza (BRA) ●マッチコミッショナー: KEMP Chris (NZL) ●観衆: 43,217人

日本 (監督: 池田太): [GK] (1) 山下杏也加 [DF] (2) 清水梨紗 (3) 南萌華 (4) 熊谷紗希 (12) 高橋はな <→90+2' (20) 浜野まいか > [MF] (6) 杉田妃和 <→ HT (13) 遠藤純 > (7) 宮澤ひなた <→80' (17) 清家貴子 > (10) 長野風花 <→80' (16) 林穂之香 > (14) 長谷川唯 (15) 藤野あおば [FW] (11) 田中美南 <→52' (9) 植木理子 >

控え: (18) 田中桃子 (21) 平尾知佳 (5) 三宅史織 (8) 猶本光 (19) 守屋都弥 (22) 千葉玲海菜 (23) 石川璃音

スウェーデン (監督: GERHARDSSON Peter): [GK] (1) MUSOVIC Zecira [DF] (2) ANDERSSON Jonna (6) ERIKSSON Magdalena (13) ILESTEDT Amanda (14) BJORN Nathalie [MF] (9) ASLANI Kosovare <→73' (7) JANOGY Madelen > (16) ANGELDAL Filippa (18) ROLFJO Fridolina <→73' (8) HURTIG Lina > (19) KANERYD Johanna <→84' (10) JAKOBSSON Sofia > (23) RUBENSSON Elin <→84' (20) BENNISON Hanna > [FW] (11) BLACKSTENIUS Stina

控え: (12) FALK Jennifer (21) ENBLOM Tove (3) SEMBRANT Linda (4) LENNARTSSON Stina (5) SANDBERG Anna (15) BLOMQVIST Rebecka (17) SEGER Caroline (22) SCHOUGH Olivia

得点 [日本] 87' 林穂之香 (1-2) [スウェーデン] 32' ILESTEDT Amanda (0-1)、51' ANGELDAL Filippa (0-2)

警告 [日本] 79' 植木理子

U-15日本女子代表 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島女子サッカーフェスタ

[スタッフ] ○監督: 岡本三代 (NCS) ○コーチ: 横道玲香 (JC) ○GKコーチ: 轟奈都子 (JC)

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	西本稀彩莉	INAC神戸テゾーロ	MF	内田桜央	北海道コンサドーレ旭川U-15
	神田瑠伽	京都精華学園中学校		丸山夢	敦賀FCジュニアユース
DF	原野心愛	高川学園中学校		岩田琳香	FC時之栖U-15
	欄宜田千夏	パニース京都SC flaps U-15		牧之瀬歩	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
	石井音羽	JFAアカデミー福島		中村心乃葉	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15
	大倉光藍	FC今治レディースNEXT	FW	星野朱凜	マイナビ仙台レディースジュニアユース
	佐藤百音	大宮アルディージャ VENTUS U15		山野蒼空	神村学園中等部
	久保田真帆	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		野崎凜愛	FC釜石U-15
MF	小田咲花	AC.CAVATINA.ⅢY		高橋佑奈	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	佐野杏花	常葉大学附属橘中学校		新田彩和	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース

<スケジュール>
8月4日 集合
トレーニング (ゼロバランスフィールド)
5日 トレーニング (ゼロバランスフィールド)
6日 HiFA 平和祈念 2023 Balcom BMW CUP 広島女子サッカーフェスタ
第1戦 vs U-16広島県選抜 (エディオンスタジアム広島)
7日 平和学習
トレーニング (ゼロバランスフィールド)
8日 第2戦 vs U-16長崎県選抜 (エディオンスタジアム広島)
9日 第3戦 vs U-16 Football New South Wales (エディオンスタジアム広島)
10日 解散

順位	日本	広島	長崎	New South Wales	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	U-15日本女子代表	2△2	1○1	11○0	7	2	1	0	24	3	21
2	U-16広島県選抜	2△2	1●4	4○0	4	1	1	1	7	6	1
3	U-16長崎県選抜	1●11	4○1	0●1	3	1	0	2	5	13	-8
4	Football New South Wales (U-16)	0●11	0●4	1○0	3	1	0	2	1	15	-14

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

データボックス

第1戦

U-15日本女子代表 2 (前半1-2 後半1-0) 2 U-16広島県選抜

●2023年8月6日 15:30 ●エディオンスタジアム広島 ●試合時間:70分

日本(監督:岡本三代):[GK](18)神田瑠伽 [DF](2)原野心愛(4)石井音羽<-60'(13)岩田琳香>(5)大倉光藍(6)佐藤百首 [MF](9)佐野杏花(14)牧之瀬歩(15)中村心乃葉<->HT(8)小田咲花> [FW](16)山野蒼空(17)野崎凜愛<->HT(19)高橋佑奈>(20)新田彩和

控え:(1)西本稀彩莉(3)福宜田千夏(7)久保田真帆(10)内田桜央(11)丸山夢(12)星野朱凜

得点:16'失点(0-1)、28'中村心乃葉(1-1)、34'失点(1-2)、65'山野蒼空(2-2)

第3戦

U-15日本女子代表 11 (前半3-0 後半8-0) 0 Football New South Wales(U-16)

●2023年8月9日 17:00 ●エディオンスタジアム広島 ●試合時間:70分

日本(監督:岡本三代):[GK](1)西本稀彩莉<->HT(18)神田瑠伽> [DF](2)原野心愛(4)石井音羽<->54'(3)福宜田千夏>(6)佐藤百首(7)久保田真帆 [MF](9)佐野杏花<->65'(11)丸山夢>(14)牧之瀬歩(15)中村心乃葉<->54'(8)小田咲花>(19)高橋佑奈<->HT(13)岩田琳香> [FW](16)山野蒼空<->65'(12)星野朱凜>(20)新田彩和<->54'(17)野崎凜愛>

控え:(5)大倉光藍(10)内田桜央

得点:4'、30'、39'中村心乃葉(1-0)(3-0)(4-0)、15'、52'新田彩和(2-0)(8-0)、43'、60'岩田琳香(5-0)(10-0)、48'、50'山野蒼空(6-0)(7-0)、58'佐野杏花(9-0)、62'牧之瀬歩(11-0)

第2戦

U-15日本女子代表 11 (前半4-0 後半7-1) 1 U-16長崎県選抜

●2023年8月8日 15:30 ●エディオンスタジアム広島 ●試合時間:70分

日本(監督:岡本三代):[GK](1)西本稀彩莉 [DF](3)福宜田千夏(5)大倉光藍<->HT(6)佐藤百首>(7)久保田真帆(8)小田咲花<->46'(14)牧之瀬歩> [MF](11)丸山夢(12)星野朱凜(13)岩田琳香(19)高橋佑奈 [FW](10)内田桜央<->46'(16)山野蒼空>(17)野崎凜愛<->46'(20)新田彩和>

控え:(18)神田瑠伽(2)原野心愛(4)石井音羽(9)佐野杏花(15)中村心乃葉

得点:4'高橋佑奈(1-0)、26'内田桜央(2-0)、32'星野朱凜(3-0)、35+2'小田咲花(4-0)、40'岩田琳香(5-0)、41'、46'野崎凜愛(6-0)(7-0)、47'、48'、66'新田彩和(8-0)(9-0)(11-1)、50'山野蒼空(10-0)、52'失点(10-1)

第47回 日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに第2種加盟登録し、日本クラブユースサッカー連盟に2023年5月12日までに加盟登録したチームで、2005年4月2日から2008年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は9地域の32チームが参加して7月23日から8月2日、群馬県と東京都で開催された。

※74ページに関連記事あり

■グループステージ

順位	Aグループ	大宮	鳥栖	新潟	栃木	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	大宮アルディージャU-18(関東2/埼玉)	2●3	3○2	1○0	6	2	0	1	6	5	1	
2	サガン鳥栖U-18(九州/佐賀)	3○2	2○1	0●1	6	2	0	1	5	4	1	
3	アルビレックス新潟U-18(北信越2/新潟)	2●3	1●2	3○0	3	1	0	2	6	5	1	
4	栃木SC U-18(関東9/栃木)	0●1	1○0	0●3	3	1	0	2	1	4	-3	

順位	Cグループ	岡山	鹿島	京都	いわき	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	フジアーノ岡山U-18(中国2/岡山)	2○1	1●3	8○1	6	2	0	1	11	5	6	
2	鹿島アントラーズユース(関東6/茨城)	1●2	1○0	5○0	6	2	0	1	7	2	5	
3	京都サンガF.C. U-18(関西1/京都)	3○1	0●1	4○0	6	2	0	1	7	2	5	
4	いわきF.C. U-18(東北3/福島)	1●8	0●5	0●4	0	0	0	3	1	17	-16	

順位	Eグループ	横浜FM	千葉	熊本	名古屋	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜F.マリノスユース(関東4/神奈川)	3○1	5○0	3○0	9	3	0	0	11	1	10	
2	ジェフユナイテッド千葉U-18(関東10/千葉)	1●3	1○0	3○1	6	2	0	1	5	4	1	
3	ロアッソ熊本ユース(九州3/熊本)	0●5	0●1	2○0	3	1	0	2	2	6	-4	
4	名古屋グランパスU-18(東海2/愛知)	0●3	1●3	0●2	0	0	0	3	1	8	-7	

順位	Gグループ	清水	札幌	浦和	秋田	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	清水エスパルスユース(東海4/静岡)	3○2	1△1	4○0	7	2	1	0	8	3	5	
2	北海道コンサドーレ札幌U-18(北海道)	2●3	3○1	2○1	6	2	0	1	7	5	2	
3	浦和レッズユース(関東7/埼玉)	1△1	1●3	2○0	4	1	1	1	4	4	0	
4	ブラウブリッツ秋田U-18(東北2/秋田)	0●4	1●2	0●2	0	0	0	3	1	8	-7	

順位	Bグループ	広島	仙台	福島	湘南	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	サンフレッチェ広島F.C.ユース(中国1/広島)	1△1	1△1	2○1	3○1	7	2	1	0	6	3	3
2	ベガルタ仙台ユース(東北1/仙台)	1△1	2△2	2○1	2○1	5	1	2	0	5	4	1
3	JFAアカデミー福島U-18(東海1/福島)	1●2	2△2	3○2	4	1	1	1	6	6	0	
4	湘南ベルマーレU-18(関東8/神奈川)	1●3	1●2	2●3	0	0	0	3	4	8	-4	

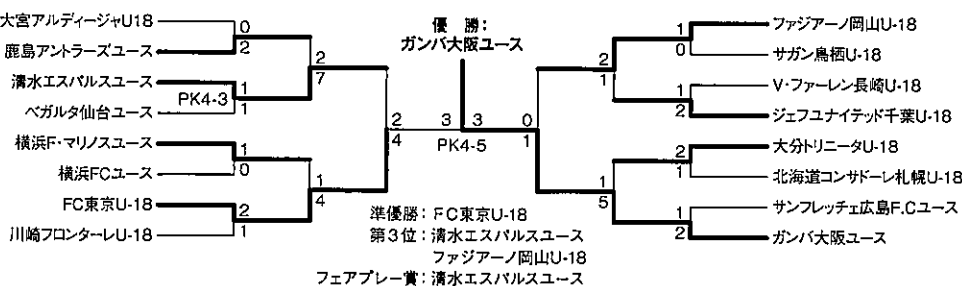
順位	Dグループ	FC東京	G大阪	磐田	長野	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC東京U-18(関東1/東京)	1△1	1△1	4○1	5	1	2	0	6	3	3	
2	ガンバ大阪ユース(関西4/大阪)	1△1	0△0	2○0	5	1	2	0	3	1	2	
3	ジュビロ磐田U-18(東海3/静岡)	1△1	0△0	1○0	5	1	2	0	2	1	1	
4	AC長野パルセイロU-18(北信越3/長野)	1●4	0●2	0●1	0	0	0	3	1	7	-6	

順位	Fグループ	大分	横浜FC	C大阪	徳島	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	大分トリニータU-18(九州4/大分)	2○0	3○0	4○0	9	3	0	0	9	0	9	
2	横浜FCユース(関東5/神奈川)	0●2	5○1	3○0	6	2	0	1	8	3	5	
3	セレッソ大阪U-18(関西3/大阪)	0●3	1●5	1○0	3	1	0	2	2	8	-6	
4	徳島ヴォルティスユース(四国/徳島)	0●4	0●3	0●1	0	0	0	3	0	8	-8	

順位	Hグループ	長崎	川崎F	甲府	神戸	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	V.ファーレン長崎U-18(九州2/長崎)	3○1	2○1	0●1	6	2	0	1	5	3	2	
2	川崎フロンターレU-18(関東3/神奈川)	1●3	1○0	3○1	6	2	0	1	5	4	1	
3	ヴァンフォーレ甲府U-18(北信越1/長野)	1●2	0●1	4○0	3	1	0	2	5	3	2	
4	ヴィッセル神戸U-18(関西2/兵庫)	1○0	1●3	0●4	3	1	0	2	2	7	-5	

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



MVP: 荒木琉偉(ガンバ大阪ユース)
MIP: 佐藤龍之介(FC東京U-18)
得点王: 村木輝(ファジアーノ岡山U-18/6得点)

<JFAアカデミー福島U-18> 監督:津田恵太
和泉空良、田中雄大、林見希、阿部琉星、長尾ジョシュア文典、余田碧、塚田喜大、坂本秀吾、石田然、植田陸、山崎太滂、濱川颯也、山口惟博、田丸太陽、吉田喬、大畑魁、花城琳斗

<名古屋グランパスU-18> 監督:古賀聡
ピサノ・アレクサンデル・幸冬、堀尾、花田倭臣、濱崎史輝、萩裕陽、山田煌人、樋口凛人、長田涼平、大田凌真、岡本大和、青木正宗、伊澤翔登、池間叶、神戸間那、森壮一郎、佐藤俊哉、鈴木陽人、源平徳人、内田康介、石橋郁弥、野田愛斗、西森悠斗、松崎好誠、鶴田周、野村勇仁、八色真人、那須奏輔、杉浦駿吾、西森脩斗、大西利都、野中祐吾

<ジュビロ磐田U-18> 監督:藤田義明
齊藤貴太、飯田恵然、吉岡幹太、杉浦謙乃助、李京樹、沼田大輝、平野稜恩、竹村俊、伊藤稜介、甲斐佑蒼、森島章雄、小澤有恒、瀧美慶大、松下颯汰、鈴木泰都、中村駿太、竹田優星、後藤翔吾、川合徳孟、森力介、寺田阿輝彦、高澤海志、石塚進歩、白石瑛也、松橋京汰、バルア・ロイ、岡田幸成、山本将太、河合優希、持永藍雅

<清水エスパルスユース> 監督:澤登正朗
柴崎海翔、大石楓、後藤悠貴、岩崎海翔、岩本昇悟、高橋唯月、有村村人、石川成希、村上太郎、平誠太郎、若見宏樹、佐々木佑河、岩尾健琉、太田成美、星戸成、仲野文翔、矢田龍之介、岡田珠羽、小竹知恩、西原源樹、中山温樹、土居佑至、市川幸優、岩永京剛、菊池武蔵ジョセフ、田中侍賢、田代寛人、関口航汰、宇山桂介、針生涼太

<京都サンガF.C. U-18> 監督:石田英之
三反畑篤樹、木村光貴、本多敦、麻生太郎、村田虎太郎、飯田陸斗、喜多吉也、神田幸太郎、三宮獲大、小林治英、関谷巧、原山颯、住芳樹、奥慎之介、石本泰雅、柴田了祐、立川遼翔、坂川賢祐、寺本雄登、尹星俊、昌山勇、小澤天、松本悠臣、熊谷空大、菟澤玲大、安藤友敬、吉田遥海、西岡佑真、阿部亮馬、酒井滉生

<ヴィッセル神戸U-18> 監督:安部雄大
谷河樹、吉岡耕佑、小池将介、亀田大河、阿江真嗣、廣畑俊汰、山田海斗、本間ジャスティン、江口拓真、井上恋太郎、茨木隆、松田志道、島佑成、原審汰、高山駿斗、今富輝也、坂本翔偉、田中一成、森田皇翔、岡奨瑛、岩本悠庵、吉岡颯、大西凌太、瀬口大翔、西川亜郁、濱崎健斗、藤本陸哉、有末翔太、高村陸弥、渡辺隼斗

<セレッソ大阪U-18> 監督:島岡健太
青谷壮真、山岡薫平、伊藤和、インボウ拳、山田空輝、松山宗秀、吉田幸慎、藤井龍也、船見幸毅、芝田琉真、白濱聡二郎、平山大河、佐野泰生、木實快斗、清水大翔、血丸立輝、エレハク有夢路、中山聡人、増田瑛心、金龍起、西川宙希、伏見晁希、山本世樹、阿部陽正、小野田亮汰、鈴木聡太、首藤希、山田光太郎、乾悠人、塩尻哲平

<ガンバ大阪ユース> 監督:町中大輔
張典林、ステイマンジョシュア草太郎、荒木琉偉、小川悠希、與那嶺虎汰朗、長谷川航世、山口遥太、福本開、矢田幸紀斗、松井イライジャ博登、松本健作、和泉圭保、遠藤楓仁、笹記佑太、宮川大輝、大倉慎平、長田叶羽、古河幹太、森田将光、加美怜大、山本天翔、當野泰生、

中島悠吾、岡本陽向、天野悠斗、久永虎次郎、安藤陸登、中積為、加藤倅太、武井遼太郎

<サンフレッチェ広島F.Cユース> 監督:野田知
山田光真、澤田卓佑、小川隼、野呂海斗、山根幹央、黒木一心、中光叶多、石原未蘭、榎谷歩希、橋本日向、小谷楓河、青井優太郎、瀧飼大樹、松本夏寿磨、鳥井輝音、中島洋太郎、石橋聖也、竹山心、井上聖、廣重壮真、小林志紋、長沼聖明、角掛丈、中川育、木村衛生、木吹翔太、井上愛隼、大上免嵐、宗田栞生、土井川遥人

<フジアーノ岡山U-18> 監督:梁圭史
ナジ・ウマル、水田優誠、近藤陸翔、藍谷静香、瓶井常葉、服部航大、川上航生、田原悠帆、勝部陽太、繁定蒼、清水陽介、大野剛、脇本祐希、千田遼、野田辺剣、影山偉大、橋崎光成、末宗寛士郎、南棧大、藤田成充、加納尚則、清水愛都、堤涼太郎、村木輝、福永涼敬、ミキ・ヴェトル、白神端基、石井秀幸、田邊健太、作田航輝

<徳島ヴォルティスユース> 監督:玉城航
黒田開生、近藤大和、小川創煥、武知菜陽、井上斗希、武田絢都、草刈啓太、藤澤優太郎、大和陽希、三原拓也、福田彪馬、東桂香、宮村瑠玖、増井哲平、藤原一途、大村康輔、谷本雄紀、高山椋二郎、尾上瑠聖、斎藤恵人、柴田航次郎、林壮、宮川陸斗、橋本悠希、大坂嵐、福田武玖、前川修音、廣永獅旺、乃一悟生、長村嶺央

<サガン鳥栖U-18> 監督:田中智宗
小池朝陽、井本航太、石田翔温、田代聡太、松川隼也、林奏太郎、大場章太郎、内丸寛太、古館宗也、黒木雄也、先田颯成、堺屋佳介、徳村莉温、大貫天太郎、池末徹平、森本勢那、山村チーディ賢斗、東口藍太郎、古賀稜麻、岩村淳之介、水巻時飛、崎崎俊治郎、山崎遥輝、小宮一馬、増崎康清、與座朝道、鈴木大馳、渡邊翔音、下田優太、新川志音

<V・ファーレン長崎U-18> 監督:原田武男
黒瀬理仁、宮崎圭伸、原嶋海翔、喜多涼介、大久保龍人、西村海陽、田橋仁也、田口純大、西村運音、上戸涼生、井手圭、古川海光、名越一樹、伊藤小次郎、金ヶ瀬仁人、垣内祥大、岩本悠也、宇佐川真央、内山航紀、野田泰平、田口達也、シーウエウワ、西岡利玖斗、堀友希、七牟禮善社、宮崎陽、松尾佑一、池田蒼、宮崎航汰、大澤元崇

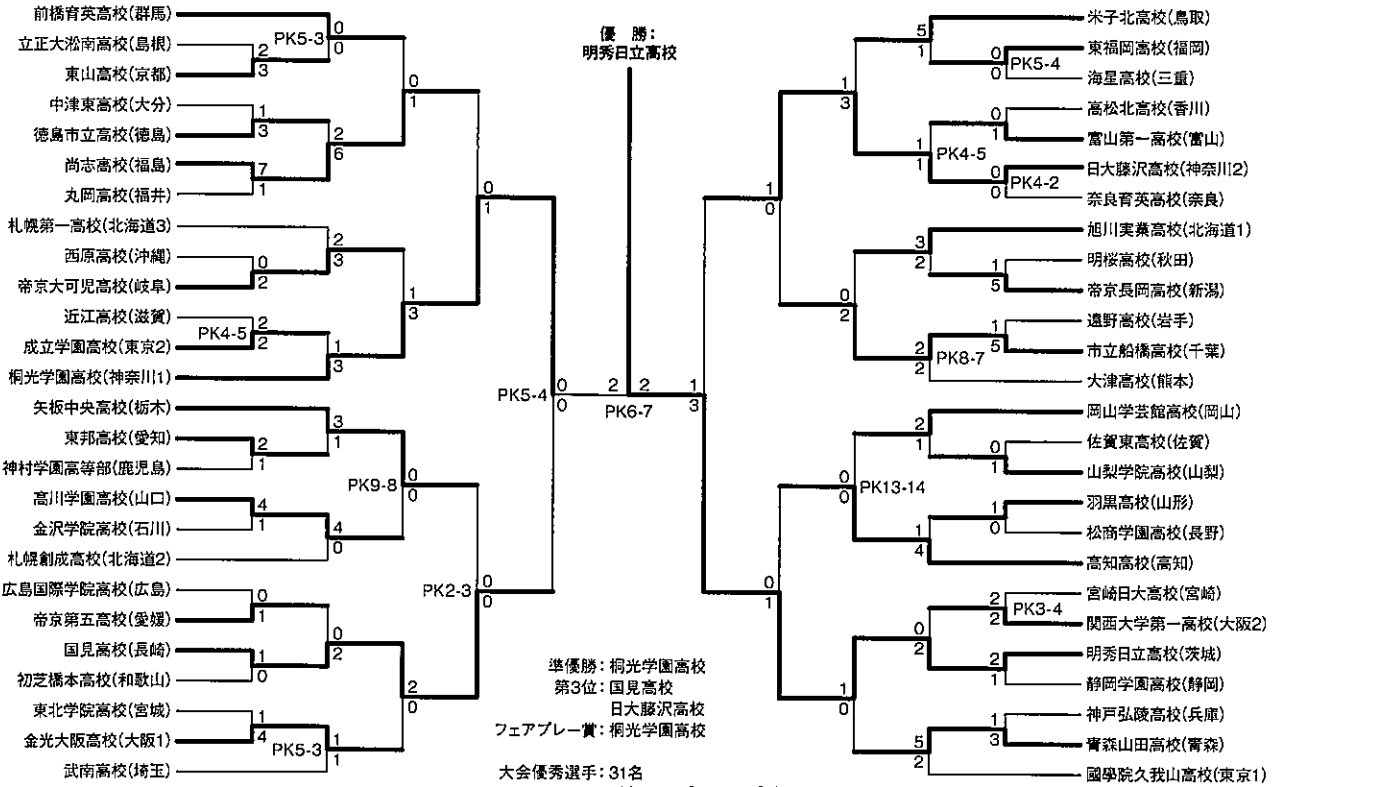
<ロアッソ熊本ユース> 監督:岡本賢明
ショファー・ネオ、上村朋生、宮本哲宏、岩永明真、東哲平、前田風樹、深江大志郎、山口空飛、中島大翠、奥村海斗、前川慶真、大濱和心、高村颯太、迎田洗、宮原光輝、河川京志、澤本和冴、朽木優水、古閑聖、福永稔心、堤隼誠、白濱光人、中村希、森平一輝、麻生暖琉、元松蒼太、上野颯太、神代慶人、西門樹理、平井銀

<大分トリニータU-18> 監督:石橋真和
森本慎一、平野稜太、南拓海、古野優斗、小野駿斗、小野俊輔、仲智哉、吉良光生、秋山由伎、矢野想翔、池辺青那、亀井智次、鼓嶋志佑翔、坂本謙祐、山下琥珀、松岡誠人、今村彪悟、今村陽斗、小野誠竜、後藤雅人、多田博希、平川日向、又吉琉樹、廣瀬拓也、近藤陽輝、木許太真、橋本崇樹、大塚葵宙、平原俊介、三上倫広

令和5年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(男子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、北海道・北海道教育委員会、旭川市、JFAの主催で、7月29日～8月4日に52チームが参加して北海道で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟、かつ2023年JFA第2種登録を完了した2004(平成16)年4月2日以降生まれの選手に与えられた。

※72ページに関連記事あり



準決勝		0 (前半0-0 後半0-0) 0		国見高校
桐光学園高校		PK5-4		
●2023年8月3日 12:00 ●花咲スポーツ公園陸上競技場 ●試合時間:70分、PK ●審判員:[主審]佐々木慎哉 [副審]谷弘樹/田口平蔵 [第4の審判員]宗像瞭 ●マッ チコミッショナー:三井耕 ●観衆:350人				
桐光学園(監督:鈴木勝大):[GK](1)渡辺勇樹 [DF](2)杉野太一(4)平田翔之介(5)川村 優介(19)加藤竣 [MF](7)小西碧波(8)羽田野紘矢(10)松田悠世(11)齋藤俊輔 <-70+4'(12)増田遥希> [FW](9)宮下拓弥(14)丸茂晴翔<-34'(16)吉田晃大->64' (13)青谷舜>				
控え:(17)村田侑大(3)川口泰翔(6)湯藤翔太(15)山本陽大(18)佐藤凜弥(20)寺澤公平				
国見(監督:木藤健太):[GK](1)松本優星 [DF](2)松永大輝<->69'(16)原田高虎>(3)古 川聖来(4)中浦優太(5)平田大輝 [MF](7)門崎健一(8)山口大輝<->58'(14)山崎夢龍> (17)出田幸直(18)坂東匠 [FW](10)中山葵(13)坂東匠<->5'(15)野尻慎之助->58'(11) 江藤呂生>				
控え:(12)林田宝(6)梶島眞於(9)西山時人(19)前田新舵(20)金子光矢				
警告	[国見]70+2' 平田大輝			
PK	[桐光学園](10)○(7)○(9)○(8)○(5)○	[国見]先(10)○(18)×(14)○(4)○(5)○		

【参加選手】

<旭川実業高校> 監督:富居徹雄

越後紀一、杉谷日向、岡本染太郎、庄子羽琉、鈴木奏翔、米澤友、藤本良馬、佐々木涼汰、
渡邊航生、工藤葵、濑谷陽、鈴木琉生、柴田龍牙、小川理玖、萩野流衣、百々榮、高杉龍
乃介、三上僚太、敦賀晴紀、嶋城温大、和嶋陽佳、清水彪雅

<札幌創成高校> 監督:錦木正彦

渡辺嵩来、名取煌平、須貝翔、米田來輝、森恭亮、大坂恵也、山崎央太郎、吉田壮汰、白石
颯月、秋田剛志、佐野元紀、佐藤蓮、村本将生、上田侍輔、米沢空、中西瑠偉、近藤佳祐、
丸山秀斗、加藤天晴、三栖正義、細川耀史、加我咲大

<札幌第一高校> 監督:佐藤祐介

本田拓夢、阿部翔成、沖野蒼真、中津川倭丸、阿部島匠、東理拓斗、中村漣志、齊藤折、村
井嘉斗、土橋大牙、小林秀豪、内海凌太、高橋亮麻、邊見琉真、本間空河、水口陽彰、外館
円清、藤井蓮、桑江常旗、石原陸翔、今草一朗

<青森山田高校> 監督:正木昌宣

鈴木将永、長谷川龍也、小林拓斗、小沼蒼珠、山本虎、小泉佳絃、菅澤剛、関口豪、谷川勇
獅、川原良介、芝田玲、福島健太、杉本英誉、齊藤和祈、後藤礼智、別府育真、齋藤結翔、
津島巧、米谷壮史、三浦陽

<遠野高校> 監督:佐藤邦祥

山田涼楓、浅沼英志、田代成琉、佐々木清太、畠山哉人、戸羽輝希、菊池晃太、右近優太、
菊池遥大、馬場大瀬、高橋優成、照井颯人、昆野翔太、今淵雄太郎、八重樫凌太、高橋陸
生、千葉陸、小倉悠慎、池口遥葵、小松樹来、細谷地亮介

<東北学院高校> 監督:橋本俊一

橋本脩礼、千葉恒太、佐々木智貴、鈴木幸太、吉田健太郎、渡邊幸輝、和久一輝、川崎理仁、
杉山和勢、守屋尚吾、守屋慧士、菅原心汰、伊藤律稀、三村明日真、佐々木流空、齋藤虎宇、
鈴木太郎、嶺岸颯人、佐藤孝祐、梅田紘、阿部圭汰、岡元龍太

<明桜高校> 監督:原美彦

川村晃生、佐藤瑠耶、成田讓仁、大木源士郎、山口晃生、菅野琉空、吉田秀、目黒琥珀、本
島隆成、廣森輝星、庄司郁哉、中山煌斗、外山蓮、齊藤廉、村上大河、武田大和、小松亮大、
臼田成那、加藤鳳夢、片岡怜央、北川学、中野颯太

<羽黒高校> 監督:本街直樹

石野翼、高橋純大、吉波有希、榎本成希、田村絆人、川井啓太郎、久間木蒼太、友野晃伸、
高尾波流、達本幸正、小西謙吾、遠藤大雅、中村優翔、伊藤諒郎、小田太航、畑山琥珀、阿
崎凜、斎藤匠、三國谷斗羽、岡部晟士、佐藤啓空

<尚志高校> 監督:仲村浩二

高橋悠太、角田隆太郎、冨岡和真、高瀬大也、市川和弥、白石蓮、高田湊人、宮城来輝、小
原空大、渡邊優空、出来伯琉、安齋悠人、神田拓人、若林来希、藤川壮史、瀧田昂希、吉田
尚平、網代陽勇、桜松駿、笹生悠太、山本仁

<明秀日立高校> 監督:萬場努

小泉凌輔、重松陽、今野生斗、飯田朝陽、若田部礼、山本凌、川野竜大、大原大和、吉田裕
茂、長谷川幸蔵、益子峻輔、阿部巧実、川口嵐、竹花龍生、齊藤生樹、熊崎瑛太、根岸隼、石
橋鞘、柴田健成、保科愛斗、新陽樹

<矢板中央高校> 監督:高橋健二

大淵咲人、藤間広希、小関大翔、梶谷皇光斗、庄司碧月、荒野亭心、小針慎太郎、清水陽、
小倉煌平、小森輝星、井上拓実、山元敦成、鳥塚翔真、阿部政汰、伊藤翼、伊藤嘉真、山下
魁心、外山瑛人、石塚遥真、渡部嶺斗、児玉聖士朗、朴大温、堀内風希

<前橋育英高校> 監督:山田耕介

雨野颯真、藤原優希、齊藤希明、山田佳、熊谷康正、青木蓮人、清水大幹、立木堯斗、林優
真、石井陽、松下拓夢、黒沢佑晟、山崎勇誠、斎藤陽太、柴田文翔、平林尊純、篠崎遥斗、
鈴木連大、佐藤耕太、中村太一、オノゾウ慶吏

準決勝		1 (前半0-2 後半1-1) 3		明秀日立高校
日大藤沢高校		PK6-7		
●2023年8月3日 12:00 ●カミイの杜公園多目的運動広場A ●試合時間:70分 ●審 判員:[主審]村田裕紀 [副審]高野佑哉/増田裕之 [第4の審判員]初山智哉 ●マッ チコミッショナー:木川田博信 ●観衆:100人				
日大藤沢(監督:佐藤輝勝):[GK](1)野島佑司 [DF](2)坂口康生<->52'(13)片岡大慈> (4)宮崎達也(5)尾野優臣(15)國分唯央 [MF](7)萩原大地<->HT(6)布施克真>(8)諸 墨清平<->45'(17)会津恒毅>(10)安場壯志朗(11)岡田生都<->70+3'(14)柳沼俊太> (16)佐藤春斗 [FW](9)山上大智<->49'(20)岩内類>				
控え:(12)斎藤直晴(3)小川寧大(18)藤代哲成(19)進藤匠				
明秀日立(監督:萬場努):[GK](12)重松陽 [DF](3)飯田朝陽(5)山本凌(8)長谷川幸蔵 (14)阿部巧実 [MF](6)大原大和(7)吉田裕哉<->70+3'(2)今野生斗>(13)益子峻輔 <->70+4'(15)川口嵐> [FW](9)熊崎瑛太<->64'(10)根岸隼>(11)石橋鞘<->54' (19)斎藤生樹>(16)柴田健成<->58'(17)竹花龍生>				
控え:(1)小泉凌輔(4)若田部礼(18)保科愛斗(20)新陽樹				
得点	[日大藤沢]38' 布施克真(1-2) [明秀日立]4' 石橋鞘(0-1)、29'、43' 熊崎瑛太(0-2)(1-3)			
警告	[日大藤沢]50' 佐藤春斗 [明秀日立]31' 石橋鞘			

決勝		2 (前半1-2 後半1-0) 2		明秀日立高校
桐光学園高校		PK6-7		
●2023年8月4日 12:00 ●花咲スポーツ公園陸上競技場 ●試合時間:70分、延長20 分、PK ●審判員:[主審]宗像瞭 [副審]谷弘樹/村田裕紀 [第4の審判員]佐々木慎哉 ●マッチコミッショナー:川人健太郎 ●観衆:1,000人				
桐光学園(監督:鈴木勝大):[GK](1)渡辺勇樹 [DF](2)杉野太一(4)平田翔之介(5)川村 優介(19)加藤竣 [MF](7)小西碧波(8)羽田野紘矢(10)松田悠世(16)吉田晃大<->70' (12)増田遥希> [FW](9)宮下拓弥(14)丸茂晴翔<->HT(11)齋藤俊輔>				
控え:(17)村田侑大(3)川口泰翔(6)湯藤翔太(13)青谷舜(15)山本陽大(18)佐藤凜弥(20) 寺澤公平				
明秀日立(監督:萬場努):[GK](12)重松陽 [DF](3)飯田朝陽(5)山本凌(8)長谷川幸蔵 (14)阿部巧実 [MF](6)大原大和(7)吉田裕哉(13)益子峻輔<->46'(19)齊藤生樹> [FW](9)熊崎瑛太<->51'(10)根岸隼>(11)石橋鞘<->51'(17)竹花龍生>(16)柴田健成 <->延前開始(2)今野生斗>				
控え:(1)小泉凌輔(4)若田部礼(15)川口嵐(18)保科愛斗(20)新陽樹				
得点	[桐光学園]32' 宮下拓弥(1-2)、51' 松田悠世(2-2) [明秀日立]11'、19' 柴田健成(0-1)(0-2)			
PK	[桐光学園](11)○(7)○(8)○(9)○(10)○(5)○(2)×	[明秀日立]先(7)○(3)○(6)○(8)○(10)○(5)○(14)○		

<武南高校> 監督:内野慎一郎

前島拓実、石川廉章、島崎貴博、小金井遥斗、岸雅也、齋藤瑛斗、山崎元就、田和俊祐、宮
里丞、川上旺祐、高橋秀太、戸上和貴、松原史季、高橋佑祐、川崎悠斗、飯野健太、平野琉
斗、大熊来瑠、杉沢旭浩、文元一輝

<市立船橋高校> 監督:波多秀吾

ギマラス・ニコラス、庄司光輝、佐藤凜音、内川遼、宮川瑛光、五来凌空、神馬颯介、井上
陽、ギマラス・ガブリエル、白土典汰、太田圭剛、秦悠月、佐々木裕裕、森駿人、足立陽、聖
佳、金子竜也、岡部タクカナイ颯斗、郡司瑠来、久保原心優、伊丹俊元

<國學院久我山高校> 監督:李濟華

太田陽彰、大村太郎、馬場翔太、善久原陽平、スコット颯真ニコラス、平原大輝、入野瑛太、
太田圭駿、洪潤紀、山脇舞斗、常森瑠平、近藤侑瑠、菅井友喜、前島魁人、佐々木登羽、高
梨通晴、高井士土、下塚俊俊、保土原海翔、小宮将生

<成立学園高校> 監督:山本健二

新洲七輝、湯浅世琉亜、新倉虎士、桜井勇樹、矢島脩大、大坂颯汰、鎌田真碧、山口拓士、
大山悟生、横地亮太、佐藤漣、笠原麻守、大塚亮翔、外山朔也、高橋奏羽、平原健吉、戸部
菜広、大橋東、関口陽大、冨永創、田村陽

<桐光学園高校> 監督:鈴木勝大

渡辺勇樹、村田侑大、杉野太一、川口泰翔、平田翔之介、川村優介、武藤光希、増田遥希、
青谷舜、加藤竣、湯藤翔太、小西碧波、羽田野紘矢、松田悠世、齋藤俊輔、山本陽大、吉田
晃大、佐藤凜弥、宮下拓弥、丸茂晴翔、山田留偉、寺澤公平

<日大藤沢高校> 監督:佐藤輝勝

野島佑司、斎藤直晴、坂口康生、小川寧大、宮崎達也、尾野優臣、片岡大慈、柳沼俊太、國
分唯央、布施克真、萩原大地、諸墨清平、安場壯志朗、岡田生都、佐藤春斗、会津恒毅、藤
代哲成、岩内類、山上大智、進藤匠

<山梨学院高校> 監督:岩永将

堀川史羽、フレドリック陽輝、小原稜也、鈴木琉斗、坪井昊、志村晃、齋藤幸之介、小柳堅也、
半田唯也、藤原滙大、根岸真、本多弥沙哉、関口翔吾、冨岡玲香、駒田晴生、高柳亮吾、小
日山晃生、川村伊吹、篠田泰雅、山田遥人、吉備大、速水仁、高野夏輝、五十嵐真輝、関塚
力登、永井康誠

<松商学園高校> 監督:高山剛治
中垣敬太、森山嶺馬、小林千路、松永裕哉、今井天志朗、峯羽汰、平山将大、加藤駿輝、中野勇輝、中村彩人、森田優聖、上田泰輝、平尾風詠、山本陽、中村みらの、上田卓輝、藤本漣、陶山快斗、伊藤龍生、大槻優介

<帝京長岡高校> 監督:古沢徹
小林侑晃、松村嵐麗、松岡涼空、高萩優太、山本圭晋、内山開翔、池田遼、西馬礼、浅井隼大、吉竹勇人、山村翔冬、橋本傑、原壮志、畑達河、柳田夢輝、平澤瑛珂、和田陸、新納大吾、堀島汰、安野匠、山田成夏、道管陽斗、河角昇磨

<富山第一高校> 監督:加納靖典
魚住秀真、曾江空海、小西双葉、岡田駿也、福光翔太、大居優汰、谷川智哉、山本大心、多賀滉人、平田一葵、松井凜空、川原瑠偉、菅野耀大、入江秀虎、羽根周太郎、放崎結生、加藤肇也、稲垣輝太郎、宮本凌成、谷松社、羽根成干加、谷保健太

<金沢学院高校> 監督:北一真
松本晃政、石山アレックス、松下椋祐、葛城涼、久保佑太、北村颯登、嶺野悠斗、山下聖真、馬越淳史、小林和哉、西田虎汰郎、松本賢太、高橋薫、岡山拓未、林暁、油野瑛斗、今廣陸、村田維吹、櫻井風雅、丸山幹太

<丸岡高校> 監督:小阪康弘
山本賢太、清水唯太、永田俊介、河奥正流、宮崎陽、奥村風磨、西田陸晴、奥村洋武、安嶋琉生、渡辺祥景、寺坂樹大、小関俊方人、久津見颯、久米田麻斗、高倉悠真、小関結人、大藤航輝、西村心、川下恭太郎、戸田亜流斗、杉田拓未

<静岡学園高校> 監督:川口修
中村圭佑、山口航生、井口晴斗、堤坂煌史、岩田琉唯、水野朔、泉光太郎、野田裕人、吉村美海、大村海心、堀地瑠伊、天野太陽、山下輝大、山縣優翔、高田優、志賀小政、岩本耀太、森崎澄晴、岡元和士、田嶋旦陽、大平青空、大木悠羽、神田奏真、石川智也

<東邦高校> 監督:杉坂友浩
池田エンヒ、長尾拓磨、土川泰輝、名古屋佑乃介、生駒陸季、朴勢己、森田濱和、久田玲央馬、深谷颯天、守内麻莉、浦中智也、清水悠希、深澤奏、野村拓翔、森一航、カヨノ翔音タテノ、山端寧生、廣江優、水野燦士、伊藤洵太、永井望夢

<海星高校> 監督:青柳隆
内田遥登、山本龍之介、相原一太、岡崎嶺大、沼田一輝、一見季斗、須原吏紀、木多逸士、村田真哉、金澤颯真、中辻鼓太郎、清水薫功、横山創士、河合航汰、小林麟太郎、伊藤啓大、中野遼一、山口翠海、清水隼翔、秋田幹太

<帝京大可児高校> 監督:仲井正剛
竹内耕平、土田壯太、中村優慎、廣見豪希、内山晴登、堀内祥輝、石田凱大、梅本泰佑、伊藤彰一、内藤和希、吉兼侑真、明石望来、棚橋奎斗、黒沢一斗、鶴見一馬、櫻井蓮太郎、執行悠雅、加藤隆成、高田悠志、井上蓮斗

<近江高校> 監督:前田高孝
山崎晃輝、岡本航太郎、山下漣、金山耀太、安田旭、西村想大、川地一颯、里見華威、山上空琉、浅井晴孔、川上隼輔、齋藤瑛斗、西飛勇吾、山門立布、廣瀬脩斗、大谷結衣斗、山本諒、荒砂洋仁、山中葵、小山真尋、伊豆藏一徹

<東山高校> 監督:福重良一
牧純哉、二川陽翔、足立康生、上山泰智、志津正剛、尾根碧斗、海老原雅音、坪内瑛久、中山和泰、古川清一郎、三日月澤青、沖村大也、濱瀬奏維、辻輪太郎、野田風心、井上慧、善積阿知、宇野隼生、松下凌大、吉田航太郎、大山遼斗、上林広翔

<金光大阪高校> 監督:岩松哲也
仲勇磨、望月大雅、加藤蓮、村田凌介、淡結伍、長瀬怜旺、箱田日翔、井上秀、齋藤大靖、堀田朝太郎、原竜馬、北村涼太郎、上田大翔、岡田涼馬、太田陸斗、西原優真、畑叶夢、村尾優真、田島悠哉、矢野陸、上田誠太郎

<関西大学第一高校> 監督:緒方卓也
橋本拓磨、飛鳥馬健太、林拓哉、鴨川光輝、中谷優牙、河村一牙、坂本慎太郎、藤林豊成、川上凌空、糸賀大輝、西田詩、乾智輝、内田唯斗、梅原快、今井優、町上桜太、竹川伊純、今西佑、門田登真、岩崎颯太

<初芝橋本高校> 監督:阪中義博
大竹野斗、江田悠輝、坂本夢人、西風勇吾、石丸晴大、三浦晴太、福本悠二、松岡智也、深本皓太、増田晋也、池田真優、古谷仁成、大丸龍之介、山本拓夢、河崎慶二、石田翔也、朝野夏輝、神戸賢、竹内崇真、大園一将

<奈良育英高校> 監督:梶村卓
瀧川笑玄、内村篤紀、谷川琉希也、奥村央樹、八木涼輝、田中琥士、竹田泰、平原颯大、仲谷陽馬、川上隼平、藤岡仙太郎、村田康成、磯貝新之助、山本渥、水津隼人、西村優士、有友瑠、木村剛瑠、井登奏汰、水瀧大翔

<神戸弘陵高校> 監督:谷純一
石橋亮斗、歌野裕太、豆成徹、柴尾美那、岡未来、三輪桜大、江崎佑佑、松井君弥、阪上聖恩、藤本達真、大井孝輔、有園依咲樹、井田琉汐、北藤期、十河快斗、石橋潮風、中邑蒼羽、木津奏芽、佐波昂大、馬場悠平、高橋奏多

<米子北高校> 監督:中村真吾
尾崎巧望、岡田海琴、梶原佐志、藤原志志朗、石倉亜蓮、城田利恩、濱口慶太、番原珠生、花田涼愷、樋渡蓮音、上原颯太、仲田堅信、久徳風雅、小村日向、柴野愷、田村郁彌、鈴木嶺人、森田尚人、愛須隆聖、田中太賀、西尾潤星、堀大夢

<立正大浪南高校> 監督:野尻豪
塚田喜心、西尾裕路、柴田虎太郎、三島典征、坂本直太朗、西口大稀、植田琉生、宮本涼矢、中井佑泰、西田樹、馬瀬勳、山田涼斗、升井泰雅、野澤颯天、三島拓人、豊田寛太、中谷瑠希、久島理功、廣田宗己、眞鍋隆聖、大橋蒼真、永澤叶太

<岡山芸芸館高校> 監督:高原良明
平塚仁、堀地煌矢、持永イザキ、平松伸朗、平野大樹、中村仁、幅本星音、高山準磨、岡野鏡司、木下瑛己、田村江夏汰、田口裕真、植野柊、山河獅童、水田涼介、坂尾優斗、池上大慈、万代大和、東海祐也、太田修次郎、田邊望、木村奏人、奥野新、香西健心

<広島国際学院高校> 監督:谷崎元樹
片淵俊介、松元清暁、藤井海地、水野雄太、茂田颯平、島川翔汰、藤井蓮斗、岡田康誠、長谷川蒼矢、渡辺雄太、谷原海都、松永悠斗、石川輝真、萩野巧也、戸山晴人、高山陽那太、濱田凌太、岩本大河、水川翔太、福島拓哉、野見明輝

<高川学園高校> 監督:江本孝
高城悠哉、三宅亮壽、大下隼也、中村康生、西俊輔、徳若侑瑠、石原快慧、沖野眞之介、菅野瑠久斗、安井拓海、宮城太郎、佐藤大斗、岡本步夢、村上一慧、藤井蒼斗、山中大樹、西岡剛志、中津海運恩、横田奏牙、伊木樹海、岸本航太、松木汰駆斗、浪下元氣、山本吟侍、行友祐翔

<高松北高校> 監督:陶山輝佳
藤村豪、谷本陸太、坂本太陽、細川元義、市山隼、大下雄也、安本峻、高嶋俊榮、伊賀奏、森本光佑、田中友貴、小西航士郎、松木晴陽、石川洋大、山下颯天、谷口清也、山本太星、吉本琉空、森口且将、田岡楓音、佐々木俊春、菊本航

<徳島市立高校> 監督:河野博幸
安藤誠一郎、大佐古陸颯、瀨口駿介、川村琥太郎、山本煌大、麻植光規、好浦悠仁、岸季亮、松山哲也、池田怜以、山座佑達、上田寛大、山口漢太郎、尾形郁海、太田夏壽人、原水智弘、岡快史、笠原颯太、鈴木悠哉、篠崎陸空、坂本宇春朗、平尾海斗

<帝京第五高校> 監督:植田洋平
山田楓羽、飯島悠翔、鈴木聖矢、宮島桂汰、和田大輝、松田侑弥、五本木涼、内藤海斗、飯田達也、葉幸太郎、串田桜大、山口雄人、樋口志、三神晴路、船田星翼、菅原一輝、佐藤玲音、森下勇瑛、大澤蹴舞、田中恭汰

<高知高校> 監督:大坪裕典
東大稀、穂並谷礼央、小野響輝、濱口達也、森紺、田辺陽翔、酒井良汰、竹崎碧、横田陽向、岡崎彪我、市原大羅、大久保天満、足達将侍郎、市原礼斗、西内文哉、田口稜也、山城亜蓮、西森聖哉、岡村日初、松井賢太、門田翔平、松田翔空、岡岡春陽

<東福岡高校> 監督:森重潤也
笈西耀大、神田謙二郎、杉山誠夢、秋一星、井上碧斗、保科鉄、倉岡愛斗、宮永康太、山縁涼平、西田頼、對馬陸人、榊原寛太、吉岡拓海、掛橋颯、大谷圭史、中山陸斗、竹下悠、今吉心絆、神田幹勇、落合琉鴻、野田昂希、阿部来紀、伊波樹生

<佐賀東高校> 監督:蒲原昌昭
中里好佑、仁田聖翼、西川空良、國武優太郎、甲斐裕也、田中幹大、田中佑磨、後藤光輝、江頭潮南、西川葵翔、宮川昇太、江口恭平、中村琉道、中島彪利、江口賢伸、右近歩武、守屋大地、青木稜、森田健斗、最所大星、田口大翔、甲斐巧海、詫間凌斗

<国見高校> 監督:木藤健太
松本優星、林田宝、松永大輝、古川聖來、中浦優太、平田大輝、花鳥眞粒、野尻慎之助、内野理斗、前田新舵、門崎健一、山口大輝、江藤呂生、山崎夢純、一ノ宮晴、原田高虎、出田幸雅、坂東匠、西山蔚人、中山葵、坂東匠、林海翔、金子光汰

<大津高校> 監督:山城朋大
坊野雄大、村上葵、大神優斗、田辺幸久、吉本篤史、五嶋夏生、村上慶、守田龍希、柳元玲二、兼松将、古川大地、嶋本悠大、碓明日麻、稲田翼、外井悠悠、中村健之介、日置陽人、畑拓海、徳永雄斗、南平晴翔、山下景司、山下虎太郎、新野太陽

<中津東高校> 監督:首藤啓文
吉岡頌星、小野奏音、大友尋平、近藤裕太、合嶋空、上野祐揮、瀨戸桜哉、井上翔伍、後藤結俊、今吉聡斗、十時夢叶、横山将、田口瞬十、前田明良、金谷都和、畑田純成、菅川青空、梅津爽、伊藤光琉、立花佑悟、當永駿

<宮崎日大高校> 監督:南光太
大平爽哉、大友朝陽、北村嘉都、安達拓哉、齋藤達樹、松下衣舞希、今泉斗翔、武道証、伊藤波留希、小島優輝、二村亮雅、松添隼大、黒木琉理、高永優太、渡邊星渚斗、三輪育幹、矢田彩都、小郷莉音斗、中村蒼、樋田聖大、大塚虎太郎

<神村学園高等部> 監督:有村圭一郎
川路陽、早原玄九郎、照屋颯大、中野陽斗、鈴木悠仁、難波大和、長沼政宗、有馬康汰、長田誠矢、新垣陽盛、下川温大、高橋修斗、佐々木悠太、益山結翔、福島和毅、金城運史、名和田我空、吉永夢希、内匠遠翔、平野あい、平木駿、田中遥一郎、竹内尋、徳村楓大、西丸道人

<西原高校> 監督:知花良
鳥袋風海、金城拓斗、國吉智也、徳村琉也、米村海、久高宗馬、友利吏和、津田佳秋、神田竜寿、上原漢、安里瑠偉、齋藤博斗、安里悠之介、伊是名春葵、又吉瑛斗、上地大誠、金城朔太郎、岡野俊、比嘉琥生、上里南、上江洲悠太、仲間太紀

第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAに第3種もしくは準加盟登録し、日本クラブユースサッカー連盟に2023年5月12日までに加盟登録したチームで、2008年4月2日から2011年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は9地域の48チームが参加して8月15日～24日、北海道で開催された。

※75ページに関連記事あり

■グループステージ

順位	Aグループ	熊本	鹿島	岡山	富山	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ソレック熊本(九州3)		3○1	3○0	5○3	9	3	0	0	11	4	7
2	鹿島アントラーズジュニアユース(関東4)	1●3		2○1	6○1	6	2	0	1	9	5	4
3	ファジアーノ岡山U-15(中国2)	0●3	1●2		3○1	3	1	0	2	4	6	-2
4	カタール富山U-15(北信越3)	3●5	1●6	1●3		0	0	0	3	5	14	-9

順位	Bグループ	三菱養和	甲府	愛媛	アリーバ	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	三菱養和SC調布ジュニアユース(関東5)		0●3	3○0	2○0	6	2	0	1	5	3	2
2	ヴァンフォーレ甲府U-15(関東15)	3○0		0△0	0△0	5	1	2	0	3	0	3
3	愛媛FC U-15(四国2)	0●3	0△0		3○0	4	1	1	1	3	3	0
4	アリーバFC(九州4)	0●2	0△0	0●3		1	0	1	2	0	5	-5

順位	Cグループ	多摩	C大阪西	沼津	ヴェクサール	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC多摩ジュニアユース(関東2)		3△3	6○1	4○1	7	2	1	0	13	5	8
1	セレッソ大阪西U-15(関西3)	3△3		6○1	4○1	7	2	1	0	13	5	8
3	アスクラロ沼津U-15(東海5)	1●6	1●6		5○4	3	1	0	2	7	16	-9
4	ヴェクサール沖繩FCジュニアユース(九州7)	1●4	1●4	4●5		0	0	0	3	6	13	-7

順位	Dグループ	横浜FC	仙台	今治	礼幌	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜FCジュニアユース(関東7)		2○0	3○1	3○0	9	3	0	0	8	1	7
2	ベガルタ仙台ジュニアユース(東北2)	0●2		2○1	2●3	3	1	0	2	4	6	-2
3	FC今治U-15(四国1)	1●3	1●2		2○1	3	1	0	2	4	6	-2
4	北海道コンサドーレ札幌U-15(北海道1)	0●3	3○2	1●2		3	1	0	2	4	7	-3

順位	Eグループ	神戸	栃木	SSS	可見	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸U-15(関西1)		3○2	10○0	1○0	9	3	0	0	14	2	12
2	栃木SC U-15(関東10)	2●3		0△0	3○1	4	1	1	1	5	4	1
3	SSSジュニアユース(北海道2)	0●10	0△0		0△0	2	0	2	1	0	10	-10
4	FCV可見(東海6)	0●1	1●3	0△0		1	0	1	2	1	4	-3

順位	Fグループ	名古屋	リッパース	カナロア	福岡	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	名古屋グランパスU-15(東海1)		1△1	2△2	2○0	5	1	2	0	5	3	2
2	リッパースSC(関西7)	1△1		3○1	1●2	4	1	1	1	5	4	1
3	FCカナロア(関東6)	2△2	1●3		2○0	4	1	1	1	5	5	0
4	アビスパ福岡U-15(九州6)	0●2	2○1	0●2		3	1	0	2	2	5	-3

順位	Gグループ	鹿児島つくば	広島	フレスカ	a.c福島	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	鹿児島アントラーズつくばジュニアユース(関東12)		1○0	1△1	2○0	7	2	1	0	4	1	3
2	サンフレッチェ広島FCジュニアユース(中国1)	0●1		2○1	0△0	4	1	1	1	2	2	0
3	FCフレスカ神戸(関西5)	1△1	1●2		1△1	2	0	2	1	3	4	-1
4	JFAアカデミー福島U-15 EAST(東北3)	0●2	0△0	1△1		2	0	2	1	1	3	-2

順位	Hグループ	清水	G大阪門真	F東京むさし	鳥栖	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	清水エスパルスジュニアユース(東海2)		1○0	2○1	2○0	9	3	0	0	5	1	4
2	ガンバ大阪門真ジュニアユース(関西4)	0●1		0△0	2○0	4	1	1	1	2	1	1
3	FC東京U-15むさし(関東11)	1●2	0△0		1○0	4	1	1	1	2	2	0
4	サガン鳥栖U-15(九州2)	0●2	0●2	0●1		0	0	0	3	0	5	-5

順位	Iグループ	新潟	フェルボール	フォルツァ	東急	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アルビレックス新潟U-15(北信越1)		2○1	0△0	1○0	7	2	1	0	3	1	2
2	FCフェルボール愛知(東海3)	1●2		1○0	3○0	6	2	0	1	5	2	3
3	フォルツァ'02(関東14)	0△0	0●1		2△2	2	0	2	1	2	3	-1
4	東急レイエスFC U-15(関東3)	0●1	0●3	2△2		1	0	1	2	2	6	-4

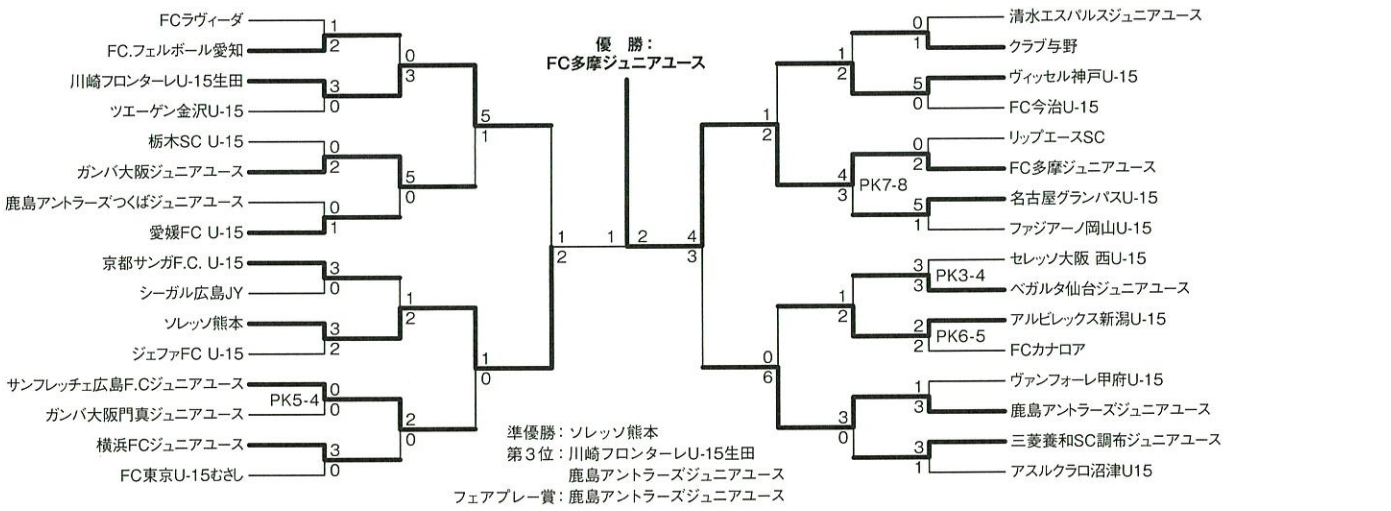
順位	Jグループ	京都	与野	ジェファ	刈谷	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	京都サンガF.C. U-15(関西2)		0●3	4○1	3○0	6	2	0	1	7	4	3
2	クラブ与野(関東13)	3○0		0●1	2○1	6	2	0	1	5	2	3
3	ジェファFC U-15(関東9)	1●4	1○0		3○2	6	2	0	1	5	6	-1
4	刈谷JY(東海4)	0●3	1●2	2●3		0	0	0	3	3	8	-5

順位	Kグループ	川崎F生田	シーガル	長崎	フォーリクラス	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	川崎フロンターレU-15生田(関東8)		2○1	5○3	7○0	9	3	0	0	14	4	10
2	シーガル広島JY(中国3)	1●2		2△2	3○1	4	1	1	1	6	5	1
3	V・ファーレン長崎U-15(九州1)	3●5	2△2		1△1	2	0	2	1	6	8	-2
4	FCフォーリクラス仙台(東北1)	0●7	1●3	1△1		1	0	1	2	2	11	-9

順位	Lグループ	ラヴィータ	G大阪	金沢	鳥栖唐津	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FCラヴィータ(関東1)		2○0	5○0	3○0	9	3	0	0	10	0	10
2	ガンバ大阪ジュニアユース(関西6)	0●2		1●2	4○0	3	1	0	2	5	4	1
3	ツエーゲン金沢U-15(北信越2)	0●5	2○1		1●2	3	1	0	2	3	8	-5
4	サガン鳥栖U-15唐津(九州5)	0●3	0●4	2○1		3	1	0	2	2	8	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



MVP: 吉田湊海 (FC多摩ジュニアユース)
MIP: 菊山璃皇 (ソレック熊本)
得点王: 吉田湊海 (FC多摩ジュニアユース/11得点)

データボックス

準決勝

川崎フロンターレ U-15生田 1 [前半1-1 後半0-1] 2 ソレッソ熊本

●2023年8月23日 11:00 ●帯広の森球技場A ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]長谷拓 [副審]高須賀哲平/若本騎士 [第4の審判員]鈴木悠次郎 ●観衆:100人

川崎F(監督:久野智昭):[GK](1)岩田幹太郎 [DF](2)小川翔太<-72'(4)菊池京>(3)藤田明日翔(5)山川陽平(18)長崎直佑 [MF](6)木下勝正(7)三上瑛大(8)小川尋斗(10)奥田悠真(38)小田脩人<-79'(20)メンディー・サイモン友> [FW](11)十河晟央

控え:(19)高橋香椰(9)小林朝日(13)橋本乃翔(15)平尾玲旺(17)富田周平(22)玉木聖輔(42)全大海

ソレッソ(監督:広川龍介):[GK](21)枝川航大 [DF](3)木下斗稀(6)福本耕大(16)宮本大雅至 [MF](4)太田大翔(7)梶原夢月(8)山本翼(14)渡部友翔(28)野口魁斗(30)宮崎叶 [FW](9)菊山瑞皇<-80+5'(13)甲田清太郎>

控え:(12)高光進(2)三宮慶門(5)岩根孝介(11)宮原侑斗(19)村上雄飛(20)満原斗愛(24)西涼介(29)三宮汰翔

得点:[川崎F]40+2'小田脩人(1-1) [ソレッソ]40'山本翼(0-1)、53'菊山瑞皇(1-2)

準決勝

FC多摩ジュニアユース 4 [前半1-0 後半3-3] 3 鹿島アントラーズジュニアユース

●2023年8月23日 11:02 ●帯広の森陸上競技場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]宗像謙 [副審]川勝彬史/吉田雅 [第4の審判員]原尾英祐 ●観衆:100人

FC多摩(監督:平林清志):[GK](1)林亮太 [DF](3)尾形太一(4)古川蒼真(5)土岐桂音(17)有山輝 [MF](6)高橋悠(8)松本瑛太(9)坂穂高<-79'(7)加藤歩真>(10)吉田凌海(26)吉田崇音 [FW](11)樋口佳<-80+5'(22)木山淳之助>

控え:(16)佐藤慶和(13)有馬佑賢(14)吉川優空(15)伊達煌将(20)竹内遼太郎(25)安藤晴都(30)山崎善士

鹿島(監督:篠原義貴):[GK](16)瀬出井柚希 [DF](2)林勸太(3)米川彪音(22)倉橋幸唯 [MF](5)大貫珠偉(6)小枝源馬(8)平島大悟(9)滝澤周生<-59'(11)大川寛翔>(10)小笠原中央<-76'(15)福田竜正>(18)若土そら<-76'(4)奥田郁哉> [FW](13)高木琢人

控え:(1)小松崎悠仁(7)三好凌月(12)石井琉偉(14)須釜朱王(20)石渡智也(25)水戸淳平

得点:[FC多摩]36'吉田凌海(1-0)、47'松本瑛太(2-0)、60'、73'吉田凌海(3-1)(4-1) [鹿島]49'高木琢人(2-1)、80+3'大川寛翔(4-2)、80+6'平島大悟(4-3)

[参加選手]

<北海道コンサドーレ札幌U-15> 監督:柴田慎吾
梶西明日真、樺五慎、藤田愛輝、白熊球仁、澤田主道、小山直仁、河村虎之介、古川蒼空、井田泰彰、伊藤操真、西村和真、松坂志志、吉村瑛琉、大澤忠臣、徳差優利、猪谷梗大、太田杜和、河合陸、石川翔輝、砂川翔夢、鳥井優志、浜田隼輔、桑原智琉、佐々木瑛汰、多田蒼生、宮本眞生、対馬夢夢、菊池瑠生、桑原瑠緒、守谷春輝

<SSSジュニアユース> 監督:岩越英治
本田悠晴、加藤慎、村上敦紀、荒川颯太、東清太郎、武田虎、佐藤新二郎、菅原悠陽、藤本圭大、菅原秀真、斎藤悠輝、六車幸太郎、佐々木悠人、新岡龍征、田村歩夢、長谷川珠凛、関根斗、及川寿功、善行太一、小山諒人、芦谷真真、吉田奈将、榎本悠陽、松本悠音、平元寛大、荒木天翔、高林莉哉、原田悠冬、大坂虎太郎、小原綺斗

<FCフォアークラッセ仙台> 監督:飛奈優太
今野太朗、加藤志優、小笠原叶真、高橋秀斗、安齋斗歩、石原渥大、大槻光、石井子竜、楠美希音、松岡大翔、葛西凌弥、今野晃大、松浦帆雅、土肥優輝、若手陽々希、跡部涼、中村昊成、結城快成、工藤雅哉、宮本理良、村上琉性、出羽粋、三井寺真、小澤奏志、小林昊健、佐藤仁仁、田澤聡大、鈴木結輝、山内心結、小澤煌志

<べガルタ仙台ジュニアユース> 監督:磯山佳介
小林伶斗、坂井遼音、伊藤大倫、藤島瑛大、餅田大夢、渡邊兼治郎、千田悠人、清末寛七、石野悠翔、岩淵祥士、鎌水桜雅、阿部空音、佐藤昂太、石山葉琉、中村旬、伊藤煌真、氏家勇武、林大和、安部謙尋、田中理士、高久遠成、荒木青葉、松田啓来、菅野浩希、美音津慶、佐々木亮、小山西、久保佑貴、和久侑矢、伊藤暖人

<JFAアカデミー福島U-15 EAST> 監督:池内豊
苗田征衛門、菅野楓翔、新井啓一郎、齋藤陽乃心、菊地大翼、宮本洗希、オディケ・チソン太地、小林惺十郎、落合哉太、劔持翼、永山慶輔、森悠貴、岡崎我徠、奥村玲央、倉部碧希、田村悠真、中澤蓮、疋田将、谷伏快地、中山琉嘉、森新太、吉原希音、大竹玲、大野琉翔、齋藤浩司、松下歩夢、山田舜、末永悠輝、渡辺颯也、北川翔大

<FCラヴィータ> 監督:村松明人
金昶鉄、古村桂唯、門倉遥夢、石田悠人、宮田恭之介、上野野篤、高見澤光、カマラ・シェックセザール、佐々木宏昌、村上白虎、磯崎沙夢、笠原慶多、藤縄瑛士、山崎宏太、根津優羽、人見大地、吉澤涼希、飯島碧大、田島凜人、有泉泰大、吉田陽日、浅野蓮、柳川李夢、島田大雅、山本龍藍、関口結安、金沢和樹、白須裕基、押江颯人、山崎佑太

<FC多摩ジュニアユース> 監督:平林清志
林亮太、佐藤慶和、中川蒼大、石渡智也、尾形太一、古川蒼真、土岐桂音、五十嵐飛和、有山輝、竹内遼太郎、安藤晴都、山崎善士、高橋悠、加藤歩真、松本瑛太、坂穂高、吉田凌海、有馬佑賢、吉川優空、伊達煌将、峰尾陸之介、木山淳之助、前出健翔、土屋大河、吉田崇音、野中颯人、内田休、小原青波、樋口佳、深澤悠太

<東急スレイエスFC U-15> 監督:高野湧暉
松南光祐、田住樹、丸山大輝、山越侑磨、川村拓巳、小柳将、石川馨太郎、田上晃之介、吉澤輝輝、川西悠太、工藤遼人、保延昭良、木村千尋、齊野蒼志、高橋力斗、鈴木快、塩澤宗月、松井優空、徳留映人、日暮大睦、岸澤晴、四戸流輝、西城大翔、北野太聖、佐藤翔星、伊東翼、武本陽向

<鹿島アントラーズジュニアユース> 監督:篠原義貴
小松崎悠仁、瀬出井柚希、藤倉翼、三崎斗馬、林勸太、米川彪音、奥田郁哉、石井琉偉、野中秀都、倉橋幸唯、遠藤優輝、水戸淳平、鈴木大翔、山中飛佑、大貫珠偉、小枝源馬、三好凌月、平島大悟、滝澤周生、小笠原央、若土そら、佐々木啓士、石渡智也、曾ヶ端輝、羽田煌士郎、東城樹、大川寛翔、高木琢人、須釜朱王、福田竜正

<三菱養和SC調布ジュニアユース> 監督:村田修斗
酒井響大、鈴木星汰、鄭幹太、川口大我、畑中大輝、宮地翔大、堀圭登、池田和之、田中健太、河合琉生、榎井琉翔、中澤駿斗、佐藤新汰、杉浦鈴夫、中野凌平、城内慎、山岡莉人、江口慧太、長谷川夏樹、星野青、長田愛澄斗、工藤翼真、加藤謙大、白鳥蓮、伊東晴波、吉田優太、植田雄太郎、日野瑛翔、佐伯大和、相楽羽琉

決勝

ソレッソ熊本 1 [前半1-0 後半0-2] 2 FC多摩ジュニアユース

●2023年8月24日 11:00 ●帯広の森陸上競技場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]川勝彬史 [副審]長谷拓/若本騎士 [第4の審判員]鈴木悠次郎 ●観衆:300人

ソレッソ(監督:広川龍介):[GK](21)枝川航大 [DF](3)木下斗稀(6)福本耕大(16)宮本大雅至 [MF](4)太田大翔(7)梶原夢月<-80+4'(11)宮原侑斗>(8)山本翼<-66'(5)岩根孝介>(14)渡部友翔(28)野口魁斗<-80+7'(13)甲田清太郎>(30)宮崎叶 [FW](9)菊山瑞皇

控え:(12)高光進(2)三宮慶門(10)野口蓮斗(19)村上雄飛(20)満原斗愛(29)三宮汰翔

FC多摩(監督:平林清志):[GK](1)林亮太 [DF](3)尾形太一(4)古川蒼真(5)土岐桂音(17)有山輝 [MF](6)高橋悠(8)松本瑛太(9)坂穂高<-77'(7)加藤歩真>(10)吉田凌海(26)吉田崇音<-77'(15)伊達煌将> [FW](11)樋口佳<-47'(18)深澤悠太>

控え:(16)佐藤慶和(13)有馬佑賢(14)吉川優空(20)竹内遼太郎(25)安藤晴都(30)山崎善士

得点:[ソレッソ]18' 菊山瑞皇(1-0) [FC多摩]78' 有山輝(1-1)、80+5' 伊達煌将(1-2)

<FCカナロア> 監督:黒川大吾
大塚蒼空、中村仁翔、吉田虎太郎、有馬悠斗、惣田舜、立石大悟、樋口豊生、奥翔汰、生方佑希、藤生雄太、瀬川優光、松村運太郎、佐藤俊也、田中悠輝、神村洗生、水谷瑞空、福西隼人、今鷹叶、元久滉大、前川眺太郎、黒川世成、玉井優輝、折田歩光、中島新、波田野俣賢、米崎雄登、菅根崎太智、高橋希武、鈴木秀虎、武笠広大

<横浜FCジュニアユース> 監督:和田拓三
山岸克斗、飯野凌斗、菊地晴人、西方瑛太郎、小島頂睦、西岡天平、鈴木歩武、高木翔太、寺島颯人、川端里季、宮坂悠生、泉晴行、尾方啓太郎、橋見隼風、福岡満大、樫浦裕、高原由翔、鈴木晴弥、小田部一希、吉本翼、風間健太郎、浅井翔、池田颯太、蛸島颯、永井琉、齋藤翔、四日裕歩、黒木星南、大沼隼士、宮崎泰史

<川崎フロンターレU-15生田> 監督:久野智昭
岩田幹太郎、岡本菜汰、高橋香椰、植木琉斗、加藤直介、小川翔太、藤田明日翔、菊池京、山川陽平、富田周平、長崎直佑、メンディー・サイモン友、山根春人、笹倉拓真、大原比呂、木下勝正、三上瑛大、小川尋斗、奥田悠真、橋本乃翔、尾田悠太、平尾玲旺、白倉凛生、今廣遥碧、武内勇人、小田脩人、小林朝日、十河晟央、玉木聖輔、全大海

<ジェファFC U-15> 監督:山田雅俊
岡野志信、青木聡明、塩原星南、木崎晴太、嘉味田颯太、平松永宇、山崎大樹、小川昂琢、川原翼、吉田龍悟、阿部来夢、安田龍都、原田響、牧元遼真、加川雄真、東佑次、増田結太、鈴木真之介、宮内陽翔、山川翔太、松田愉也、西田琉晟、田中悠輝、小川澄羽、松浦凜太郎、田崎颯羽、沼田瑞輝、山崎暎陽、古賀大雅、廣瀬凜生

<栃木SC U-15> 監督:花輪治之
廣瀬愛永、森川太郎、佐野優真、久米奏夢、島野陽菜、鶴田真大、箕輪諒太、本村圭吾、箕輪陸斗、久保田勝音、波多野壮介、上野唯希、沼本諒太、星和陽、横浜丞、上村琉空、二橋優心、松井秀太、湯浅友吾、濱田空輝、加藤明憲、羽石蒼、土屋潤葉、木村隆太、橋龍はじめ、山口悠斗、三浦颯太、市川遥華、五月花雅平、渡邊虎之介

<FC東京U-15むさし> 監督:藤山仁仁
新郷惠太、仲七瑛、鈴木太志、加藤駿平、小島凜久、岩井陽、野呂才蔵、大原单介、永田柗真、橋本凜来、塩崎春斗、石村琢人、オノノジュ類主、井上璃玖、安永龍生、木嶋翔海、中島大芽、酒井理央、北原慎、梶山蓮翔、若佐昊太郎、青木智史、中島瑞久、酒井マクシム、井部結斗、高柳大夢、井上京哉、渡見太晴、城秀人、高井鉄勝

<鹿島アントラーズつくばジュニアユース> 監督:山尾光則
牧野澤音、齋田大武、大下幸誠、井川世愛、中村一平、斎藤健人、俣野寛太、芝野来希、布袋結太、桑畑淳希、窪田悠人、中村圭、福岡勇和、高山大世、高木春翔、三角次郎、熊澤結人、松原怜輝、橋本陽菜、山中碧人、鈴木幸空、古川将太郎、柗佑侑音、川崎大空、安塚悠真、笹島拓翔、奥田陽、秋山駿、土井空芽、片桐仁仁

＜クラブ与野＞ 監督：中森耕平

三浦岳、白倉堅秀、江戸渚人、宮城慧大、関根聖央、木内悠斗、高久翔太郎、辻葵仁、須佐響、蓮池瑛斗、西野陽大、山本賢、古川隆斗、照後大翔、松本空、中田夕也、大熊瑠空、藤宮陽向、齋居慧、柄本凱斗、川口優、蝦名翔太、山下永真、福島歩翔、山内紫結、七田凌、川島未来、飯野陽向、在木結都、藤原拓矢

＜フォルツァ02＞ 監督：大野将則

築山遥、緑川琉夢、池田徠更、久保田碧天、橋虎太郎、佐伯蒼生、小林篤人、湯本煌大、小田結士、小倉康太郎、石山旅斗、渡邊太智、藤田惺樹、阿部貴史、阿部大洋、工藤友哉、野網凜生、浅倉大雅、長田泰知、尾崎雄祐、今井鳳介、小久保佳祐、鈴木雄太、大石寛吾、藤原歩、長井涼河、磯部我道、新田遼、山田晁誠、江川怜

＜ヴァンフォーレ甲府U-15＞ 監督：島根聡一

後藤翔羽、桑原志帆、坂本竣、濱孝成、中込惺介、宮下阿陸路、大久保詞苑、米山透矢、井出侑、中澤俊李、金井駿和、大澤輝翔、原ジェフ、篠原咲弥、田畑白哉、小林誠誠、鈴木悠颯、加々美勲、斎藤蒼空、芦澤蒼空、井崎悠也、清水陽生、神林隼輔、深澤健太、鋸持巴宇、芦沢快利、堀内歌月、内藤星龍、名執太賀、齋藤叶空

＜アルビレックス新潟U-15＞ 監督：水野裕太

田邊康太郎、松浦大翔、佐藤壯太、佐藤空斗、神田晟仁、土田愛翔、鈴木勝大、竹内彪偉、長沼慎悟、中澤琉輝、森山瑠空、安藤創、本間光光、上林千宥、渡邊瑠晴、根津香之介、森山裕太、本間響、森田暁也、長谷川蒼羽、石井瑛大、長集乃介、阿部心、山崎琉偉、上田陸、井上翔真、キャラミ瑛太

＜ツエーゲン金沢U-15＞ 監督：寺中克典

元林隼太郎、浦蒼太、中西崇稀、大川力軌斗、横川天馬、敷田桐也、長田圭人、大島颯太、澤蓮太郎、川井湊、川下静空、坪内柝音、中西藏之介、藤谷琉、室屋吉吉、荒木叶瑠、牧野翼、岸新大、野田和空、筆安優吏、能谷泰人、宮岸留生、前江田響輝、多葉田佑吏、永井杜和、米倉生真、青木勇斗、青山和樹、下澤到矢、関口瑛心

＜カターレ富山U-15＞ 監督：明堂和也

松浦日向汰、内山悠吾、能登圭吾、吉田英統、石坂太一、荒木将太郎、村上達郎、成田翔馬、桜井優義、長岡蓮、長能天河、山田濤平、本瀬颯大、近藤悠登、田中一哲、辰巳遼太、米本琉人、喜多夏生、森山心潤、小関悠斗、白鳥真眞、深川晃羽、日南翼、朝倉凜、浅井凜玖、吉川優雅、黒田和希、池森結心、角命礼俺、家城稜太

＜名古屋グランパスU-15＞ 監督：井口大輔

宮本煌大、加藤直太郎、大河怜多、前田恋、小島叶南太、成瀬楓悟、内海杏檜、浅井生磨、水野優人、白男川玲斗、田中瑛翔、宮本新、津村丈太、恒吉良真、中條遼人、千賀翔太郎、飯田啓斗、清水凜一郎、大澤葵、池田歩弘、今津翔太郎、上阪碧都、加藤一海、齋藤太陽、西青木佐恭、石田翔琉、大見咲新、井内庸介、八色隼人、山口雅貴

＜清水エスパルスジュニアユース＞ 監督：渡辺誠

内田康輔、太田隼斗、福代凌雅、山田竜之介、齋藤諒、足木奏心、樋口新、安本桜亮、栗田紅之亮、高田拓海、中井晴基、望月蒼太、増田奏萌、杉山琥二郎、鈴木晴智、村松亮、半田怜也、徳田琉生、勝又啓介、清水惺羽、磯邊准平、河波飛和、宇山蒼介、山崎瑠晴、梅原駿輝、佐藤陽斗、秋山陽登、渡邊央央、澤田卓磨、若山崎良

＜FC. フェルボール愛知＞ 監督：細萱信行

近藤慧、小林柗斗、中原朱紀、三品奏斗、高比良太輝、今瀬薫、坂蓋祐飛、土橋クール、杉山悠、山田耀来、中村星斗、橋本憐汰、山田輝輝、奥村琉、大澤俊哉、相澤怜美、社本碧斗、宮川奏太、野上怜玖、清本貴仁、古川陽乃、大滝尊琉、松田悠世、中嶋龍之介、加藤朝陽、成瀬颯進、左藍斗、岡山昂生、城飛翼、道白貞真

＜刈谷JY＞ 監督：吉村大輝

今井蓮、安井夢生叶、稲垣太陽、成瀬旬、赤沼想斗、村上空澄、浦山隼、田中横一、渡辺悠輝、岡田楓真、小田京典、岩谷嘉利武、渡辺尚生、山根聖和、上浦悠、大槻奏斗、井関山翔、内田隼太、滝本啓介、桃崎碧汰、藤井孝太、喜田朱空、岩谷嘉瑠武、佐藤煌太、小野澤アルビス、若橋一期、杉本怜音、布目晏士、高橋卓波、奥高大悟

＜アスルクラロ沼津U15＞ 監督：森田崇治

石原大吾、池上統真、河越蓮、高木太朗、矢崎雄大、小田快里、藤本悠矢、菊池悠高、馮友誠、近藤琉雅、永田拓輝、土屋碧人、塩崎丈、清昂永、牧勇翔、濱口克己、杉山琉碧、井出羽優、山口琉、井上煌大、栗原吉成、若林幸輝、松岡広志郎、齊藤航生、村松海音、木内智稀、與五澤陽翔、豊田太一

＜FCV可児＞ 監督：野村次郎

田中裕裕、井戸大翔、龜谷旭飛、江島陸人、谷野龍虎、橋本奏真、間宮鼓道、深尾耀太、加藤巧馬、安波泰雅、加納汰一、山田航太郎、下斗米優弥、吉良到馬、永井佑、宇野樹、塩谷陸、日置翔海、渡辺翔、綿綿凌羽、城間優豪、谷口瑛太、長谷川結星、田代智久、南谷颯良、伊藤快留、佐藤我我、間宮優聖、鈴木遥斗、北村蒼使

＜ヴィッセル神戸U-15＞ 監督：山道高平

胡云皓、大田仁、吉川怜汰、木全皓志郎、西岡鷹佑、西村水岐、天野滉大、大西堅三、櫻井雄斗、濱吉一太郎、佐々木陽生、堀真央登、三谷友浩、山下翔音、川谷大輝、上野颯太、里見汰福、大影倭一郎、松尾将貴、井内亮太郎、岡田彦彦、廣瀬虎乃佑、笹銀志、土井口立、山田修大、上本佳生、橋本拓実、合戸奏生、尾崎世空、恩田拓夢

＜京都サンガF.C. U-15＞ 監督：手島和希

藤生太郎、津木勇聖、谷口雄太郎、太田佳佑、三原煌平、山本怜央、児玉一成、橋本龍英、小澤瑠久、兼田想大、中村涼大、浅井琥宇、古田快斗、岡田悠雅、藤沼咲、平岡貴敬、山本琉惺、古莊隆太、阿部篤矢、大原剛生、岡本偉汰、樋口僚哉、牧野太河、川端彪亮、藤井敬士、山岡凌陽、滝川颯馬、田村駿弥、藤堂優寛、西村一牙

＜セレッソ大阪 西U-15＞ 監督：小林大輔

金谷直太郎、山田空輝、川中碧音、黒川偉心、海保颯大、米田剛琉、木立希夢、石崎玲士、荒本路久、津田颯太、長谷川貴也、寺本空、大島鉄平、丸尾康太、エゼモクエチメツェ海、大迫涼太、中村篤仁、森伊織、岡崎葵、片山祥洋、林朋樹、力石集之介、田中翼、國吉晴向、木村風河、坂元佑祐、山元詠太郎、西川碧、塩尻哲平、村上翔二郎

＜ガンバ大阪門真ジュニアユース＞ 監督：宗像剛

岩本秋太郎、森川太陽、田中悠聖、森分将吾、吉田峻馬、谷山蒼空、久保颯斗、松尾岳、藤川智也、中嶋将太郎、法貴大空、林宗佑、成田天夢、小山ジーン、小阪大輝、中森律、小堀崧咲、嶋岡陽大、共田泰盛、中村倉太郎、原田尚幸、古川俊、田中謙伸、秦翔太郎、真殿京佑、江阪琉輝、中野琉允、伴朔寿、河合優哉、南畑大太

＜FCフェスカ神戸＞ 監督：高橋和幸

加古翔太郎、源泰晴、山下達也、元砂晏翔仁ウデンバ、小林大生、清水大世、西尾翼、菊池奏、仲田連史、池内翔太、福井誠ノ介、小林昂、永田耀雄、青木陸輝、井上大誠、庄司權、小林隼太、谷田准梧、栗岡希夢、石原一賢、児山雅稀、岡田燈、和食陽向、岡中舜、小山恭平

＜ガンバ大阪ジュニアユース＞ 監督：児玉新

野畑優真、竹村翔、藤ヶ谷陽歩、森山湊介、川童琉偉、下西遥斗、丸岡海太、横井佑祐、松谷翼生、中川慶人、近藤朱莉、小林蒼、岡元侑大、森永晃太郎、中島大翔、村田康輔、河内昂、比嘉碧、橋本聖七、谷口優生、岡本新大、笠井太史、北井涼介、藤本祥輝、城阪光喜、吉良志遠、安井司、三村走太、早崎雅哉アレキサンダー、川野聖

＜リップエースSC＞ 監督：今村康太

中野晴翔、前原琢人、久楽琥白、西園友葵、北島寛斗、前田蒼生、笠谷陽、吉川知希、奥田嵩仁、鈴木颯真、鈴木竣也、上田宗次郎、田嶋寛人、矢野修誠、内野嵩悠、北野碧、米澤永和、辻村隼己、山下結叶、中須春馬、加茂勝也、菅野哲夢、沖口颯亮、原田幸、西村風車、福井健将、福井悠斗、花田泰成、小森英哲、立石陽向

＜サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース＞ 監督：遠藤真仁

山田真叶、満身晋乃介、锚奏太郎、越智亮介、西川和樹、森井莉人、若岡宏造、實田航大、小原千春、小川蒼太、市川宙、濱田圭吾、足立丈、内田凌太郎、宇野陽向、川崎敦史、野坂啓人、岡田龍斗、原漢士、正法地有、田中優翔、河上颯希、若弘凜空、中本律、森山一徹、福谷天慈、信重亮二郎、佐藤壯知、横山宏、齋藤蓮翔

＜ファジアーノ岡山U-15＞ 監督：猿田公章

近藤祥諒、横川遥也、古市勝也、渡邊大樹、榎諒次、向井涼太、山本健太、松本千太郎、平松晃、清野廉志、小山颯真、家嶋佑久也、津上楓基、森光英斗、仁科碧人、矢島航衣、竹田陸人、矢吹英太、山内修平、大村兼慎、藤原幸健、森翔永、平田隼偉、堤清史郎、矢田蓮歩、五老海太智、糸野樹、家嶋晟久也、元野蒼空、伍賢悠真

＜シーガル広島JY＞ 監督：森龍弥

大野暖、清瀬天琉、田中優斗、山口石希、大野空、吳蒼悠、富田創、保手漢慶次、横野海斗、の場鉄生、屋根本純、西岡健太郎、石田凌嗣、池田在、岡朔太郎、高尾仁、高島天馬、細崎喬士郎、政藤涼空、松浪優仁、室賀琉璃、山見晋平、山本悠人、義本晴生、今實渡司、岡村隼輔、川西大志、久保田聖渚、横山翔真、米田脩馬

＜FC今治U-15＞ 監督：池田祐樹

森川煌、森光信、宮岡陸空、渡部有夢、伊藤健介、村瀬純一、桂田聖、日和佐斗陽、石山潤、曾我暖、大高夢翔、渡邊友陽、伊藤大翔、黒川亜斗夢、鳥谷英汰、渡部蒼央、垂水新太、東裕貴、宇都宮颯太、江原莉夢、藤岡琉樹、松林水流、江原悠夢、高橋周大、池田昇之佑、岡岡海希空、今井瑛太、丹大和、結田行首、北野聖大

＜愛媛FC U-15＞ 監督：小笠原佑生

山田律斗、小笠原謙伸、高梨翔優、森田蒼一朗、黒河涼介、渡邊俊史、山本龍乃丞、塩見勇貴、高須賢運、田邨玲弥、鶴身颯斗、河野凌成、喜安翔歩、塩田伊織、井上玲葵、真部賢太郎、小松海晴、仙波隼太郎、羽鳥瑛太、中本崇太、徳島汰一、若藤生人、青木千眞、矢野泰聖、菅範十、大森叶翔、藤山純斗、中村瑠偉、山岡遥斗

＜V・ファーレン長崎U-15＞ 監督：佐賀洋司

徳永海志、松島葵、柿田龍希、才木隆功、吉村優、田中友章、山道大翔、竹野隼人、瓶田誠向、上川凜太郎、才木琉偉、森永功喜、鳥越朔太郎、中山想、岩永大翔、阿比留大翔、三浦圓之助、本田麗月、池田脩、堀隼人、犬束亮介、濱本恭輔、大海志穂、村田壯優、馬場歩夢、酒井瑞生、比嘉蓮、林田翔馬、坂下大和、江川瑠璃斗

＜サガン鳥嶋U-15＞ 監督：森恵佑

エジケ唯吹ヴァンセントジュニア、北島拓海、小田詩文、梅崎正基、片刈緑、福田直太郎、米渥勇弥、坂口晃太郎、寺井廣良、井手幹太、田嶋春空、眞崎舜大、本村晃成、末次隣、清水法生、大野廉門、小田詠人、大前七楠音、松崎陽向、伊澤璃来、仙石新、山下晃良、原田蓮太郎、森田忠太郎、原巧実、山根瑞久、山田航慎、萩原健斗、栗崎凌匠、下田翔太

＜ソレッショ熊本＞ 監督：広川龍介

西田蒼空、高光進、枝川航大、三次慶門、木下斗稀、岩根孝介、福本耕大、木下晴斗、宮本大雅、藤瀬翔太、福本晃、西涼介、松原琉真、三宮汰翔、太田大翔、梶原夢月、山本翼、野口蓮斗、宮原脩斗、渡部友翔、大隈士桜、村上雄飛、満原斗愛、宮崎正太郎、谷口凌斗、西瑛汰朗、野口魁斗、宮崎叶、菊山璃皇、甲田清太郎

＜アリーバFC＞ 監督：日高大樹

今門唯斗、古宮隆翔、今泉瑛翔、山岡拓登、假屋朋希、園師裕介、吉田堅信、長谷川泰馳、甲斐爽斗、真方蓮斗、大田幸信、東脇晴那、冨田宗暉、河野瑠、川越鼓虎、芝吹達朗、大原諒真、山岡純実、植原陸翔、大久保海翔、古宮翔太、米満侑人、矢野瑛大、瀬戸山輝海、堀之内洗太、尾崎孔哉、児玉友希

<サガン鳥栖U-15唐津> 監督:岩田雄介

久富一寛、前田泰史朗、藤田流伊、飯田琉太、倉橋優、池田悠大、吉村実貴、永野凜大、吉田琉牙、熊谷蒼生、高松佑、梶原宏聖、長谷川良平、栗山洗政、河村彩叶、小森太斗、小柳志有人、福永壮真、板谷一平、岩永歩夢、小川龍之介、吉原勤九朗、正木流久、古里春、篠島海太、武藤蒼大、古谷龍太郎、江里冠、岡部有翔、鉄留史都

<アビスパ福岡U-15> 監督:宮本亨

田中利玖、島本小鉄、江崎新、鬼塚桂汰、山下來夢、大嶋央貴、藤川虎三、本多巧来、中村蒼真、石田慶次、福永蓮、石川椋大、永田湧大、森内雅也、竹嵩翼、永富颯人、武本匠平、森尊琉、池田琉大、品川維風、結城礼空、齋藤龍征、今吉涼雅、平本晃望、細入巧幹、犬塚夏成、吉村玲虹、花田鼓太郎、丸山裕誠、牛島弘貴

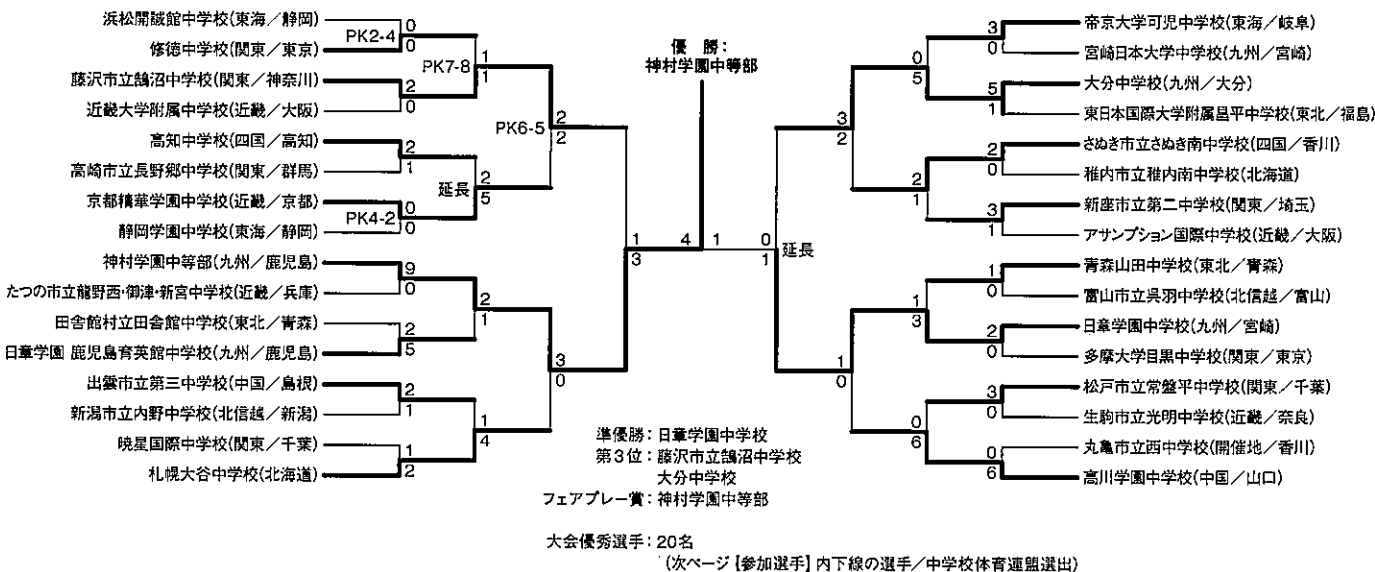
<ヴィッカーズ沖縄FCジュニアユース> 監督:新城圭吾

阿部慶龍、平良星馬、新城帆翔、中村瑠唯、國吉耀士、島袋海生、赤嶺光侶、上原大虎、大城凛、諸見里安翔、宮城宏稀、上原慈英、八木明玉、根間琉帆、上原文太郎、平安優介、板良敷朝輝、川上弘慎、宮城調順、金城歩武、友寄隆翔、中村愛徳、安原名耀也、崎濱陸晃、玉城千也、伊波一敏、下野菜陸、金城旭輝、新垣心、我如古一心

令和5年度 全国中学校体育大会 / 第54回全国中学校サッカー大会

本大会は、公益財団法人日本中学校体育連盟、香川県、高松市、三木町、坂出市、綾川町、丸亀市の各教育委員会およびJFAが主催し、全国大会参加資格を得た一校単位で組織するチームでJFAに加盟、かつ当該チームに所属する都道府県中学校体育連盟加盟の中学校に在籍する生徒(ただし2008年4月2日以降に生まれた者に限る)に参加資格が与えられた。今大会は8月19日~24日、32チームが参加して香川県で開催された。

※76ページに関連記事あり



データボックス

準決勝

藤沢市立鶴沼中学校 1 (前半0-2 後半1-1) 3 神村学園中等部

●2023年8月23日 10:00 ●香川県総合運動公園第2サッカー場 ●試合時間:60分 ●審判員:[主審]若本穂花 [副審]藤田美智子/神高里紗 [第4の審判員]水谷健太郎 ●マッチコミッショナー:夏田英司 ●観衆:100人

鶴沼中(監督:國賀健士朗):[GK](1)木村俊貴 [DF](3)三島航希(5)稲葉洋斗(20)長澤海晴(22)原大地(47)西條天翔 [MF](9)引間瑛太(10)保科蓮<-→60+2'(4)石波大貴> [FW](11)関根暖太(18)若旅遼真<-→41'(23)植田慧>(19)入山幸司<-→37'(14)高橋要> 控え:(16)小林大志(7)服部泰晟(8)西澤成(13)荒井亮生

神村学園中(監督:松本翔):[GK](1)久保侑工 [DF](2)木塚海璃(13)中江銀次(15)竹野楓太 [MF](5)梶谷陸人(8)長友奏大(9)奥田敦斗(10)花城瑛汰(16)大浦貴晶 [FW](12)西村朋優<-→43'(20)小園晟之朗>(14)伏原樹空 控え:(17)國吉蒼平(3)小澤康太(4)米村颯真(7)大迫晴(18)山室優貴(19)梶見俊太郎

得点 [鶴沼中]53'保科蓮(1-2) [神村学園中]4'西村朋優(0-1)、20'、60+2'奥田敦斗(0-2)(1-3)

決勝

神村学園中等部 4 (前半2-0 後半2-1) 1 日章学園中学校

●2023年8月24日 10:05 ●Pikara スタジアム ●試合時間:60分 ●審判員:[主審]小泉朝香 [副審]中本早紀/萩尾麻衣子 [第4の審判員]吉田瑞希 ●マッチコミッショナー:夏田英司 ●観衆:500人

神村学園中(監督:松本翔):[GK](1)久保侑工 [DF](2)木塚海璃(13)中江銀次(15)竹野楓太 [MF](5)梶谷陸人(8)長友奏大(9)奥田敦斗(10)花城瑛汰(16)大浦貴晶 [FW](12)西村朋優(14)伏原樹空 控え:(17)國吉蒼平(3)小澤康太(4)米村颯真(7)大迫晴(18)山室優貴(19)梶見俊太郎(20)小園晟之朗

日章学園中(監督:花房亮太):[GK](1)山口晃誠 [DF](2)高木天(3)前田千楓(4)田原蓮音(5)岩元礼王(12)乾裕篤<-→HT(16)高野眺次郎<-→60+4'(13)山本航大> [MF](6)大平陽輝(7)鳥原樞<-→30'(8)富田加賀<-→60+4'(9)友寄太雅>(14)玉城健登 [FW](10)吉崎太珠(18)秋廣青杜 控え:(11)松下幸聖(15)井藤仁之介(21)丸橋宗一郎

得点 [神村学園中]29'、59'西村朋優(1-0)(4-1)、30+5'大浦貴晶(2-0)、53'伏原樹空(3-1) [日章学園中]37'前田千楓(2-1)

準決勝

大分中学校 0 (前半0-0 後半0-0 延長0-1 延長0-0) 1 日章学園中学校

●2023年8月23日 10:00 ●香川県総合運動公園サッカー場 ●試合時間:60分、延長10分 ●審判員:[主審]吉田瑞希 [副審]大谷美珠/柿本麻希 [第4の審判員]末角駿之介 ●マッチコミッショナー:山本悠祐 ●観衆:180人

大分中(監督:岡松克治):[GK](12)羽田野雄大 [DF](2)大野聡(4)矢野晃也(5)豊田葵 [MF](6)椎原吟峨(8)西海輝(9)後藤暖翔(10)吉良匠生(11)堀田信斗(16)佐藤成(17)岩崎尚叶<-→57'(13)小野涼成> 控え:(1)井伊利大(3)吉田悠馬(7)岩本太志(14)佐藤悠樹(15)後藤竜樹(18)首藤涼太

日章学園中(監督:花房亮太):[GK](1)山口晃誠 [DF](2)高木天(3)前田千楓(4)田原蓮音(5)岩元礼王(12)乾裕篤<-→HT(7)鳥原樞> [MF](6)大平陽輝<-→70+2'(21)丸橋宗一郎>(8)富田加賀<-→HT(10)吉崎太珠>(14)玉城健登 [FW](9)友寄太雅<-→52'(13)山本航大<-→60+5'(15)井藤仁之介>(18)秋廣青杜 控え:(11)松下幸聖(16)高野眺次郎

得点 [日章学園中]65'吉崎太珠(0-1)

【参加選手】

＜札幌大谷中学校＞ 監督:川高亮介
宮城勇斗、田中颯太、小野田暉士、濱名康成、中塚惇之介、赤石奏羽、澤村尽人、徳田佑己、藤本あおい、遠藤広洋、菊田勝利、藤雷吾、町田祐太、八巻来龍、今野翔馬、千葉稜也、岡村将吾、荒木崇吾

＜稚内市立稚内南中学校＞ 監督:佐藤達也
江利山昊空、余語共耶、伊藤歩、村上大斗、奥山功太、津越輝輝、佐藤裕祐、内田侑吾、奥原涼太、中村優心、村上洸斗、加藤海、横山慎二郎、武藤百星、吉川蓮汰、藤井大翔、泉碧聖、久保輝士郎

＜青森山田中学校＞ 監督:成田鷹晃
太田尾明磨、伊野新、菊地隼真、森陽陽磨、青山竜悟、平野礼偉、藤原一冴、水谷鉄生、三國ケースマン・エプス、藤原優人、高野侍助、山本大楽、山下叶空、仲間斗巧、高江洲真吾、斎藤雅人、石川翔悟、芳賀昊生

＜田舎館村立田舎館中学校＞ 監督:齋藤康広
佐藤睦己、中山俊太、山本蓮太、佐藤泰太、工藤光晟、田澤琉慎、工藤劉太郎、福土陽未、肥後徹平、古川黎、細越天晴、菊地駿寿、古川維吹、三浦陽葵、成田来穂

＜東日本国際大学附属昌平中学校＞ 監督:遠藤丈善
今田瑞己、豊田悠人、渡邊心、岡田陽斗、永山優、藤川愛礼守、小松世那、荒川良海、渡邊陸久、森龍星、蔵品泰輔、伊藤壮希、古座遼瑛、丹明悠、森風寿、松本春馬、白坂誉、瀬谷育夢

＜多摩大学目黒中学校＞ 監督:鈴木雄
古川昌和、指田悠征、奥迫信人、日野ヒロト、宗像龍之介、伊藤改、金森玲央、小坂橋圭太、金子潤之介、會田泰大、河田和馬、中島海翔、松田朋也、宮本玲旺、金子琉世、本橋龍、澤田一毅、明平英磨

＜修徳中学校＞ 監督:吉田拓也
宿谷颯空、佐々木侑、橋本篤輝、横井勇瑛、妻倉僚介、山口大樹、上原頼我、浅野吾郎、漆原琉海、宮田陽平、高橋虎太郎、久保龍心、館美駿、小串海聖、澤田杏吏、袖山斗也、村松圭吾、大村良牙

＜松戸市立常盤平中学校＞ 監督:平田義人
本田和誠、高野航有、伊藤健斗、後藤瑟矢斗、三川大地、岸大翔、山口渉、星野直樹、志田航、山田翔太、山田航平、瀨岡弦太郎、羽生運都、中西唯斗、今村悠一郎、伊藤充輝、後藤毬呂斗、志鎌光樹

＜藤沢市立鶴沼中学校＞ 監督:國賀健士郎
木村俊貴、小林大志、三島航希、石渡大貴、長澤海晴、原大地、西條天翔、稲葉洋斗、服部泰成、西澤成、引間瑛太、保科蓮、荒井亮生、関根暖大、高橋要、若旅遼真、入山幸司、植田慧

＜新座市立第二中学校＞ 監督:阿部悠希
中島光輝、深江奏良、八田啓、赤坂大和、福谷泰正、若林琉剛、丸田大翔、小川孝太郎、橋本土空、大久保航大、林信孝、武本祥太郎、谷本凌真、丸田陽斗、山内祐輝、小野寺快斗、倉繁宏斗、土谷成太朗

＜暁星国際中学校＞ 監督:高柳俊輔
杉山稷南人、磯崎琉海、山本春介、中澤理仁、吉田大翔、徳重大地、前川斗真、矢野桔平、川島優大、宮武輝、真鍋俊之介、柳井瑛太、遠山隼太郎、加瀬與冠、森大部、瀬下智陽、吉田祐翔、安部玲峯

＜高崎市立長野郷中学校＞ 監督:松本徹
長谷川啓、後岡樹紀、塚越柊介、長壁音旺、日馬琉偉、大山遥音、善養寺朔斗、堀口煌世、大木康陸、井上豪音、小野閑脩人、中島煌心、岡田拓馬、下田春皇、三澤陽真、大山寛太、湯浅英斗、小林皇介

＜新潟市立内野中学校＞ 監督:山際勇也
明間光、瀧澤未来、齋藤蒼天、皆川真之介、清水悠吾、遠藤明貴、田巻竣哉、坂井晴、塩川大河、後藤龍乃、橋本司、込山風珂、岡本理央人、渡邊翔大、金藤成也、渡部大海、塩谷奏汰、矢澤遼一

＜富山市立呉羽中学校＞ 監督:鶴見淳
藪下瑚士郎、近郷侑大、吉田瑛太、今井佑仁、浦澤慶伍、松下叶斗、島津光徳、松井彪真、田畑慶至、鈴木太士郎、小出旺世、山口蒼史、杉本賢胡、吉田颯之介、数井大心、北森圭悟、中村拓海、小出土瑛

＜浜松開誠館中学校＞ 監督:岡本淳一
松浦迅、鈴木康太、佐野兼勇、今井力、鈴木翔海、吉田龍ノ介、山田拓磨、大羽真太郎、古橋藍伍、大高光輝、藤田葵翔、小関陽生、大石權、浅川蓮、黒田伊吹、白方優琉、鎌田康勢、日下航斗

＜帝京大学可児中学校＞ 監督:堀部直樹
長谷川恵太、高橋悠晟、ワーマン裁、板頭一磨、上床優太、橋爪駿、安藤優晃、大熊海翔、山田虎旺、近藤楓政、井藤幸丸、住田一心、加藤暖人、坂口聖七、林龍之介、松原拓平、中村伊吹、内田琥童

＜静岡学園中学校＞ 監督:岡島弘高
田邊匠真、池田旬、岡田湊空、望月煌生、渡邊唯智、藤田一駿、山内豊夫、黒川寛人、梅澤理央、長坂健太、宮村圭、泉新、加藤煌清、久代太生、齋田侑樹、布施佑磨、渡邊玄樹、新井慎之助

＜京都精華学園中学校＞ 監督:加藤康介
高橋洋輝、マクレラン・ヘイミッシュ大聖、増田煌、大木隆豊、渡久山翔、南野眞鏘斗、小松咲太郎、服部悠佑、佐々木優吏、山口隼和、真下陽向、渡邊凜太郎、岡田颯太、小松龍ノ介、居場匠樹、上田蒼介、辻蓮斗、生谷楓真

＜アサンブション国際中学校＞ 監督:キロラン菜入
川崎暖大、保科颯也斗、小杉恒登、井谷俊登、小坂隼登、中前岳大、瀬戸口開真、鳥居慶太郎、萩原悠世、奥田陽葵、枝元然、江口昊輝、鬼追恭介、仙田翔大、土佐青真、中村京、永田信、杉本奏

＜生駒市立光明中学校＞ 監督:林佑一郎
奥田隆太、肥田陽翔、高井英次、田中郁大、岩倉陸玖、前谷和希、武蔵和人、大下一宮、田山太一、山峯清太郎、今井大智、三野光哉、前部奏多、金谷凜太郎、杉田創介、牧井響、田中陽斗、井上耀斗

＜たつの市立龍野西・御津・新宮中学校＞ 監督:佐見津劍吾
野間大智、池田大翔、中野裕斗、東海叶汰、長尾悠生、谷口暹輝、谷口準、鴻池優人、山本恵叶、大田康平、福井悠紀、吉田周世、橋本昊珍、多田陸人、大霜空翼、弥城優太、川口稜、瀬越開成

＜近畿大学附属中学校＞ 監督:佐々木敦忠
村木優友、神先響、矢本孝誠、松村奈樹、比嘉琉太、杉本麟太郎、竹内亮太、上塘琉太、柏原健斗、清水奏介、島本龍生、宮澤慶伸、天野正大朗、菅原拓弥、西郡遥、榑向奏太、今村恒星、笹川颯也

＜高川学園中学校＞ 監督:末次峻太郎
林田和也、長崎風颯、山本大馳、下川幹太、有吉陸、松永樹、藤井啓太、玖村隼、松永侑也、香川総一郎、東寛太、中部真翔、前永悠太、管悠理、天堂裕太、津島ミオ、山崎蓮、倉光章介

＜出雲市立第三中学校＞ 監督:黒山正規
吾郷龍蔵、高橋優澄、岩佐斗真、品川紫電、福間翔梧、曾田海翔、吾郷幹太、長崎光太郎、佐藤哉斗、藤原優賢、立石遥斗、足立拓文、土江翔、石飛瑛太、秋月一冴、三浦眞真、田中創士、金山歩生

＜さぬき市立さぬき南中学校＞ 監督:夏田英司
阿部美海、池添龍斗、岩田仁、大池凌央、吉武佑起、上野元暉、熊野仁紅、安西愛翔、松中駿馬、朝倉琳翔、松村菜那、安藝瑠玖、山本一颯、佐々木大翔、安西来起、關銀士、松原昊成、元木凜太郎

＜高知中学校＞ 監督:森本稔
森心、西村圭太、森理、大山蒼士郎、栗本愛司、安岡佑真、笹岡翔、岸田拓己、田村潤平、山崎智太、佐野颯心、安岡輝輝、澤本賢明、梅原楓生、岡村唯叶、宮本旭、福本俊、細川友吾

＜丸亀市立西中学校＞ 監督:井上聖也
ノリク・ファウジ、伏見奏汰、平岡明日翔、香川陸飛、今中大輝、鉄村奏太、池内健、西岡大夢、佐竹陽太、祖一寧音、中山亜由翔、梅原煌太、守屋風志、野村太一、穂山遼、安永有希、久徳脩飛、山本禮星

＜神村学園中等部＞ 監督:松本翔
久保侑仁、國吉蒼平、木場海璃、米村颯真、梶谷陸人、中江銀次、竹野楓太、柳見俊太郎、山本航大、玉城健登、井藤仁之介、高野咲次郎、丸橋宗一郎、友寄太雅、吉崎太珠、松下幸聖、秋鷹青杜

＜日章学園中学校＞ 監督:花房亮太
山口晃誠、高木天、前田千楓、田原蓮音、岩元礼王、乾裕龍、大平陽稀、鳥原惺、富田加賀、山本航大、玉城健登、井藤仁之介、高野咲次郎、丸橋宗一郎、友寄太雅、吉崎太珠、松下幸聖、秋鷹青杜

＜宮崎日本大学中学校＞ 監督:田野矩大
北別府真生、外山巧樹、岩田龍之介、菅田琉辰、松元咲太郎、山本遼馬、林仁翔、山下凌平、関本龍青、安田雅飛、平島琉楓、山道陸人、岩崎優月、角田良輔、黒木来玖、有馬千慧、横山武蔵、福田遼真

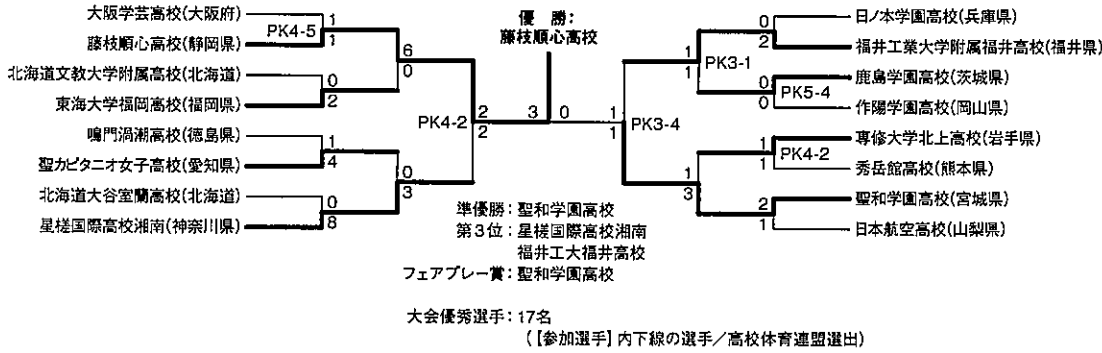
＜日章学園 鹿兒島育英館中学校＞ 監督:山平義幸
大和明希、大串隼ムサフリ、税所歩夢、永井元輝、森山颯太、日高純仁、境勇翔、川崎陸、永谷陸音、浜川天翔、羽山颯亮、松久保奏太、小屋敷龍星、出原昊茂、末吉海翔、藤井疏良、池田貴太郎、榮龍二

＜大分中学校＞ 監督:岡松克治
井伊利大、羽田野雄大、大河聡、矢野晃也、豊田葵、佐藤悠樹、後藤竜樹、首藤涼太、椎原吟蔵、岩本志志、西海輝、後藤暖翔、堀田信斗、小野涼成、佐藤成、岩崎尚叶、吉田悠馬、吉良匠生

令和5年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技大会(女子)

本大会は、公益財団法人全国高校体育連盟、北海道、北海道教育委員会、帯広市、帯広市教育委員会、JFAの主催で、7月26日～30日に16チームが参加して北海道で開催された。参加資格は、学校教育法第1条に規定する高校(中等教育学校後期課程を含む)に在籍し、都道府県高校体育連盟に加盟、かつ2023年度JFA第2種登録を完了した2004(平成16)年4月2日以降生まれの選手に与えられた。

※73ページに関連記事あり



準決勝

藤枝順心高校 2 (前半1-0 後半1-2) 2 星槎国際高校湘南

PK4-2

●2023年7月29日 10:00 ●帯広の森陸上競技場(ローン) ●試合時間:70分、PK
●審判員:【主審】廣田奈美 【副審】馬場成美/板矢智志 【第4の審判員】細山友司 ●マ
ッチコミッショナー:床爪克至 ●観衆:200人

藤枝順心(監督:中村翔):[GK](1)菊地優杏 [DF](2)永田優奈(3)柘植沙羽(5)大川和流
(15)松本琉那 [MF](6)下吉優衣(7)植本愛実(10)久保田真生 [FW](9)高岡澤(11)辻澤
亜唯(13)藤原凜音<->HT(20)岡村望央->60'(4)赤塚花風>

控え:(12)ソフィア・ヴィクトリア(8)中出朱音(14)鈴木由真(16)望月秋那(17)宮路花
菜(18)松山の美(19)尾辻夏奈

星槎国際湘南(監督:柄澤俊介):[GK](1)内海佑南 [DF](2)坪井菜凜(5)中野希音(12)安
岡若葉(13)駒澤菜歩 [MF](4)小石川叶夢(6)鈴木碧華(10)宮本和心<->70+2'(18)島
田陽良>(17)望月心咲 [FW](9)中島咲友菜(11)国吉花吏瑩

控え:(16)小池麻衣(19)秋谷夏帆(3)鈴木樹乃愛(7)松崎菜佳(8)齊藤麻琴(14)朝倉麗(15)
吉澤星空(20)東村心

得点	[藤枝順心]15'高岡澤(1-0)、70+5'辻澤亜唯(2-2)
	[星槎国際湘南]46'国吉花吏瑩(1-1)、55'宮本和心(1-2)
警告	[藤枝順心]67'下吉優衣
PK	[藤枝順心]先(9)×(10)○(6)○(11)○(5)○ [星槎国際湘南](9)×(4)○(11)○(6)×

【参加選手】

<北海道文教大学附属高校> 監督:清野剛晴
河瀬望乃加、尾形芽生、生井千晶、佐藤菜月、澤野帆乃佳、齊藤瑠唯、古村誉、吉川育夢、
安達優菜、鶴間みのり、曾部妃加里、牛嶋心海、佐藤友来、小林悠夏、園井麻耶、藤本柚夢、
成田咲蘭、清家音々、館川遥菜、行天千鈞

<北海道大谷室蘭高校> 監督:石井一夫
松谷咲良、洞口柚美、木村愛、白井ゆら、山田菜月、椎名小夏、松ヶ崎真珠、濃谷柚月、麗重
晴、沼田咲羽、百石安里、池野彩花、松田聖音、武内さよ、浅野未未、佐武すずね、大沢恵、
千葉由結、佐藤美沙希、櫛田純怜

<専修大学北上高校> 監督:佐藤徳信
千葉玲奈、山下真央、菅野桃子、高橋莉奈、金井日和、大竹夏姫、佐々木ころこ、加川凜、中
鉢菜弥、八鏡ゆり亜、工藤蒼生、白石朝香、昆野杏梨、川内遥奈、高鹿沙紀、佐藤なごみ、佐々
木渚、大野妃菜、昆野ゆい、谷内碧

<聖和学園高校> 監督:曾山加奈子
男鹿藍里、益子恵、加藤春佳、小亀萌絵、我那覇凜、佐々木はるか、倉品渚南、今野杏風、紺
谷あろえ、益子由愛、遠藤瑚子、本田悠良、大竹美生、石川麗奈、櫻井梨里花、伊藤花恋、佐
藤実玖、米村歩夏、佐藤真桜、今村菜愛

<鹿島学園高校> 監督:晝間健太
高橋侑沙、青木結那、中村乃奈、中野純、工藤早樂、小畑蘭、市川心愛、宮本悠愛、藤原か
のん、大林亜未、花谷理沙、野澤里桜、阿部陽菜多、早稲田萌絵、竹田朱里、金子明日香、
阿南愛羽、玉井小春、宿野部夏澄、増田帆花

<星槎国際高校湘南> 監督:柄澤俊介
内海佑南、小池麻衣、坪井菜凜、鈴木樹乃愛、中野希音、齊藤麻琴、安岡若葉、駒澤菜歩、
秋谷夏帆、小石川叶夢、鈴木碧華、松崎菜佳、宮本和心、朝倉麗、吉澤星空、望月心咲、中
島咲友菜、国吉花吏瑩、島田陽良、東村心

<日本航空高校> 監督:堀野太朗
中嶋莉子、宮越杏純、山本みづき、加藤彩花、城山にこ、清水心愛、三浦美波、岡本成海、五
味小暖、横田晴、杉本結月、片岡さら、福川璃、吉田美のり、斎崎はるか、佐藤マリー奈々美、
市村萌那、伊藤咲良、佐藤愛真、小堀美海

準決勝

福井工業大学附属福井高校 1 (前半1-0 後半0-1) 1 聖和学園高校

PK3-4

●2023年7月29日 10:00 ●帯広の森陸上競技場A(ローン) ●試合時間:70分、PK ●審
判員:【主審】千葉恵美 【副審】田嶋うらら/大村美詞 【第4の審判員】長浜吉名 ●マ
ッチコミッショナー:梅原聖和 ●観衆:350人

福井工大福井(監督:久保直也):[GK](1)下川陽南多 [DF](2)留木未々(3)上村怜(4)神
野真凜(5)木村ゆず [MF](6)岡田ふみの(7)河合結月(8)濱井小町 [FW](9)松永亜巳
<->47'(13)岩佐寧々>(10)秋田萌絵(11)西尾唯花<->HT(14)岩善心>

控え:(12)寺田ころこ(15)中亜仁(16)後藤璃胡(17)宮脇結(18)鈴木亜音(19)田中美空(20)
野村美里

聖和学園(監督:曾山加奈子):[GK](1)男鹿藍里 [DF](4)我那覇凜(7)佐々木はるか
(16)倉品渚南(17)今野杏風 [MF](8)益子由愛(9)遠藤瑚子(10)本田悠良(15)石川麗奈
[FW](11)米村歩夏(18)今村菜愛

控え:(12)益子恵(2)加藤春佳(3)小亀萌絵(5)佐藤実玖(6)紺谷あろえ(13)大竹美生(14)
佐藤真桜(19)櫻井梨里花(20)伊藤花恋

得点	[福井工大福井]35+1'木村ゆず(1-0) [聖和学園]63'今村菜愛(1-1)
警告	[福井工大福井]16'西尾唯花、41'留木未々
PK	[福井工大福井]先(7)○(5)×(10)○(2)×(4)○ [聖和学園](10)○(4)○(11)×(8)○(7)○

決勝

藤枝順心高校 3 (前半2-0 後半1-0) 0 聖和学園高校

●2023年7月30日 10:00 ●帯広の森陸上競技場(ローン) ●試合時間:70分 ●審
判員:【主審】馬場成美 【副審】廣田奈美/田嶋うらら 【第4の審判員】木村美詞 ●マ
ッチコミッショナー:梅原聖和 ●観衆:650人

藤枝順心(監督:中村翔):[GK](1)菊地優杏<->70+3'(12)ソフィア・ヴィクトリア>
[DF](2)永田優奈<->70+3'(18)松山の美>(3)柘植沙羽<->70+5'(4)赤塚花風>
(5)大川和流(15)松本琉那<->70+1'(19)尾辻夏奈> [MF](6)下吉優衣(7)植本愛実
<->70+4'(16)望月秋那>(10)久保田真生 [FW](8)中出朱音(9)高岡澤(11)辻澤亜唯

控え:(13)藤原凜音(14)鈴木由真(17)宮路花菜(20)岡村望央

聖和学園(監督:曾山加奈子):[GK](1)男鹿藍里 [DF](4)我那覇凜(7)佐々木はるか(16)
倉品渚南(17)今野杏風<->63'(5)佐藤実玖> [MF](8)益子由愛(9)遠藤瑚子(10)本田
悠良 [FW](11)米村歩夏(15)石川麗奈(18)今村菜愛

控え:(12)益子恵(2)加藤春佳(3)小亀萌絵(6)紺谷あろえ(13)大竹美生(14)佐藤真桜(19)
櫻井梨里花(20)伊藤花恋

得点	[藤枝順心]3'辻澤亜唯(1-0)、14'高岡澤(2-0)、61'久保田真生(3-0)
警告	[藤枝順心]7'久保田真生

<福井工業大学附属福井高校> 監督:久保直也
下川陽南多、寺田ころこ、留木未々、上村怜、神野真凜、木村ゆず、後藤璃胡、田中美空、野
村美里、岡田ふみの、河合結月、濱井小町、岩善心、宮脇結、松永亜巳、秋田萌絵、西尾唯
花、岩佐寧々、中亜仁、鈴木亜音

<藤枝順心高校> 監督:中村翔
菊地優杏、ソフィア・ヴィクトリア、永田優奈、柘植沙羽、大川和流、松本琉那、松山の美、
岡村望央、赤塚花風、下吉優衣、植本愛実、久保田真生、鈴木由真、望月秋那、中出朱音、高
岡澤、辻澤亜唯、藤原凜音、宮路花菜、尾辻夏奈

<聖かピタニオ女子高校> 監督:多田利浩
石川萌絵、梅村心陽、江崎尚羽、坂下里菜、浦前遥楓、川北梨湖、加藤英麻、高瀬未愛、
北村心菜、近藤綾音、内田汐、熊崎せり乃、相羽陽菜子、伊藤叶菜、塩川十鈴星、島山結佳、
小澤いな、佐藤翠、オーライリー詩奈、森星空

データボックス

<大阪学芸高校> 監督:副島博志
 宜野座今愛、黄戸理那、井田聖来、木村衣那、西嶋桃花、白井心葉、小柳夏姫、小松佑莉、松川陽加里、江口碧華、菊山裕衣、難波奏、北川愛唯、山田実来、滑川藍、塩見尚子、堀花成、西凜華、佐藤美優、中村優月

<日ノ本学園高校> 監督:和多田充寿
 久田優里愛、山崎美波、干場千晶、渡邊絢音、森實葵、今井双葉、田村来愛、大塚理紗子、中里美咲、丸山星、本多瑠己、高城青空、岡林柚葉、小林結望、藤原良、高橋あすか、木下奈南、上田妃菜里、高橋亜優、栗原都来穂

<作陽学園高校> 監督:山川莉々加
 石田ひなは、中村友梨香、新城琴美、甲木湖冬羽、大野凜果、原望恵、馬見塚心、村上和愛、福岡結、森原日朝、弓場麗華、安部美琴、竹内あり、八塚唯花、片口恵花、堀江昂史、阿間見茜、北川青空、笠野伶奈、田中沙羅

<鳴門渦潮高校> 監督:佐藤城介
 佐木双葉、池田涼花、武田もえ、松村実春、高山夢歩、古田彩瑛、由藤きらら、由良和奏、立野姫愛、岡本かがり、林千乃、露原直央、吉川凜、堀沙珀、松本柚葉、林心音、石田萌華、田中歩乃羽、富田翔保、村井沙帆

<東海大学付属福岡高校> 監督:山本ひろな
 久本千紗、弓立詩菜、曾我部莉美、大隈夏凜、井手口里穂、前多祐里奈、今村涼風、林南花、前原渚沙、鳥倉亜弥美、黒野美虹、大友響姫、山田愛実、梶原仁那、樋口輝良、朝比雪華、山名映理、横田ひまり、新城凜、中谷百音

<秀岳館高校> 監督:矢野君典
 宇保ひなの、千々和桃、川添凜音、河田柚奈、林琉音、内田咲希、佐々木妃那多、山田夏輝、仲間姫香、松木琴依、塩川心春、田畑咲空、與那覇花菜、鶴野凜音、松尾架水梨、久米桃、金城未亜、高橋晃、吉岡杏海、橋谷麻莉

第5回 日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームおよび日本クラブユースサッカー連盟に2023年5月12日までに登録された2005(平成16)年4月2日から2011(平成22)年4月1日までに生まれた選手に出場資格が与えられた。今大会は7月31日～8月7日、群馬県前橋市で開催され、16チームが出場した。

※大会レポートは77ページに掲載

■グループステージ

順位	Aグループ	日テレ	ac福島	埼玉	北海道	勝	分	負	得点	失点	差	
1	日テレ・東京ヴェルディメニーナ(関東3/東京都)		1△1	6○0	8○0	7	2	1	0	15	1	14
2	JFAアカデミー福島(東海1/福島)	1△1		1△1	9○0	5	1	2	0	11	2	9
3	ちふれASエルフェン埼玉マリU-18(関東6/埼玉)	0●6	1△1		11○1	4	1	1	1	12	8	4
4	北海道リラ・コンサドーレ(北海道)	0●8	0●9	1●11		0	0	0	3	1	28	-27

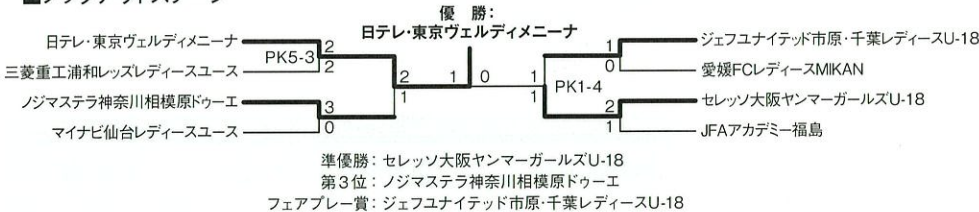
順位	Bグループ	ノジマ	愛媛	作陽	宮崎	勝	分	負	得点	失点	差	
1	ノジマテラス神奈川相模原ドゥエ(関東2/神奈川)		6○0	5○0	12○0	9	3	0	0	23	0	23
2	愛媛FCレディースMIKAN(四国/愛媛)	0●6		3○2	3○1	6	2	0	1	6	9	-3
3	ソルフィオーレFC作陽(中国/岡山)	0●5	2●3		1○0	3	1	0	2	3	8	-5
4	ヴィアマテラス宮崎ソレイナ(九州/宮崎)	0●12	1●3	0●1		0	0	0	3	1	16	-15

順位	Cグループ	千葉	仙台	新潟	伊賀	勝	分	負	得点	失点	差	
1	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18(関東4/千葉)		2○1	2○0	13○0	9	3	0	0	17	1	16
2	マイナビ仙台レディースユース(東北1/宮城)	1●2		4○3	11○0	6	2	0	1	16	5	11
3	アルビレックス新潟レディースU-18(北信越/新潟)	0●2	3●4		2○0	3	1	0	2	5	6	-1
4	伊賀FCくノ一三重サテライト(東海2/三重)	0●13	0●11	0●2		0	0	0	3	0	26	-26

順位	Dグループ	C大阪	浦和	湘南	岩手	勝	分	負	得点	失点	差	
1	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18(関西/大阪府)		2○1	0△0	17○0	7	2	1	0	19	1	18
2	三菱重工浦和レッズレディースユース(関東/埼玉)	1●2		2○1	17○0	6	2	0	1	20	3	17
3	湘南ベルマーレU-18ガールズ(関東5/神奈川)	0△0	1●2		15○0	4	1	1	1	16	2	14
4	FCセゾンレディース岩手・クロリア(東北2/岩手)	0●17	0●17	0●15		0	0	0	3	0	49	-49

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



<3位決定戦> ノジマテラス神奈川相模原ドゥエ 1-0 ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18

準決勝

日テレ・東京ヴェルディメニーナ **2** (前半1-0 後半1-1) **1** ノジマテラス神奈川相模原ドゥエ

●2023年8月6日 8:45 ●コーエィ前橋フットボールセンター(下増田運動場)B ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]山内恵美 [副審]柳彩乃/高橋真由美 [第4の審判員]斎藤清美 ●観衆:200人

メニーナ(監督:坂口佳祐):[GK](22)永井愛理 [DF](3)青木夕菜(5)松岡瑛菜<->45'(4)池上聖七>(6)朝生珠実(12)鈴木温子 [MF](7)栗田七海(10)眞城美春<->26'(8)須長穂乃果>(11)松永未夢(25)米倉和心<->58'(14)佐藤色> [FW](9)樋渡百花(15)式田和控え:(16)林心春(30)加登諒心羽(2)北島景子(17)渡邊柚香(28)奥住心音

ノジマテラス(監督:緑川浩平):[GK](68)岩崎有波 [DF](2)久山紗季<->70'(60)木竜有姫>(13)木村菜々夏(57)中嶋琉七(59)清水柚生 [MF](19)笹井優愛(46)高橋姫花(55)小高夢(56)清水和楽<->25'(10)有賀月> [FW](7)柴田瞳(14)佐藤美晴<->17'(11)鈴木麻白->HT(33)青山千晴->70+2'(29)市川未悠>

控え:(16)澁谷菜奈(35)明詩音梨(43)中原愛凜(52)阪田明日香

得点 [メニーナ]10'松永未夢(1-0)、70'樋渡百花(2-1) [ノジマテラス]36'柴田瞳(1-1)

準決勝

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース **1** (前半1-0 後半0-1) **1** セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18

●2023年8月6日 8:45 ●コーエィ前橋フットボールセンター(下増田運動場)A ●試合時間:70分.PK ●審判員:[主審]國師えりな [副審]田嶋うらら/小林幸子 [第4の審判員]岩佐莉奈 ●観衆:100人

ジェフ(監督:関根麻里):[GK](21)足立楓 [DF](4)宮嶋ひかり(19)宮内愛美(24)足立梓 [MF](2)池田藍子(5)菅野向日葵(7)増田咲良(10)谷口真由 [FW](9)高松芽衣<->52'(45)角谷瑠菜>(13)辻彩花<->67'(11)大塚彩希>(27)根津里莉日

控え:(1)斎藤彩那(3)荒井珠稀(6)原媛凜(16)岡崎叶芽(20)井上果鈴(33)伊藤璃音(39)吉野心

C大阪(監督:日高欣弘):[GK](61)関口明日香 [DF](34)楠さやみ(42)牧口優花(59)四本帆夏<->HT(55)安田実愛> [MF](30)丸井優奈(38)木下日菜子(39)杉本瑛麗奈<->HT(62)玉村海乃>(50)竹田葵(53)飯田聖瑠 [FW](37)佐藤由奈(40)古田麻子<->61'(58)池田柚葉>

控え:(51)天野衣千花(32)中田昌那(56)西村絵衣瑠(60)下高莉咲

得点 [ジェフ]35+3'高松芽衣(1-0) [C大阪]69'佐藤由奈(1-1)

PK [ジェフ](11)×(7)×(19)○ [C大阪]先(30)○(37)○(42)○(38)○

3位決定戦

ノジマステラ神奈川相模原Dウーエ 1 (前半0-0 後半1-0) 0 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース U-18

●2023年8月7日 8:45 ●群馬県立敷島公園 補助陸上競技場 ●試合時間:70分 ●審判員:【主審】田島うらら 【副審】國師えりな/齋藤まさみ 【第4の審判員】新井恵子 ●観衆:100人

ノジマステラ(監督:緑川浩平):[GK] (6)岩崎有波 [DF] (2)久山紗季(13)木村菜々夏(35) 明詩音梨<-47'(29)市川未悠>(59)清水柚生 [MF] (19)笹井優愛<-70+4'(14)佐藤美晴>(46)高橋姫花(55)小高夢(60)木竜有姫<->HT(57)中嶋琉七> [FW] (7)柴田瞳(52)飯田明日香<->23'(33)青山千晴<-40'(10)有賀月>

控え:(16)澁谷菜奈(11)鈴木麻白(43)中原愛麻(56)清水和菜

ジェフ(監督:関根麻里):[GK] (1)斎藤彩那 [DF] (4)宮嶋ひかり(19)宮内愛美(24)足立梓 [MF] (2)池田藍子<->HT(20)井上果鈴>(5)菅野向日葵(7)増田咲良(10)谷口真由 [FW] (9)高松芽衣<->HT(39)吉野心<-70+2'(3)荒井珠穂>(13)辻彩花(27)根津里莉日<->59'(45)角谷瑠菜>

控え:(21)足立楓(6)原媛凜(11)大塚彩希(16)岡崎叶芽(33)伊藤璃音

得点 | ノジマステラ|61'小高夢(1-0)

【参加選手】

<北海道リラ・コンサドーレ> 監督:佐々木滋 竹原芽生、フェイス・シューマッカー、中尾咲緒、有賀紗穂、高橋凜、田中ひなた、野村心夏、丸山璃々、千葉心、松原菜生、吉田紗雪、松原怜生、一ノ瀬菜月、梶結南、小池ひかり、宮内綾花、星野優杏、石田ひなの、山梨咲子、牧野菜々、鍋谷心愛、原節乃、白髭玲衣、高橋彩羽、中里綾花、高橋来穂、立田玲奈、小林陽菜、本間夢衣菜、近藤結空

<マイナビ仙台レディースユース> 監督:小川翔平 高橋愛利花、松浦舞帆、澤澤鈴緒、瀬戸如紗、宮崎優那、加藤愛、田家海風、秋山世名、菅原千真、浅野凜、岩城恋音美、伊藤里保、三浦月音、佐藤いな、石井愛理、渡部心、遠藤ゆめ、菊地花奈、浅坂真桜、三島愛、渡邊衣織、井ノ瀬玲緒奈、山本彩寧、津田愛乃音、長岡みなみ、三谷有乃、渡邊愛香里

<FCゼブラレディース岩手・グロリア> 監督:宮田誠 高橋生禾、田口亜依、佐々木美優、佐藤梓香、藤島夏音、工藤真理子、伊藤美結、市澤輝、伊東真菜、荒屋ハル、竹内心都、小菅優依、高橋那奈、江藤心璃、松岡杏奈、菊池もも、泉田綾乃、工藤日葵、菊池菜奈、八木橋理季、藤倉果穂、高山莉奈、熊谷なごみ、向川原天珂、島山菜希、細川真菜、白野由愛、菊地凜生、佐々木愛蘭、佐藤楓

<三菱重工浦和レッズレディースユース> 監督:森次 杉本唯、鈴木もか、加納由佳子、富井涼、伊勢はな、澤野翔夏、岡村来佳、夏目真凛、南柚乃、江口祐加、塚崎萌笑、青田望々、松家ゆり、秋本佳音、佐々木千章、野原歩乃果、佐藤美海、竹内愛未、清水優風、高橋光莉、今野真帆、中野杏奈、長島華菜、藤崎智子、熊田姫依、谷田柚、辻あみる、高橋佑奈、平川陽菜、前原嘉乃

<ノジマステラ神奈川相模原Dウーエ> 監督:緑川浩平 澁谷菜奈、池田桃花、岩崎有波、久山紗季、木村菜々夏、市川未悠、明詩音梨、中嶋琉七、清水柚生、笹井優愛、大山真由奈、田村菜優、中原愛麻、高橋姫花、大野夏歩、小高夢、清水和菜、木竜有姫、柴田瞳、有賀月、鈴木麻白、佐藤美晴、青山千晴、飯田明日香

<日テレ・東京ヴェルディメニーナ> 監督:坂口佳祐 ウルフ・ジェシカ結吏、林心春、永井愛理、松原璃桜奈、加登脇心羽、北島景子、青木夕菜、池上聖七、松岡瑛菜、朝生珠実、鈴木温子、武内明香里、奥住心音、大木優里菜、栗田七海、須長穂乃果、真城美香、松永未夢、佐藤色、渡邊柚香、今ゆうり、伊藤風葵、大長柑花、諏訪穂香、米倉和心、樋渡百花、式田和、友利愛紗

<ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18> 監督:関根麻里 斎藤彩那、瓜生芽、足立楓、宮嶋ひかり、宮内愛美、井上果鈴、吉岡里奈子、荳野友里愛、足立梓、久保田真帆、伊藤璃音、池田藍子、荒井珠穂、菅野向日葵、原媛凜、増田咲良、谷口真由、大塚彩希、宇野杏奈、吉福紗帆、岡崎叶芽、山本奈波、吉野心、高松芽衣、辻彩花、根津里莉日、吉川莉子、角谷瑠菜

<湘南ベルマーレU-18ガールズ> 監督:清水郷介 米山優和、石田しゅう、高本唯衣、河合彩心、石井華、杉江弥来、栗原優里奈、大田沙季、小林睦、望月紫季、金井碧瑛、原田実菜子、森清夏、阿部梨紗子、佐々木優芽、安光花乃果、中野あおい、高津陽里、伊豆倉舞華、古屋心優、江黒南実、島根希実、石黒璃乙、高畑陽菜、相原結衣、鈴木羽衣、長島風音、尾田楓夏、中井柚、塚本清絵

決勝

日テレ・東京ヴェルディ 1 (前半1-0 後半0-0) 0 セレッソ大阪 ヤンマーガールズ U-18

●2023年8月7日 8:45 ●アースケア敷島サッカー・ラグビー場 ●試合時間:70分 ●審判員:【主審】柳彩乃 【副審】山内恵美/谷内田菜央 【第4の審判員】阿久津弘美 ●観衆:100人

メニーナ(監督:坂口佳祐):[GK] (22)永井愛理 [DF] (3)青木夕菜(4)池上聖七(6)朝生珠実(12)鈴木温子 [MF] (7)栗田七海(8)須長穂乃果(11)松永未夢(25)米倉和心 [FW] (9)樋渡百花(15)式田和

控え:(16)林心春(30)加登脇心羽(2)北島景子(5)松岡瑛菜(10)真城美香(14)佐藤色(28)奥住心音

C大阪(監督:日高欣弘):[GK] (51)天野衣千花 [DF] (34)楠さやみ(42)牧口優花(59)四本帆夏 [MF] (30)丸井優奈<->HT(39)杉本瑛麗奈>(32)中田昌那(38)木下日菜子<->51'(58)池田柚葉>(50)竹田葵(53)飯田瑠瑠 [FW] (37)佐藤由奈(40)古田麻子

控え:(61)関口明日香(55)安田実愛(56)西村絵衣瑠(60)下高莉咲(62)玉村海乃

得点 | メニーナ|3'式田和(1-0)

警告 | [C大阪] 70+3' 四本帆夏

<ちふれASエルフェン埼玉U-18> 監督:伊藤香葉子 徳山簡子、小野寺実央、澤浦花穂、村田友菜、佐々木シンディ・オウサー、前田夏海、福本基渚、高橋莉央、伊藤愛唯、篠原みのり、川上樹葵、倉内愛折、小町芽生、田邊愛理、山澤桜心、横濱桃杏、石川杏佳、町田実香、梅澤彩希、竹中羽衣、廣川果歩、石井音色、山下部優羽、八木沼陽穂、高橋夏央、松山沙来、菅原夏希、長谷川璃乃、荒井咲香、清水美海

<アルビレックス新潟レディースU-18> 監督:錠間美樹 遠藤花恋、山崎瑠音、松田莉杏、渡邊幸乃、山田悠莉、稲垣遥、横山笑愛、登坂夢愛、米野紗良、川崎心菜、風間紗良、長谷川愛唯、飯田朱実、押田果子、更級一花、長崎咲弥、海老名心、川崎実柚、内藤穂乃花、小皆陽菜、齋藤蓮、菊地真央、小山桃果、馬場朱里、諸橋ふう、田中聖愛、大山海波、菊池咲那、片山乃愛、渡辺麗奈

<JFAアカデミー福島> 監督:山口隆文 鹿島彩莉、福田真央、若月りる葉、金成瑠那、古賀塔子、名木野桃菫、吉岡心、旭田好里、古川心尋、石井音羽、梅月万優子、松本有波、樋口梨花、長崎莉央、谷川萌々子、榑愛花、林椿、松井望花、福島望愛、花城恵唯、木村未來、米田百佳、板村真央、原ひばり、鳥尾芽生、星愛海

<伊賀FCノース三重サテライト> 監督:須藤麻子 木村梨里子、安井優香、宮崎風緒、清水心杏、中嶋心夏、田中瑠生、雷野羽香、森帆希、佐藤此々奈、富知優、小副川媛香、城本真里里、青木遥香、鈴木理々衣、旭結衣、佐藤伶菜、村上桃音、森優菜、田中新菜

<セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18> 監督:日高欣弘 天野衣千花、関口明日香、原田菜央、西藍花、吉田琉衣、楠さやみ、牧口優花、酒本玖波、寺田莉紗、白垣うの、安田実愛、西村絵衣瑠、四本帆夏、中谷莉奈、林祐未、丸井優奈、中田昌那、木下日菜子、杉本瑛麗奈、竹田葵、牧之清歩、飯田瑠瑠、下高莉咲、栗本悠加、佐藤由奈、古田麻子、林優明、中村心乃葉、池田柚葉、玉村海乃

<ソルフィオーレFC作陽> 監督:中岡弓子 後藤のぞみ、佐野祐希、藤井いろは、山田乃愛、難波いぶき、小野心、松山七菜歩、藤澤光花、銅子芽姫、阪井奏奈、南野未空、森口露夢、中尾花夏、小久保里望、岡野長奈、佐波瑚花、藤原衣緒、吉田芽生菜、村中亜優、佐野由奈

<愛媛FCレディースMIKAN> 監督:信谷純平 仙波莉菜、満田菜々乃、松谷春花、山本小百合、湯浅蘭、菊地陽菜、相馬紗也夏、小林和、永見穂菜、砂川陽彩、三坂莉愛、重松空那、大石優空、米澤和花、村井葉、秋月美宥、西岡楓音、佐々木樹璃、山下ちるる、岡田遥佳、西本有希、山下ななみ、徳本優里奈、田子夏海、篠崎里緒、舟越澤、末光彩良、清水爽香

<ヴィアマテラス宮崎ソレイナ> 監督:神谷亮太 生田りの、崎村優羽、黒木美結、黒木彩純、外山心菜、細木紗那、井上愛璃、黒木涼音、串間美穂、水城玲唯、堀田花凜、米沢愛梨、生田りこ、北野日和子、嶋田和花、養島琴、下久保瑠杏、下山心乃桃、安部来良、福元奈菜美、佐々木実穂、佐藤芽依、木村友紀、矢野百笑、富田愛華、畑中友莉愛、川崎琉加

JFA 第10回全日本U-18フットサル選手権大会
JFAが主催する本大会は、JFAにフットサル2種、フットサル3種、第2種、第3種または女子の種別で加盟登録したチームで、2005年4月2日から2011年4月1日までに生まれた選手に参加資格が与えられた。今大会は8月3日~6日、16チームが参加して静岡県浜松アリーナで開催された。

■1次ラウンド

Table with columns: 順位, グループA, 高松北, メッセ, 解阿翔洋, ヴィエント, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Row 1: 香川県立高松北高校(四国/香川) 1△1 6○2 7○3 7 2 1 0 14 6 8

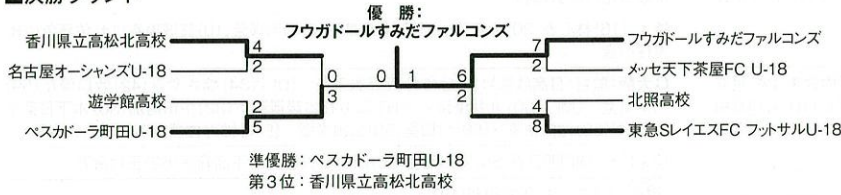
Table with columns: 順位, グループB, フウガドール, 名古屋, 近江, エンフレンテ, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Row 1: フウガドールすみだフットサル(関東1/東京) 1●2 2○1 8○0 7○0 9 3 0 0 17 1 16

順位	グループC	遊学館	東急Sレイエス	旭実	聖和学園	5点	勝	分	負	得点	失点	差
1	遊学館高校(北信越1/石川)		3●5	3○0	1△1	4	1	1	1	7	6	1
2	東急SレイエスFCフットサルU-18(関東3/神奈川)	5○3		0●2	2△2	4	1	1	1	7	7	0
3	旭実FC(北海道1)	0●3	2○0		3△3	4	1	1	1	5	6	-1
4	聖和学園高校フットサル部(東北/宮城)	1△1	2△2	3△3		3	0	3	0	6	6	0

順位	グループD	北照	ベスカドーラ	国見	高川学園	5点	勝	分	負	得点	失点	差
1	北照高校(北海道2)		3○0	3△3	5○0	7	2	1	0	11	3	8
2	ベスカドーラ町田U-18(関東3/東京)	0●3		5○1	5○4	6	2	0	1	10	8	2
3	長崎県立国見高校(九州1/長崎)	3△3	1●5		5△5	2	0	2	1	9	13	-4
4	高川学園高校(中国/山口)	0●5	4●5	5△5		1	0	1	2	9	15	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

決勝ラウンド



<3位決定戦> 香川県立高松北高校 3-2 東急SレイエスFCフットサルU-18

準決勝

香川県立高松北高校 0 [第1ピリオド0-1 第2ピリオド0-2] 3 ベスカドーラ町田U-18

●2023年8月5日 16:30 ●浜松アリーナ ピッチA ●試合時間:40分 ●審判員:[主審] 稗田知幸 [第2審判] 小谷晏佑武 [第3審判] 中武雅人 [タイムキーパー] 南秋一 ●観衆:193人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
藤村豪	○	1	GK	GK	1	○	宮園大瑠
細川元義		2	FP	FP	3	○	木村颯也
市山隼		3	FP	FP	4	○	谷中一青
大下雄也	○	4	FP	FP	5	○	野田北斗
安本峻		5	FP	FP	7	△	倉科玲佑
森本光佑	○	6	FP	FP	8	△	青島駿平
田中友貴	△	7	FP	FP	9	○	祖父江隆ノ介
山本大星	△	8	FP	FP	10	△	新倉俊輔
吉本琉空	△	9	FP	FP	11	△	青砥圭汰
森口且将	○	10	FP	FP	17	△	高橋澤音
田岡楓音	△	11	FP	FP	18	△	桑原健太
谷本隆太		12	GK	GK	21		川島銀太
松木晴陽	○	14	FP	FP	22	△	田崎瑠夏
菊本航	△	20	FP	FP	44	△	佐藤大仁
陶山輝佳			監督				瀬戸真司

得点 [ベスカドーラ]16'、31' 青島駿平(0-1)(0-2)、37' 祖父江隆ノ介(0-3)

○:先発、△:交代出場

3位決定戦

香川県立高松北高校 3 [第1ピリオド3-0 第2ピリオド0-2] 2 東急SレイエスFCフットサルU-18

●2023年8月6日 10:00 ●浜松アリーナ ●試合時間:40分 ●審判員:[主審] 北島和都 [第2審判] 南秋一 [第3審判] 芝原潔 [タイムキーパー] 増田亜希 ●観衆:151人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
藤村豪	○	1	GK	GK	1		伊藤蒼馬
細川元義		2	FP	FP	3	△	福嶋絆聖
市山隼		3	FP	FP	5	△	難波皓也
大下雄也	○	4	FP	FP	6	△	串橋颯来
安本峻		5	FP	FP	7	△	工藤菜
森本光佑	○	6	FP	FP	9		小泉慧弥
田中友貴	△	7	FP	FP	10	○	大西望
山本大星	△	8	FP	FP	11	△	細川大遙
吉本琉空	△	9	FP	GK	12	○	熊澤凜太郎
森口且将	○	10	FP	FP	13		植田来翔
田岡楓音	△	11	FP	FP	14	△	星京社
谷本隆太		12	GK	FP	17	○	葛島敬咲
松木晴陽	○	14	FP	FP	18	○	小林碧
菊本航	△	20	FP	FP	19	○	波多野碧
眞鍋佳幹			コーチ				荻窪孝

得点 [高松北高校]4' 山本大星(1-0)、11'、16' 松木晴陽(2-0)(3-0) [東急Sレイエス]24' 串橋颯来(3-1)、31' 熊澤凜太郎(3-2)

警告 [東急Sレイエス]27' 串橋颯来、37' 大西望

○:先発、△:交代出場

準決勝

フウガドールすみだファルコンズ 6 [第1ピリオド4-1 第2ピリオド2-1] 2 東急SレイエスFCフットサルU-18

●2023年8月5日 16:30 ●浜松アリーナ ピッチB ●試合時間:40分 ●審判員:[主審] 大矢翼 [第2審判] 横山高志 [第3審判] 北島和都 [タイムキーパー] 泉一樹 ●観衆:193人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
入江悠斗	○	1	GK	GK	1	○	伊藤蒼馬
杉山天莉		2	GK	FP	3	△	福嶋絆聖
帆足江	○	3	FP	FP	5	△	難波皓也
石井想一郎	△	4	FP	FP	6	△	串橋颯来
新竜兵	○	6	FP	FP	7	△	工藤菜
行木詩心優	△	7	FP	FP	9		小泉慧弥
高木瀨那	△	8	FP	FP	10	○	大西望
春日陵河	△	10	FP	FP	11	△	細川大遙
宮田惇平	○	15	FP	GK	12		熊澤凜太郎
秋元昭輝	△	17	FP	FP	13		植田来翔
竹下藍登	○	19	FP	FP	14	△	星京社
内海翔太	△	24	FP	FP	17	○	葛島敬咲
帆足岳	△	25	FP	FP	18	○	小林碧
羽生恒平	△	27	FP	FP	19	○	波多野碧
小倉勇			監督				荻窪孝

得点 [フウガドール]14'、15' 行木詩心優(1-1)(4-1)、7' 帆足岳(2-1)、12'、28' 羽生恒平(3-1)(5-1)、35' 入江悠斗(6-2)

[東急Sレイエス]3' オウンゴール(0-1)、34' 工藤菜(5-2)

警告 [フウガドール]17' 帆足岳

○:先発、△:交代出場

決勝

ベスカドーラ町田U-18 0 [第1ピリオド0-0 第2ピリオド0-1] 1 フウガドールすみだファルコンズ

●2023年8月6日 12:30 ●浜松アリーナ ●試合時間:40分 ●審判員:[主審] 大矢翼 [第2審判] 西野崇 [第3審判] 増田亜希 [タイムキーパー] 中武雅人 ●観衆:244人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
宮園大瑠	○	1	GK	GK	1	○	入江悠斗
木村颯也	○	3	FP	GK	2		杉山天莉
谷中一青	○	4	FP	FP	3	○	帆足江
野田北斗	○	5	FP	FP	4	○	石井想一郎
深澤樹	△	6	FP	FP	6	△	新竜兵
倉科玲佑	△	7	FP	FP	7	△	行木詩心優
青島駿平	△	8	FP	FP	8	○	高木瀨那
祖父江隆ノ介	○	9	FP	FP	10	△	春日陵河
新倉俊輔		10	FP	FP	15	○	宮田惇平
青砥圭汰	△	11	FP	FP	17		秋元昭輝
桑原健太	△	18	FP	FP	19	△	竹下藍登
川島銀太		21	GK	FP	24		内海翔太
田崎瑠夏		22	FP	FP	25	△	帆足岳
佐藤大仁	△	44	FP	FP	27	△	羽生恒平
瀬戸真司			監督				小倉勇

得点 [フウガドール]34' 石井想一郎(0-1)

警告 [フウガドール]28' 宮田惇平

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

<旭実FC> 監督:上戸裕生

清水将伍、河治恒太、菊地悠生、湯川匠、安藤光佑、上堀太聖、西里有仁、酒井卓斗、佐藤佑真、佐藤快星、稲富翔梧

<北照高校> 監督:武藤崇志

平川大翔、渡邊幸太、内海尚人、由利桜己、四條呂蓮、須藤僚牙、小端奏音、山崎亘陽、森山豪樹、相馬龍也、遠藤優心、杉谷瑛瑠、室谷柊羽、室谷柚羽、青木晴空、齋藤蓮、佐々木利政、田島健登、前坂朱厘、吉田兆志

<聖和学園高校フットサル部> 監督:菊池宏志

加藤星成、本多涼聖、佐藤尊飛、鈴木規祐、千葉成智、引地柑太、工藤瑛大、河村光流、赤川駿、鈴木真真、浅野岬、橋野一颯、鈴木秋斗、相澤心陽、岩井瑠哉、三浦歩速、滝澤斗翔、阿部時也、齋藤大雅、高橋結都

<フウガドルすみだファルコンズ> 監督:小倉勇

入江悠斗、杉山天莉、吉村哲平、帆足江、石井想一郎、新竜兵、行木詩心優、高木瀬那、春日陵河、宮田博平、秋元昭輝、竹下藍登、坂木風雅、濱地日向葵、内海翔太、帆足岳、羽生恒平

<東急SレイエスFC フットサルU-18> 監督:荻窪孝

伊藤蒼馬、飯森温冬、熊澤凛太郎、福嶋絆聖、山根優甫、難波皓也、串橋颯来、工藤菜、小泉尊弥、大西聖、細川大造、植田来翔、星京社、葛島欽咲、小林碧、波多野碧

<ベスカーU町田U-18> 監督:瀬戸真司

宮園大瑛、川島銀太、木村颯也、谷中一青、野田北斗、深澤樹、倉科玲佑、青島竣平、祖父江陸介、新倉俊輔、青砥圭汰、高橋澤音、桑原健太、田崎瑠夏、福島和、佐藤大仁、北川和樹

<遊学館高校> 監督:岸玲衣

二木翔大、小西貴司、森田孝志、松本侷大、飯田陽樹、中島輝輝、新谷優太、大内龍、中澤怜久、宮本絆、大西貴太郎、杉田陽、李孝樹、佐藤凛太郎、矢口倫道、鮫島響、木浪涉真、三橋蒼波、永盛太己、澤滉大翔

<ヴェントU-18> 監督:高見昌之

坂井瑞基、竹内康家、浅野悠斗、表寺将英、野村昌弘、辻口怜弥、西田蒼生、野口稜太、土屋琉純、水口颯人、高島充湊

<名古屋オーシャンズU-18> 監督:赤澤孝

古田英行、伊藤心陽、手嶋悠登、増山響、田邊隆之介、西ヶ谷賢次、酒井春輔、服部永照、小田創生、伴祐汰、東出歩大、芥川凌空、進藤広隆、高須輝輝、山村峰央、高原太一、三浦楽翔、高山駿、市場新汰、タカハシリゲッティオタビオ

<メッセ天下茶屋FC U-18> 監督:森敬幸

新井大樹、小林拓実、勝井茜樹、清水基利、松本勇希、藤原輝一郎、村岡祐斗、川端楓汰、播井騎亜、越智公太、河野啓人、大山隼実、柏木晃大、徳永玲

<近江高校ビーハイレッツ> 監督:白井徳典

内藤多功真、山田聖大、渡邊敬斗、中井見真、細野晶文、眞下琳太郎、窪田仁、吉川太河、堤椋碧、田中瑛翔、高橋漣、黒木虎大、川端奏太、中井零斗、吉田圭寿

<高川学園高校> 監督:江本孝

宮本愛希、三辻康太、油谷天翔、岩政侑来、山田瑠樹、山崎飛向、木村亮太、花谷泉瑠、植田聖矢、大谷唯、後藤大和、松久翔馬、小坂レオン・シング、青木朝、有元芳冬、土居広大、川波蓮、熊谷峻哉、河村捺拓、山田真聖

<香川県立高松北高校> 監督:陶山輝佳/コーチ:眞鍋佳幹

藤村豪、谷本隆太、細川元義、市山隼、大下雄也、安本峻、森本光佑、田中友貴、山本太星、吉本琉空、森口且将、田岡楓音、高嶋俊榮、松本晴陽、堀敬人、小西航士朗、橋本隼佑、山下颯天、石川洋大、菊本航

<長崎県立国見高校> 監督:木藤健太

山本悠悟、新井健心、新川虹之介、桜井翼、中村凛太郎、三村亮太、森田誓伍、澤谷哉、橋本舜平、田中颯太、新郷来夢、前田竜一郎、山下祐生、宮崎北翔、川原大翔、松本喜、嘉村光陽、岩永大輝

<エンフレンテ熊本フットサルU-18> 監督:鶴田文彦

吉田悠莉、高原惺暉、福山大公、徳永卓平、大賀匠、竹原優詩、河野斗空、林田海都、清田颯暉、中曾根壮太、那須村翔、徳永悠真、高原啓聖、河喜多悠人、坂本凛弥

<東海大学付属静岡翔洋高校フットサル部> 監督:久保田勇輝

眞田伸至、島田琉之介、庵原夕聖、澤山佑佑、谷口裕之助、渡邊祐陽、森田悠友、五條結斗、小澤真優、中野航聖、城戸子龍、芹澤正太郎、望月善、石上昂汰、川崎連斗、高塚一星、鈴木蔵人、橋本悠生

JFA パーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、2023年度にJFAのフットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った12歳未満(ただし、小学校在学中の選手にはこの年齢制限を適用しない)の選手により構成されたチームで、当該チームに登録された選手に出場資格が与えられた。今大会は8月8日~10日に東京都の武蔵野の森総合スポーツプラザ(大田区総合体育館)で開催され、48チームが出場した。

※79ページに関連記事あり

■グループステージ

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group A results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group B results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group C results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group D results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group E results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group F results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group G results.

Table with 10 columns: Rank, Team, Goals, Points, etc. Group H results.

データボックス

順位	グループI	アミティエ	西濃シティ	ソレアード	住吉	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アミティエSC草津(滋賀県)		5△5	3○2	10○0	7	2	1	0	18	7	11
2	西濃シティFC(岐阜県)	5△5		5○2	4○1	7	2	1	0	14	8	6
3	FCソレアード高知(高知県)	2●3	2●5		4△4	1	0	1	2	8	12	-4
4	住吉サッカースポーツ少年団(富山県)	0●10	1●4	4△4		1	0	1	2	5	18	-13

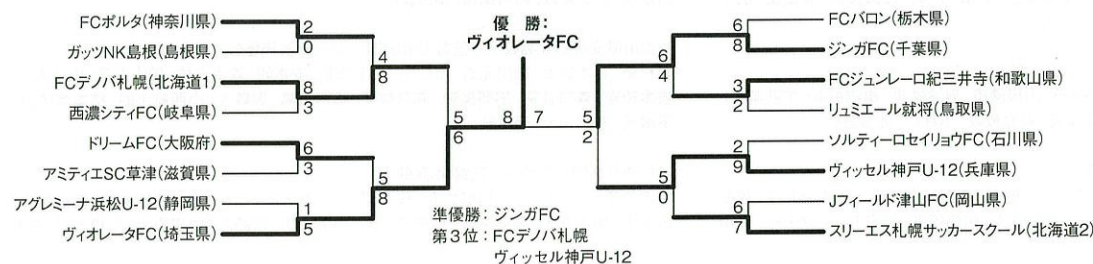
順位	グループJ	神戸	ヴィオレータ	加茂南蒲	プレジャー	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸U-12(兵庫県)		6○3	7○1	8○2	9	3	0	0	21	6	15
2	ヴィオレータFC(埼玉県)	3●6		9○5	11○0	6	2	0	1	23	11	12
3	加茂南蒲SCラージュ(新潟県)	1●7	5●9		4○1	3	1	0	2	10	17	-7
4	プレジャーSC(佐賀県)	2●8	0●11	1●4		0	0	0	3	3	23	-20

順位	グループK	Jフィールド山	スワンダーレ	五戸すずかけ	フウガドール	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	Jフィールド津山FC(岡山県)		7○1	11○3	3○2	9	3	0	0	21	6	15
2	スワンダーレSS(奈良県)	1●7		7○5	5○0	6	2	0	1	13	12	1
3	五戸すずかけSC U-12(青森県)	3●11	5●7		4○1	3	1	0	2	12	19	-7
4	フウガドールすみだエッグス(東京都)	2●3	0●5	1●4		0	0	0	3	3	12	-9

順位	グループL	浜松	清水	鹿島	川上	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	アグレミーナ浜松U-12(静岡県)		6○2	3●4	5○1	6	2	0	1	14	7	7
2	清水FCスポーツ少年団(福井県)	2●6		3△3	8○2	4	1	1	1	13	11	2
3	鹿島アントラーズジュニア(茨城県)	4○3	3△3		1●5	4	1	1	1	8	11	-3
4	川上FC(鹿児島県)	1●5	2●8	5●1		0	0	0	3	8	14	-6

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



準決勝	
FCデノバ札幌	5 [第1ピリオド2-3 第2ピリオド3-3] 6 ヴィオレータFC
●2023年8月10日 13:00 ●大田区総合体育館 ピッチA ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]藤崎翔平 [第2審判]織戸理佐 [第3審判]佐山志功 [タイムキーパー]藤巻裕信 ●観衆:471人	
選手名	出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
瀨川蓮斗	○ 1 GK GK 1 ○ 前田真尋
畠中希竜	△ 5 FP FP 2 ○ 小林正佑
野田恵叶	6 FP FP 3 ○ 鈴木豪
太田葉琉	○ 7 FP FP 4 岡田光
佐藤琉生	8 FP FP 5 高須一期
谷上楠伊斗	○ 9 FP FP 7 ○ 福川琳音
竹沢日向	○ 10 FP FP 8 太田陽大
佐藤由紘	○ 11 FP FP 9 小野陸
荒瀬拓音	12 FP FP 10 ○ 亀山陽士
坂本凜	13 FP FP 11 高野瑛仁
柴田拓也	コーチ 監督 佐藤昌吉
得点	[FCデノバ札幌]3'谷上楠伊斗(1-1)、7'、13'竹沢日向(2-3)(3-3)、14'、20'太田葉琉(4-3)(5-6) [ヴィオレータFC]2'、19'亀山陽士(0-1)(4-5)、4'、5'、19'、20'福川琳音(1-2)(1-3)(4-4)(4-6)
警告	[ヴィオレータFC]20'亀山陽士
グリーンカード	[FCデノバ札幌]試合後チーム [ヴィオレータFC]試合後チーム

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

<FCデノバ札幌> 監督:裏間徳/コーチ:柴田拓也
瀨川蓮斗、畠中希竜、野田恵叶、太田葉琉、佐藤琉生、谷上楠伊斗、竹沢日向、佐藤由紘、荒瀬拓音、坂本凜

<スリーエス札幌サッカースクール> 監督:山瀬幸宏
脇元史、中田結人、馬道俊斗、今野龍虎、前橋湊鳴、井上楓馬、森本直生、横谷瑠偉、三橋春造、草野桜我、鍋木凱心、市川夢真、大戸柚季、高橋虎徹

<五戸すずかけSC U-12> 監督:石渡凌平
伊藤直哉、附田光雅、川守田琉、中野大遥、鳥谷部友翔、吉田斗煌、中島陽紀、福村颯真、山本聖七、米田隼、古川来空、三宅煌志朗

<レノヴェンスオガサFCジュニア> 監督:中村司
藤村優輝、村松篤、守屋大志、田村依吹、藤田朝陽、平野心翔、工藤咲良、壽龍斗、右京豊晟、佐藤悠里、高橋琉煌、帷子和祈、北村桃華、君成田楓太、山本来和

<メッセ宮城FC> 監督:佐藤隆行
菊地悠仁、高橋英寿、清水拓真、駒澤雅斗、植村美月、長濱陽向、島田倉彦、佐藤快音、森壮輔、坂村惟、齋藤佑宇

<仁井田レッドスターズ> 監督:井上祥房
小野陽人、長谷部壮馬、谷口瀨那、石上璃生、鈴木巴琉、斎藤翼大、赤川榮希、成田暖空、保坂勇翔、守屋和馬、深谷聖隆、富樫優結社、井上耀太、伊藤直希

準決勝	
ジンガFC	5 [第1ピリオド1-2 第2ピリオド4-0] 2 ヴィッセル神戸U-12
●2023年8月10日 13:00 ●大田区総合体育館 ピッチB ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]木村拓 [第2審判]平松太輔 [第3審判]高橋凜平 [タイムキーパー]島村剛 ●観衆:471人	
選手名	出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
岡田采波	○ 1 GK GK 1 ○ 小松大空
張桃太	△ 6 FP FP 2 平田一翔
佐藤琉己	7 FP FP 4 ○ 水口航志
島崎紘	○ 8 FP FP 6 △ 吉村康太
岸田来流	○ 10 FP FP 7 △ 三崎屋史虎
地挽龍之介	△ 12 FP FP 8 ○ 蔵元颯人
木下湧心	△ 13 FP FP 9 ○ 岡田隼輝
宇賀諒	△ 17 FP FP 10 △ 石丸悠羽
武地光聖	○ 25 FP FP 12 森昂琉
池本尚希	○ 30 FP FP 17 ○ 稲田夏希
上福元俊哉	コーチ 監督 坪内秀介
得点	[ジンガFC]6'宇賀諒(1-1)、14'木下湧心(2-2)、16'島崎紘(3-2)、16'、20'岸田来流(4-2)(5-2) [ヴィッセル神戸]4'三崎屋史虎(0-1)、10'岡田隼輝(1-2)
警告	[ヴィッセル神戸]2'稲田夏希
グリーンカード	[ジンガFC]試合後チーム [ヴィッセル神戸]10'稲田夏希、試合後チーム

○:先発、△:交代出場

決勝	
ヴィオレータFC	8 [第1ピリオド4-4 第2ピリオド4-3] 7 ジンガFC
●2023年8月10日 15:01 ●大田区総合体育館 ピッチA ●試合時間:20分 ●審判員:[主審]佐山志功 [第2審判]高橋凜平 [第3審判]藤巻裕信 [タイムキーパー]島村剛 ●観衆:520人	
選手名	出場 番号 位置 位置 番号 出場 選手名
前田真尋	○ 1 GK GK 1 ○ 岡田采波
小林正佑	○ 2 FP FP 6 △ 張桃太
鈴木豪	○ 3 FP FP 7 佐藤琉己
岡田光	△ 4 FP FP 8 ○ 島崎紘
高須一期	5 FP FP 10 ○ 岸田来流
福川琳音	○ 7 FP FP 12 △ 地挽龍之介
太田陽大	△ 8 FP FP 13 △ 木下湧心
小野陸	△ 9 FP FP 17 △ 宇賀諒
亀山陽士	○ 10 FP FP 25 ○ 武地光聖
高野瑛仁	11 FP FP 30 ○ 池本尚希
佐藤昌吉	監督 コーチ 上福元俊哉
得点	[ヴィオレータFC]1'、8'、13'、18'、19'亀山陽士(1-0)(4-2)(5-4)(6-7)(7-7)、3'福川琳音(2-2)、7'、20'鈴木豪(3-2)(8-7) [ジンガFC]1'、8'岸田来流(1-1)(4-3)、2'島崎紘(1-2)、9'、14'木下湧心(4-4)(5-6)、14'宇賀諒(5-5)、15'池本尚希(5-7)
グリーンカード	[ヴィオレータFC]11'福川琳音、試合後チーム [ジンガFC]11'島崎紘、14'武地光聖、試合後チーム

○:先発、△:交代出場

<東根キッカーズ> 監督:阿部大介
 阿部悠吾、菅原心彦、工藤歩夢、石澤遙、東海林透真、本間心陽、梅津大成、齋藤駿哉、海藤泰、豊島南

<富田西サッカースポーツ少年団> 監督:山田拓哉
 橋本琉聖、玉木勝悠、國分潤空、小野華菜、川添晃希、園分琉生、阿部柊斗、高橋麗香、高橋麗翔、西川和夢、國分朝陽、阿部漢、橋本羽生、佐藤蓮太郎、山田望愛、山田創生来、西川眞秀、佐藤菜月

<鹿島アントラーズジュニア> 監督:青野友輝
 根本皓生、笹沼元之介、仲村仁社、金森直生、増田輝生、古閑莉空、川戸暖真、倉島優太、橋本希、石毛悠、坂牧蒼海、田山璃樹、福田純正、林悠陽、林明日翔、郡山朔、岩佐樹、玉井龍稀、石神光、磯部裕夢

<FCパロン> 監督:本澤直之
 深町龍斗、荒井皇輝、福田涼翔、片浦蓮、中村桜輔、野口琉偉、井口心之介、伏木叶、片柳佑太、鈴木遼真

<ハレイストラU-12> 監督:土田健太
 中村航、遠藤佑真、南館海希、初澤煌太、齋藤玲李、飯野聖央、堀込岳琉、雷岡龍空、飯塚智、吉田啓人、西村ジン、廣河原真一、小川大翔、横尾航貴、作道海成、小管唯人

<ヴィオレタFC> 監督:佐藤昌吉
 前田真尋、樋口元輝、小林正佑、鈴木豪、岡田光、高須一期、山寺陽大、福岡琳香、太田陽大、小野陸、亀山陽士、高野瑛仁、旭凜斗、椛本佑星、畑中剣之輔、吉川元輝、小松正弥、萩原史斗、上原遥斗

<ジガFC> 監督:大塚裕
 岡田采波、張桃太、佐藤琉己、島崎結、岸田来流、地挽龍之介、木下湧心、宇賀諒、武地光聖、池本尚希

<フウガドールすみだエッグス> 監督:山上康平
 吉田葉葵、今北嵐、福田卓也、新味駿之介、遠藤優正、石田雄大、嶋田傳月、青柳英寿、新井大翔、小澤正禮、中島飛燕、瀬谷拓未、鈴木峻太

<FCポルタ> 監督:渡邊稜真
 水島海渡、中嶋孝介、根本遼、青島叶翔、宮北爽生、大塚瑠伊、齋藤蒼太朗、加藤大翔、武田輝、上杉玲王、菅永有飛、高橋一真、濱部晴、宮崎皇誠

<甲府レジェンズ> 監督:古屋和男
 原涼輔、梶原貴志、保坂昂成、里吉駿汰、木口瑠生、西川稜、飯沼快琉、兩宮朱利、田中風介、馬場爽史、志村琉星、矢野拓夢、谷井琉架、古賀愷哉、松橋愛莉、大倉樹希、中込海翔

<フォルツァ松本 Jr.> 監督:新村淳也
 中野瑠翔、宮本聖希、横沢陽葵、手塚旺次郎、手塚斗良、清水大輝、辻康成、山本称多、田中悠聖、藤田陽向、瀬上未求、尾形和真、宮下貴正、雨田昌英、高橋碧希、渋谷快

<加茂南蒲SCクラブ> 監督:田中剛
 田浦瑠珠、小野塚比呂、牛嶋春琉、真保大那、赤坂陽翔、田中麗愛、小林香梅、奈良奏音、八尾坂心輝、丸山瑛太、市川遥斗、高橋聡太、湯田奏太、奈良旺亮、齋藤瑞希

<住吉サッカースポーツ少年団> 監督:寺田冠
 中島佑享、広世晴空、山田大晟、川原田瑠翔、吉崎未愛、濱本晃雅、架谷仁太、向井嘉人、内山龍飛

<ソルティエロセリウFC> 監督:佐藤悠
 上瀬夢翔、室谷悠翔、野坂篤希、松崎水樹、中村晴、源入颯太、東田崇史、岩崎丈琉、浜野蒼空、山中零士、松崎日々伎、示野朝葉、室塚蓮、示野雲萌、端野敦斗、渡辺幸司郎

<清水FCスポーツ少年団> 監督:小林雅明
 堀江愛生、堂下漢真、鈴木結誠、梅香遥真、和田廉成、藤澤香乃、猿橋春豊、横山昊、堂湯士紋、谷口陽輝、崎田遊、小谷藍路、高倉新、為岡快和、武田惇佑、山下佑人、青木佑星、眞下誠太郎、嶋田悠人

<アグリーマナー浜松U-12> 監督:高橋優介
 高阪奏介、山田光輝、安永悠真、城取崇太朗、竹内楓祐、松井颯之介、村井仁、竹下悠久、渡瀬桜介

<プリンカールFC> 監督:古居俊平
 雷田遼希、佐藤楓斗、水澤琉星、金山然太郎、井澤慶、古久根裕生、松浦駿、廣田悠星、鈴木遼翔、神谷悠宇、田上楓仁

<三重中勢FC> 監督:鎌田廣志
 池之上藍、山路敢太、森下結士郎、竹内悠琉、山口蒼空、細川序衣琉、北岡蒼士、名越海成、久世琉偉、山本イザアキ、鎌戸一、山田裕志、濱慶乃介

<西濃シティFC> 監督:高木政人
 南波拓磨、久保田凌成、棚橋彰大、廣瀬大謙、矢口修士、戸田凌愛、子安南圭、松田龍之介、杉原悠太

<アマティエSC草津> 監督:裏方直輝
 水上琥太、矢島快翔、二上大雅、田中徳喜、前出響人、齋藤、村上潤、中川昊、南原陽向、穀内惇人

<ボルト東山FC> 監督:水谷隆太
 東穂崇、渡井大和、長尾悠樹、河内一乃、佐藤勇名、木下真、小川想功、山本旺和、中村瑠希也、藤堂優心、仲辻徳、林優志、渡津樹、江見奏音、岸優河

<ドリームFC> 監督:桑野賢二
 五十嵐倫太郎、高濱啓生、熊野照大、倉石泰成、秦淳平、原田湊斗、加藤俊、足立匠輝、長谷川雅治、岡直志、羽星海輝、高橋侑汰、田中颯真、平田鉄生、藤本潤、佐野央成、田島心透、尾崎秀一郎、定本紘太郎、古河瑠豆

<ヴィッセル神戸U-12> 監督:坪内秀介
 小松大空、森昂琉、竹中梓晴、平田一翔、小塚壮真、水口航志、吉村康太、三崎屋史虎、戴元颯人、岡田隼輝、石丸悠羽、吉田理玖、安波信平、藤田翔、鈴木瑠輝、稲田夏希、藤本祐平、篠原岳、一矢翔威、吉元珀杜

<スフォンダーレSS> 監督:阿部諭
 加藤匠真、森田龍慶、柏田倫太郎、濱田一芯、下林蒼生、玉井愛琉、中西唯人、伊丹咲人、依田颯真、坂口実悟、増田龍翔、尾浦暖斗、阿部航大、小林柚樹

<FCジュネーロ 紀三井寺> 監督:橋寛之
 和田海翔、森下倅、藤田慎理、栗山大空、味元悠悟、武田将宗、磯本泰輝、後岡友紀、小倉蓮士、岸本凜、野方悠真、久保里玖音、浦下琴羽、九鬼瑠音、相谷祐羽、中村亮汰、中松真秀、須方銀士

<リユミエール就將> 監督:高本誠広
 上原時人、井上瑞輝、大石真彩彩、細田翔平、杉田哲心、瀬尾康介、松波龍之介、佐々木将吾、田村陽

<ガッツNK鳥根> 監督:影山直樹
 土田奏輝、河原琉瑠、狩野聖愛、西田惺也、錦織雄大、恩田昊、大塚瑠門、常陸澁月、岩谷悠翔、片寄一期

<Jフィールド津山FC> 監督:田淵幸一
 三宅晃徳、吉川宗佑、森藤翔斗、坂元一心、生駒星名、曾田漢仁、河本琉叶、米井聖貴、山本琉、芦田一生希

<福山ローザス・セレソ> 監督:徳永将憲
 山本颯翔、福田惺、徳永葵衣、高橋悠太、湯浅幸大、芝内陸、若井章悟、永見浩希、村上大洋、藤岡剛亮

<レノファ山口FC U-12> 監督:上垣卓也
 植垣遥稀、大田翔聖、阿部遥真、菅野悠斗、魚本穂乃花、田村秀太、倉増空河、西村幸途、中村勇輝、田中光輝、斉藤蒼、原田樹来、菊地亮輝、竹田歩

<デサフィオC.F.> 監督:村松圭吾
 堀川岳人、谷禾登、田岡夢翔、藪内喜悠、川淵維心、松岡千潤、赤松春樹、安江清輝、山下士琉、多田朱希、本間悠仁、熊谷彩斗、南谷空良

<徳島ヴォルティスジュニア> 監督:行友亮二
 大本涼太、大西賢生、井川奏佑、美馬瑛汰、岡崎飛優、宮崎光矢、瀧下和颯、木村匠

<久核FC jr.> 監督:山内豊
 大野昂翔、清水瑛太、杉野岳、原健斗、秦聖歩、森岡俊介、光宗桜志、鶴原蓮人、大沼暁良、福島咲太、波頭辰起、高松俊太

<FCソレアータ高知> 監督:別役真亮
 中田篤人、池田航、小島斗真、北添希、善家嵐、井上蒼大、藤原蓮、森川唯太、森本凜斗、明神叶芽、川名律輝、宮本順正、岡崎岳、浜口怜

<マーズ福岡> 監督:大坪景太
 友納大翔、田中洗夢、正木玲次郎、脇山颯倫、金子怜雅、齊藤蒼太、井上彰、兼平海空斗、中村颯吾、若松飛雅、三角蓮、船津瑚太郎、和田怜磨

<ブレジャーSC> 監督:松永知樹
 橋本龍馬、牛島純仁、青木琢珠、笠鈴杜、廣田悠人、前山大翔、合戸優志、津留崎新大、森田楓翔、下境田瑠空、酒井珠羅人、持永篤輝、山内俐乃

<ロ石フットボールクラブ> 監督:七種重徳
 前田麗生、大瀬瑠来、田中柊翔、辻蓮翔、藤田大樹、前田壮輝、藤澤颯汰朗、上野雅空、吉田蒼哉、板垣頌良、辺春斗、木村颯希、須藤幸佑、堤夏楓、山下大空

<エンフレンテ熊本U-12> 監督:松下邦昭
 木村心、古閑友唯、橋恒雅、堀田健人、島田智史、山田龍之心、岡村郁哉、坂本翔希、森崎朋忠、渡辺純真、松下楓

<リノスFC U-12> 監督:西村竜司
 乗富瑠星、高倉怜臣、西山支庵、橋本竜人、赤石昂輝、三浦健、山中銀時、森本圭祐、田尻真路、尾林秀哉、今井陽介、今里遙希、廣瀬玲央、川野有翔、工藤快翔、森山龍

<アスランFC> 監督:鈴木章久
 水永駿平、松浦龍佑、川邊橋一、中島佑理、杉田歩舞、甲斐七斗、渡邊陽太、吉田晃之輔、野村来奏斗、今村柚斗、太田蕾晴、毛上佳希、櫻田峻大、廣峯煌大

<川上FC> 監督:外園翼
 田代晴都、立和名流太、假屋奏太、伊地知健翔、御供田蒼生、上久保虹、竹川陽斗、久保田創史、新盛棟、中間龍之介、川畑晴太、野村怜生、丸山佑晴

<FC琉球U-12> 監督:永澤隆之介
 石川結琉、長嶺大芽、小渡和輝、宮里周旺、大木涼椰、金城里緒飛、上原瑠晴、糸数友誠、山城樹希、花城可之丞、仲間寛斗、長濱樹

FIFA 女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023

※66~71ページに関連記事あり

■グループステージ 試合結果

グループ	日時		対戦結果		会場	観客数(人)
A	7月20日	19:00	ニュージーランド	1-0(0-0)	ノルウェー	Eden Park 42,137
	7月21日	17:00	フィリピン	0-2(0-1)	スイス	Dunedin Stadium 13,711
	7月25日	17:30	ニュージーランド	0-1(0-1)	フィリピン	Wellington Regional Stadium 32,357
		20:00	スイス	0-0(0-0)	ノルウェー	Waikato Stadium 10,769
	7月30日	19:00	スイス	0-0(0-0)	ニュージーランド	Dunedin Stadium 25,947
19:00		ノルウェー	6-0(3-0)	フィリピン	Eden Park 34,697	
B	7月20日	20:00	オーストラリア	1-0(0-0)	アイルランド	Sydney Football Stadium 75,784
	7月21日	12:30	ナイジェリア	0-0(0-0)	カナダ	Melbourne Rectangular Stadium 21,410
	7月26日	20:00	カナダ	2-1(1-1)	アイルランド	Perth Rectangular Stadium 17,065
	7月27日	20:00	オーストラリア	2-3(1-1)	ナイジェリア	Brisbane Stadium 49,156
	7月31日	20:00	カナダ	0-4(0-2)	オーストラリア	Melbourne Rectangular Stadium 27,706
20:00		アイルランド	0-0(0-0)	ナイジェリア	Brisbane Stadium 24,884	
C	7月21日	19:30	スペイン	3-0(3-0)	コスタリカ	Wellington Regional Stadium 22,966
	7月22日	19:00	ザンビア	0-5(0-1)	日本	Waikato Stadium 16,111
	7月26日	19:30	スペイン	5-0(2-0)	ザンビア	Eden Park 20,983
		17:00	日本	2-0(2-0)	コスタリカ	Dunedin Stadium 6,992
	7月31日	19:00	日本	4-0(3-0)	スペイン	Wellington Regional Stadium 20,957
19:00		コスタリカ	1-3(0-2)	ザンビア	Waikato Stadium 8,117	
D	7月22日	19:30	イングランド	1-0(1-0)	ハイチ	Brisbane Stadium 44,369
		20:00	デンマーク	1-0(0-0)	中国	Perth Rectangular Stadium 16,989
	7月28日	18:30	イングランド	1-0(1-0)	デンマーク	Sydney Football Stadium 40,439
		20:30	中国	1-0(0-0)	ハイチ	Hindmarsh Stadium 12,675
	8月1日	20:30	中国	1-6(0-3)	イングランド	Hindmarsh Stadium 13,497
19:00		ハイチ	0-2(0-1)	デンマーク	Perth Rectangular Stadium 17,897	
E	7月22日	13:00	アメリカ	3-0(2-0)	ベトナム	Eden Park 41,107
	7月23日	19:30	オランダ	1-0(1-0)	ボルトガル	Dunedin Stadium 11,991
	7月27日	13:00	アメリカ	1-1(0-1)	オランダ	Wellington Regional Stadium 27,312
		19:30	ボルトガル	2-0(2-0)	ベトナム	Waikato Stadium 6,645
	8月1日	19:00	ボルトガル	0-0(0-0)	アメリカ	Eden Park 42,958
19:00		ベトナム	0-7(0-5)	オランダ	Dunedin Stadium 8,215	
F	7月23日	20:00	フランス	0-0(0-0)	ジャマイカ	Sydney Football Stadium 39,045
	7月24日	20:30	ブラジル	4-0(2-0)	パナマ	Hindmarsh Stadium 13,142
	7月29日	20:00	フランス	2-1(1-0)	ブラジル	Brisbane Stadium 49,378
		20:30	パナマ	0-1(0-0)	ジャマイカ	Perth Rectangular Stadium 15,987
	8月2日	20:00	パナマ	3-6(1-4)	フランス	Sydney Football Stadium 40,498
20:00		ジャマイカ	0-0(0-0)	ブラジル	Melbourne Rectangular Stadium 27,638	
G	7月23日	17:00	スウェーデン	2-1(0-0)	南アフリカ	Wellington Regional Stadium 18,317
	7月24日	18:00	イタリア	1-0(0-0)	アルゼンチン	Eden Park 30,889
	7月28日	12:00	アルゼンチン	2-2(0-1)	南アフリカ	Dunedin Stadium 8,834
	7月29日	19:30	スウェーデン	5-0(3-0)	イタリア	Wellington Regional Stadium 29,143
	8月2日	19:00	アルゼンチン	0-2(0-0)	スウェーデン	Waikato Stadium 17,907
19:00		南アフリカ	3-2(1-1)	イタリア	Wellington Regional Stadium 14,967	
H	7月24日	18:30	ドイツ	6-0(2-0)	モロッコ	Melbourne Rectangular Stadium 27,256
	7月25日	12:00	コロンビア	2-0(2-0)	韓国	Sydney Football Stadium 24,323
	7月30日	19:30	ドイツ	1-2(0-0)	コロンビア	Sydney Football Stadium 40,499
		14:00	韓国	0-1(0-1)	モロッコ	Hindmarsh Stadium 12,886
	8月3日	20:00	韓国	1-1(1-1)	ドイツ	Brisbane Stadium 38,945
18:00		モロッコ	1-0(1-0)	コロンビア	Perth Rectangular Stadium 17,342	

■ノックアウトステージ 試合結果

グループ	日時		対戦結果		会場	観客数(人)
ラウンド16	8月5日	17:00	スイス	1-5(1-4)	スペイン	Eden Park 43,217
		20:00	日本	3-1(1-1)	ノルウェー	Wellington Regional Stadium 33,042
	8月6日	12:00	オランダ	2-0(1-0)	南アフリカ	Sydney Football Stadium 40,233
		19:00	スウェーデン	0-0(0-0,0-0) PK5-4	アメリカ	Melbourne Rectangular Stadium 27,706
	8月7日	20:30	オーストラリア	2-0(1-0)	デンマーク	Stadium Australia 75,784
		17:30	イングランド	0-0(0-0,0-0) PK4-2	ナイジェリア	Brisbane Stadium 49,461
	8月8日	20:30	フランス	4-0(3-0)	モロッコ	Hindmarsh Stadium 13,557
18:00		コロンビア	1-0(0-0)	ジャマイカ	Melbourne Rectangular Stadium 27,706	
準々決勝	8月11日	13:00	スペイン	2-1(1-1,0-0,0-0)延長	オランダ	Wellington Regional Stadium 32,021
		19:30	日本	1-2(0-1)	スウェーデン	Eden Park 43,217
	8月12日	17:00	オーストラリア	0-0(0-0,0-0) PK7-6	フランス	Brisbane Stadium 49,461
20:30		イングランド	2-1(1-1)	コロンビア	Stadium Australia 75,784	
準決勝	8月15日	20:00	スペイン	2-1(0-0)	スウェーデン	Eden Park 43,217
	8月16日	20:00	オーストラリア	1-3(0-1)	イングランド	Stadium Australia 75,784
3位決定戦	8月19日	18:00	スウェーデン	2-0(1-0)	オーストラリア	Brisbane Stadium 49,461
決勝	8月20日	20:00	スペイン	1-0(1-0)	イングランド	Stadium Australia 75,784

※キックオフ日時は現地時間

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。

彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

🏆 日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

🏆 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

🏆 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

🏆 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

🏆 日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの) Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

🏆 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音がするボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

🏆 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー

住友ベークライト

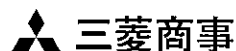


東京海上日動

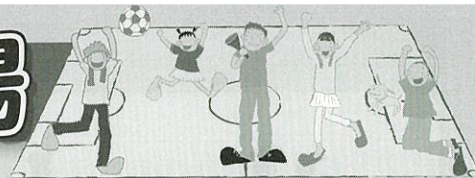
支援団体



日本サッカー後援会



サッカーファミリー広場



JFA×KIRIN キリンファミリーチャレンジカップ2023 11月25日(土)に福岡PayPayドームで開催

キリンファミリーチャレンジカップは、「家族がチームになる日」というコンセプトの下、日本サッカー協会(JFA)がオフィシャルトップパートナーのキリンホールディングス株式会社と共催しているウォーキングフットボールのイベント。昨年12月に高円宮記念JFA夢フィールドで第1回を、今年5月にはJ-GREEN堺(大阪府)で第2回を開催し、11月25日(土)には3回目を福岡PayPayドームで行う。今後、このイベントを全国に拡大していく予定だ。

【開催概要(抜粋)】

主催：公益財団法人日本サッカー協会、キリンホールディングス株式会社

主管：公益社団法人福岡県サッカー協会

場所：福岡PayPayドーム(福岡市中央区地行浜2丁目2番2号)

開催日：2023年11月25日(土)

実施内容：5人制GKなしのウォーキングフットボール(JFA推奨ルール) 各チーム4試合程度を予定

対象：単独または複数の家族で構成された5人以上15人以下のチーム。試合は1チーム5名で行い、そのうち①小学生以下、②20歳以上の男性、③20歳以上の女性の各1名以上が常時ピッチ上で試合に出場するようにする。



チーム数：60チーム

ゲスト：元SAMURAI BLUE(日本代表) 坪井慶介さん、巻誠一郎さん
元なでしこジャパン(日本女子代表) 宮間あやさん

参加料：無料

募集開始：2023年8月30日(水)12:00~

※募集チーム数に達し次第締め切り

申し込み方法：公式アプリ「JFA Passport」より申し込み

●その他イベントの詳細はこちら

<https://www.jfa.jp/news/00032698/>



2023-24WEリーグカップのグループステージ全30試合を 公式YouTubeチャンネルとスポーツナビで無料ライブ配信!

(公社)日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)が主催する2023-24WEリーグカップが8月26日に開幕した(17~18ページに関連記事掲載)。

WEリーグでは、グループステージ全30試合を公式YouTubeチャンネルとスポーツナビでライブ配信(無料)している。より多くの人々に試合を見てもらえるよう、アーカイブでもフルマッチを配信。スポーツナビでは、試合の他にも選手のプレー動画などさまざまなコンテンツを配信していく。

グループス



ステージの全日程を終えた後、グループA1位とグループB1位による決勝が10月14日(土)、等々力陸上競技場(神奈川県)で開催される。決勝の放送と配信情報については決定次第発表となる。

<グループステージ配信>

●スポーツナビ

URL：<https://sports.yahoo.co.jp/livestream/>

配信予定：ライブ・見逃し配信

視聴方法：PC版・スマートフォンブラウザ版「スポーツナビ」、
「スポーツナビ」アプリ(iOS版、Android版)



●WEリーグ公式YouTubeチャンネル

URL：<https://www.youtube.com/channel/UCCp4d48-EN9WQRmfX9YQjIA>

配信予定：ライブ・見逃し配信



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口座
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：

【電話】03-5276-8838

【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrV0-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhhmWtVs3EGjIw_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link

利用時間：平日12:00~18:00(土日祝、年末年始等除く)



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

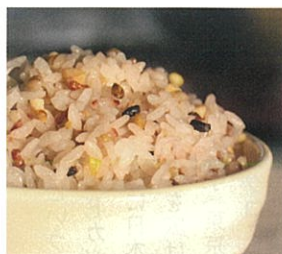
1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力 スポーツ雑穀米



16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんばく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

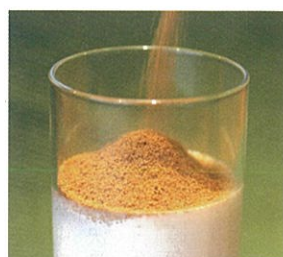
1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー



16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜 鉛	
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんばく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
こちらから →



なでしこジャパンは 2大会ぶりのベスト8

第9回となるFIFA女子ワールドカップが7月20日から8月20日、オーストラリアとニュージーランドで共同開催された。9大会連続出場のなでしこジャパン（日本女子代表）は準々決勝に進出するも、スウェーデンに敗れて無念の敗退。決勝は共に初の決勝進出となったスペインとイングランドの対戦となり、1-0で勝利したスペインが世界王者に輝いた。

※なでしこジャパンメンバーおよび公式記録、大会結果、大会各賞などは42~44ページに掲載。年齢や所属は大会当時



NADESHIKO JAPAN

最後のホイッスルが鳴るまでチーム一丸となって戦い続けた選手たち

日本人審判団が 初めて開幕戦を担当

FIFA女子ワールドカップでは初の共同開催で、南半球で行われるのも初めて。出場チーム数も前回の2019年大会から8枠拡大されて32チームとなり、そのうち8チームが初出場を果たした。南半球と北半球の季節は逆で、オースト

リア、ニュージーランドは冬真っ盛り。しかし、冬とはいえ、1カ月にはわたって熱い戦いが繰り広げられた。

日本サッカー界にとって一つの大きなトピックは、山下良美主審、坊蘭真琴副審、手代木直美副審が日本人審判員として初めて開幕戦を担当したことだろう。4万2137人の観衆が見守る中、堂々としたレフェリングを披露。山下主審は女子ワールドカップで初導入されたVAR後の場内アナウンスも行った。試合は、地元ニュージーランドが後半の1点を守り抜いてノルウェーに競り勝ち、歴史的なワールドカップ初勝利で開幕を盛り上げた。

（※）FIFAは今年2月に開催されたワールドカップから、VARの介入後に主審が下した判定を説明する場内アナウンスを試験的に導入。同年のFIFA U-17ワールドカップ（アルゼンチン）では荒木友輔主審が日本人審判員としての場内アナウンスを行っている（本誌23年7月号P.67〜69参照）。

なでしこジャパンは 無失点でグループ全勝突破

なでしこジャパンは7月22日の初戦に向け、6日前にニュージーランドのクライストチャーチに入り、翌日から大会に向けて調整した。

初戦で戦うザンビアは初出場ながらも大会直前の対外試合では強豪ドイツに勝利しており、日本は高い攻撃力を警戒して試合に臨ん



ザンビア戦、VARによるオフサイドの判定で2度ゴール取り消しとなった田中美。3度目はしっかりと決めた

だ。先発には国際Aマッチ3試合目の石川璃音（浦和）が起用され、「立ち上がりにまず体を強くぶつけていった」と気合十分なプレーを發揮。日本は10分、田中美南（一神戸）がゴールネットを揺らす。VARでオフサイドの判定となり、得点はならず。その後も攻める日本は、右サイドで清水梨紗（ウエストハム・ユナイテッド）、長谷川唯（マンチェスター・シティ）、藤野あおば（東京NB）とつなぎ、最後は藤野のクロスから宮澤ひなた（マイ仙台）がゴールを奪取。宮澤は日本ベンチに駆け寄って待望の先制点を喜び合った。

48分、田中美のゴールは再びVARによってオフサイドとなったが、その7分後には遠藤純（エンジェル・シティFC）のクロスから、「何度もオフサイドになったが絶対にまたチャンスは来ると思っ

ていた」という田中美がついに念願のワールドカップ初ゴールを決める。さらに日本は宮澤、遠藤の得点でリードを広げ、試合終了間際には植木理子（東京NB）がPKを獲得。植木はクロスバーに当てて失敗したが、相手GKがゴールラインから離れたとして蹴り直しとなり、2度目はしっかりと決めて5-0。大量得点で白星発進を切った日本だが、2得点と活躍した宮澤の「ここからが勝負」という言葉通り、チームは次戦をしっかりと見据えていた。

第2戦のコスタリカ戦では先発メンバーを4人入れ替え、最終ラインに三宅史織（一神戸）、前線に猶本光（浦和）を配置。日本は右サイドから攻撃の形をつくって相手を押し込んでいく。25分には右から左へ展開し、猶本が強烈な左足シュートを決めて先制。2分後には藤野が左サイドから切り込み、角度のない位置から追加点を奪った。



コスタリカ戦で先制点を挙げた猶本。左足の力強いシュートは相手GKの手をかすめた

■グループステージ第1戦
2023年7月22日 19:00
ニュージーランド/Waikato Stadium

日本 5-0 ザンビア

43'・62'宮澤ひなた
55'田中美南
71'遠藤純
90+11'植木理子

1-0
4-0

GK ① 山下杏也加 MF ⑬ 遠藤純
DF ② 清水梨紗 → 77' ⑭ 清家貴子
③ 南萌華 ⑮ 長谷川唯
④ 熊谷紗希 ⑯ 藤野あおば
⑤ 石川璃音 → 77' ⑰ 猶本光
MF ⑦ 宮澤ひなた FW ⑪ 田中美南
→ 93+3' ⑱ 千葉玲海菜 → 66' ⑲ 植木理子
⑩ 長野風花

●プレーヤー・オブ・ザ・マッチ: 宮澤ひなた

■グループステージ第2戦
2023年7月26日 17:00
ニュージーランド/Dunedin Stadium

日本 2-0 コスタリカ

25'猶本光
27'藤野あおば

2-0
0-0

GK ① 山下杏也加 MF ⑭ 長谷川唯
DF ② 清水梨紗 ⑮ 藤野あおば
→ 90+1' ⑯ 守屋都弥 → 59' ⑰ 宮澤ひなた
③ 南萌華 ⑱ 林穂之香
④ 熊谷紗希 ⑲ 長野風花
⑤ 三宅史織 FW ⑪ 田中美南
MF ⑥ 杉田妃和 → 74' ⑳ 植木理子
⑧ 猶本光 → 59' ㉑ 清家貴子

●プレーヤー・オブ・ザ・マッチ: 猶本光

■グループステージ第3戦
2023年7月31日 19:00
ニュージーランド/Wellington Regional Stadium

日本 4-0 スペイン

12'・40'宮澤ひなた
29'植木理子
82'田中美南

3-0
1-0

GK ① 山下杏也加 MF ⑧ 猶本光
DF ② 清水梨紗 ⑩ 長野風花
→ 59' ⑱ 守屋都弥 → 59' ⑲ 長谷川唯
③ 南萌華 ⑳ 遠藤純
④ 熊谷紗希 → 85' ㉑ 杉田妃和
⑤ 高橋はな ㉒ 林穂之香
MF ⑦ 宮澤ひなた FW ⑨ 植木理子
→ HT ㉓ 藤野あおば → 67' ㉔ 田中美南

●プレーヤー・オブ・ザ・マッチ: 宮澤ひなた



藤野は19歳180日で日本代表(男女)最年少得点を記録。10代でのワールドカップ得点も日本初となった

女子年間最優秀選手賞を受賞して

「ゴールの役割を任されてきたので結果は大事だと思っていた」という19歳の藤野は、男女合わせたワールドカップで日本代表選手の最年少ゴール(19歳180日)を記録した。後半も選手を次々とピッチに送って攻勢を強める。追加点はならなかったものの2連勝を飾った日本は、スペインと共に大会最速でノックアウトステージ進出を決めた。猶本は「準備してきたことをゲーム

で表現できた。良い守備があるから良い攻撃に移れている」と勝因を語った。

グループ首位を懸けたスペインとの第3戦、高橋はな(浦和)を先発で起用し、植木が最前線でゴールを狙った。巧みなパスワークでボールを保持するスペインに対し、日本は細かなポジショニングで対応すると12分、左サイドの遠藤純がゴール前へパス、抜け出した宮澤が冷静にゴールへ流し込み、先制に成功する。29分にも相手の隙を突いて植木が追加点を決める。変わら



スペイン戦は我慢の戦いが続いただけに、宮澤の先制点が大きなアドバンテージとなった

ずボールを保持するスペインだったが、日本は40分にもカウンターのチャンスをつくる。「ボールを奪った後が大きなチャンスという共通理解があった」という宮澤が、植木からのパスを受けてゴールネットを揺らした。守備ではGK山下杏也加(神戸)や熊谷紗希(ASローマ)を中心に、2年連続でUEFA

いるアレクシア・プテジャスの自由を奪う。終盤には田中美の鋭いシュートから4-0とし、日本が首位でのグループステージ突破を決めた。けがから復帰して今大会に臨んだ高橋は「(リハビリを)やってきてよかった。ベンチにいるメンバーが声を出してくれ、足が止まりそうな時間も最後まで動けた」と90分を振り返った。

追加点ならず。日本がベスト8進出を決めた。

対するノルウェーも最後まで日本ゴールに迫ったが、GK山下が止めて追加点ならず。日本がベスト8進出を決めた。

1点差に迫る。その後も最後までゴールを目指したが1-2で試合終了を迎えた。

スウェーデンに雪辱ならず 日本は準々決勝で敗れる

ラウンド16は、グループAを2位通過したノルウェーと対戦した。15分、宮澤のアーリークロスがノルウェーの選手の足に当たってオウゴンゴールとなり、まさかの形で日本が先制する。しかし、5分後には高い打点のヘディングシュートを決められて同点に。日本は今大会初失点を喫したが、「失点後も下を向かないマインドでプレーできた」という清水が50分、ゴール前で中途半端になったボールをすかさず拾ってシュート。この清水のゴールで、日本が勝ち越す。81分には、藤野の縦へのスルーパスに走り込んだ宮澤がGKと1対1になり、落ちて着いて流し込んでリードを広げる。対するノルウェーも最後まで日本ゴールに迫ったが、GK山下が止めて追加点ならず。日本がベスト8進出を決めた。

準々決勝は、ラウンド16で前回大会優勝のアメリカをPK戦の末に下したスウェーデンとの対戦となった。日本が2年前の東京オリンピックで敗れている相手だ。日本は序盤から相手の高さに苦しむ。32分、スウェーデンのFKからゴール前で混戦となり、クリアしきれずにいると最後は押し込まれて失点。後半にはCKのボールが長野風花(リバプールFC)の手に当たったとしてPKとなり、これを決められて0-2とされた。日本は74分に植木が自ら獲得したPKを蹴るも、これはクロスバーに当たってゴールはならず。86分には藤野がFKから直接狙ったシュートもポストに嫌われる。場内からニッポンコールが起る中、途中出場した清家貴子(浦和)がゴール前で切り返してシュートを放つと相手選手がクリアミス、それを林穂之香(ウエストハム・ユナイテッド)が押し込んで1点差に迫る。その後も最後までゴールを目指したが1-2で試合終了を迎えた。

池田太監督は「前半はマークがずれたところを使われた。その修正に少し時間がかかった。選手やチームの成長があり、なでしこジャ

パンのサッカーを世界に示すことはできたが、ここで敗れたことは事実」と、無念さをのぞかせた。自身4度目のワールドカップを終えた主将の熊谷は「チャンスはいくつもあったが結果として届かなかった。先に進むには何かが足りなかったと受け止めるしかない」としながらも、「世界と戦えるなでしこを見せられた」と今大会を振り返った。



右サイドで攻守に関わり続けた清水。準々決勝ではゴール前にこぼれたチャンスを逃さなかった



準々決勝の終盤に得点を決めた林がボールを持ってセンターサークルへ急ぐ

スペインが初優勝を飾る 宮澤は大会得点王に

今大会、グループステージではFIFA女子ランキング2位のドイツが敗退する波乱もあったが、欧州は12チームのうち8チームがノックアウトステージへ進出し、初出場のみロッキンゴなどアフリカ勢も3チームがグループステージを突破。ラウンド16では2連覇を目指したアメリ

リカが、準々決勝では前回大会準優勝のオランダが姿を消した。その中でベスト4に勝ち上がったのは地元オーストラリアと欧州3チーム。スペインとスウェーデンの準決勝は、スペインが19歳のサルマ・パラジュエロの得点で先制し、1点を返されるも89分にオルガ・カルモナが勝ち越しゴールを決め、劇的な展開で2-1と勝利した。初の準決勝進出に沸くオーストラリアは、けがをしていたエースのサム・カーが初先発し、イングランドを迎え撃った。イングランドが先制するが、満員の7万5784人が駆け付けた会場から大声援を受けてオーストラリアも、カーの力強いシュートで同点とする。波に乗るオーストラリアだったが反撃は実らず、ローレン・ヘンプとアレックス・ルツンが追加点を挙げた。イングランドが決勝進出を決めた。スウェーデンとオーストラリアの3位決定戦は、キャプテンのコン

バレ・アスラニの得点などで2-0としたスウェーデンが2大会連続4度目の3位に入賞。オーストラリアは過去最高の4位で大会を終えた。

スペイン対イングランドの決勝はどちらが勝っても初優勝となる。元々でしこジャパンの間あやがプレゼンターとして優勝トロフィーをピッチに運び、その後両チームの選手が入場した。試合で最初に主導権を握ったのはスペインだった。細かいパスで攻撃を組み立てると29分、カルモナがオーバーラップからシュートを打ち、スペインが先制する。イングランドは後半から4バックに変更し、出場停止明けのローレン・ジェイムズを投入して攻撃の起点をつくる。63分、VARの介入によってハンドが取られ、スペインにPKが与えられたが、イングランドのGKメアリー・アプスがPKを阻止して追加点を許さない。その後は互いに譲らず、リードを守り抜いたスペインが1-0で初優勝を遂げた。

■ラウンド16
2023年8月5日 20:00
ニューージーランド / Wellington Regional Stadium

日本 **3-1** ノルウェー

15' オウンゴール
50' 清水梨紗
81' 宮澤ひなた

20' グロー・レイテン

1-1
2-0

GK ① 山下杏也加 MF ⑩ 長野風花
DF ② 清水梨紗 ⑬ 遠藤純
③ 南萌華 ⑭ 長谷川唯
④ 熊谷紗希 ⑮ 藤野あおば
⑫ 高橋はな FW ⑪ 田中美南
MF ⑦ 宮澤ひなた → 72' ⑨ 植木理子

●プレーヤー・オブ・ザ・マッチ：宮澤ひなた

■準々決勝
2023年8月11日 19:30
ニューージーランド / Eden Park

日本 **1-2** スウェーデン

87' 林穂之香

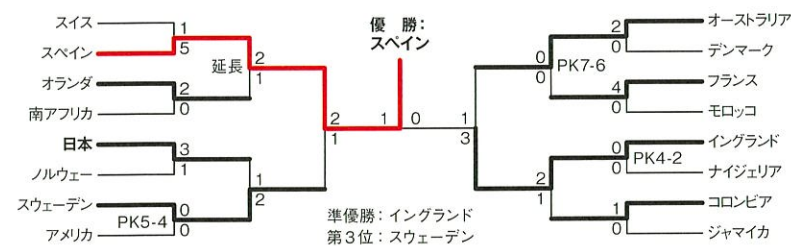
32' アマンダ・イレステット
51' フィリパ・アンイェルダール

0-1
1-1

GK ① 山下杏也加 MF ⑦ 宮澤ひなた
DF ② 清水梨紗 → 80' ⑩ 清家貴子
③ 南萌華 ⑪ 長野風花
④ 熊谷紗希 → 80' ⑬ 林穂之香
⑫ 高橋はな → 92+2' ⑮ 浜野まいか
MF ⑥ 杉田妃和 FW ⑪ 田中美南
→ HT ⑨ 遠藤純 → 52' ⑫ 植木理子

日本はフェアプレー賞を受賞し、宮澤が5得点で11年の澤穂希以来となる大会得点王に輝いた。初のワールドカップで存在感を示した宮澤は「一緒に戦ったチームメートはもちろん、これまで指導してくださったコーチやサポートしてくださった皆さんのおかげ」とコメントした。

■ノックアウトステージ



<3位決定戦>スウェーデン 2-0 オーストラリア

初優勝を遂げたスペイン。日本に続きU-20、U-17世代合わせて全世代の女子ワールドカップを制覇、ドイツに続いて男女のワールドカップを掲げた国となった



© 2023 FIFA

インタビュー

池田 太なでしこジャパン監督



限られた活動時間の中で
初戦を照準に準備を進める

——ワールドカップに向けた準備段階ではメンバー選考も含めてどのようなことを重視されてきたのでしょうか。

池田 活動機会や親善試合の数が限られている中でしたが、昨年末から本大会が始まる前まで、前回ワールドカップ優勝のアメリカやオリンピック優勝のカナダ、ヨーロッパ王者のイングランドなど、各大陸の実力国とマッチメイクができました。その中で本大会のメンバーを見据えて選考を進め、10月の組み合わせ抽選会で対戦相手が決まってからは、その相手に対してどういうチーム構成で戦っていくかを考えました。

——日本はU-17、U-20世代でワールドカップ優勝を経験した選手が多く、出場チーム中4番目に若いチームでした。経験と年齢のバランスをどのようにお考えになっていたのでしょうか。

池田 意図的に若い選手構成にしたわけではなく、アグレッシブに戦う中でインテンシティー（強度）高くプレーできることや、その中でしっかり技術をさせること、所属チームで良いパフォーマンスを見せていること、なでしこジャパンでしっかり存在感を示せること、といった基準の中で23人の選手を選びました。

——国内組が14人、海外組は過去最多の9人に上りました。限られた活動期間の中でチームづくりの大変さもあつたのではないですか。

なでしこジャパン（日本女子代表）は、FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023で準優勝を果たした2015年大会以来のベスト8に進出。グループステージでは後に優勝を飾るスペインに快勝するなど世界から注目されるチームとなった。チームをベスト8に導いた池田太監督に大会を振り返ってもらった。

取材日：2023年8月28日

日々進化する女子サッカー界で 日本の良さを示せた

でしょうか。

池田 選手たちはそれぞれの環境でトライしてくれています。それはとても素晴らしいことです。集まれる時間が少なくても、さまざまな情報の中から何を伝え、どうトレーニングを構成していくか、スタッフとは毎回、試行錯誤しながらやってきました。

——大会初戦までの準備で力を入れたことは？

池田 ニュージーランドで行われた組み合わせ抽選会には私も現地へ赴きました。その際、移動や環境面など、さまざまなことを想定してベースキャンプ地を選定しました。直前キャンプは、戦術的な落とし込みとともにコンディショニングの調整も重視しました。大会前には仙台でパナマとの国際親善試合もありましたが、ザンビアとの初戦にフォーカスして準備を進めていました。直近の世界大会では、2019年のワールドカップと21年の東京オリンピックの初戦で引き分けており、選手たちも初戦がいかに大事かを強く認識していましたから、初戦へのウエイトはかなり大きくなりました。ニュージーランドは冬でしたが、風もなく晴れていて思っていたよりも寒くなく、快適でした。

攻守で相手を上回り グループステージ3戦全勝

——初戦のザンビア戦はVARで2度、ゴールが取り消される場面もありましたが、5-0で快勝しました。準備の成果が発揮されたのでしょうか。

池田 そうですね。相手が勢いを持って入ってくることは分かっていたので、選手たちは、先に失点しないようにボールをコントロールしてリスクマネジメントを徹底しながら試合を進めてくれました。VARによるゴール取り消しが2度ありましたが、VAR介入によって生じた時間の使い方もチームとして共有

していただきましたので、動揺することなくプレーを続けて、前半のうちに宮澤ひなた選手のゴールでリードできたことは大きかったです。結果的に、相手に1本もシュートを打たせなかったことも良かったですね。

——第2戦のコスタリカ戦は勝てばグループステージ突破がほぼ確実になる状況でした。どのようなところにポイントを置かれたのでしょうか。

池田 コスタリカはそれまでの試合では5バックで戦うことが多くありました。今大会では初戦でスペインに負けていて、日本に対してもしっかり5バックで守って来ると予想していました。ところが、いざ試合が始まると4バックでアグレッシブに奪いに来た。しかし、それに対してパニックになることはなく、ピッチ上で判断して素早く対応できたのは選手たちの力だと思います。

——その中で、初先発の猶本光選手が先制点、藤野あおば選手がワールドカップ最年少ゴールを記録して2-0と勝利しました。

池田 攻撃面では、相手のラインの間を突いてゴール

を目指すという狙いがあり、それをしつかりと実践する中で2人がチャンスにゴールを決めてくれたことが大きかったと思います。

——第3戦はスペインと、互いにラウンド16進出を決めた状態での対戦となりました。ボール支配率は日本が21%でスペインが68%と、守備の時間が長い中で4点を奪って快勝しました。

池田 それまでの2試合よりも守備の時間が長くなることは想定していました。だからこそ、守備にストレスを感じるのではなく、押し込まれていたらディフェンスラインの後ろに狙うべきスペースがあるということや、奪った後にどこにスペースがあるかを想定してトレーニングしていました。ゴールは、奪った後の背後に飛び出すタイミングや



この強さを生かして、守備からゴールを奪った。今大会は、守備の味で多くの選手が活躍した。

ファーストタッチ、フィニッシュなど、いろいろな精度の高いプレーが積み重なった成果だと思っています。一方で、今後はそうした相手に対して、自分たちがボールを持ってゲームを進められるようにならないといけないということも感じたゲームでした。

——無失点で3連勝し、戦い方を変化させながらスペインに快勝したことで世界からの評価が急上昇しました。チームの雰囲気はいかがでしたか。

池田 粘り強く守備をしながら、意図的な攻撃でゴールを奪えたことで、戦い方の幅が広がったと思います。スペインに勝ったことで自信がグッと増した面はありましたが、「ノックアウトステージからはまったく別の大会になる」という認識を持っていたので、すぐに切り替えて準備をしました。

ノックアウトステージで奮闘も ベスト8で敗退

——ラウンド16で対戦したノルウェーは、グループステージの3チームとは異なる高さを持つチームでした。どのような対策をして臨んだのでしょうか。

池田 まずはロングボールとクロス

ボールの対応を考え、サイドを突破されてCKなどを与えないように、守備のコースの切り方や1対1の対応を工夫しつつ、攻撃面では相手の守備ラインの穴を突いていくことを考えていました。

——日本は相手のオウンゴールで先制したものの、クロスボールから初失点を喫しました。ハーフタイムにはどのような指示を？

池田 守備面というよりは、攻撃面でダブルボランチが2人とも最終ラインのフォロワーに入ることが多かったため、どちらかはもう少し攻撃に参加していくことと、サイドをうまく使ってゴールを狙っていくことと話しました。失点した後にピッチ上で選手が集まってコミュニケーションを取っていたこともあり、冷静さを失うことなく後半に入ることができました。

——その後半に、2点を奪って3-1で勝利しました。自身5ゴール目を決めた宮澤選手が、最終的に得点王になりました。彼女の活躍をどのようにご覧になっていましたか。

池田 宮澤選手は相手のディフェンスラインと中盤の間でパスを受けてターンをしたり、1-5列目からスピードで背後を狙ったりと良さが



大事な初戦となるグループステージのザンビア戦では20歳の石川瑠音を先発に抜擢。その後の試合で選ばれたすべてのワールドプレイヤーがピッチに立った

よく出ていました。ここぞ、という場面での動き出しの速さは彼女の魅力ですし、相手のディフェンスが嫌がるプレーをしながら、フィニッシュも落ち着いていたと思います。

——そして、準々決勝の相手は前回王者のアメリカを破ったスウェーデンです。日本は今大会初めて先制点を許しました。前半はどのようなところに課題があったのでしょうか。

池田 守備面で重心が低くなってしまったことが一つの課題です。1戦目、2戦目はしっかり押し込む状況もつくれました。スペイン戦ではポゼッションしてくる相手に対して前半から3人ではなく5人で守ったことで良い守備からの攻撃という

形ができました。しかし、それが、スウェーデン戦の前半で重心が下がったことにつながったのではないかと思います。

——後半はPKで2失点目を喫しましたが、その後は前線で奪えるようになり、87分に林穂之香選手のゴールで1点差に迫りました。しかし残念ながら、1-2の敗戦となりました。追い付くために何が足りなかったのでしょうか。

池田 前半のうちに前線からプレスはがまるように、一人一人の守備の役割をもっと明確にすることが必要だったと思います。ただ、相手も意図的に方向づけをして守備をしてきましたし、球際も強く、自陣で奪い返される場面が多かったの

で、それをいかにかいくぐるか。チームとしてのボールの動かし方や個人の打開力をもっと高めていかなければならないと感じました。

——今大会はセットプレーからの得点はありませんでした。多彩なパターンで相手ゴールを脅かしませんでした。その点についてどのように振り返りますか。

池田 攻撃のセットプレーは、宮本ともみコーチが相手の守備を分析した上でアイデアを共有し、試合では、選手が相手の配置を見て臨機応変に戦えるよう複数の選択肢を持ち、いろいろなトライできました。セットプレーは今後強みにしていきたいと思っ

ているので、さらに精度を上げていくことが重要になると思います。

——ベスト8で終わった今大会は日本女子サッカーにおいてどのような大会になったと思われるか。

池田 出場国が増えた中で、南アメリカやコロンビア、ジャマイカなどが躍進して、特徴のある選手が出てくるなど、世界の勢力図の変化とともに、女子サッカー界全体が日々進化している印象があります。その中で日本は、俊敏性を生かしながら、多くの選手が関わってゴールを奪う攻撃をしました。そこはやはり強みになると思いましたし、粘り強い守備や90分間それを続けられる運動量、やるべきことをぶれずに貫けるメンタルの持久力もある。課題としては、強度の高い中でボールを奪う力やボールを奪われぬスキル、スピードやパワーなど一人一人のフィットネスのレベルをもっと上げていくことです。

——日本は2011年以来のフェアプレー賞を受賞しました。現地では試合を重ねることに日本を応援する海外サポーターの数が増えていきました。

池田 選手のピッチでの振る舞いやひたむきに戦う姿勢、応援してくれる方に対してのあいさつやコミュニケーションもそうですし、サポーターの方々もごみを拾って帰ってくる。そういうことが日本の文

化として受け入れられて、伝わっていただければいいですし、そういう意味でフェアプレー賞をいただけたことは本当に誇らしいですね。一方で、プレーの中ではもっと厳しさを追求することも必要だと思っています。

課題と収穫を手に 次のステージへと向かう

——グループステージでは試合ごとに先発メンバーを替え、大会5試合で全てのフィールドプレーヤーがピッチに立ちました。あらためて、選手の起用や



ルウェー戦ではホランチの一人、長谷川唯(写真)を起点に勝ち越しゴールを挙げた



なでしこらしいサッカーでラウンド16を突破。ベスト8で敗退したものの世界にその存在感を示した

令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（男子）

【大会概要】

7月29日～8月4日、北海道旭川市の8会場で開催。各都道府県から1チーム、加盟登録数の多い東京都、神奈川県、大阪府は2チーム、開催地の北海道は3チームの計52チームが出場し、クワート方式で優勝を争う。試合時間は70分(35分ハーフ)。勝敗が決しない場合はPK戦を行う。なお、決勝のみ20分(10分ハーフ)の延長戦を実施し、それでも勝敗が決しない場合はPK戦を行う。3位決定戦は行わない。



明秀日立が桐光学園とのPK戦を制して初の日本一に輝く

令和5年度全国高校総合体育大会（通称インターハイ）の男子サッカー競技が北海道旭川市で行われた。「翔び立て若き翼 北海道総体2023」と称して開催された今大会、1回戦では、高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ勢の神村学園（鹿児島）と静岡学園（静岡）がそれぞれ東邦（愛知）と明秀日立（茨城）に敗れるなど、波乱含みの幕開けとなった。

2回戦からは地元・北海道の3チームが登場。札幌創成（北海道2）と札幌第一（北海道3）が奮闘実らず涙をのむ中、旭川実業（北海道1）は観客1,600人の声援を受けて帝京長岡（新潟）に3-2で勝利し、大会に花を添えた。

準決勝に名乗りを挙げたのは桐光学園（神奈川1）、国見（長崎）、日大藤沢（神奈川2）、明秀日立。3大会ぶり2度目の頂点を目指す桐光学園と、ここまで無失点で勝ち上がってきた国見の一戦は、PK戦を5-4で制した桐光学園に軍配が上がった。もう一方の試合は、共に初タイトルを狙う日大藤沢と明秀日立的の戦い。明秀日立は4分に石橋鞘が先制点をマークすると、その後も熊崎瑛太の2得点でリードを広げ、3-1で決勝行きの切符を勝ち取った。

桐光学園と明秀日立的の決勝は、明秀日立が幸先の良いスタートを切る。準々決勝までは試合終盤に得点するパターンが多

かった明秀日立だが、「入り方が非常に良かった」と萬場努監督が振り返ったように、前線からの守備で桐光学園

を押し込むと、11分と19分に柴田健成が連続ゴールを決める。桐光学園もサイド攻撃から前半に宮下拓弥が、後半には松田悠世が得点を奪取して同点とするが、それ以降は、山本凌ら明秀日立の守備陣が桐光学園に追加点を許さず、試合は2-2で延長戦に突入。それでも決着がつかず迎えたPK戦で、桐光学園の7番目を守護神・重松陽が防ぎ、7-6で制した明秀日立が歓喜に沸いた。

明秀日立は初の日本一、茨城県勢としては44年ぶりの栄冠。萬場監督は「チームの努力と見合った結果になったことが素直にうれしい」と喜ぶ一方、「サッカー選手として積み上げなければいけない。もっと質を高めなければならないと、この6試合で気付かせてもらった」と話した。対する桐光学園の鈴木勝大監督は「相手が喜んでいる姿を心に刻んで、また明日からしっかり努力していきたい」と悔しさをにじませた。



決勝戦、桐光学園は2点のビハインドから後半に松田悠世（写真中央）の得点で同点に追いつき、粘り強さを見せた



東邦（白ユニフォーム）と神村学園（赤）の1回戦、山端寧生（写真右）の2得点で東邦が2-1と勝利



2回戦から出場した旭川実業（えんじユニフォーム）は、帝京長岡（緑）との接戦を3-2で制して地元の声援に応えた



決勝で2得点を挙げた明秀日立的の柴田健成（写真中央）

令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会(女子)

【大会概要】

7月26日～30日、北海道帯広市と音更町の4会場で開催。各地域から1チーム、加盟登録数の多い東北、東海、近畿、九州は2チーム、関東は3チーム、開催県である北海道から1チームの計16チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う。3位決定戦は行わない。試合時間は70分(35分ハーフ)で、決勝のみ20分(10分ハーフ)の延長戦を実施し、それでも勝敗が決しない場合はPK戦により優勝校を決定する。



藤枝順心高校が7年ぶりの大会制覇!

令和5年度全国高校総合体育大会(通称インターハイ)の女子サッカー競技は、地域予選を勝ち抜いた16チームが北海道に集結し、北の大地で日本一を目指した。前回大会覇者の大商学園(大阪)と準優勝の十文字(東京)は地域予選で敗退。秀岳館は熊本県勢として初のインターハイ出場を果たした。

1回戦は8試合のうち3試合がPK戦にもつれ込むなど熱戦の幕明けとなる。1月の第31回全日本高等学校女子サッカー選手権大会を制した藤枝順心(静岡)は大阪学芸(大阪)と対戦。先制したのは大阪学芸だったが、藤枝順心は試合終了間際に追いつくとPK戦を制して勝ち上がる。藤枝順心は続く東海大福岡(福岡)との準々決勝を6-0で完封勝利、準決勝ではここまで2試合11得点無失点の星槎国際湘南(神奈川)に一度は勝ち越されながらも追いつき、PK戦を制して決勝進出を決めた。

もう一方のブロックでは、過去最多5度の優勝を誇る日ノ本学園(兵庫、両校優勝含む)が福井工大福井(福井)に敗れて1回戦敗退。福井工大福井は次の鹿島学園(茨城)にPK戦で勝利すると、準決勝では聖和学園(宮城)と対戦。福井工大福井が前半に先制するも、聖和学園が後半に巻き返して同点とする。PK戦を4-3と制した聖和学園が初の決勝に駒を進めた。

藤枝順心と聖和学園の決勝戦は早々にスコアが動く。3分、松本琉那のゴール前へのロングボールから辻澤

亜唯がGKと競り合いながらも頭で合わせてゴールに流し込み、藤枝順心が先取。なかなか攻撃の形をつくれぬ聖和学園に対し、藤枝順心は14分にもCKから高岡澗が頭で決めて追加点。その後、聖和学園はボール支配率を高めて好機をうかがい、前半終了間際には立て続けにチャンスをつくったがゴールはならず。後半も何とか点を返したい聖和学園に対して藤枝順心は粘り強く守る。すると61分、競り合いからこぼれたボールを久保田真生が拾ってその勢いそのままゴールへ向かい、GKとの1対1を制してダメ押しの3点目を奪取した。3-0で聖和学園を下した藤枝順心が、2016年大会以来となる2度目のタイトルを獲得。藤枝順心は9月18日に開催されるJFA U-18女子サッカーファイナルズ2023に参加し、日テレ・東京ヴェルディメニーナ(第5回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)優勝)とU-18年代女子の真の日本一を懸けて対戦する。



決勝戦、藤枝順心の辻澤亜唯(写真手前)がチームに先制点をもたらす。前線へのロングフィードからチャンスをつくった



聖和学園は決勝戦、リードされる中でも諦めずにゴールに向かった。後半には決定機を迎えたが本田悠良(10番)のシュートはGKに阻止された



クーリングブレイク中も話し合う選手たち



初優勝は逃したものの粘り強く戦い抜いた聖和学園の選手たち

第47回 日本クラブユースサッカー選手権 (U-18)大会

【大会概要】

7月23日～8月2日、群馬県(グループステージ、準々決勝)と東京都(準決勝、決勝)の各会場で開催。全国9地域の代表32チームが4チームずつに分かれてグループステージ(試合時間70分)を戦い、各グループ上位2チームがノックアウトステージ(試合時間80分)に進出し、優勝を決定する。



ガンバ大阪ユースが4回目の優勝に輝く!

第47回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会が行われ、高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ勢のジュビロ磐田U-18(東海3/静岡)や名古屋グランパスU-18(東海2/愛知)、ヴィッセル神戸U-18(関西2/兵庫)ら上位カテゴリーのチームがグループステージで姿を消す波乱が起こった。

各組上位2チームが挑んだノックアウトステージでは、プリンスリーグ中国のファジアーノ岡山U-18(中国2/岡山)が快進撃を見せる。ラウンド16でサガン鳥栖U-18(九州1/佐賀)を撃破するなど、果敢に挑んで初の4強入りを果たした。その他、FC東京U-18(関東1/東京)、清水エスパルスユース(東海4/静岡)、ガンバ大阪ユース(関西4/大阪)が準決勝に進出。長年、育成年代で成果を残しているチームが、準決勝からの舞台となる味の素フィールド西が丘行きを決めた。

7月31日に西が丘で行われた準決勝第1試合は、FC東京が清水に4-2で快勝した。FC東京は前半に先制点を許したが、後半に流れを引き寄せた。山口太陽ら2年生の活躍で4ゴールを挙げ、6年ぶりに決勝進出を決めた。第2試合はG大阪が岡山に1-0で勝利。前半は一進一退の展開だったが、後半に安藤陸登が決めた1点を最後まで守り切った。

8月2日に行われた決勝は記憶に残る名勝負となる。G大阪が24分に安藤のゴールで先手を取るも、直後の28分にFC東京が山口の得点で試合を振り出しに戻す。後半は互いに良さを出す中、69分に左CKから永野修都が決めてFC東京が一步前に入る。だが、G大阪も粘り強く抗戦。77分、速攻から好機をつくり、最後は途中出場の當野泰生が決めて同点に追い付いた。

延長戦も視野に入中、80+4分にG大阪の武井遼太郎がネットを揺らして再び勝ち越す。しかし、試合はこれで終わらなかった。FC東京は直後のラストプレーで右サイドを崩すと、最終ラインから攻撃に加わっていた永野が同点弾。延長戦に入っても決着が付かず、迎えたPK戦、7本目までもつれた接戦を制したG大阪が、16年ぶりに夏の日本一に輝いた。「けが人が多かったが、(下級生を中心に)競争しながらみんなが理解してやってくれた」と町中大輔監督。一致団結した育成の名門が歓喜に沸いた。



大会を通して好セーブを見せたG大阪ユースの守護神・荒木琉偉がMVPに選出された



青空の下、白熱した戦いが繰り広げられた(写真は予選Eグループ・名古屋グランパスU-18 vs ジェフユナイテッド千葉U-18)



快進撃を見せてベスト4入りしたファジアーノ岡山U-18。FWの村木輝は6得点を挙げて得点王に輝いた



得点力が光ったFC東京U-18は準優勝に。佐藤龍之介は随所に輝きを見せてMIPに選ばれた

第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

【大会概要】

8月15日～24日、全国9地域の代表48チームが北海道に集結。4チームずつ12グループに分かれてグループステージを戦い、各グループの上位2チームと同3位の中から成績上位8チームの計32チームがノックアウトステージに進出し、優勝を争う。



FC多摩ジュニアユースが逆転勝利で初の栄冠をつかむ!

第38回 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会が北海道の帯広市などで行われた。

ノックアウトステージではまちクラブが躍進。ベスト16にFC.フェルボール愛知(東海3)、ソレッソ熊本(九州3)、クラブ与野(関東13)、FC多摩ジュニアユース(関東2)の4チームが勝ち上がるなど、それぞれ一体感のある戦いで大会を盛り上げた。準決勝に進出したソレッソ熊本は川崎フロンターレU-15生田(関東8)を、FC多摩は鹿島アントラーズジュニアユース(関東4)を撃破する。ソレッソ熊本は前半終了間際に同点に追い付かれたが、後半に奪った勝ち越し点を最後まで守り切って決勝の舞台へ。FC多摩はキャプテンの吉田湊海がハットトリックを達成するなど、4-3の打ち合いを制してファイナルの切符をつかんだ。

1993年にJリーグが開幕して以降、決勝は初めてまちクラブ勢同士の対決となった。序盤から主導権を握ったのはFC多摩。左の坂綾高、右の松本瑛太を軸に両サイドから積極的に仕掛けると、トップ下の吉田湊海などが果敢にシュートを放つ。しかし18分、ソレッソ熊本が一瞬の間隙を突く。GKのロングフィードから梶原夢月のスルーパスに反応した菊山璃皇が

ゴールネットを揺らした。

リードを許したFC多摩は気を落とすことなく攻め込むが、ソレッソ熊本の牙城をなかなか崩せない。それでも粘り強く仕掛け、持ち前の攻撃的なスタイルを貫く。「自分たちらしく攻め切る。それでうまくいかなかったら仕方ない」という平林清志監督の言葉通り、パスワークと個人技を織り交ぜながら厚みのある攻撃を展開した。それが最終盤に実る。78分に右サイドを崩すと、左サイドからゴール前に攻め上がっていた有山弾が同点弾を奪取。これで勢いに乗ったFC多摩は終了間際にも再び右サイドを崩し、途中出場の伊達煌将が頭で決めて日本一を手繰り寄せた。

FC多摩にとっては初の日本一。現在の大会名になってからは初めてまちクラブがJクラブのアカデミーチームを退けて大会を制覇。日本クラブユースサッカー選手権大会の歴史に新たな一ページを刻んだ。



FC多摩ジュニアユースの吉田湊海(写真左)は大会MVPと得点のW受賞に輝いた



中学生年代のサッカークラブチーム日本一を決める大会は、今年も北海道で開催。全48クラブによる熱い試合が繰り広げられた



まちクラブ対決となった決勝戦。互いのプライドがぶつかる白熱した戦いとなった



決勝で先制点を挙げたソレッソ熊本の菊山璃皇(写真左)はMIPに選出された

令和5年度全国中学校体育大会 / 第54回全国中学校サッカー大会

【大会概要】

8月20日から24日、香川県高松市、三木町、綾川町、坂出市、丸亀市の8会場で開催。9地域と開催地から選出された32チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は60分(30分ハーフ)、勝敗が決しないときは10分の延長戦を行い、それでも勝敗がつかない場合はPK戦により進出チームおよび優勝チームを決定する。3位決定戦は行わない。



神村学園中等部が2大会ぶり 2度目の日本一に輝く

令和5年度の全国中学校体育大会が四国ブロックで開催され、第54回全国中学校サッカー大会は香川県内で開催された。

32チームが激突した1回戦、前回大会優勝の浜松開誠館中学校(東海/静岡)や準優勝の静岡学園中学校(東海/静岡)が敗退する波乱の幕開けとなった。過去8大会連続でベスト4に勝ち上がっていた青森山田中学校(東北/青森)も2回戦で日章学園中学校(九州/宮崎)に敗れて姿を消した。

今大会ではベスト4に3校が進出するなど、九州勢の躍進が目立った。準決勝では、神村学園中等部(九州/鹿児島)が、公立校で快進撃を見せていた藤沢市立鵜沼中学校(関東/神奈川)を3-1で撃破。奥田敦斗の2得点などでリードを奪い、鵜沼中の反撃をPKによる1点にしのいた。もう一方の準決勝では、日章学園が大分中学校(九州/大分)との九州勢対決を延長戦の末に制する。前後半30分ずつを戦ってもスコアは動かなかったが、延長前半5分に吉崎太珠がこの試合唯一の得点を決めて勝利を手繰り寄せた。決勝は九州予選の決勝と同じ顔触れとなり、今季だけでも公式戦5度目の“ライバル対決”で今夏の日本一を決めることになった。

神村学園と日章学園の決勝戦、地区予選の決勝と同様に神

村学園が優勢に立って試合を進める。29分、神村学園はキャプテンの西村朋俊がゴールを決めて先制する

と、前半終了間際には大浦貴晶が自ら獲得したPKを決めて追加点。後半に入ると日章学園もセットプレーから前田千楓の得点で1点を返したが、神村学園は伏原侏空と西村がそれぞれゴールを挙げて突き放す。九州予選の決勝を含め、今季の対戦を全て勝利している神村学園が、4-1で日章学園を退ける結果となった。

神村学園は2年ぶり2度目となる全国優勝を達成。松本翔監督が「大会を通して決勝が一番良い試合ができた」と満足げに笑みを浮かべると、全5試合でゴールを決め、通算8得点で得点王に輝いた西村も「まずはチームで優勝することを意識していた。得点王はチームメートのおかげ」と誇らしげに話した。



今季5度目の対戦となった神村学園と日章学園の決勝戦



神村学園と鵜沼の準決勝。鵜沼の反撃を1点に抑えた神村学園が3-1で制した



日章学園と大分の準決勝は接戦となったが、日章学園が1点を守り抜いて2019年大会以来となる決勝進出を決めた



全試合で得点を決める活躍で大会得点王に輝いた神村学園の西村朋俊(写真右)

第5回日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)

【大会概要】

7月31日から8月7日にかけて、群馬県前橋市で開催。全国9地域の予選を勝ち抜いた16チームが4グループに分かれてグループステージを戦い、各グループ上位2チームがノックアウトステージ(3位決定戦含む)に進出する。70分(35分ハーフ)で実施。決勝のみ20分(10分ハーフ)の延長戦を実施し、それでも勝敗が決しない場合はPK戦を行う。



日テレ・東京ヴェルディメニーナが 前回王者に勝利して初優勝

U-18年代の女子クラブチームナンバーワンを決める日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)の第5回大会が群馬県前橋市で開催された。参加した16チームのうち8チームはWEクラブのアカデミーチームという顔触れとなった。

関東勢は6チームのうち4チームがノックアウトステージに進出し、ベスト8の半数を占めた。中でもノジマステラ神奈川相模原ドーエ(関東2/神奈川)は3試合で23得点無失点と対戦相手を圧倒してBグループを突破した。Aグループでは、日テレ・東京ヴェルディメニーナ(関東3/東京)が前回準優勝のJFAアカデミー福島(東海1/福島)に引き分けるも、勝ち点で上回って首位につける。Cグループでは、ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18(関東4/千葉)がマイナビ仙台レディースユース(東北1/宮城)との第3戦を制して1位通過を決めた。一方、Dグループは、前年覇者のセレッソ大阪ヤンマーガールズU-18(関西/大阪)が三菱重工浦和レッズレディースユース(関東1/埼玉)に最終戦で競り勝ち、逆転でトップに立った。

ノックアウトステージは接戦が続く中、メニーナとC大阪が決勝進出を決める。メニーナは準々決勝、土壇場で同点に追い付くとPK戦で浦和に勝利。準決勝ではノジマステラを2-1で振り

切った。C大阪はアカデミー福島との準々決勝、残り5分で1点差に詰め寄せられたが逃げ切り、準決勝ではジェフをPK戦の末に退けた。

決勝戦、C大阪がボールを支配するもシュートまで持ち込めずにいると、3分、メニーナの式田和がドリブルで駆け上がって先制点を突き刺す。高い技術と運動量でシュート数を増やしていくメニーナ。C大阪も後半にプレスを強めて反撃に出るが、なかなか前線につながらない。試合はメニーナが虎の子の1点を守り切り、初優勝を果たした。ノジマステラとジェフの3位決定戦はノジマステラに軍配が上がった。

大会MVPに選ばれたメニーナの眞城美春は浦和戦などを振り返って「絶対に負けたくないという気持ちが昨年よりも強かった」と語り、主将の青木夕菜は「素晴らしいチームだがまだまだできる」と先を見据えた。一方、連覇を逃したC大阪の中田昌那主将は「次は皇后杯に向けて頑張りたい」と成長を誓っていた。



C大阪との決勝戦、メニーナは3分に式田和(写真左)のドリブルシュートから先制。それが決勝点となった



©GreenCard

C大阪とジェフとの準決勝。ジェフは前半に先制点を挙げ、C大阪の倍近い13本のシュートを放ったが追加点を奪えず、逆転負けを喫した



©GreenCard

ノジマステラは準決勝、一度はメニーナに追い付いたが終盤に失点。3位決定戦を制して初の3位入賞を果たした(写真は準決勝より)



決勝戦、C大阪は最後まで相手ゴールを目指したが得点はならず



JFA 第10回全日本U-18フットサル選手権大会



JFA
U-18
FUTSAL
CHAMPIONSHIP

【大会概要】

8月3日から6日、静岡県の浜松アリーナで開催。都道府県の予選を勝ち抜いた48チームが4チームずつ12グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行う。各グループ1位と各グループ2位の中で上位4チームの計16チームがノックアウト方式(決勝ラウンド)で優勝を争う。



フウガドールすみだファルコンズが 決勝の“東京対決”を制して初優勝!

今大会は、史上2度目となるFリーグのユースチームによる決勝となり、フットサル専門のチームが強さを示す結果となった。一方で、フウガドールすみだファルコンズ(関東1/東京)や名古屋オーシャンズU-18(東海/愛知)と同組になった近江高校ビーパイレーツ(関西2/滋賀)は、1次ラウンドで敗退したとはいえ渡邊敬斗や細野晶文ら高い能力を備えた選手を擁し、他チームの脅威となった。1次ラウンドで姿を消したチームもそれぞれがポテンシャルの高さをうかがわせていた。

準決勝まで勝ち上がった4チームのうち、香川県立高松北高校(四国/香川)は高校サッカー部のチームで、北海道で行われた全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場して準決勝を戦った後、静岡に移動しての参加となった。エースの森口且将を中心に奮闘し、大会3位という結果を残した。

決勝に進んだのは、すみだと大会連覇を目指すパスカドーラ町田U-18(関東3/東京)。くしくも東京都大会の決勝と同じ顔合わせとなった。1次ラウンドから圧倒的な強さを見せたすみだが、決勝では硬さが見られ、攻守の歯車がかみ

合わない。そんな相手に対し、前回大会の経験者を擁する町田が優勢に試合を進める。しかし得点を挙げる

ことができずにいた。すると34分、すみだは高校2年生の石井想一郎が相手の自陣でのミスを逃さずボールを奪ってそのままシュートを決める。試合は、このリードを守り切ったすみだが1-0で勝利。東京都大会に続き、町田に競り勝って初の全国制覇を成し遂げた。

Fリーグでも初ゴールを決めている高校1年生の羽生恒平は「来年は自分が決勝でチームを勝たせられる存在になりたい。前人未達の3連覇を成し遂げたい」と、新たな目標を掲げていた。



決勝ですみだの石井想一郎が値千金のゴール。これが決勝点となり初優勝を決めた



高川学園と国見という前年度の高校サッカー選手権出場チームと同組に入った北照高校は2勝1分けでグループ首位通過を果たした



前回3位の聖和学園は1次ラウンドを3引き分けで終え、決勝ラウンド進出はならず



高松北高校は松木晴陽(写真)の2ゴールなどで東急SレイエスFCを破り3位に入賞した

JFA バーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会

【大会概要】

8月8日から10日、東京都の武蔵野の森総合スポーツプラザと大田区総合体育館で開催。都道府県の予選を勝ち抜いた48チームが4チームずつ12グループに分かれてリーグ戦を行う。各グループ1位と各グループ2位の中で上位4チームの計16チームがノックアウト方式で優勝を争う。



激戦を制したヴィオレータFCが初出場にして初優勝!

第33回を迎えた今大会も、全国の都道府県予選を勝ち抜いた48チームによるハイレベルな戦いが繰り広げられた。

グループステージでは大会2連覇中のプリンカールFC(愛知)が第3戦に敗れて敗退。フリーグアカデミー(下部組織)のフウガドールすみだエッグス(東京)、アグレミーナ浜松U-12(静岡)などフットサルの専門チームも準々決勝までに敗退し、最終日まで残れなかった。

準決勝にはいずれもサッカーの技術向上にフットサルを取り入れているFCデノバ札幌(北海道1)と初出場のヴィオレータFC(埼玉)、同じく初出場のジンガFC(千葉)、前回大会準優勝のヴィッセル神戸U-12(兵庫)の4チームが勝ち上がった。

準決勝の2試合はどちらも激しい点の取り合いとなったが、唯一ワイルドカードで勝ち上がったヴィオレータが、デノバ札幌に6-5で競り勝つ。ジンガも高い位置からのプレッシングでヴィッセル神戸に思ようなプレーをさせず、5-2で勝利。初めて出場した2チームが決勝に進出した。

決勝戦はまれにみるシーソーゲームとなる。両チームが長いボールを前線に送るスタイルを取ったこともあり、

ゴール前の攻防が増えていった。ヴィオレータは13分までにエースの亀山陽士がハットトリックを達成し、5-4とリードをする。しかし、その亀山が負傷で一度ピッチから離れると前線に収まりどころがなくなり、ジンガが反撃に出る。14分からの約2分間でジンガが3点を奪って5-7と逆転。ところが、ベンチで治療を受けていた亀山がピッチに戻ると自ら2ゴールを奪って同点とし、試合を振り出しに戻す。そして、残り時間わずかところで鈴木豪がミドルシュートを決めて、ヴィオレータが再びリード。両チーム合わせて15得点という激しい打ち合いを制したヴィオレータが、初優勝を遂げた。亀山は「点を取って取られての難しい試合だったが、勝ててうれしかった」と、笑顔を見せた。



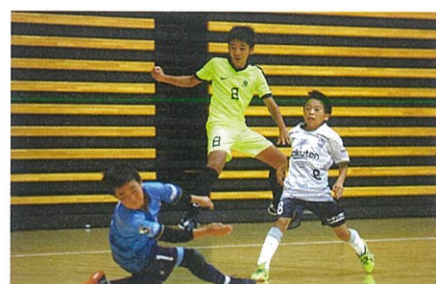
決勝で5得点を挙げた亀山陽士(写真)。決勝ラウンドの全4試合で2得点以上を挙げてチームを勝利に導いた



大会初出場のFCホルタは、大会2連覇中のプリンカールに逆転勝利で決勝ラウンド進出



大会2日目に行われたエキシビションにはJFAの北澤豪フットサル委員長や岩淵真奈選手が訪れ、大会を盛り上げた



ジンガは準決勝で前回準優勝のヴィッセル神戸を破って決勝に駒を進めた

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「TIRO23 Competition オールウェザージャケット(サイズXL)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろうJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。

今号では「晴雨兼用折傘 サッカー日本代表ver.」を1名様にプレゼント。



JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/wn3vDq2MR93YsBsU6>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18トヨタ東京ビル

公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部

「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見を明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2023年11月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう！

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、イベント情報、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼントをゲット

【今月の配信コンテンツ】

✓ 今月から毎週水曜日にクイズ配信スタート！

9月トピックス：日本サッカー殿堂、なでしこジャパン、リスペクト

✓ アプリ限定！試合映像を配信中！

・JFA バーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会

・JFA 第10回全日本U-18フットサル選手権大会

✓ 日本代表グッズが当たるプレゼントキャンペーン

●JFA Passportの詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶

<https://www.jfa.jp/jfapassport>



公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：宮本恒靖

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2023年10月情報号は、2023年10月17日発売予定

[特集]

みんなのフットボール(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、

JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

※<https://www.jfa.jp/registration/>



体を内側から 守ろう。

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

◆
プラズマ
乳酸菌

新発売



※免疫の機能性表示食品として届出された日本初の機能性関与成分

機能性表示食品

届出表示 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma)が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。



oishii-meneki.kirin.co.jp

キリンビバレッジ株式会社

げんきな免疫
プロジェクト

特集

指導者として学ぶ



発行人 宮本恒晴
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004
東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
電話:050(2018)1990(代)



アスパズ!

定価600円(本体545円)